

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第153集

上川岸 II 遺跡発掘調査報告書

国道107号新珊瑚橋整備関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

上川岸 II 遺跡 正誤表

頁	行	誤	正
63	7	時期	主として晩期
65	28	平行沈線がなく	平行沈線の間に連続する縦位の沈線が施されている。1253・1280は平行沈線がなく、
66	6~7	単節斜縄文である。	単節斜縄文が施文されている。
	20	字は	型は
	24	下段から	下段から
	24	内側の <u>型</u> に	内側の <u>型</u> に
	24	<u>型</u> み	型み
	28	<u>て</u> いている	<u>型</u> している
67	9	6点で <u>う</u>	6点で <u>あ</u>
	10	迭算	欠損
	23	調整によって刃部調整は	調整によって刃部を作り出しているが、2097・2098は二次加工による刃部調整は
	25	凸は	凸 <u>刃</u> は
	27	ものは・2104である。	ものは2088・2104である。
68	3	品格的	比較的
	9・10	型凸刃	型凸刃
	21	多部分	大部分
69	7	石製品(第 図; 写真図版 2157~2180)	石製品
	9~10	縄掛かり様	縄掛り状
	30	縄つ片	縄片
70	1	柄にかけの	柄にかけての
223	25	上斗内遺跡	上斗内 <u>遺</u> 跡

上川岸II遺跡発掘調査報告書

国道107号新珊瑚橋整備関連遺跡発掘調査

序

広大な面積を有する本県には、縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が分布し、7,600カ所を越える遺跡が知られております。これら先人たちの残した文化財を保護し、保存していくことは県民に課せられた重大な責務であります。

一方、快適な生活をおくるための地域開発、とくに基幹となる道路をはじめとする交通網の整備もまた県民の切実な願いであります。このように、埋蔵文化財の保護、保存という相容れない要素をもつ事業の調和のとれた施策が今日的な課題になっております。

当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本報告書は、国道107号新珊瑚橋建設に関連して、昭和63・平成元年度に発掘調査を実施した上川岸Ⅱ遺跡の調査結果をまとめたものであります。

遺跡は北上川右岸の河岸低地に立地する縄文時代と平安時代の複合する集落遺跡であり、平安時代の住居跡25棟をはじめとする多くの遺構とさまざまな遺物が発見されました。これらは、当地方の歴史を解明するうえに貴重な資料であります。

この報告書が研究者のみならず広く活用され、埋蔵文化財に対する理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査や報告書作成に御援助、御協力を賜りました岩手県土木部北上土木事務所・北上市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成2年12月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 中 村 直

例 言

- 1 本報告書は、岩手県北上市黒沢尻町字里分第7地割87-1はかに所在する^{***}上川岸Ⅱ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は、国道107号新環橋建設に伴う緊急調査である。調査は岩手県土木部北上土木事務所と岩手県教育委員会との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
- 3 上川岸Ⅱ遺跡の台帳番号と調査時の遺跡略号は、次のとおりである。

登録台帳番号	ME66-0296
遺跡略号	KK-88-89
- 4 発掘調査は昭和63年8月1日～10月31日、平成元年4月7日～6月30日、9月1日～9月14日に実施した。室内整理は昭和63年11月1日～平成元年3月31日、平成元年11月11日～同年3月31日に行った。
- 5 発掘調査は昭和63年度光井文行・玉川英喜、平成元年度光井文行・佐々木弘・及川靖世が担当し、報告書の作成は光井文行と玉川英喜が担当した。
- 6 検出された遺構の種類と遺構数は、次のとおりである。

縄文時代の竪穴住居跡	5棟	平安時代の竪穴住居跡	25棟						
掘立柱建物跡	1棟	土坑	25基	火葬墓	1基	溝跡	7条	焼土遺構	11基
- 7 本報告書の執筆分担は、次のとおりである。

I 調査に至る経過	昆野 靖
II 遺跡の立地と環境	光井文行
III 調査方法と室内整理	光井文行
IV 検出された遺構と遺物	光井文行
V 遺構外出土遺物	光井文行・玉川英喜
VI まとめ	光井文行・玉川英喜
- 8 分析や鑑定は、次の方々に依頼した。(敬称略)

火山灰・須恵器の胎土分析	三辻 利一 (奈良教育大学)
炭化穀類種子同定	バリノ・サーヴェイ株式会社
炭化樹種の同定	早坂松次郎 (社団法人岩手県木炭協会)
石質鑑定	佐藤 二郎 (佐藤地質工学研究所)
- 9 調査区配置のための基準点設定は、東日本測量設計株式会社が行った。基準点1、2の平面直角座標の第X系(X, Y)の座標値は、次のとおりである。

基準点-1 (NS0・E100)	X=78,862.353m, Y=26,548.445m, H=60.232m
基準点-2 (NS0・E140)	X=78,975.123m, Y=26,661.944m, H=58.836m
- 10 発掘調査及び室内整理では、次の機関や方々の御協力、御教示を賜った。(敬称略)
北上市教育委員会 岩手県土木部北上土木事務所 齋藤尚己 沼山源喜治 本堂寿一 稲野裕介 稲野彰子(北上市立埋蔵文化財センター) 高橋文明(江釣子村教育委員会) 三浦圭介 岡田康博 成田進彦 坂本洋一 白鳥文雄 轟山昇(青森県埋蔵文化財調査センター) 宇部則保(八戸市立博物館)
- 11 現地調査には、高橋忠吉氏をはじめとする地元の方々のご協力をいただいた。
- 12 調査によって得られた資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

目 次

序 例言

本 文

I 調査に至る経過	2	5 焼土遺構	60
II 遺跡の立地と環境		V 遺構外出土遺物	
1 位置	3	1 古代の土器	62
2 地形	3	2 縄文時代の土器	63
3 地質	5	3 土製品	66
4 周辺の遺跡	5	4 石器	67
III 調査方法と室内整理		5 石製品・その他	69
1 野外調査の方法	10	VI まとめ	
2 室内整理	11	1 遺構	219
IV 検出された遺構と遺物		2 遺物	220
1 竪穴住居跡	17	VII 鑑定・分析	
2 掘立柱建物跡	44	1 試料種子同定報告	227
3 土坑・火葬墓・柱穴	45	2 出土土器の蛍光X線分析	230
4 溝跡	55		

図 版

第1図 岩手県全図	1	第12図 VF-1住居跡(2)	75
第2図 遺跡位置図	4	第13図 VF-2住居跡	76
第3図 地形分類図	6	第14図 VII E-1住居跡	77
第4図 周辺の遺跡位置図	9	第15図 VII E-2住居跡	78
第5図 上川岸Ⅱ遺跡調査区域	13	第16図 VII E-3・4住居跡	79
第7図 上川岸Ⅱ遺跡遺構配置図	15	第17図 VII E-1住居跡	80
第8図 VD-1住居跡	71	第18図 VII E-2住居跡	81
第9図 VD-2住居跡	72	第19図 VII E-3住居跡	82
第10図 VE-1住居跡	73	第20図 VII E-4住居跡	83
第11図 VF-1住居跡(1)	74	第21図 VII E-6住居跡・IX E-2	84

第22图	ⅤE-7住居跡……………85	第50图	VD-101·102· VE-101·ⅤE-101溝跡 ……111
第23图	IXE-1住居跡……………86	第51图	VE-102·ⅤE-102· 103溝跡……………112
第25图	IXE-3住居跡· IXE-51井戸跡……………87	第52图	IXE-101·102· XE-102溝跡……………113
第26图	IXE-4住居跡……………88	第53图	XE-64土坑·燒土遺構(1) ……115
第27图	IXE-9住居跡……………89	第54图	燒土遺構(2) ……116
第28图	IXE-10住居跡……………90	第57图	VD-1住居跡出土遺物(1) ……117
第29图	IXE-11住居跡……………91	第58图	VD-1(2)· 2(1)住居跡出土遺物 ……118
第30图	XE-2住居跡……………92	第59图	VD-2住居跡出土遺物(2) ……119
第31图	ⅤE-5住居跡……………93	第60图	VD-2住居跡出土遺物(3) ……120
第32图	IXE-6住居跡……………94	第61图	VE-1住居跡出土遺物(1) ……121
第33图	IXE-7住居跡……………95	第62图	VE-1住居跡出土遺物(2) ……122
第34图	IXE-8住居跡状遺構……………96	第63图	VF-1住居跡出土遺物(1) ……123
第35图	IXE-12住居跡……………97	第64图	VF-1住居跡出土遺物(2) ……124
第36图	XE-1住居跡……………98	第65图	VF-1住居跡出土遺物(3) ……125
第37图	XE-3住居跡……………99	第66图	VF-1住居跡出土遺物(4) ……126
第38图	ⅤE-201掘立柱建物跡(1)……………100	第67图	VF-1住居跡出土遺物(5) ……127
第39图	ⅤE-201掘立柱建物跡(2)……………101	第68图	VF-1住居跡出土遺物(6) ……128
第40图	ⅤE-51·ⅤE-51·52土坑 ……102	第69图	VF-1住居跡出土遺物(7) ……129
第41图	ⅤE-51火葬墓 ……103	第70图	VF-1住居跡出土遺物(8) ……130
第42图	ⅤE-52·61·62· IXE-62土坑 ……104	第71图	VF-1住居跡出土遺物(9) ……131
第43图	IXE区柱穴列 (IXE-54·55· 56·67柱穴)·IXE-68柱穴……………105	第72图	VF-1住居跡出土遺物(10) ……132
第44图	IXE-63·64·65·66土坑 ……106	第73图	VF-1住居跡出土遺物(11) ……133
第45图	XE-51·52·54·58· 59土坑 ……107	第74图	VF-2·ⅤE-1(1) 住居跡出土遺物 ……134
第46图	XE-55·60·63土坑 ……108	第75图	ⅤE-1(2)· 2(1)住居跡出土遺物 ……135
第47图	XE区柱穴列 (XE-53·56·57· 61柱穴)·XE-62·63土坑……………109	第76图	ⅤE-2住居跡出土遺物(2) ……136
第49图	ⅣE-101·102·ⅤE-104· 105·106溝跡 ……110		

第77图	ⅧE-2(3)·3住居跡 出土遺物	137	第105图	IXE-11·XE-2(1) 住居跡出土遺物	165
第78图	ⅧE-4·5住居跡出土遺物	138	第106图	XE-2住居跡出土遺物(2)	166
第79图	ⅧE-1住居跡出土遺物(1)	139	第107图	XE-2住居跡出土遺物(3)	167
第80图	ⅧE-1住居跡出土遺物(2)	140	第108图	XE-2住居跡出土遺物(4)	168
第81图	ⅧE-2住居跡出土遺物(1)	141	第109图	XE-2住居跡出土遺物(5)	169
第82图	ⅧE-2住居跡出土遺物(2)	142	第110图	ⅧE-5·IXE-6·7· 8住居跡出土遺物	170
第83图	ⅧE-2住居跡出土遺物(3)	143	第111图	IXE-12·XE-1(1) 住居跡出土遺物	171
第84图	ⅧE-3住居跡出土遺物(1)	144	第112图	XE-1(2)·3住居跡 出土遺物	172
第85图	ⅧE-3住居跡出土遺物(2)	145	第114图	ⅧE-51·ⅧE-51·52土坑· ⅧE-51火葬墓·ⅧE-52·62 ·土坑·ⅧE区掘立柱建物跡(1) 出土遺物	173
第86图	ⅧE-3住居跡出土遺物(3)	146	第115图	ⅧE区掘立柱建物跡(2)· ⅧE-61土坑·IXE-55·56 柱穴出土遺物	174
第87图	ⅧE-4住居跡出土遺物(1)	147	第116图	IXE-62·63·64·65·66· XE-51·52土坑·XE-53 柱穴出土遺物	175
第88图	ⅧE-4(2)·6住居跡 出土遺物	148	第117图	XE-55·58·59·63土坑· XE-57·61柱穴出土遺物	176
第89图	ⅧE-7住居跡出土遺物	149	第118图	XE-64土坑出土遺物(1)	177
第90图	IXE-1住居跡出土遺物(1)	150	第119图	XE-64土坑出土遺物(2)	178
第91图	IXE-1住居跡出土遺物(2)	151	第120图	XE-64土坑出土遺物(3)	179
第92图	IXE-1住居跡出土遺物(3)	152	第121图	XE-64土坑出土遺物(4)	180
第93图	IXE-1住居跡出土遺物(4)	153	第122图	VD-101溝跡出土遺物	181
第94图	IXE-1住居跡出土遺物(5)	154	第123图	VE-101·102溝跡出土遺物	182
第95图	IXE-1住居跡出土遺物(6)	155	第124图	ⅧE-101·102·104· 105(1)溝跡出土遺物	183
第96图	IXE-1(7)·2住居跡(1) 出土遺物	156	第125图	ⅧE-105(2)·IXE-101 溝跡出土遺物	184
第97图	IXE-2住居跡出土遺物(2)	157	第126图	遺構外出土遺物 土器(1)	185
第98图	IXE-3住居跡出土遺物(1)	158			
第99图	IXE-3住居跡出土遺物(2)	159			
第100图	IXE-3(3)·4住居跡 出土遺物	160			
第101图	IXE-9住居跡出土遺物(1)	161			
第102图	IXE-9住居跡出土遺物(2)	162			
第103图	IXE-9住居跡出土遺物(3)	163			
第104图	IXE-9住居跡出土遺物(4)	164			

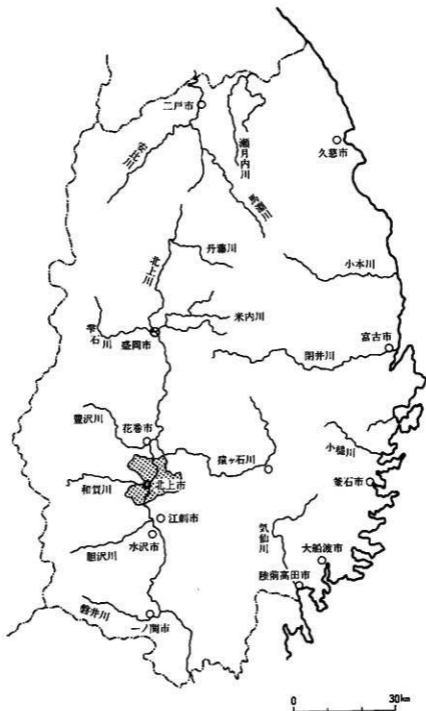
第127图 遺構外出土遺物 土器(2)	186	第144图 遺構外出土遺物 土製品(1)	203
第128图 遺構外出土遺物 土器(3)	187	第145图 遺構外出土遺物 土製品(2)	204
第129图 遺構外出土遺物 土器(4)	188	第146图 遺構外出土遺物 土製品(3)	205
第130图 遺構外出土遺物 土器(5)	189	第147图 遺構外出土遺物 石器(1)	206
第131图 遺構外出土遺物 土器(6)	190	第148图 遺構外出土遺物 石器(2)	207
第132图 遺構外出土遺物 土器(7)	191	第149图 遺構外出土遺物 石器(3)	208
第133图 遺構外出土遺物 土器(8)	192	第150图 遺構外出土遺物 石器(4)	209
第134图 遺構外出土遺物 土器(9)	193	第151图 遺構外出土遺物 石器(5)	210
第135图 遺構外出土遺物 土器00	194	第152图 遺構外出土遺物 石器(6)	211
第136图 遺構外出土遺物 土器01	195	第153图 遺構外出土遺物 石器(7)	212
第137图 遺構外出土遺物 土器02	196	第154图 遺構外出土遺物 石器(8)	213
第138图 遺構外出土遺物 土器03	197	第155图 遺構外出土遺物 石器(9)	214
第139图 遺構外出土遺物 土器04	198	第156图 遺構外出土遺物 石器00	215
第140图 遺構外出土遺物 土器05	199	第157图 遺構外出土遺物 石製品(1)	216
第141图 遺構外出土遺物 土器06	200	第158图 遺構外出土遺物 石製品(2)	217
第142图 遺構外出土遺物 土器07	201	第159图 遺構外出土遺物 鉄製品	218
第143图 遺構外出土遺物 土器08	202		

写真図版

写真図版1 調査区域全景	263	写真図版13 ⅧE-4 住居跡	275
写真図版2 VD-1 住居跡	264	写真図版14 ⅧE-6 住居跡	276
写真図版3 VD-2 住居跡	265	写真図版15 ⅧE-7 住居跡	277
写真図版4 VE-1 住居跡	266	写真図版16 IXE-1 住居跡(1)	278
写真図版5 VF-1 住居跡	267	写真図版17 IXE-1(2)・2 住居跡	279
写真図版6 VF-2 住居跡	268	写真図版18 IXE-3 住居跡・ IXE-51 井戸跡	280
写真図版7 ⅧE-1 住居跡	269	写真図版19 IXE-4 住居跡	281
写真図版8 ⅧE-2 住居跡	270	写真図版20 IXE-9 住居跡	282
写真図版9 ⅧE-3・4 住居跡	271	写真図版21 IXE-11・ XE-2 住居跡(1)	283
写真図版10 ⅧE-1 住居跡	272	写真図版22 XE-2 住居跡(2)	284
写真図版11 ⅧE-2 住居跡	273		
写真図版12 ⅧE-3 住居跡	274		

写真図版23	ⅧE-5 住居跡	285	写真図版49	V F-1(7)·2· ⅧE-1(1)住居跡出土遺物	311
写真図版24	ⅨE-6 住居跡	286	写真図版50	ⅧE-1(2)·2(1) 住居跡出土遺物	312
写真図版25	ⅨE-7 住居跡	287	写真図版51	ⅧE-2(2)·3·4·5 住居跡出土遺物	313
写真図版26	ⅨE-12住居跡	288	写真図版52	ⅧE-1 住居跡出土遺物(1)	314
写真図版27	X E-1 住居跡	289	写真図版53	ⅧE-1(2)·2(1) 住居跡出土遺物	315
写真図版28	X E-3 住居跡	290	写真図版54	ⅧE-2 住居跡出土遺物(2)	316
写真図版29	ⅧE-201掘立柱建物跡	291	写真図版55	ⅧE-2 住居跡出土遺物(3)	317
写真図版30	ⅧE-51· ⅧE-51·52土坑	292	写真図版56	ⅧE-2 住居跡出土遺物(4)	318
写真図版31	ⅨE 区柱穴列 (ⅨE-54 ·55·56·67柱穴)	293	写真図版57	ⅧE-3 住居跡出土遺物(1)	319
写真図版32	ⅣE-101·102溝跡	294	写真図版58	ⅧE-3 住居跡出土遺物(2)	320
写真図版33	V D-101·103溝跡	295	写真図版59	ⅧE-3(3)·4 住居跡出土遺物	321
写真図版34	V E-101·102溝跡	296	写真図版60	ⅧE-6·7 住居跡出土遺物	322
写真図版35	ⅧE-101·102溝跡	297	写真図版61	ⅨE-1 住居跡出土遺物(1)	323
写真図版36	ⅧE-103·104溝跡	298	写真図版62	ⅨE-1 住居跡出土遺物(2)	324
写真図版37	ⅧE-105·106溝跡	299	写真図版63	ⅨE-1 住居跡出土遺物(3)	325
写真図版38	ⅨE-101溝跡	300	写真図版64	ⅨE-1 住居跡出土遺物(4)	326
写真図版39	V D-1 住居跡出土遺物	301	写真図版65	ⅨE-1 住居跡出土遺物(5)	327
写真図版40	V D-2 住居跡 出土遺物(1)	302	写真図版66	ⅨE-2 住居跡出土遺物(1)	328
写真図版41	V D-2 住居跡 出土遺物(2)	303	写真図版67	ⅨE-2(2)·3(1) 住居跡出土遺物	329
写真図版42	V E-1 住居跡出土遺物	304	写真図版68	ⅨE-3(2)·4 住居跡出土遺物	330
写真図版43	V F-1 住居跡 出土遺物(1)	305	写真図版69	ⅨE-9 住居跡出土遺物(1)	331
写真図版44	V F-1 住居跡 出土遺物(2)	306	写真図版70	ⅨE-9 住居跡出土遺物(2)	332
写真図版45	V F-1 住居跡 出土遺物(3)	307	写真図版71	ⅨE-9 住居跡出土遺物(3)	333
写真図版46	V F-1 住居跡 出土遺物(4)	308	写真図版72	ⅨE-9(4)·11(1) 住居跡出土遺物	334
写真図版47	V F-1 住居跡 出土遺物(5)	309	写真図版73	ⅨE-11(2)·X E-2(1) 住居跡出土遺物	335
写真図版48	V F-1 住居跡 出土遺物(6)	310	写真図版74	X E-2 住居跡出土遺物(2)	336

写真図版75	X E - 2(3)・Ⅷ E - 5(1) 住居跡出土遺物……………337	写真図版95	遺構外出土遺物 土器(6) ……357
写真図版76	Ⅷ E - 5(2)・Ⅸ E - 6・7・ 8・12・X E - 1(1)住居跡 出土遺物……………338	写真図版96	遺構外出土遺物 土器(7) ……358
写真図版77	X E - 1(2)・3住居跡 出土遺物……………339	写真図版97	遺構外出土遺物 土器(8) ……359
写真図版78	Ⅷ E - 51・Ⅷ E - 51・52土坑・ Ⅷ E - 51火葬墓・Ⅷ E - 52・ 62土坑Ⅷ E区掘立柱建物跡(1) 出土遺物……………340	写真図版98	遺構外出土遺物 土器(9) ……360
写真図版79	Ⅷ E区掘立柱建物跡(2)・Ⅷ E - 61土坑・Ⅸ E - 55・56柱穴 ・Ⅸ E - 62・64土坑 出土遺物……………341	写真図版99	遺構外出土遺物 土器(10) ……361
写真図版80	Ⅸ E - 63・65・66・X E - 51・52 土坑・X E - 53柱穴出土遺物…342	写真図版100	遺構外出土遺物 土器(11) ……362
写真図版81	X E - 55・58・59土坑・ X E - 57・61(1)柱穴 出土遺物……………343	写真図版101	遺構外出土遺物 土器(12) ……363
写真図版82	X E - 61(2)柱穴・X E - 63・ 64(1)土坑出土遺物……………344	写真図版102	遺構外出土遺物 土器(13) ……364
写真図版83	X E - 64土坑出土遺物(2) ……345	写真図版103	遺構外出土遺物 土器(14) ……365
写真図版84	X E - 64土坑出土遺物(3) ……346	写真図版104	遺構外出土遺物 土器(15) ……366
写真図版85	X E - 64土坑出土遺物(4) ……347	写真図版105	遺構外出土遺物 土器(16) ……367
写真図版86	X E - 64土坑出土遺物(5) ……348	写真図版106	遺構外出土遺物 土器(17) ……368
写真図版87	V D - 101・V E - 101・ 102(1)溝跡出土遺物 ……349	写真図版107	遺構外出土遺物 土器(18) ……369
写真図版88	V E - 102(2)・Ⅷ E 101・ 102・104溝跡出土遺物 ……350	写真図版108	遺構外出土遺物 土製品(1) ……370
写真図版89	Ⅷ E - 105・Ⅸ E - 101 溝跡出土遺物……………351	写真図版109	遺構外出土遺物 土製品(2) ……371
写真図版90	遺構外出土遺物 土器(1) ……352	写真図版110	遺構外出土遺物 石器(1) ……372
写真図版91	遺構外出土遺物 土器(2) ……353	写真図版111	遺構外出土遺物 石器(2) ……373
写真図版92	遺構外出土遺物 土器(3) ……354	写真図版112	遺構外出土遺物 石器(3) ……374
写真図版93	遺構外出土遺物 土器(4) ……355	写真図版113	遺構外出土遺物 石器(4) ……375
写真図版94	遺構外出土遺物 土器(5) ……356	写真図版114	遺構外出土遺物 石器(5) ……376
		写真図版115	遺構外出土遺物 石器(6) ……377
		写真図版116	遺構外出土遺物 石器(7) ……378
		写真図版117	遺構外出土遺物 石器(8) ……379
		写真図版118	遺構外出土遺物 石器(9) ……380
		写真図版119	遺構外出土遺物 石器(10) ……381
		写真図版120	遺構外出土遺物 石製品(1) ……382
		写真図版121	遺構外出土遺物 石製品(2) ……383
		写真図版122	遺構外出土遺物 鉄製品 ……384



第1図 岩手県全図

I 調査に至る経過

一般国道107号は大船渡市を起点に北上市、横手市などを經由し、本荘市に至る太平洋沿岸から日本海沿岸を結ぶ横断幹線道路であり、新珊瑚橋橋梁整備事業は北上市街地の東部を南流する北上川にかかる珊瑚橋の老朽化が著しく、幅員狭小であることから、新たに上流1kmに架橋する国庫補助事業である。橋長355m、幅員10.5m、取付道路は右岸590m、左岸155mであり、平成元年度から工事に着手している。

これにかかわる埋蔵文化財包蔵地の取扱いについては、岩手県教育委員会と岩手県土木部との間で協議が行われた。協議の経過は、以下のとおりである。

昭和61年9月26日付け「北土第952号」により岩手県教育委員会に対し、路線内における遺跡分布調査の依頼

昭和61年10月 岩手県教育委員会による分布調査の実施

昭和61年10月28日付け「教文第411号」により北上土木事務所に対し、上川岸Ⅱ遺跡、館Ⅳ遺跡の所在について回答

昭和62年8月24日付け「教文第289号」により北上土木事務所に対し、昭和63年度における埋蔵文化財包蔵地に関連する土木工事等の実施についての照会

昭和62年9月24日付け「北土第706号」により岩手県教育委員会に対し、上川岸Ⅱ遺跡にかかる工事実施について回答

これにより岩手県教育委員会は上川岸Ⅱ遺跡の調査を昭和63年度における岩手県文化振興事業団の受託事業とし、当埋蔵文化財センターは昭和63年6月1日付け委託契約により調査に着手することとなった。

その後、発掘調査の実施によって上川岸Ⅱ遺跡はさらに調査区域の西側に続いていることが明らかになった。このため、以下の経過を経てさらに協議が行われた。

昭和63年9月19日付け「財岩文事109号」により岩手県教育委員会に対し、調査計画等の変更協議

昭和63年9月28日付け「教文第363号」により北上土木事務所に対し、調査計画変更の協議

昭和63年11月1・2日 岩手県教育委員会による試掘調査の実施

その結果、調査区域に隣接する5,700㎡について追加調査することとなり、岩手県教育委員会は平成元年度における岩手県文化振興事業団の受託事業とした。これにより当埋蔵文化財センターは平成元年4月1日付け委託契約にもとづいて調査に着手することとなった。

II 遺跡の立地と環境

1. 位置

北上川Ⅱ遺跡は岩手県中央部の北上市黒沢尻町字里分に所在し、東日本旅客鉄道東北本線北上駅の北東約2kmに位置している。西に岩手山(2,041m)、焼石岳(1,548m)などが連なる奥羽山地、東に早池峰山(1,914m)を代表する北上山地が南北に走り、その間を岩手町御堂を源流とし、石巻湾へそそぐ、全長243kmの北上川が東側に寄る位置に楷行しながら南流している。北上川は本遺跡の東約20mを北東—南西方向に流れ、下流約2.5kmで奥羽山地から東流する和賀川が合流している。北上市は北上川中流域に位置し、人口約58,000人の県内で3番目に大きい都市である。年平均気温11℃度、年間降水量1,300mm台である。積雪はより北に位置する盛岡より多い。主な産業は水田、畑作(野菜)、果樹(りんご)などの農業が中心であり、東西、南北にぬける交通の要所であることから商業も発展している。1977年の東北縦貫自動車道、1982年の東北新幹線の開通とともに、製造業などの誘地企業が多く進出し、人口も増加する傾向にある。市周辺部近郊の水田、畑地は徐々に宅地化しつつある。

2. 地形

北上川Ⅱ遺跡が所在する北上市は、北上平野の大半を占める北上川中流沿岸地域に位置する。本地域は西側の奥羽山地から北上川に流入する河川によって形成された扇状地群が西岸に広く発達している。段丘化している部分では、高位から順に西根段丘、村崎野段丘、金ヶ崎段丘に大別され、地域によって中位低位段丘は更に細分されている。中川久夫ら(1963)によると、西根段丘(高位段丘)は、金ヶ崎西方の西根に模式的に発達している。かなり開析された状態で残丘状を呈している。構成層は粘土をはさむ中～大円礫からなり、厚さ5m以上で著しく風化している。

村崎野段丘(中位段丘)は、北上市西方の村崎野から飯壺にかけて広く分布する。段丘面は平坦でよく保存されている。胆沢川以北では周囲を金ヶ崎段丘にとり囲まれている。北上市飯壺付近で厚さ10数mの中～大円礫層がみられる。

金ヶ崎段丘(低位段丘)は、最も広範囲を占める段丘で、和賀川以北では2～3段に細分される。傾斜は村崎野段丘より急で、細分される場合新期のものほど急傾斜となる。構成層は礫層で金ヶ崎町瘤木で厚さ10m余りである。火山灰に被われていない。

本遺跡周辺の地形は、北約0.8kmに中位段丘が東西にのび、西1.5kmに北西—南東方向にのびる低位段丘が分布する。北西0.5kmに帯状にのびる沖積台地、北西200mと400mに幅60～100mの旧河道が存在する。遺跡ののる面は沖積世に形成された河岸低地上である。この河岸低地は



第2図 遺跡位置図

北上川に沿って北東-南西方向に幅300~600m、長さ1kmの規模で分布している。川をはさんだ北東側は丘陵地、南東側は河岸低地、中位段丘が僅かながら分布している。

3. 地質

北上川中流沿岸地域に分布する縄文時代以降の降下火山灰特屑物としては、古墳の周濠や住居跡の埋土などにみられる灰白色~黄色のバミスがあげられる。従来「粉状バミス」として扱われてきたものである。大凡1,000~1,100年前に降下した火山灰と考古遺物から推定している。火山灰の起源については2説ある。井上克弘(1982)は粒径組成、鉱物組成、火山灰ガラスの形態から、北上市尻引遺跡・相去遺跡、和賀町長沼古墳、金ヶ崎上餅田遺跡、水沢市胆沢城跡・袖谷地遺跡の県南部から検出されている火山灰は栗駒山から噴出したもので、9世紀初頭~9世紀後半と推定されている。それに対し、町田洋は十和田起源の十和田a降下火山灰であると、降下年代を11世紀前後としている。本遺跡でも、VE-1住居跡の埋土からいよいよ黄橙色の火山灰がブロックで検出されている。奈良教育大学三辻利一氏による蛍光X線分析の結果、十和田a降下火山灰と同定されている。降下年代については、9世紀後半~10世紀前半に位置づけられよう。

本遺跡における基本層序は、以下のとおりである。

I層 表土及び耕作土の黒褐色土、遺物を少量含む。層厚20~40cm。

II層 十和田a降下火山灰層としては形成されず、平安時代の住居跡にブロックで少量みられる。

III層 黒褐色の粘土質土 遺物を多く含む層である。層厚20~30cm。

IV層 黒色~黒褐色の粘土質シルト 古代の住居跡の何棟かはこの層から掘り込まれている。層厚5~15cm。

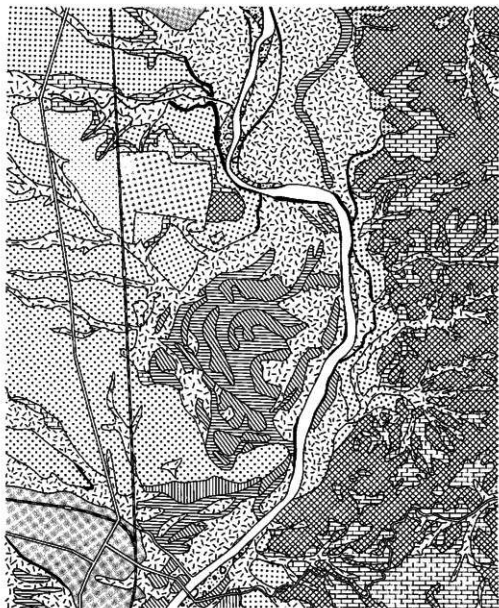
V層 暗褐色~褐色の粘土質土 遺物の多くはこの層を掘り込んでいる。層厚30~40cm。

VI層 礫層 掘り込みの深い遺構はこの層に達するものがある。径10~20cmの円礫を主体に構成されている。

その他、北上川寄りにはほぼ全面に再堆積層がみられ、多くの遺物が含まれている。

4. 周辺の遺跡

全国遺跡地図『岩手県』(1984、文化庁)によると、本遺跡のある北上市に登録されている旧石器、縄文、弥生、古墳、古代、中世、近世の遺跡数は200数カ所である。10数年前から新幹線建設、縦貫自動車道建設、工業団地建設などに伴い、記録保存を目的とした緊急発掘調査が多く行われ、現在まで発掘調査された遺跡は60数カ所に及んでいる。竪穴住居跡が検出され



第3图 北上地区(北部)地形分类概念图

ている遺跡を中心に、周辺の遺跡について、時代、時期別に概観をのべる。遺構、遺物の時期決定については報告書に従っている。

旧石器時代

北上駅の南西約5.5kmの標高95mほどの金ヶ崎段丘にのる北上市下成沢遺跡から石器工房跡が検出されている。今から約2万年前の後期旧石器時代に属するものである。台石、ハンマー・ストーンなどの石器製作の道具類、石刻・剥片などの素材や砕片、磨製石器など総数321点が発見されている。近隣の湯田町大台野遺跡からも後期旧石器時代の石器が多く出土している。

縄文時代 早期・前期

早期、前期の遺構は北上市内では、まだ発見されていない。隣接する江釣子村新平遺跡から大木2式、大木5式～6式の土器が検出されている。

中期

北上駅の南西約2.7kmに位置する和賀川右岸の河岸段丘に立地している北上市滝ノ沢遺跡から大木7a式に比定される土器が出土している。北上駅の南東5kmに位置し、北上川左岸の標高80～100mの河岸段丘にのる北上市榑山遺跡から大木8式期の住居跡が1棟検出されている。大木9式期に比定される遺跡は、北上市横穴遺跡、大木9式～10式期にまたがるものでは北上市館IV遺跡、大迫町観音堂遺跡などがある。館IV遺跡は北上川東岸の河岸低地に立地し、複式炉をもつ住居跡が10数棟検出されている。観音堂遺跡からは29棟発見されている。両遺跡とも多角形のプランをもち、複式炉を併う径7～8mの住居跡も検出されている。そのほか、大木10式期に比定される遺跡に北上市榑山遺跡、同市八天遺跡がある。

後期

北上駅の北東8kmに位置し北上川東岸の舌状台地に立地する北上市八天遺跡から後期初頭、中葉を中心とした遺構、遺物が検出されている。中でも10回の建て替えがある住居跡や貯蔵穴から土製の鼻、耳、口が発見されている。そのほか、大迫町立石遺跡から11個の配石遺構群が検出されるとともに、多量の土偶、鐔形土製品や石鏃が出土している。

晩期

北上駅西方1km、和賀川左岸の標高59mの自然堤防上にある北上市九年橋遺跡から大洞C式～A式の遺物が多量に出土している。9基の石囲炉も検出されている。北上駅から北東1.5kmの北上川西岸の河岸低地に立地する牡丹塚遺跡からも晩期中葉を中心とした遺物が多く出土している。石鳥谷町安堵屋敷遺跡から中葉の住居跡が2棟発見されている。

弥生時代

市内にはなく、隣接する江刺市兎Ⅱ遺跡、沼ノ上遺跡、力石Ⅱ遺跡から土器などの遺物が出土している。いずれも北上川東岸の沖積地に立地している。兎Ⅱ遺跡から出土した壺形土器片

の内側に1粒の初痕が発見されている。

古墳時代

和賀川左岸の自然堤防や一段高い金ヶ崎段丘に立地している江釣子村葉谷地遺跡から8棟出土している。胆沢町には主軸の長さ43m～44.4mの前方後円墳である角塚古墳がある。5世紀末から6世紀に位置づけられている古墳である。

奈良時代～平安時代初頭

北上川西岸の河岸低地に立地する北上市尻引遺跡から住居跡3棟、牡丹畑遺跡からも3棟、村崎野段丘にのる藤沢遺跡から4棟検出されている。いずれの遺跡からも丹塗の壺形土器が出土している。近隣の江釣子村には末期古墳と称する古墳群が多く分布している。

平安時代

新幹線建設、東北縦貫自動車道建設に伴う緊急発掘調査などで多くの遺跡が調査されている。北上駅の北々東8kmにある堀ノ内遺跡、北々東4.5kmにある野田Ⅱ遺跡から住居跡が各1棟、南西2kmにある西野遺跡から3棟、南西1.6kmにある鬼柳西裏遺跡から16棟検出されている。いずれも自然堤防上に立地している。北上駅の北西4.8kmにある藤沢遺跡から3棟、南西5kmにある成沢遺跡から6棟、南西5kmにある上谷地遺跡から6棟検出されている。3遺跡は村崎野段丘（中位段丘）に立地している。河岸低地にある遺跡では牡丹畑遺跡から住居跡が2棟、尻引遺跡から3棟、館Ⅳ遺跡から1棟検出されている。そのほか、平安時代後期の遺跡として多くの堂塔跡が発見されている国見山（標高230m）の裾に立地する極楽寺跡がある。

鎌倉～江戸時代

北上駅の南西1.6kmにある標高55～58mの自然堤防上に立地する鬼柳西裏遺跡から中世の溝、中世～近世の堀が各1条、また南々西2kmにある標高70mの村崎野段丘に立地している南館遺跡から中世の墳墓6基が検出されている。そのほか、南西3～4kmにある標高66～78mの台地に立地する丸子館跡や鹿島館跡から中世の堀や掘立柱建物跡が多く検出されている。



- A. 上川岸Ⅱ遺跡 B. 新Ⅳ遺跡 C. 黒沢尻橋跡 D. 九年橋遺跡
 E. 野田Ⅰ遺跡 F. 野田Ⅱ遺跡 G. 堰ノ内遺跡 H. 坊館遺跡
 I. 物見崎遺跡 J. 藍物館跡 K. 轟沢遺跡 L. 尻引遺跡 M. 八天遺跡

第4図 周辺の遺跡位置図

Ⅲ 調査方法と室内整理

1. 野外調査の方法

調査区の設定と遺構名

調査範囲は東西約270m、南北約108mの道路建設用地である。測量座標は調査区東端から約90m西の道路中心杭付近に基準点1を、そこから東40mの地点に基準点2を設置し、基準点1と2を結んだ線をグリッドの東西方向とした。基準点1から西方向100mの地点を座標原点とした。原点から北へ1m、2mはN1、N2、南へはS1、S2、同様に東西にはE1、E2、W1、W2と表した。グリッドの北方向は磁北に対して53度10分東偏している。調査区は原点より40×40mの大区画を設定し、西から東へⅠ、Ⅱ、Ⅲのローマ数字をつけ、北から南にA、Bのアルファベットをつけ、大区画をⅡA、ⅡBと呼ぶことにした。それぞれの大区画は4×4mの小区画（グリッド）に100分割し、西から東へ0～9のアラビア数字を、北から南へa～jのアルファベットをつけ大区画と組み合わせてⅡA-6b、ⅢB-2aのように呼んだ。粗掘りの際に出土した遺物や遺構外の遺物は4×4mの小区画毎に記名して取り上げた。

検出された遺構は、大区画毎に分け、竪穴住居跡には1～、土坑、墓塚には51～、溝跡には101～、焼土遺構には151～の番号を付し、大区画の名前と組み合わせて、ⅢA-2住居跡、ⅢB-53土坑、ⅢA-102溝跡などと呼称した。遺構が2つの大区画にまたがっている場合、遺構が多く占めている方の大区画を使用した。必ずしも厳密ではない。

粗掘り、遺構検出、精査

調査開始当初に、調査区全体に適宜トレンチを入れ、遺跡の状況を把握した後、粗掘りは手掘り及び重機を併用した。表土を取り除いた後、徐々に掘り下げて遺構の検出を行った。

遺構の精査は住居跡は4分法、土坑、墓塚、柱穴は2分法を原則とし、溝跡は遺構の切り合いの新旧を確認するため適宜土層観察用の畦畔（ベルト）を設けて調査をした。遺構内出土の遺物は埋土中のものはQ1～Q4分割、Q1、Q2の2分割にし、層位または埋土上部、埋土下部をつけ、ⅢA-3（住）Q3埋土下部のように記入して取り上げた。床面出土の遺物は写真撮影後、図面に記録して通し番号を付し、ⅣA-2（住）床面№3のように記入し取り上げた。

実測、写真

実測は2人一組で3組つくり実測作業を行った。簡易な造り方法を採用し、実測の縮尺は、溝跡が40分の1、その他の遺構が20分の1に統一した。

写真撮影は2～3名が担当し、検出状況、埋土の土層断面、焼失住居跡の炭化材出土状況、完掘全景、カマド・炉の断ち割り、遺物出土状況などできるだけ多くの状況を記録した。

写真撮影には6×7cm判カメラ(白黒用)1台、35mm判カメラ(白黒、カラースライド用)2台を使用した。

2. 室内整理

遺構

実測してきた図面の座標、セクションポイントの位置、基準高などを点検しながら遺構ごとに第2原因を作成し、報告書用の土層注記は別紙に箇条書に記して第2原因に付した。トレースは第2原因をもとにし、図版作成を行った。

本報告の図版はトレース図版を一定または不定に縮尺したものである。各図版の縮尺率は原則として住居跡50分の1、土坑類40分の1、溝跡は不定である。なお、個々の図版にはスケールを挿入している。

遺物

土器は水洗、注記後、遺構外、遺構内に分け、遺構内は遺構ごとに接合した。最後には、隣接する遺構から出土した土器、遺構外の土器も含めて接合、復元した。

実測する土器は、接合復元できたもののほかに、4分の1以上残存し反転実測できるもの、4分の1未満であるが遺構とのかかわりで取り上げなければならないものなどである。これらの土器は遺構内は遺構順に1～、遺構外は1004～の番号を付けて登録した。

登録した土器は、土器全体の調整を表している部分を選んで、チョーク、鉛筆で調整痕をしるし、原寸で実測した。調整痕の実測範囲は内外面共4分の1を目安とした。調整にはヘラナデ、ヘラケズリ、ハケメ調整などがあるが、ヘラケズリともヘラナデとも断定できない調整はナデ状のヘラケズリ調整とし、その表現方法も両者の表し方を組み合わせて示した。輪積み痕は明瞭にみえる部分のみ実測した。

拓本は底部の木葉痕、回転糸切り痕、須恵器体部のタキ目痕、当て具痕のみ行った。

4分の1以上2分の1未満で反転実測した土器は口縁部の線を半分まで引き、2分の1以上あるいは全部引いて表した。

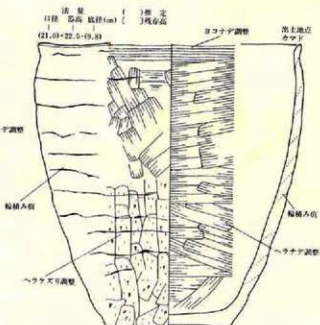
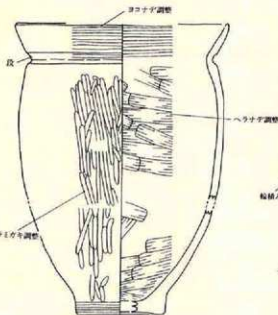
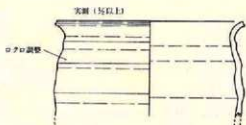
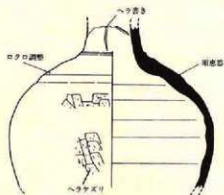
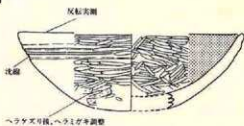
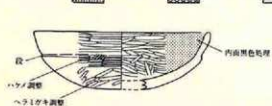
ロクロ使用の土器は口縁部、ロクロ痕などを直線で表し、ロクロ不使用の土器はフリー・ハンドで表現した。

鉄製品は錆付着のままモノクロ写真、X線写真を取った後で、錆を落とし、実測した。

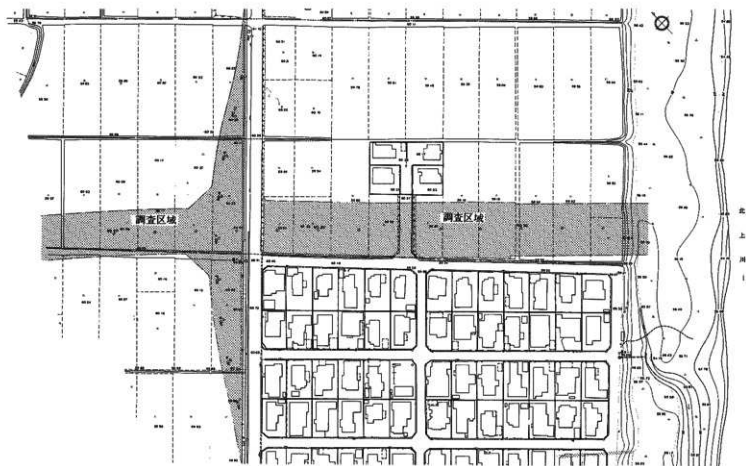
須恵器は断面を黒く塗りつぶして表した。器面に黒色処理が施されているものは、スクリーン・トーンを2分の1貼って表現した。

土器実測図の左上には法量(口径・器高・底径)を、右上に出土地点を記した。反転実測で口径、底径を推定したものは()、器高の残存高は[]で表した。

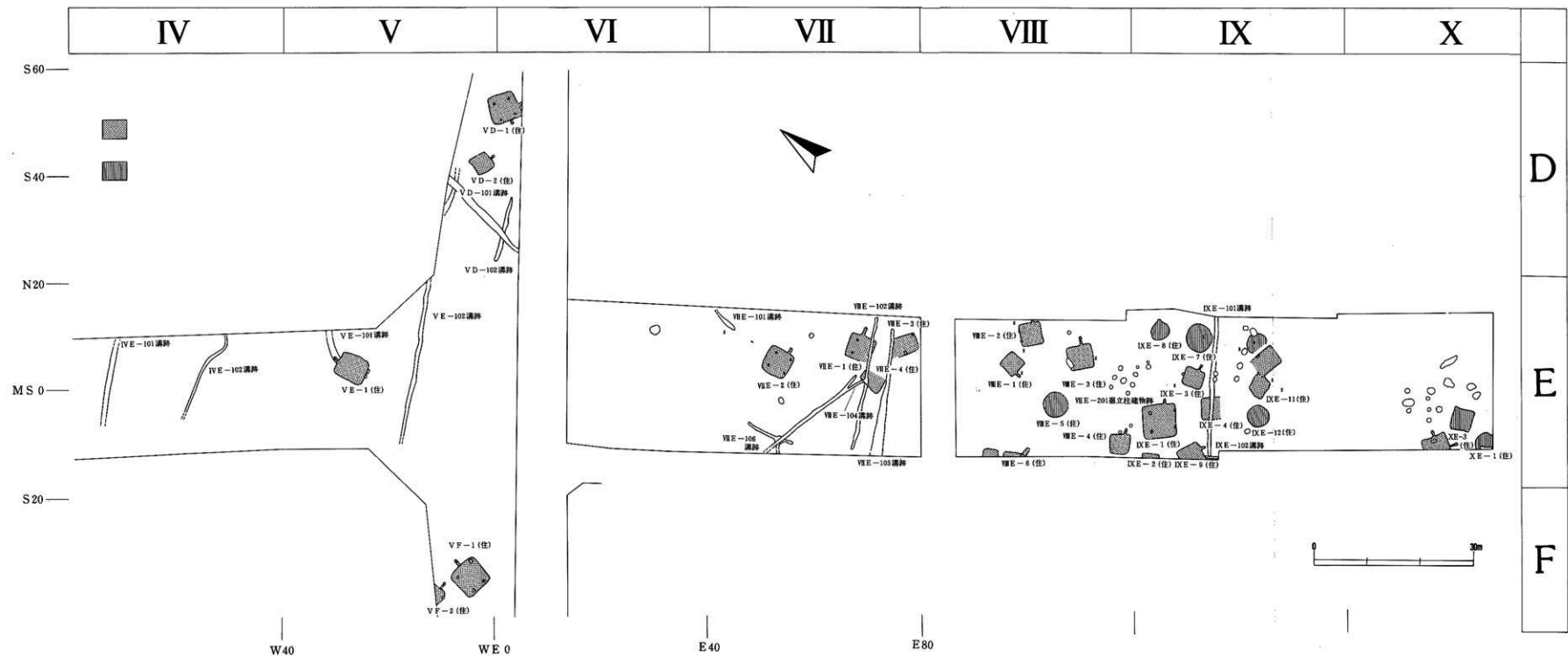
本報告の遺物図版は土器、鉄器が縮尺3分の1、土製品、石器は大小に応じて原寸、2分の1、3分の1に分けて縮小している。



スクリーントーンの表し方、土器の器面調整、計測値、出土地点の表し方



第5図 上川岸II遺跡 調査区域



第 7 図 上川岸II進路進構配置図

IV 検出された遺構と遺物

1 竪穴住居跡

VD-1 住居跡

遺構 (第8図、写真図版2)

本遺構は調査区北端のVD区にある。小礫混じりの黒褐色土層上面で検出された。南東壁の一部は調査区域外にある。他の遺構との重複はない。

埋土は径5~10cmの円礫を中心に全体に混じり、上部に炭化物を含む黒褐色砂質シルトの単層で占められている。住居跡は南西壁が長く、北東壁が短い台形をなしている。北西-南東方向の長軸の長さは4.9m、短軸の長さは4.6mである。住居跡の隅はやや丸味を帯びている。壁高は北東壁中央部で10cm、北西壁中央部で9cm、南西壁中央部で12cm、南東壁中央部で7cmである。

床は礫混じりの黒褐色土層を掘り込んでつくられている。カマド前面から中央部にかけては褐色シルト混じりの黒褐色土で貼り床が施されている。柱穴はP₁(径30cm、深さ16cm)、P₂(径36cm、深さ21cm)、P₃(径34cm、深さ18cm)、P₄(径40cm、深さ12cm)の4本が検出されている。柱穴配置は南西壁に寄る四角形をなしている。周溝、貯蔵穴は検出されていない。

カマドは南東壁中央部東寄り(旧カマド)から、南東壁中央部南寄り(新カマド)につくり替えられている。旧カマドは燃焼部底面と煙道のみ残存している。燃焼部使用面は60×80cm、厚さ4cmの規模で火熱により赤色化している。煙道は半地下式の溝状のもので、壁際から緩く下降して煙出口にいたる。煙道は長さ1.5m、幅15~20cmである。新カマドは右袖部が長径22cmの円礫を斜位に埋め、黒褐色シルトでまいてつくられている。左袖は最下部のみ残存する。カマド本体の幅は1.2mである。燃焼部の使用面は60×80cmの浅皿状をなし、火熱により厚さ6cmまで赤色化している。カマド本体の一部及び煙道は調査区域外にある。

出土遺物 (第57・58図、写真図版39)

土師器 坏形土器(1・3~6)が5点、高台付坏形土器(2)が1点、小型甕形土器(11)が1点出土している。3の底部外面はロクロから切り離し後、全面を手持ヘラケズリで再調整されている。ヘラケズリは一部体部下端にも及んでいる。11の甕はロクロ調整され、底部に回転糸切り痕をもつものである。

須恵器 甕形土器(15・16)が2点出土している。15は口縁部が一部残存しておりロクロ調整されている。内面に平行当て具痕、外面に平行叩き目痕をもつ。

土製品 土鍾(12・13)が大小各1点出土している。

鉄製品 刀子(14)が1点出土している。

VD-2住居跡

遺構 (第9図、写真図版3)

本遺構は調査区北側のVD区にあり、北東4mにはVD-1住居跡がある。検出面は西側が礫混じりの暗褐色粘土質土層上面、東側が礫混じりの黒褐色シルト層上面である。最初西側で壁の輪郭線がわかり、それを追う形で住居跡のプランを把握したものである。東隣壁側の一部は現在使用されている水路のため調査できなかつた。

埋土は平均径2cmの円礫が混じり、土器を多く含む黒褐色シルト層で大半が占められ、僅かに壁際に黒色シルト層が三角状に堆積している。

住居跡は北東-南西方向の長軸が3.6m、短軸が3.4mで、南西壁がやや外方に張るほぼ方形をなしていたと思われる。住居の隅はやや丸味を帯びている。壁高は北東壁中央部で25cm、北西壁中央部で27cm、南東壁中央部で25cmである。

床は西側が暗褐色土の礫層を掘り込んでつくられている。周囲が水田であるため湧水が激しく完全な精査はできなかつたが、ポンプで排水しながら調査した。床面はほぼ平坦である。貼り床の有無は不明である。柱穴、貯蔵穴、周溝は検出されていない。

カマドは南東壁中央部南寄りに設けられている。カマドは長径22~24cmの細長い円礫を袖部の芯にして黒褐色土でまいてつくられている。両袖の幅は80cmである。燃燒部は長径30cmの浅皿状をなし、火熱により厚さ6cmまで赤色化している。煙道は半地下式の溝状のもので、燃燒部から緩く立ち上がり、壁外20cm位から緩く下降して煙出口にいたる。煙道は長さ1.2m、幅18~24cmである。煙出口には径18cmの円礫1個のほか、多数の土器片が埋まっていたことから、これらは煙出口の上部施設に使用されていたものと思われる。煙出口は径40cm、深さ15cmである。

出土遺物 (第58~60図、写真図版40・41)

土師器 坏形土器 (17・18) が2点、甕形土器 (20・22・23) が3点出土している。坏は回転糸切り無調整のものである。20・22の甕はロクロ調整後ヘラケズリが施されている。口縁部の形態は20が短く、外反し直上する。22は「く」の字状に外反している。23の甕は回転糸切り痕をもつ底部片である。

須恵器 坏形土器 (19) が1点、壺形土器 (21) が1点出土している。21の壺は口縁部が欠損している。体部は外面がヘラケズリ、内面がヘラナデ調整されている。

土製品 床面から礫の羽口 (24) の破片が1点出土している。先端部に鉄滓状のものが付着している。

石器・石製品 砥石 (25) が1点、台石 (26・27) が2点、円盤状石製品 (28) が1点出土している。25の砥石は直方体状のもので、4つの使用面をもつ。中央部が最もすり減っている。

1つの面には刃を立てて磨った細い溝状の痕が数条みられる。

VE-1住居跡

遺構（第10図、写真図版4）

本遺構は調査区西側にあり、検出された住居跡の中でもっとも西端に位置する。隣接する住居跡はなく最も近いものは東40mにあるVD-2住居跡、南40mにあるVF-1住居跡である。検出面は表土を取り除いた暗褐色シルト層上面で明瞭にプランを把握することができた。北壁及び煙道上部はVE-101溝跡に切られ、縄文時代の土坑VE-51・52・53土坑を切ってつくられている。炭化材、焼土の分布状況から焼失住居跡である。

埴土は上部層が十和田a降下火山灰の小ブロックが混じる黒色シルト層、中部層は暗褐色砂質シルトが径0.5～1cmのブロックで混じり、焼土粒を全体に含む黒褐色粘土質シルト層、下部層が焼土、炭化物を含み、暗褐色シルトブロックが多く混じる黒褐色粘土質シルト層で構成されている。

住居跡は南北に長い長方形を呈し、東西径4.6m、南北径5.2mの規模である。四隅は丸味を帯びている。壁高は北壁中央部で37cm、西壁中央部で29cm、南壁中央部24cm、東壁中央部で33cmである。

住居跡は褐色粘土質土まで掘り込んでつくられている。床面は黒褐色土混じりの暗褐色土で貼り床が施され、幾分凹凸がある。カマド前から中央部にかけてはかたくしまっている。柱穴は、検出することができなかった。貯蔵穴、周溝はない。

カマドは北壁中央部より僅かに東に寄る位置に設けられている。袖部は扁平な亜円礫を芯にし、褐色粘土質土でまいてつくられている。両袖の幅は1mである。燃燒部は長径32cmの浅皿状をなし、火熱により厚さ6cmまで赤変している。煙道は燃燒部から上昇して屋外に延び、壁外20cmの所から下降して煙出口にいたる。煙道は割り貫き式のもので、長さ1.4m、幅18～36cmである。煙道の間が狭まり、横断面は横に長い楕円をなす。煙出口は径32cm、深さ62cmである。埴土に径10～14cmの礫が数個堆積していることから、煙出口の上部施設は礫を使用して構築されていたと推定される。

住居跡中央部を中心に現地性焼土を伴う炭化材が分布し、壁際にもみられることから、本住居跡は焼失住居跡であると思われる。本住居跡はVE-101溝より古く、VE-51・52・53土坑より新しい。

出土遺物（第61・62図、写真図版42）

土師器 坏形土器（30～36）が7点出土している。底部は回転糸切り無調整である。

あかやき土器 坏形土器（37・38）2点であるが、底部に回転糸切り痕をもち、再調整はみ

られない。

須恵器 変形土器 (39・40) が2点出土している。口縁部片でロクロ調整されている。

鉄製品 鉄鍬 (41・47～50) が6点、刀子 (42～44) が3点、穂摘み用手鎌 (45) が1点、刀装具 (46) が1点出土している。41の鉄鍬は雁股式のものである。

石器 台石 (51)、磨石 (52) が各1点出土している。51は板状、52は三角柱状を呈する。

VF-1 住居跡

遺構 (第11・12図、写真図版5)

本遺構は調査区南西側にありVF-2住居跡と2棟まとまって検出されている。北40mにはVE-1住居跡がある。検出面は黒褐色砂質シルト層上面である。検出面と埋土との識別がわずかしく、土器や円礫の広がりや円形に分布していることから遺構と確認することができたものである。他の遺構との切り合いはない。

埋土は3層より構成される。上部層はレンズ状に堆積して埋土の大半を占め、上位に径2～4cmの円礫が混じり、炭化物、焼土粒を少量含む土器が混じる黒褐色シルト層である。中部層は焼土粒、炭化物が多く、一部には大ブロックで混じり、土器も多く包含している黒褐色粘土質土層で人為的に投げ込みされている部分が多い。下部層は焼土粒、土器を少量含む黒色粘土質シルト層である。

住居跡は南壁と東壁が一部屈曲しているが、一辺5.5mの隅丸方形を呈している。壁高は北壁中央部で43cm、西壁中央部で40cm、南壁中央部で47cm、東壁中央部35cmである。

住居跡は褐色粘土質シルト層まで掘り込んで構築されている。床はカマドを除く壁周囲に幅50～100cm、深さ10～30cmの規模の不整形な掘り方をもつ。掘り方の埋土は褐色粘土質シルトがブロックで混じる黒色シルト層である。底面は凹凸が激しい。柱穴は北壁側に壁から1m離れてP₁(径32cm、深さ82cm)、P₂(径30cm、深さ80cm)の2本、南壁に接する形でP₃(径60cm、深さ75cm)、P₄(径56cm、深さ70cm)の2本の計4本が検出されている。柱穴配置は南壁側に寄る四角形をなしている。周溝は検出されていない。北東隅に貯蔵穴と思われる長径92cm、短径88cm、深さ20cmの楕円形ピットが検出されている。

カマドは北壁中央部に設けられている。カマドは暗褐色粘土質シルトでつくられている袖の下部のみが残存し、原位置の構成礫はみられない。カマド本体の幅は1.6mである。燃焼部は長径41cmの浅皿状をなし、火熱により6cm程赤変している。煙道は割り貫き式のもので長さ1.5m、幅20～32cmである。煙道は燃焼部から上昇した後、壁際で急に下降して煙出口にいたる。煙道の横断面はほぼ円形をなす。煙出口の上部壁周囲に径10～18cmの礫が丸く並んだ形で検出されている。煙出口上部施設の構成礫であったと思われる。煙出口は径36cm、深さ67cmで

ある。

出土遺物（第63～73図、写真図版43～49）

土師器 坏形土器（53～76）が24点、57～76のロクロからの切り離しは回転糸切りである。うち5点（53～59）はロクロから切り離した後、底部全面をヘラケズリで再調整されている。53～55は手持ヘラケズリ、58・59は回転ヘラケズリによる再調整である。68の底部外面には3本の刻線による三角形のものゝ刻まれている。高台付坏形土器（77～91）が15点、うち器形全体を復元できたものは4点のみである。高台は大きく「ハ」の字形に開く形態のもの（82～85・87・89・90）と、あまり開かない形態のもの（78～80・88）とがある。高台の高さは、2cm以上ある87を除けば1cm前後である。底部外面に「十」字状の暗文をもつもの（87）が1点、放射状の暗文をもつもの（90・91）が2点出土している。甕形土器（121～132、134～146）は25点あり、ロクロ調整されている。底部に回転糸切り痕をもつもの（122・123・141～146）が8点あり、小型のものに多い。大抵上半を中心にロクロ調整しその後、中位から下をヘラケズリで調整されている。口縁部は「く」の字状に外反し、口唇一部が上下または上方のみにのびる形態である。鉢形土器（133）が1点出土している。口縁部が短く外反する。外面はヘラケズリで調整されている。壺形土器（147～149・151）は4点で、147・149・151は内面をヘラミガキ後、黒色処理されている。149は内外面ヘラミガキされている小型のものである。碗形土器（150）が1点出土している。口縁部は外反し、口唇部が上下にのびている。ロクロ調整されている。

あかやき土器 坏形土器（114～120）が7点出土している。底部に回転糸切り痕を持つ。114の外面にはひだすき痕がみられる。

須恵器 坏形土器（92～113）が22点出土している。すべて回転糸切り無調整である。103の内面に、ひだすき痕がみられる。壺形土器（152～168）は17点出土している。上半部はロクロ調整後、一部ヘラケズリで調整されている。下半部は主にヘラケズリで調整されている。160・163は長頸壺であり、頸部に凸帯をもつ。164は肩部片で外面に平行叩き目痕を残す。ロクロ調整前に行われていたものである。甕形土器（169～176）が8点出土している。内外面に平行の叩き目痕、当て具痕をもつもので、172のみ内面の当て具痕が弧状をなしている。

土製品 土鍾（177～181）が5点、用途不明の土製品（182）が1点出土している。土鍾の形態は筒状を呈しているが、180の1点のみが中央部がふくらむ形状をなしている。

石器 台石（183）、凹石（184）、石鏃（185）が各1点出土している。

VF-2住居跡

遺構 (第13図、写真図版6)

本遺構は調査区南側にあり東2mにはVF-1住居跡がある。当住居跡の南西60mまで住居跡は検出されず、最も南西に位置する住居跡である。検出面は黒褐色砂質シルト層である。住居跡の大半は調査区域外にあり、検出できた部分は東壁と南壁の一部にすぎない。重複している遺構はない。

検出されている部分は東壁が1.4m、南壁が1.5mである。南東隅は丸味を帯びている。壁高は東壁で19cm、南壁14cmである。床は暗褐色シルト層を掘り込んでつくられている。床は壁周囲に幅90cm、深さ4~13cmの掘り方をもつ。床面は平坦である。柱穴は南壁に半分かかる形でP₁(径50cm、深さ37cm)が1本検出されている。カマドは東壁の中央部南寄りに設けられている。右袖部分のみ検出されている。右袖は長径24cmの礎を芯にし、暗褐色粘土質シルトをまいてつくられている。煙道は新しい溝に攪乱を受けているが、長さ1.5m、幅30cm前後で半地下式の溝状のものである。煙道は熱焼部から緩く上り、煙出口にいたるものである。煙出口は径38cm、深さ26cmである。

出土遺物 (第74図、写真図版49)

土師器 坏形土器 (186・187) が2点出土している。186は底部全体を回転ヘラケズリで再調整されている。187は体部下端をヘラケズリで再調整されている。回転糸切り痕をもつ。

須恵器 坏形土器 (188)、壺形土器 (189) が各1点出土している。188は回転糸切り無調整である。

VE-1住居跡

遺構 (第14図、写真図版7)

本遺構は調査区中央部北側に位置している。検出面は小礫混じりの黒褐色土層上面である。北西壁、北東壁の輪郭がみえて住居跡と判明したものである。住居跡南側は一部消失している。更に北東-南西方向に走るVE-102溝跡によって南側を切られている。東側半分に炭化材や焼土分布していることから、焼失住居跡の可能性がある。

埋土は平均径5cmの小礫や炭化物、焼土粒が混じる黒褐色シルトの単層で占められている。層厚は最も厚い北西壁側で8cmである。

住居跡は南側が削られているが、残存する壁の輪郭線から、南壁が短く北壁が長い台形をなしていたと思われる。長軸である南北径は4.5m、短軸径は4.2mである。壁高は北隅で7cm、西隅で7cm、北東壁中央部で4cmである。

床面は小礫混じりの層を掘り込んでつくられている。カマド前から中央部にかけては、暗褐色

色シルトが混じる黒褐色土で厚さ3～5cmの貼り床が施されている。床面は凹凸があり、西側が2cm程高い。

柱穴は北西壁側にP₁（径35cm、深さ37cm）、P₂（径43cm、深さ20cm）、P₃（径28cm、深さ6cm）、P₄（径37cm、深さ20cm）の4本検出されている。P₃、P₄は北西壁近くにある。位置、規模からP₁、P₂が主柱穴を構成したと思われる。P₁、P₂に対応する南東側にも柱穴があるものと考えられたが検出されなかった。

周溝は検出されていない。北東壁中央部のカマド右脇に径60cm×50cm、深さ10cmの浅皿状のピットP₅が検出されている。埋土は炭化物、焼土粒が多く混じる暗赤褐色土である。住居跡に伴うものである。機能については不明である。

カマドは北東壁の中央部寄りに設けられている。袖部は破壊され、燃焼部の表面と煙道のみが残存する。燃焼部の使用面は径35cm、厚さ8cmの規模で、火熱により赤色化している。煙道は壁際に立ち上がった後、緩く傾斜しながら煙出口にいたる。煙道は長さ1.8m、幅26～31cmである。煙出口は径45cm、深さ32cm、底面が丸底で真直ぐのものである。煙道は溝状の半地下式のものである。煙出口の埋土に褐色粘土質シルトが多く混じることから、この粘土質シルトは煙出口の上部を構築するために使用されていたものと思われる。カマド右袖側の壁際に長径21cmの直角礫が検出されているが、これはカマドの構成礫であったと思われる。

本住居跡はVE-102溝跡より古い。

出土遺物（第74・75図、写真図版49・50）

土師器 坏形土器（190・192・194）が3点、高台付坏形土器（193）が1点出土している。190は回転糸切り痕をもち、再調整はみられない。194は体部下端にヘラケズリによる再調整が行われており、底部に回転糸切り痕を有する。甕形土器（195・196・198～200）は5点であり、198以外はすべてロクロ調整されている。198は口縁部が外反し、体部外面をハケメ、ヘラケズリで調整されている。内面調整はヘラケズリである。200は底部に回転糸切り痕をもつものである。

あかやき土器 坏形土器（191）が1点出土、体部下端にロクロ調整後、ヘラケズリによる再調整がみられる。ロクロからの切り離しは回転糸切りである。

須恵器 甕形土器（197）が1点出土している。ロクロ調整されている口縁部片である。

石器 台石（201）が1点出土している。板状をなすものである。1面に多くの使用痕を残している。

ⅥE-2 住居跡

遺構 (第15図、写真図版8)

本遺構は調査区中央部にあり、東10mにはⅥE-1住居跡がある。検出面は基本層序Ⅲ層の黒褐色土層である。攪乱や他遺構との重複はない。

埋土は径5~15cmの円礫が混じり、炭化物、焼土粒を包含する黒褐色砂質シルト層の単層で占められている。自然堆積であると思われる。

住居跡は南北壁径4.8m、東西径4.9mの規模をもち、やや隅丸の方形をなしている。南西壁は外側に幾分脹む形である。壁高は北西壁中央部で11cm、北東壁中央部で16cm、南西壁中央部で13cm、南東壁中央部で13cmである。

床は小礫混じりの黒褐色土層を一部掘り込み、上面は暗褐色粘土混じりの黒褐色シルトでほぼ全面を厚さ3~5cmで貼られている。床面はほぼ平坦である。小礫が突出している面もある。柱穴は北西壁側にP₁(径37cm、深さ54cm)、P₂(径34cm、深さ42cm)、南東壁側にP₃(径31cm、深さ34cm)、P₄(径36cm、深さ28cm)の4本が検出されている。P₃は南東壁に接し、P₄は半分が壁を削る形で作られている。柱穴配置は南東壁による形で四角形をなしている。東隅に長径90cm、短径52cm、深さ8cmの浅皿状のビットP₅が検出され、土器が多く出土している。カマド右袖脇に位置することなどから、貯蔵穴に類するものと思われる。周溝はない。

カマドは北東壁中央部南寄りに設けられている。カマド本体は長径20~30cmの細長い扁平な礫を袖部の芯にし、黒褐色粘土質シルトでまいて作られている。袖部の幅は94cmである。燃燒部使用面は平坦で火熱による赤変は少なく、層厚1cm未満と思われる。煙道は半地下式の溝状のもので、燃燒部から壁外20cm位まで上昇した後、緩く下降して煙出口にいたる。煙道は長さ1.3m、幅20~24cmである。煙出口は径34cm、深さ33cmである。

北西壁と南西壁で柱穴より壁側に貼り床の施されていないことや、カマド・貯蔵穴の位置、柱穴配置などから、住居の出入口は南東壁側にあったと推定される。

出土遺物 (第75~77図、写真図版50・51)

土師器 坏形土器 (202・204~206) が4点出土している。202はロクロ調整後、体部下端と底部全面を手持ヘラケズリで再調整されている。206はロクロ調整後、体部下端をヘラケズリで再調整されている。205・206は回転糸切り痕をもつ。高台付坏形土器 (203) は1点出土している。内面は斜方向のヘラミガキ後、黒色処理が施されている。高台は一部欠損しているが、「ハ」字形に開く形態のものと思われる。甕形土器 (208~216) が7点出土し、214・215以外はすべてロクロ調整されている。211・213・216は底部に回転糸切り痕をもち、211・213はロクロ調整後、下端をヘラケズリで調整している。215は口縁部が外反するロクロ不使用の口縁部片である。外面をヘラケズリ、内面をヘラナデで調整されている。内面に輪積み痕がみられ

る。ロクロ調整されているものの口縁部は外反した後、口唇部近くで真上に直上するもの（208・211）と、口唇部の両端が上下にのびる形態のもの（209・210・212）とがある。

あかやき土器 坏形土器（207）が1点出土している。回転糸切り痕をもつ。

須恵器 変形土器（217）が1点出土している。外面に叩き目痕をもち、口縁部周辺をロクロ調整している。壺形土器（218・219）は2点であり、いずれも底部である。外面をヘラケズリ、内面をヘラナデで調整されている。

Ⅶ E - 3 住居跡

遺構（第16図、写真図版9）

本遺構は調査区の中央部北東側にあり、西側が北東-南西方向に走るⅦ E - 103溝跡に切られ、また削平されて消失している。検出面は基本層序Ⅳ層の暗褐色土層上面である。土器や焼土粒、炭化粒の広がりが見られ、遺構と判明したものである。平面形が明瞭でなく、ほぼ床面まで下げた段階で把握できた。

埋土は焼土粒、炭化粒が混じる黒褐色～暗褐色シルト層で構成されていたと思われる。住居跡は一辺3.5m前後の規模をもち、方形をなしていたと思われる。床面は平坦で貼り床は施されていない。残存する壁の高さは5cmである。柱穴、周溝は検出されていない。

北西壁の中央部西寄りに壁に接して径32×40cm、厚さ7cmの規模で焼土粒、土器片混じりの暗赤褐色土の広がりが見られる。これはカマド本体の一部ではないかと推定される。

本遺構はⅦ E - 103溝跡より古い。

出土遺物（第77図、写真図版51）

あかやき土器の坏形土器（220）、土師器の変形土器（221）が各1点出土している。2点ともロクロ調整され、221は体部下端にヘラケズリによる再調整が見られ、回転糸切り痕をもつものである。

Ⅶ E - 4 住居跡

遺構（第16図、写真図版9）

本遺構は調査区中央部の東側にあり、北東3mにはⅦ E - 1住居跡、東3mにはⅦ E - 3住居跡が隣接する。Ⅶ E - 102・104溝跡を精査している際に、北壁、南壁の一部と西壁が検出され住居跡と判明したものである。東側半分は削平されている。西側は北東-南西方向に走るⅦ E - 102溝跡や東西方向にのびるⅦ E - 104溝跡に切られている。

埋土は長径10～20cmの円礫が混じり、焼土粒、炭化粒を含む黒褐色シルトの単層で占めてられている。残存する壁から、住居跡は一辺4.1m前後の規模をもち、方形をなしていたと思わ

れる。壁高は最もよく残っている西壁中央部で4cmである。

床面には礎が露出し、北側がやや高い。貼り床は施されていない。柱穴、周溝は検出されていない。西壁中央部から70cm内側に寄る位置に長径60cm、短径48cmの不整形円形に広がる現地性焼土がみられる。焼土の厚さは2cmである。炬あるいはそれに類した機能を果していたと思われる。カマドは検出されていない。

本住居はⅧE-102・104溝跡より古い。

出土遺物 (第77図、写真図版51)

土師器 坏形土器 (224) が1点出土、ロクロ調整後の再調整はみられない。

須恵器 坏形土器 (225) が1点、壺形土器 (222・223) が2点出土している。222・223は長頸壺と推定される。ロクロ調整後、体部下半をヘラケズリで調整している。

ⅧE-1 住居跡

遺構 (第17図、写真図版10)

本遺構は調査区東側のⅧE区中央部にあり、東2mにⅧE-2住居跡、南東8mにⅧE-3住居跡がある。検出面は黒褐色粘土質シルト層の上面である。掘り前には遺構全体の遺構、遺物の密度状態をさぐるため、20m間隔でいれた幅4m、長さ8mのトレンチを掘り下げた際に、カマドのある南壁と北壁の一部が検出され、住居跡と判明したものである。埋土は検出面の層よりやや褐色を帯びている程度で、周囲と同様の黒褐色土であるため、識別がむずかしく、湿った状態ではじめてプランを把握することができた。重複関係はない。焼失住居跡である。

埋土は大きく2つに分けられる。上部層は黒褐色粘土質シルト層で、平均径10~20cm、最大径30cmの円礫が多く混じり、土師器のほかには縄文土器片も多く包含している。下部層は全体に暗褐色シルトの小ブロック、焼土、炭化物が多く混じる黒褐色粘土質シルトで、直径30cm台の大きい礫も多く含まれている。

住居跡は形状が方形を呈し、一辺の長さが3.2~3.3mである。隅は幾分丸味を帯びている。壁高は東壁中央部で29cm、南壁中央部で20cm、西壁中央部で19cm、北壁中央部で29cmである。

住居跡は暗褐色粘土質シルト層を掘り込んでつくられている。床面は平坦である。一部下位層の小礫が露出している部分もある。全体として締まっているが、特にガリガリした硬い面はない。貼り床は施されていない。柱穴、周溝は検出されていない。

南西隅にカマドの右袖と接して、長径90cm、短径72cm、深さ20cmの規模の楕円形をなす浅鉢状のピットが検出されている。土器も出土している。住居跡に伴うもので、貯蔵穴に類したものであろう。

カマドは南壁中央部の西寄りに設けられている。袖部は礎を芯にして褐色シルト混じりの黒

褐色粘土質シルトをまいて構築されていたらしく、埋土との識別がむずかしかった。そのため、検出されたのは、袖の芯とその周辺部のみである。芯材には長径20~30cmの細長い円礫が使用されている。袖部の幅は80cmと推定される。

燃焼部の使用面は焚口側にやや傾いている。面上は火熱により赤変し、ガリガリに硬い。焼土の規模は、長径52cm、短径38cm、厚さ7cmである。煙道は半地下式の溝状のものである。燃焼部から緩く立ち上がり、一端壁際で下がった後急激に立ち上がり、その後緩い傾きで煙出口につながる。煙道は長さ124cm、幅18~24cm、深さ11cmである。煙出口は長径24cm、短径20cm、深さ23cmである。

床面上には径20~30cmの円礫が全体に多数堆積していた。現地性焼土が東側に分布している。特に北東隅側には径60×110cmの規模で広がっている。南東隅の壁際には長径10cmの炭化材が残存している。これらの焼土、炭化物は当住居跡が焼失した時に形成されたものと思われる。

住居跡の主軸方位はS-5°-Wである。他の遺構との重複関係はない。

出土遺物 (第79・80図、写真図版53)

土師器 坏形土器 (301~307・310) が8点出土しており、すべてロクロ使用である。ロクロから切り離した後、302は体部下端と底部全面に回転ヘラケズリで、305・306は手持ヘラケズリで再調整されている。ロクロからの切り離しは307が回転ヘラ切り、310が回転糸切りである。307は器高が高く、底径が小さい。変形土器 (314・317~319・322~324) は7点出土している。314・317・318はロクロ使用のものである。319はロクロ不使用で、口縁部が外反し、体部外面をヘラケズリ、内面をハケメで調整されている。322~324は底部の外面をヘラケズリで調整されている。

あかやき土器 坏形土器 (309・312) が2点出土している。ロクロからの切り離しは回転糸切りで再調整がみられない。312はロクロ痕が顕著で器面の凹凸が激しい。

須恵器 坏形土器 (308・311・313~316) が5点出土している。底部に回転糸切り痕をもつ。311の体部には「三」の墨書文字がみられる。器形は体部が内湾しながら立ち上がり口唇部近くで外反している (311・316) のが特徴的である。壺形土器 (320・321) は2点出土している。外面をロクロ調整後、ヘラケズリで調整されている。

縄文土器 鉢形の土器片 (325~329) が5点、注口土器の注口部分 (330・331) が2点出土している。縄文後期~晩期のものである。

石製品 有孔石製品 (332) が1点出土している。人為的に径4mmの孔があげられている剥片である。石製品の破片と思われる。

ⅧE-2住居跡

遺構（第18図、写真図版11）

本遺構は調査区北東側のⅧE区北寄りにあり、西2mにⅧE-1住居跡、南5mにⅧE-3住居跡がある。検出面は黒褐色粘土質シルト層上面である。住居跡は煙道の一部が調査区域外にのびている。他の遺構との重複関係はない。

埋土は褐色シルトが小ブロックで少量混じり、小礫、中礫が多く混じる黒褐色粘土質シルトで占められている。

住居跡は長径（北東-南西）4.2m、短径（北西-南東）4mで、ほぼ正方形状をなしている。隅は丸味を帯びている。壁高は北東壁中央部で9cm、南東壁中央部で11cm、南西壁中央部で13cm、北西壁中央部で19cmである。

住居跡は暗褐色シルト層まで掘り込んでつくられている。床面は硬く締まっていない。幾分凹凸があり、下位層の小礫が露出している部分もある。南東壁側から南西壁側にかけて、部分的に褐色シルト混じりの黒褐色粘土質シルトで貼り床が施されている。

周溝は検出されていない。柱穴は北西壁の壁を半分切る形でP₁、P₂の2本が検出されている。柱穴の規模はP₁が径28×32cm、深さ18cm、P₂が径40×42cm、深さ24cmである。2本の柱穴と向かい合う南東壁に柱穴が検出されていないことから、南東壁側の床面に柱があったと思われる。柱穴は北西壁側に寄った配置をなしていたと推定される。

カマドは北東壁の中央部東寄りに設けられている。煙道の一部は調査区域外にある。カマドの残存状態は悪い。カマドは径20cm前後の樫を軸の芯にして構築されていたと思われる。燃焼部使用面は平坦で、火熱により径30×60cm、厚さ8cmの規模で赤変している。袖部の幅は90cmと推定される。検出されている部分での煙道の長さは50cmである。半地下式の溝状のもので、幅24-32cm、深さ15-20cmである。煙道は壁際で緩く立ち上がった後、なだらかに傾斜している。

住居跡の主軸方位はN-42.5°-Eである。他の遺構との重複はない。

出土遺物（第81-83図、写真図版53-56）

土師器 坏形土器（333-336）が4点出土している。底部は333がロクロから切り離した後、回転ヘラケズリで再調整され、334-336がロクロから回転糸切りで切り離されている。336は体部が底部から内湾しながら立ち上がるものである。変形土器（339-351）は21点出土している。ロクロ不使用のもの（339-342・346-351）とロクロ使用のもの（343-345）とがある。前者は口縁部が短く外反し、体部外面をヘラケズリで調整されている。347は底部外面に木業圧痕をもつ。後者は上半部をロクロ調整されているもの（345）と主体をロクロ調整し底部に回転糸切り痕をもつもの（343・344）とがある。

須恵器 坏形土器 (337・338) の2点である。ロクロからの切り離しは不明である。壺形土器 (352~355・357・358) は6点出土している。全面をロクロで調整しているもの (352) とロクロ調整後、下半をヘラケズリで再調整されているものがある。352は口縁部が磨耗していることから、体部下半部を鉢として再利用したもので、底部に回転糸切り痕をもつ。357・358は底部片であり、ヨコ方向のヘラケズリで外面を調整している。寛形土器 (356) は1点で、外面に叩き目文、内面にカキ目文、叩き目文をもつ体部片である。

縄文土器 359~365の9点が出土している。359~362は後期、363~368は晩期のものである。

鉄製品 鋤先 (369)、手鎌 (370) が各1点出土し、369は南西隅の床面直上で検出された。

土製品 勾玉土製品 (373) が1点である。

石器 剥片石器 (371・372) が2点出土している。

ⅧE-3住居跡

遺構 (第19図、写真図版12)

本遺構は調査区南東部のⅧ区東側にあり、北4mにⅧE-2住居跡、北西8mにⅧE-1住居跡がある。住居跡は北西壁の一部を中世の墓墳であるⅧE-51の墓墳に切られている。検出面は黒褐色粘土質シルト層面である。煙道部が初めに見つかり、住居跡と判明したものである。地山と埋土は類似しており、湿った状態でないと上部での把握はむずかしかった。焼失住居跡である。

埋土は全体に径3~8cmの小礫や暗褐色シルトのブロックが多く混じる黒褐色粘土質シルト層で占められる。中央部にかなりまとまった広がりで見地性焼土、炭化物が分布している。

住居跡は長径(北西-南東)4.6~4.8m、短径(北東-南西)4.4mで、やや南西壁が短い。ほぼ正方形状をなしている。隅はやや丸味帯びている。南隅が最も丸味がかっている。壁高は北東壁中央部で9cm、南東壁中央部で14cm、南西壁中央部で14cm、北西壁中央部で11cmである。

住居跡は暗褐色粘土質シルト層を掘り込んでつくられている。床面は平坦である。ガリガリと硬く締まっている面はない。下位層の小礫が露出しているところがある。柱穴、周溝は検出されていない。

カマドは北東壁中央部の東寄りに設けられている。カマドの保存状態は非常に悪く、カマド本体では袖の最下部と燃焼部使用面とが残存している。礫を芯にして黒褐色シルトでまいて構築されていたと思われる。燃焼部の使用面は焚口側にやや傾斜している。面上は火熱を受け長径72cm、短径57cm、厚さ7cmの規模で焼土化している。袖幅は92cmである。

煙道は半地下式の溝状のもので長さ164cm、幅22~26cm、深さ9~18cmである。燃焼部から

緩く立ち上がり、半分位から緩く下降して煙出口につながる。煙出口は径40×43cm、深さ23cmである。

中央部南寄りに1×1.2mの現地性焼土の広がりが見られる。投げ込みでなく、本住居が焼失した時に、形成されたものと思われる。

主軸方位はN-42°-Eである。本住居跡はⅧE-51墓墳より古い。

出土遺物（第84～86図、写真図版57～59）

あかやき土器 環形土器（374・375）2点が出土し、375は回転糸切り痕をもち再調整はない。

土師器 甕形土器（376～381）5点出土している。ロクロ不使用の口縁部片が2点（379・381）、ロクロ使用の口縁部片が1点（376）出土し、379は口唇部断面が四角を呈し、ヨコナデ後、内外面を一部ヘラミガキがなされている。

須恵器 壺形土器（382～384）3点である。384は長頸壺形土器で頸部が欠損している。体部外面の下半はロクロ調整後、ヘラケズリされている。

縄文土器 385～395の11点であり、391が晩期そのほかは後期のものである。392は口縁部の突起、393・394は注口土器の注口部分である。395の底部外面には網代痕が見られる。

鉄製品 釣針396の1点が出土している。

石器 磨石（397・398）2点、台石（399）1点、砥石（400）1点が出土している。400は4面を使用し、中央部がU字状にすりへり、先端部に切削痕がある。

ⅧE-4 住居跡

遺構（第20図、写真図版13）

本遺構は調査区南東部のⅧE区南側にあり、東2mにⅨE-1住居跡、南3mにⅨE-2住居跡がある。検出面は黒褐色粘土質シルト層上面である。縄文時代の遺構ⅧE-61土坑を切っている。

埋土は暗褐色シルトが小ブロックで混じる黒褐色粘土質シルト層で占められている。中央部を中心に径14～28cmの円礫が堆積している。

住居跡は長径3.7m、短径3.3mの規模で、台形状をなしている。南隅・東隅は丸味、北隅、東隅はやや丸味を帯びている。壁高は北東壁中央部で15cm、南東壁中央部で13cm、南西壁中央部で18cm、北西壁中央部で19cmである。

住居は暗褐色粘土質シルト層を掘り込んでつくられている。床面は平坦である。ガリガリに硬く締まった面はない。柱穴、周溝は検出されていない。

東隅のカマド胎に長径74cm、短径52cm、深さ19cmの規模で平面が楕円形をなし、断面が楕円

形のピットを検出している。貯蔵穴に類したものと思われる。中から須恵器、土師器などが出土している。

カマドは北東壁中央部東寄りに設けられている。カマド本体の残存状態は悪い。左袖は埋土と袖部との区別がつかず把握できなかった。右袖は袖の芯である長径18cmの礫が残存したため、検出することができた。本体は礫を芯にして黒褐色シルトでまいて構築されていたと推定される。燃焼部の使用面は焚口側にやや傾斜し、火熱により長径54cm、短径38cm、厚さ8cmの焼土が形成されている。

煙道はカマドのある北東壁と直角でなく、やや南に寄った方向にのびている。煙道は半地下式の溝状のもので、長さ110cm、幅20～28cm、深さ12～17cmである。燃焼部から緩く立ち上がり、壁際で一端下がり再び上がった後、長く下降して煙出口につながる。煙出口は径22cm、深さ21cmである。

北東壁の中央部北寄りの壁に接して径32cm×29cm、厚さ11cmの粘土塊が検出されている。ⅧE-2住居跡と同じように壁際に置かれている。何に使用したかは不明である。

主軸方位はN-56°-Eである。本遺構はⅧ-61土坑より新しい。

出土遺物（第87・88図、写真図版59）

土師器 環形土器（401～404・406）の5点であり、ロクロ不使用のもの3点（401・402・406）、ロクロ使用のもの2点（403・404）である。前者は内外面をヘラナア、ハケメ調整されている。401以外の3点は内面が黒色処理されている。甕形土器（407・408）は2点で、407はロクロ不使用、408はロクロ使用のものである。

須恵器 環形土器（405）が1点で、底部に回転糸切り痕をもつ。再調整はない。甕形土器（409）は1点であり、外面に平行叩き目痕、内面にタテ、ヨコ方向のカキ目痕をもつ体部片である。

縄文土器 410・411の2点でいずれも後期のものである。

石器 台石（412）1点、磨石（414）の1点が出土している。

ⅧE-6住居跡

遺構（第21図、写真図版14）

本遺構は調査区南東部のⅧ区西寄りにあり、大半が調査区域外にのびている。北東14mにⅧE-1住居跡、北西1mにⅧE-7住居跡、南東16mにⅧE-4住居跡がある。東隅を中心に北東壁から南東壁にかけて、上部が攪乱されている。検出面は黒褐色粘土質シルト層上面である。

埋土は2層からなり、上部層が一部床面まで、下部層が壁際に三角状に堆積している。上部

層は焼土粒、炭化物、褐色シルトが混じる黒褐色粘土質シルト層である。径2~10cmの円礫が少量混じる。下部層は暗褐色シルトが幾分混じる黒色粘土質シルト層で、径5cm前後の礫が少量混じる。自然堆積の様相をなしている。

完全に検出できているものは北東壁のみで、その長さは4.2mである。住居跡は隅がやや丸味を帯びた長方形ないし方形をなしていると思われる。壁高は北東壁中央部で27cm、東隅で33cm、北隅で22cmである。

住居跡は暗褐色粘土質シルト層を掘り込んでつくられている。床面は平坦で、貼り床は施されていない。柱穴、周溝、カマドは検出されていない。北西壁側の床面に径14cm前後の礫が3個検出されている。

出土遺物（第88図、写真図版60）

土師器 坏形土器（415）1点、甕形土器（416）1点が出土している。416はロクロ不使用のもので、短い「く」の字状に外反し、外面をヘラケズリで調整されている。

Ⅶ E-7 住居跡

遺構（第22図、写真図版15）

本遺構は調査区南東部のⅦ区西寄りにあり、南東1mにⅦE-6住居跡、北東14mにⅦE-1住居跡がある。住居跡の大半は南西側の調査区域外にある。検出面は黒褐色粘土質シルト層上面である。埋土はやや明るい黒褐色粘土質シルト層で識別がむずかしく、上面で把握したプランと床面近くで暗褐色粘土質シルト層を掘り込んでつくられた真のプランとは北側でやや異なり、掘り過ぎがある。他の遺構との重複はない。焼失住居跡である。

埋土は大きく2つに分けられる。上部層は暗褐色シルトが小ブロックで混じる黒褐色粘土質シルト層である。下部層は炭化物、焼土粒が混じる黒色~黒褐色粘土質シルト層である。南壁際に暗褐色シルトがブロックで多く混じる。

北東壁のみが完全に検出されており、長さは2.8mである。壁溝は北東壁中央部で28cm、北隅で29cm、東隅で25cmである。一部検出されている北西壁の長さは1.4m、南東壁の長さは1.2mである。住居跡は一辺が2.8m前後の方形をなしていると思われる。

床面は平坦でしまっている。柱穴、周溝は検出されていない。カマド前に礫、土器、焼土、炭化物が多く検出されている。

カマドは北東壁中央部の北寄りに設けられている。北東壁側を中心に炭化材、焼土の広がりが見られた。そのため、カマドの袖部と埋土との識別がむずかしく、袖上部に掘り過ぎがみられる。燃焼部は火熱によりブロック状に焼土が形成されているのみである。カマドは一般的にガリガリに硬く赤変する程まで長時間使用されていなかったと思われる。

煙道は割り貫き式で、長さ1.2m、径22~30cmの規模のものである。煙出口には底部を取り除いた土師器変形土器が使用されている。土器を据え付けた煙出口施設は径51cm、深さ46cmである。土器の口径は22cm、体部径は26cmである。

主軸方位はN-60°-Eである。

出土遺物（第89図、写真図版60）

土師器 変形土器（417・418）2点と坏形土器（419）1点である。417はロクロ使用のもので外面をヘラケズリで再調整されている。418はロクロ不使用のもので外面をヘラケズリで調整されている。419はロクロ使用で内面をヘラミガキで調整されている。内面の黒色は焼失している。

須恵器 壺形土器（421）1点で、ロクロ調整後、外面をヘラケズリで再調整されている。

縄文土器 422・423の2点で、422は晩期のものである。

石器 石鏃（424）1点で、無柄のものである。

ⅨE-1 住居跡

遺構（第23図、写真図版16・17）

本遺構は調査区南東部ⅨE区の南側にあり、西2mにⅨE-4住居跡、南3mにⅨE-9住居跡、南西3mにⅨE-2住居跡、南東5mにⅨE-4住居跡があり、多くの住居跡と隣接している。検出面は暗褐色粘土質シルト層である。他の遺構との重複はない。

埋土は大きく3つに分けられる。上部層は中央部を中心に堆積しているもので、小礫が幾分混じる黒色粘土質シルト層である。中部層は一部床面まで覆うもので、径5~10cmの円礫が混じる黒褐色粘土質シルト層である。下部層は褐色粘土質シルトがブロックで全体に混じり、焼土を幾分含む黒褐色粘土質シルト層で、最大径20~30cm、平均5~10cmの円礫も少量混じる。

住居跡は北東-南西が径6.2m、北西-南東が径6mではほぼ隅丸方形を呈する。壁高は北東壁中央部で20cm、北西壁中央部で21cm、南西壁中央部で29cm、南東壁中央部で31cmである。

床面は小礫混じりの暗褐色シルト層を掘り込み、北西壁、南西壁側の一部を除いて貼り床が施されている。主柱穴は各壁隅から中央部に1.4m程寄る位置にP₁（径58cm、深さ5cm）、P₂（径46cm、深さ5cm）、P₃（径50cm、深さ3cm）、P₄（径32cm、深さ4cm）の4本が検出されている。深さが浅いのは柱が太いため深く掘る必要がなかったためと推定される。主柱穴の間に支柱穴が、柱穴P₁-P₂の間にP₅（径40cm、深さ6cm）、柱穴P₂-P₃の間にP₆（径29cm、深さ3cm）、柱穴P₃-P₄の間に（径28cm、深さ6cm）の3個が検出されている。柱穴配置は北東-南西方向が約40cm長い長方形を呈している。また、南西壁にかかる形で柱穴状ピットP₇（径22cm、深さ40cm）、P₈（径24cm、深さ31cm）の2本が検出されている。

周溝は南東壁から南西壁の一部に幅12~16cm、深さ5~8cmの規模のものが巡る。カマド右袖の脇に貯蔵穴と思われる長径64cm、深さ20cmの楕円状のピットP₁₀と北西隅のP₁₁(長径50cm、深さ11cm)が検出されている。埋土にはカマドの構成礫と推定されるものや土器が混じる。南東壁中央部近くに長径68cmと長径80cmの不整形をなす現地性焼土が検出されている。炉跡だと思われる。

カマドは北東壁中央部の南寄りに設けられている。カマドは袖の最下部のみ残存する。亜角礫を芯にし暗褐色混じりの黒褐色シルトでまいてつくられていたと思われる。燃焼部は長径64cmの浅皿状を呈し、火熱により厚さ6cmまで赤色化している。煙道は列り貫き式のもので燃焼部から緩く立ち上がり、壁際で下降して煙出口にいたる。煙道は長さ1.7m、幅27~30cmである。煙出口は径32cm、深さ60cmである。

住居跡の出入口は、柱穴配置、周溝、カマド、炉の位置から、南西壁側であると推定される。主軸方位はN-48.5°-Eである。

出土遺物 (第90~95図、写真図版61~65)

土師器 坏形土器 (125~140) の16点で、すべてロクロ使用のものである。底部に回転糸切り痕をもつものは9点であり、底部を回転ヘラケズリで再調整されているもの2点 (432・434)、底部を手持ちヘラケズリで再調整されているもの2点 (436・441) である。体部は底部から内湾しながら立ち上がるものが多く、431のみが外傾している。高台付坏形土器 (443) は内外面をヘラミガキ後、黒色処理されている。高台は「ハ」の字形に開き、口唇部が短く外反している。甕形土器 (447~446) は19点で、ロクロ使用のもの11点 (447~452・461~465)、ロクロ不使用のもの8点である。453・454は口縁部が短く外反するもので、ヨコナデ後、ヘラナデまたはヘラケズリで調整されている。458は内面をヘラミガキで調整されている。459は底部に木葉圧痕をもち、461~466は底部に回転糸切り痕をもつ。

あかやき土器 坏形土器 (441・442・445・446) 4点でロクロで調整され、441のみロクロから切り離し後、底部外面を手持ちヘラケズリで再調整されている。

須恵器 坏形土器 (444) は底部に回転糸切り痕をもち、体部が内湾し口唇部が短く外反する。壺形土器 (466・469・471) は3点である。466は細口壺の頸部である。甕形土器 (467・468・470・472~482) は12点で、内外面に平行叩き目紋をもつ。

土製品 土錘 (483) 1点と輪の羽口 (484) 1点である。

鉄製品 刀子 (485) 1点で、両端が欠損している。

縄文土器 486~492・495・496の9点で、後期のもの7点、晩期のもの2点 (487・488) である。487は縄文を沈線で区画し、それに沿って連続刺突文が施文されている。

弥生土器 493の1点であり、中期のものである。

石器 磨製石斧 (497) は柄部を欠損している。また石鏃 (498・499) は無柄のもの 2 点が出土している。

IX E-2 住居跡

遺構 (第21図、写真図版17)

本遺構は調査区南東側の IX E 区の南側にあり、北 2 m にはⅧ E-4 住居跡、北東 3 m には IX E-1 住居跡、南西 3 m には IX E-9 住居跡がある。住居跡の大半は調査区域外にあり、北東壁と南東・北西壁の一部が検出されているのみである。住居跡は IX E- 土坑、柱穴を切ってつくられている。南東壁の上部は攪乱を受けている。

埋土は上部層が黒色粘土質シルト層、中部層が褐色シルトや黄褐色シルトを径 6 cm の大ブロックで混じり、埋土の大半を占める黒褐色粘土質シルト層、下部層は壁際に三角状に堆積し、炭化物、焼土粒が混じる黒褐色粘土質シルト層で構成されている。中部層は人為的な堆積の様相を呈する。

全部検出されている北東壁の長さは 3.1 m で隅が丸味を帯びていることから、住居跡は一辺 3.1 m 前後の規模をもち、隅丸方形を呈しているものと推定される。壁高は北隅で 16 cm、北東壁中央部で 18 cm、東隅で 20 cm である。

床は暗褐色粘土質シルト層を摺り込んでつくられ、全体に褐色粘土質シルト混じりの黒褐色土で貼り床が施されている。床面は幾分凹凸がある。周溝、柱穴、貯蔵穴、カマドは検出されていない。

出土遺物 (第96・97図、写真図版17)

土師器 坏形土器 (500・502) 2 点である。500 はロクロ使用のもので、体部外面の下端を手持ちヘラケズリで再調整されている。底部に回転糸切り痕をもつ。壺形土器 (501・503～505) は 4 点であり、504 のみロクロ不使用である。505 は底部に回転糸切り痕をもつ。

須恵器 壺形土器 (506) の 1 点は外面のみに叩き目痕をもつ。壺形土器 (508) の 1 点は口縁部、底部が欠損し、ロクロ調整後ヘラケズリで調整されている。

縄文土器 晩期のもの (511) と後期のもの (512) が各 1 点づつ出土している。

土製品 土偶 (510) は頭部、脚部が欠損している。縄文後期のものである。胸部中央に縦の刺突文が施されている。

石器 磨石 (509・510) が 2 点出土している。

ⅩE-3住居跡

遺構 (第25図、写真図版18)

本遺構は調査区南東部のⅩE区にあり、南2mにはⅩE-4住居跡、西4mにはⅩE-1住居跡がある。検出面は暗褐色粘土質シルト層である。住居跡中央部は径2mのⅩE-51井戸跡に切られている。本住居跡は焼失住居跡である。

埋土は3つに分けられる。上部層は褐色シルトを小ブロックで含む黒褐色粘土質シルト層である。中部層は炭化材や焼土粒、焼土塊を多く含む極暗褐色粘土質シルト層で焼失時に堆積したものである。下部層は壁際に三角状に堆積しているもので、褐色シルトがブロックで混じる黒褐色粘土質シルト層である。

住居跡は北西壁が短く、南西壁が長い台形を呈している。隅は丸味を帯びている。

北西-南東方向の長軸の長さが3.9m、短軸の長さが3.4mである。壁高は北東壁中央部で31cm、北西壁中央部で39cm、南西壁中央部で27cm、南東壁中央部で27cmである。

床は暗褐色シルト層を掘り込んでつくられている。床面は平坦である。柱穴、周溝は検出されていない。カマド右脇に長径70cmの浅皿状のピットがある。カマドは北東壁中央部南寄りに設けられている。袖は径20~30cmの円礫を内側に傾け、並べて芯とし、褐色混じりの黒褐色粘土質シルトでまいてつくられている。燃焼部は長径54cmの浅皿状を呈し、火熱により5cm赤変している。煙道は燃焼部から上昇し、壁際から下降しながら煙出口にいたる。煙道は半地下式の溝状のもので、長さ1.3m、幅20~22cmである。煙出口は径30cm、深さ42cmである。北西壁中央部に幅30cmの溝状のピットが検出されている。これは煙道の一部と思われる。従って、カマドは最初北西壁に設けられていた可能性が大きい。

住居跡の主軸方位はN-77°-Eである。ⅩE-51井戸跡よりは古い。

出土遺物 (第98~100図、写真図版67・68)

土師器 坏形土器 (513~524) の12点で、底部に回転糸切り痕をもつもの5点、回転ヘラ切り痕をもつもの2点 (522・523) である。524は内外面をヘラミガキ後、黒色処理されている。変形土器 (525~527) は4点で、528のみロクロ不使用で、その他3点はロクロ使用である。527は底部に回転糸切り痕をもつ。

須恵器 壺形土器 (529~531) の3点で、529は頸部で凸帯をもたないものである。531は体部下半で底部に高台がつく。

鉄製品 筒状鉄製品 (532) の1点で、用途は不明である。

縄文土器 533~539で後期のものである。539は注口の部分である。

石器 石皿 (540)、台石 (541)、石鏃 (542) が各1点出土している。540は扁平な隅丸方形状を呈する礫で、使用面が浅く湾曲して窪む。541は扁平で細長く、縁辺部に敲打痕、平坦面

に擦痕をもつ。542は有柄のもので柄部の一部が欠損している。

井戸跡

IX E-51井戸跡 (第25図、写真図版18)

本遺構は調査区南東部IX E区の中央部にあり、IX E-3住居跡を切ってつくられている。住居跡の埋土を除去している際に床面が切られているので遺構と判明したものである。埋土は上部層が小礫の幾分混じる黒褐色粘土質シルト層、下部層が円礫の多く混じる暗褐色砂礫層である。本遺構は径2mの円形を呈し、深さは2.9mである。出土遺物はない。礫層下位の砂層まで掘り込んでつくられている。

IX E-4住居跡

遺構 (第26図、写真図版19)

本遺構は調査区南東部IX E区の南側にあり、北東2mにはIX E-3住居跡、西5mにはIX E-1住居跡がある。検出面は暗褐色粘土質シルト層である。IX E-101溝跡を精査している際に炭化材の広がりが発見され、住居跡と判明したものである。南東側は削平され、更に北東-南西方向に走るIX E-101溝跡に切られている。現存するのは北西壁と北東・南西壁の一部だけである。焼失住居跡である。

埋土は褐色シルトがブロックで混じり、焼土粒、炭化材を含む黒褐色粘土質シルト層である。完全に検出されている北東壁は長さ4.2mである。住居跡は一辺4.2m前後で方形を呈していたと思われる。壁高は6~9cmである。床面は凹凸がある。貼り床は施されていない。周溝、柱穴、貯蔵穴は検出されていない。

西隅の壁際に長径70cmの不整形の現地性焼土が検出されている。火熱により厚さ8cmまで赤変している。これがカマドの燃焼部だとすればあまり壁に寄りすぎることから、鍛冶などの作業用の炉跡であると考えた方がいいと思われる。

本住居跡はIX E-101溝跡より古い。

出土遺物 (第100図、写真図版68)

土製品 籾の羽口 (543) の1点で先端部の一部である。付着物はない。

IX E-9住居跡

遺構 (第27図、写真図版20)

本遺構は調査区南東部IX E区の南側にあり、西2mにはIX E-2住居跡がある。住居跡の南側は調査区域外にあり、南西壁は全く検出されていない。検出面は暗褐色粘土質シルト層であ

る。

埋土は上部層が褐色土ブロックの混じる黒褐色粘土質土層、中部層が褐色土のブロック、炭化物を含む黒褐色粘土質土層、下部層が中部層より褐色土の多く混じる黒褐色土層で構成されている。

完全に検出されている北東壁の長さは4.2m、一部検出されている北西壁の長さは1.7m、南東壁の長さは3.8mである。住居跡は一辺4.2m前後の規模をもち、方形を呈していると思われる。壁高は北東壁中央部で25cm、南東壁で17cm、北西壁で25cmである。

床面は幾分凹凸がある。床は褐色粘土質シルト層を掘り込んでつくられている。南東壁中央部でカマド左脇に貯蔵穴と思われる長径71cm、深さ19cmの摺鉢状のピットP₁が検出されている。周溝、柱穴は検出されていない。

カマドは南東壁中央部の南寄りに設けられている。カマドは浅皿状をなす燃焼部使用面のみ残存し、火熱により赤変している。その規模は長径70cm、厚さ6cmである。

住居跡の主軸方位はE-23°-Sである。

出土遺物 (第101~104図、写真図版69~72)

土師器 坏形土器 (544~547・549・550・553・554) 8点であり、底部に回転糸切り痕をもつもの3点で再調整されているものはない。内面を黒色処理する前にヘラミガキするものほかに、ヘラナデするもの (546・549) が2点である。高台付坏形土器 (552) の1点は高台部欠損している。付け高台である。甕形土器 (558~567) は10点あり、ロクロ使用のもの6点、ロクロ不使用のもの4点 (262・263・265・267) である。体部外面はヘラナデ (563) とヘラケズリ (565・567) で調整されている。内面調整はヘラナデである。

あかやき土器 坏形土器 (551・555~557) 4点で、ロクロからの切り離しは回転糸切りである。再調整はない。

須恵器 甕形土器 (569~573・575~577・586) の9点である。568は細頸壺の頸部で凸帯をもたない。572・575はロクロ調整後ヘラケズリで調整されている。577は回転糸切り痕をもつ。甕形土器 (574・578~585) は9点で、内外面に叩き目痕をもつ。584のみは内面にかき目痕をもつ。

縄文土器 587~599である。594の後期のもの以外は晩期のものである。

石器 石鏃 (600・601) の2点である。剥片石器 (602) は一縁に使用痕をもつものである。

円盤状土製品 603の1点である。底部片を再利用したもので、縁辺は摩滅している。

Ⅸ E-10住居跡

遺構 (第28図)

本遺構は調査区南東部Ⅸ E区の東側にあり、大半が削平されカマド燃焼部使用面と床面を残すのみである。他の遺構との切り合いはない。検出面は暗褐色粘土質シルト層上面である。

住居跡は東西径4.8m、南北径3.9mの規模で長方形を呈する。床面は凹凸がある。貼り床が施されている。柱穴、周溝は検出されていない。カマドは北壁中央部西寄りに設けられている。燃焼部の使用面は中央がやや窪み、長さ60cm、厚さ6cmの規模で火熱による赤変がみられる。住居跡の主軸方位は $N-14^{\circ}-E$ である。

Ⅸ E-11住居跡

遺構 (第29図、写真図版21)

本遺構は調査区南東部Ⅸ E区の中央部にあり、すぐ北東にⅨ E-10住居跡がある。検出面は暗褐色粘土質シルト層上面である。埋土は焼土塊、炭化材が多く混じり、暗褐色シルトがブロックで入る黒褐色粘土質シルト層である。焼失住居跡である。

本遺構は長軸径3.7m、短軸径3.2mで不整四角形を呈している。壁高は北壁中央部で15cm、東壁中央部で15cm、西壁中央部で6cm、南壁中央部で16cmである。床面は凹凸があり、南側に傾斜している。柱穴、周溝、貯蔵穴、カマドは検出されていない。

出土遺物 (第105図、写真図版72・73)

土師器 甕形土器 (604・606) 2点は外面をヘラケズリ調整されている。鉢形土器 (605) は底部片である。

縄文土器 607~619の13点で、615~617は晩期、その他は後期のものである。619は注口土器の注口部であり、注口は欠損している。

石製品 620は片面の中央に凹部があり、使用によって凹部は丸く窪んでいる。

X E-2住居跡

遺構 (第30図、写真図版21・22)

本遺構は調査区南東端部X E区の西側にあり、東2mにはX E-3住居跡がある。検出面は耕作土を除いた黒褐色砂質シルト層である。住居跡の南東部は調査区域外にある。北上市教育委員会が区域外の部分を調査したので、ここでは合わせて報告する。中央部東寄りにはX E-60土坑を切り、北西-南東方向に走るX E-102溝跡に切られている。

埋土は小礫が混じり、焼土粒、炭化物を少量含む黒褐色砂質シルト層である。住居跡は短軸である北東-南西の長さが4m、長軸の長さが4.8mの規模をもち、長方形を呈している。壁

高は北東壁中央部で19cm、北西壁中央部で18cm、南西壁で16cm、南東壁で22cmである。

住居跡は糠混じりの暗褐色土層を掘り込んでつくられている。床面は凹凸があり、カマド前から中央部にかけて暗褐色シルト混じりの黒褐色土で貼り床が施されている。柱穴、周溝、貯蔵穴は検出されていない。

カマドは南東壁中央部の南寄りに旧カマドが設けられた後、北東壁中央部南寄りに新カマドがつくり替えられている。旧カマドは燃焼部最下部と煙道のみが残存する。燃焼部使用面は浅皿状を呈し、長径76cm、厚さ8cmの規模で火熱により赤変している。

煙道は溝状のもので緩く下降しながら煙出口にいたる。煙道は長さ1.7m幅16~22cmである。煙出口は径41cm、深さ22cmである。新カマドの保存状態も悪く、僅かに袖の下部が残存するにすぎない。袖は褐色シルト混じりの黒褐色砂質シルトでつくられている。両袖の幅は1.3mである。燃焼部は火熱により長径50cm、厚さ6cmの規模で赤変している。煙道は溝状のもので長さ1.3m、幅20~28cmである。煙道は壁際で立ち上がった後、僅かながら上昇して煙出口にいたる。煙出口は径38cm、深さ30cmである。煙出口の上部には円礫や土器が検出されており、煙出口の施設に使用されていたものと思われる。

本住居跡はXE-60土坑より新しくXE-102溝跡より古い。旧主軸方位はE-35°-S、新主軸方位はN-29°-Eである。

出土遺物 (第105~109図、写真図版73~75)

土師器 坏形土器 (621~627) 7点であり、ロクロ使用のもの5点、ロクロ不使用のもの2点 (624・625) である。底部が残存するロクロ調整のもので、体部下端から底部まで手持ちヘラケズリで再調整されているもの2点 (626・627)、回転糸切り無調整のもの1点 (623) である。324は外面をヘラケズリ、内面をヘラナデで調整している。625は内外面に朱塗りが施されている。638~654は壺形土器である。639・646・647の3点がロクロ使用のもので、そのほかはロクロ不使用である。638は外面をヘラケズリ後ヘラミガキ、内面をヘラナデ後、一部ヘラミガキで調整されている小型のものである。ロクロ不使用の口縁部は強く外反しているものが多く、短く外反しているものは2点 (640・645) のみである。648~655の8点は底部で、652以外すべて底部外面に木葉状痕をもつ。外面はヘラケズリで調整されている。

須恵器 坏形土器 (628~635・637) 9点である。底部のある7点はすべて回転糸切り痕をもち、再調整はみられない。壺形土器 (656・658) の2点は外面はロクロ調整後、ヘラケズリで再調整されている。壺形土器 (657) の1点は内外面に叩き目痕をもつ体部片である。

円盤状土製品 659は地文に単筋RLが施文されている体部片を再利用したものである。

縄文土器 660~666の7点で、後、晩期のものである。

鉄製品 刀子 (667・668) 2点が出土している。667は柄部に木質が残存している。668は錆

化が著しく、両端が欠損している。

石器 磨石(669)は両面に凹部をもつものであり、一部欠損しているが、扁平な楕円状をなしていたと思われる。

ⅧE-5 住居跡

遺構(第31図、写真図版23)

本遺構は調査区南東部ⅧE区の中央にあり、暗褐色粘土質シルト層上面で検出された。東側は削平され床面のみである。埋土は焼土粒、炭化物を含む黒褐色粘土質シルト層で小礫が幾分混じる。

住居跡は長軸(南北)径4.6m、短軸(東西)径4.2mの規模ではほぼ円形を呈している。壁高は北壁で3cm、西壁で6cm、南壁で6cmである。

炉はほぼ中央部にあり地床炉である。火熱により長径48cm、短径46cm、厚さ6cmの規模で不整形円形に赤変している。炉辺に径12~16cmの円礫が3個床面直上で検出されている。

床面は凹凸があり黒褐色混じりの暗褐色粘土質土で貼り床が施されている。炉周辺はガリガリにかたくなってしまっている。主柱穴と思われる規模のものは検出されておらず、深さ3~10cmの浅い柱穴状のピットが13個検出されている。また径4~6cmの小穴が西壁の周囲や南壁の一部に等間隔で並んで検出されている。壁の土留のためのものと思われる。南壁の40cm内側に幅6cm、深さ3cm、長さ80cmの規模の周溝が1条検出されている。

北東壁から40cm内側に寄った位置に幅16cm、長さ20cmの扁平な礫が立石されている。炉のすぐ北東側にはやや浮いた形で長径60cmの不整形円形に現地性焼土が広がっている。炉とこの焼土の間には口径32cmの深鉢土器が倒立した形で出土している。体部下半は欠損している。

出土遺物(第110図、写真図版75・76)

縄文土器 670~674の5点で、670は口縁部片で補修孔をもつ。671は横位の沈線に沿って連続的突文が施文されている。672は底部片、673・674は炉直上から出土した粗製の深鉢形土器の口縁部と底部で同一個体のものである。縄文後期のものと思われる。

ⅨE-6 住居跡

遺構(第32図、写真図版24)

本遺構は調査区南東部ⅨE区の東側にあり、北壁をⅨE-66土坑に切られている。検出面は暗褐色粘土質シルト層上面である。埋土は暗褐色シルトがブロックで混じる黒褐色粘土質シルト層である。礫が少量混じる。

住居跡は南壁が削平を受け消失しているが、残存する壁の輪郭線から直径3.6m前後の規模

をもち、ほぼ円形を呈していたものと思われる。炉は地床炉で住居跡中央部にあったと思われる。炉は長径70cm、短径40cmの不整円形をなし、火熱により厚さ6cmまで赤変している。床面はやや南側に緩く傾斜し、幾分凹凸がある。貼り床は施されていない。柱穴、周溝は検出されていない。

出土遺物 (第110図、写真図版76)

縄文土器 675は床面から出土した。地文に単節のRLが施文され沈線で区画した口縁部片で縄文後期のものである。676は小型の底部で単節RLの縄文が施文されている。晩期のものと思われる。

ⅨE-7住居跡

遺構 (第33図、写真図版25)

本遺構は調査区南東部ⅨE区の北東側に位置している。炉の一部が検出され、住居跡と判明したものである。検出面は暗褐色粘土質シルト層の面である。埋土は僅かながら北壁付近に残存し、暗褐色シルト混じりの黒褐色粘土質シルト層である。

住居跡は径4.8mの円形を呈している。壁高は4～6cmで、南東側の壁が削平されている。炉は地床炉である。炉は南北径70cm、東西径90cmで中央部でやや窪み浅皿状をなし、火熱により厚さ6cmまで赤変している。炉の中央はガリガリに硬い。

床面は平坦である。貼り床は施されていない。柱穴と思われる規模のものは北東壁近くにあるP₁(径20cm、深さ20cm)1本のみで、そのほかは2～7cmと浅く主柱穴と断定できるものはない。しかし、これらの柱穴状ピットは南西壁で切れるが、ほぼ壁に沿って巡っている。

出土遺物 (第110図、写真図版76)

縄文土器 677は口縁部片で単節LRの帯縄文をもつもので後期に位置づけられる。

石器 石鏃(678)1点である。無柄のもので、焼土下位から出土している。

ⅨE-8住居跡状遺構

遺構 (第34図)

本遺構はⅨE区北東部に位置している。検出面は暗褐色粘土質シルト層である。平面形は長軸4.2mの不整楕円形である。埋土は暗褐色粘土質シルト層で大半がしめられ、最下部に黒褐色シルト層が堆積している。床面は平坦である。

炉は検出されていない。柱穴もない。

出土遺物 (第110図、写真図版76)

土師器 坏形土器(679)は底部に回転糸切り痕もつ破片である。

縄文土器 680は無文の口縁部片で細沈線を巡らしている。後期のものである。

IX E-12住居跡

遺構（第35図、写真図版26）

本遺構は調査区南東部IX E区の南側に位置している。検出面は暗褐色粘土質シルト層上面である。埋土は炭化物を含む黒褐色粘土質シルト層で占められている。

住居跡は径4mの円形を呈している。壁高は4～7cmである。炉は地床炉で中央に設けられている。炉の大きさは長径76cm、短径64cmの不整円形を呈し、火熱により厚さ9cmまで赤変している。炉中央はガリガリに硬い。炉の西縁に接して長径60cm、短径28cmの炭化物の広がりが見られる。床面は平坦でややしまっている。貼り床は施されていない。周溝、柱穴は検出されていない。

出土遺物（第111図、写真図版76）

縄文土器 681～697は686・687・694・695の4点を除いてすべて床面から出土している。小突起をもつ口縁部片（683・685）、波状口縁部片（682）、無文の口縁部片（684）、磨消縄文を施文されているもの（686・687）、平行沈線文をもつもの（690・693・694）、連続刺突文をもつもの（695）などがある。681は小型の深鉢形土器で単筋LRの斜縄文が施文されている。681～687・691～695は後期、それ以外は晩期に位置づけられる。

X E-1住居跡

遺構（第36図、写真図版27）

本遺構は調査区南東端のX E区に位置し、南側は調査区域外にある。土層観察のため一部掘り下げた時に石囲炉が検出され、住居跡の存在がわかった。住居跡のプランを把握できたのは黒褐色シルト層上面である。埋土は炭化物、焼土粒を含み、小礫が混じる黒褐色砂質シルトで占められている。

住居跡は径4m前後の規模をもち、ほぼ円形を呈していると推定される。壁高は5～10cmである。埋土と地山の区別がむずかしく、住居跡プランは炭化物、焼土粒、砂質シルトの広がりから判断したもので明瞭ではない。炉は石囲炉で中央部に設けられている。炉の南側半分は長径18～40cmの比較的大きな礫で、北側半分は長径12～16cmのやや小さな礫で円形に並べられている。南側半分は更に外側に長径12～18cmの礫が3個並べられている。石囲炉の東側の一部は礫が抜けている。礫2～3個に相当すると思われる。

床面は平坦であるがあまり締まっていない。貼り床は施されていない。周溝、柱穴は検出されていない。

出土遺物 (第111・112図、写真図版76・77)

縄文土器 698は壺形土器の上半部、699・700は平行沈線をもつ浅鉢形土器の口縁部片である。703は平行沈線と突帯をもつ浅鉢形土器で底部が欠損している。705・706は無文の鉢形土器の底部片である。696・701は変形工字文をもつものである。

土製品 土偶 (704) の左脚部が1点出土している。

石器 石筥 (707) と磨製石斧 (708) が各1点出土している。708は刃部を欠損している。

XE-3住居跡

遺構 (第37図、写真図版28)

本遺構は調査区南東部XE区にあり、XE-2住居跡の東2mにある。XE区では2棟のみ検出されている。西側で検出されているXE区の住居跡群とは30m近く離れている。検出面は黒褐色粘土質シルト層である。地山と埋土との識別はわずかしく、壁際に炭化物が多く混じることからプランを把握できたものである。

埋土は炭化物、焼土粒が混じる黒褐色粘土質シルト層である。住居跡は北東-南西の径4m、北西-南東の径3.9mの規模で方形を呈している。壁高は北東壁で8cm、南東壁で9cm、北西壁で6cm、南西壁で11cmである。

床面は凹凸がなく南側がやや低い。貼り床は施されていない。周溝、柱穴は検出されていない。住居跡中央部よりやや西寄りに2つ並んで長径66cm (1号炉) と長径29cm (2号炉) の不整形の炉が検出されている。炉は2基とも浅皿状を呈し、表面はガリガリに硬く、火熱により1号炉は層厚6cm、2号炉は層厚4cmの規模で赤変している。

出土遺物 (第112図、写真図版77)

縄文土器 709・710・712は磨消縄文が施文されている。711は沈線文、713は網目状縄文をもつ。715は深鉢形の底部で、単筋LRの斜回転の縄文が施文されている。底部には篋の葉状痕をもつ。

石器 石鏃 (714) は無柄のものである。磨製石斧 (716) 1点は柄部が刃部と平行方向に欠損している。

2 掘立柱建物跡

VE-201掘立柱建物跡

遺構 (第38・39図、写真図版29)

本遺構は調査区南東部のVE区からXE区にまたがる位置にある。北にVE-3住居跡、南

にⅤE-4住居跡、ⅤE-1住居跡、東にⅤE-3住居跡がある。他の遺構との重複はない。検出面は暗褐色粘土質シルト層である。当初土坑群として取り扱っていたが、柱あたりが見つかり、その配置などから掘立柱建物跡と判明したものである。

建物跡は1間(北西-南東径3.2m)×2間(北東-南西径3.9m)の規模をもつ。掘り方の規模はP₁(径94×78cm、深さ124cm)、P₂(径86×70cm、深さ114cm)、P₃(径72×68cm、深さ105cm)、P₄(径82×74cm、深さ119cm)、P₅(径74×86cm、深さ103cm)、P₆(径80×78cm、深さ103cm)である。掘り方の形状は円形を呈する。柱あたりは径32~36cmであり、掘り方底面よりも深いものもある。掘り方の埋土は径5~15cmの円礫が多量に混じる暗褐色砂質土である。建物跡の長軸方位はN-63°-Eである。

出土遺物(第114・115図、写真図版78・79)

縄文土器 817は無文の口縁部片、818・819は網目状熱糸文が施文されている体部片である。後期のものである。

3 土坑・火葬墓・柱穴

ⅤE-52土坑

本遺構は調査区北西部ⅤE区の中央に位置し、その半分以上をⅤE-1住居跡(西壁側)に切られている。土坑はフラスコ形のものである。埋土は上部層が小円礫の少量混じる黒色土層、下部層は暗褐色シルトのブロックが混じる黒褐色シルト層で構成されている。検出されている部分での規模は外径94cm、深さ36cm、底径140cmである。底面は壁際がやや上がる形をなしている。出土遺物はない。

ⅤE-53土坑(第10図、写真図版4)

本遺構は調査区北西部ⅤE区の中央に位置し、大半をⅤE-1住居跡南壁側に切られている。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘土質シルト層である。検出されている部分での規模は外径90cm、深さ40cmである。底面は平坦で、壁は緩く外反しながら立ち上がる。出土遺物はない。

ⅤE-54土坑(第10図、写真図版4)

本遺構はⅤE-53土坑と接する形で暗褐色粘土質シルト層上面で検出されており、大半はⅤE-1住居跡(南壁側)に切られている。埋土は長径24~30cmの礫が2個混じり、下位に暗褐色シルトのブロックが混じる黒褐色粘土質シルト層で占められている。検出されている部分での規模は外径1.2m、深さ42cmである。底面はほぼ平坦である。壁は底面からやや外反しなが

ら立ち上がる。出土遺物はない。

VI E-51土坑

遺構 (第40図、写真図版30)

本遺構は調査区中央部VI E区の東側に位置し、暗褐色粘土質シルト層上面で検出されている。埋土は大半がやや汚れた褐色粘土質シルト層で占められ、壁際の上部和下部に黒褐色砂礫層が堆積している。本土坑は長径1.9m、短径1.6m、深さ1.1mの規模をもち、ほぼ楕円形を呈している。底面は平坦で、壁は僅かに外傾している。

出土遺物 (第114図、写真図版78)

縄文土器 801は埋土最上部の1層から斜位につぶれた形で出土した深鉢形土器である。小波状の口縁部をもち、体部の3分の1の上位に平行沈線文を施し、それより上部に沈線と磨消縄文で入組文を構成している。下部には単節RLの縦位、斜位回転で施文されている。後期に位置づけられる。

VI E-51土坑

遺構 (第40図、写真図版30)

本土坑は調査区中央部VI E区の北東側にあり、暗褐色シルト層上面で検出されている。埋土は上部層が炭化物の混じる黒褐色砂質シルト層、下部層が径25~35cmの円礫が混じる黒褐色砂礫層である。土坑は長径1.3m、短径0.9m、深さ60cmの規模をもち、円形を呈している。底面は平坦である。

出土遺物 (第114図、写真図版78)

土製品 802は罎の羽口の端部である。鉄滓は付着していない。

VI E-52土坑

遺構 (第40図、写真図版30)

本遺構はVI E区北東部に位置し、西5mにはVI E-2住居跡がある。埋土は黒褐色シルト層で占められ、炭化物が混じる。上部に亜角礫を含む。形状は、やや不整な円形で、規模は85cm×80cm、深さ32cmである。底面はほぼ平坦である。

出土遺物 (第114図、写真図版78)

土製品 803は罎の羽口で、端部の一部である。鉄滓は付着していない。

Ⅷ E-51 火葬墓

遺構 (第41図)

本遺構は調査区南東部Ⅷ E 区の北側に位置し、黒褐色粘土質シルト層上面で検出された。火を受けた骨が分布し石列がみられたことから遺構と判明したものである。Ⅷ E-3 住居跡の北西壁を切ってつくられている。

遺構は細長い長方形の掘り込み部とその中央に組まれている石組部に分かれる。掘り込み部は長軸である南北径が 2 m、短軸径が 56~70 cm である。西壁は曲線的であるが、隅丸の長方形を呈する。掘り込み部断面は緩い「U」字状をなしている。底面の深さは北壁で 9 cm、西壁で 5 cm、南壁で 4 cm、東壁で 2 cm、中央部で 10~12 cm である。石組部は掘り込み部中央よりやや北寄りに位置し、長径 14~22 cm の垂円礫を 4~5 個使用して東西方向に 2 列に並べてつくられている。石組部は南北径 40 cm、東西径 60 cm である。石組部内部は火熱により焼土化している。焼土の広がり石組部の外側にも及んでおり、その規模は 58×104 cm である。焼土の厚さは 6 cm である。石組部より北側の掘り込み部には炭化材、焼土のほか人骨片が南側より多く分布している。石組部の上に死体をのせ茶毘に付したと推定される。

出土遺物 (第114図、写真図版78)

石製品 円盤状石製品 (804) の 1 点が出土している。

Ⅷ E-52 土坑

遺構 (第42図)

本遺構は調査区南東部の北側にあり、Ⅷ E-2 住居跡と Ⅷ E-3 住居跡の中間に位置している。検出面は暗褐色粘土質シルト層上面である。埋土は焼土塊、焼土粒、炭化物が多く混じる暗赤褐色粘土質シルト層である。土坑は径 62 cm、深さ 8 cm で浅皿状をなす。他の遺構との重複はない。

出土遺物 (第114図、写真図版78)

土師器 坏形土器 (805) は回転糸切り痕をもつ底部片で再調整はみられない。内面はヘラミガキ調整されている。内面の黒色は二次的火熱を受け消失している。

Ⅷ E-61 土坑

遺構 (第42図)

本遺構は調査区南東部Ⅷ E 区の南東側にあり、Ⅷ E-4 住居跡と IX E-1 住居跡の間にある。検出面は暗褐色粘土質シルト層上面である。埋土は上部層が暗褐色シルトの混じる黒褐色粘土質シルト層、下部層が礫の多く混じる黒褐色砂質シルト層である。本土坑はフラスコ形の土坑

である。その規模は外径50×70cm、底径70×94cm、深さ130cmである。

出土遺物（第115図、写真図版79）

縄文土器 820～823は口縁部の無文、体部の縄文に数条の平行沈線による入組文、長方形文が施文されている。820は山形口縁で、「く」の字状に外反している。823は入組文をもつ口縁部片で内湾している。後期に位置づけられる。

ⅧE-62土坑

遺構（第42図）

本遺構は調査区南東部ⅧE区とⅨE区の境にあり、ⅧE区掘立柱建物跡の中央に位置している。検出面は暗褐色粘土質シルト層上面である。埋土は褐色シルトがブロックで混じる黒褐色粘土質シルト層である。本土坑は径110cm、深さ39cmの円形土坑である。底面は中央部が深く緩い「U」字状を呈する。壁は底面から緩く傾斜しながら立ち上がる。

出土遺物（第114図、写真図版78）

縄文土器 806～814の9点で、平行沈線、磨消縄文が施文されている。813は粗製土器の体部片である。814は無文の高台部分である。すべて後期のものである。

土師器 815は底部片である。外面をヘラケズリで調整されている。

石製品 816は隅丸方形形状の石製品である。用途については不明である。

ⅨE-62土坑

遺構（第42図）

本遺構は調査区南東部ⅨE区の北側に位置し、すぐ北東にⅨE-64土坑がある。検出面は暗褐色粘土質土層である。埋土は上部層が炭化物、褐色シルトのブロックが少量混じる黒色粘土質シルト層、下部層が褐色シルトの小ブロックが僅かながら混じる黒褐色粘土質シルト層で構成されている。本土坑は長径98cm、深さ27cmの円形を呈し、底面が上げ底をなす。壁は真直ぐに立ち上がる。底面は凹凸がある。

出土遺物（第116図、写真図版79）

縄文土器 826は小型の鉢形土器の底部である。体部は無文である。後期に位置づけられると思われる。

ⅨE区柱穴列（ⅨE-54・55・56・67柱穴）

遺構（第43図、写真図版31）

本遺構は調査区南東部ⅨE区の北東に鍵状に並ぶ掘り方が4基検出されている。掘り方は円

形をなし、その規模は東側から掘り方P₁（径124cm、深さ97cm、柱あたりの径40cm、深さ123cm）、P₂（径96cm、深さ97cm、柱あたりの径44cm、深さ138cm）、P₃（径98cm、深さ93cm、柱あたりの径38cm、深さ112cm）、P₄（径101cm、深さ110cm、柱あたりの径38cm、深さ144cm）である。柱穴間の芯々距離はP₁-P₂が1.56m、P₂-P₃が1.5m、P₃-P₄が3.5mである。掘り方P₁はIX E-101溝跡に切られている。掘り方の埴土は大・小の礫が多く混じる暗褐色シルト層である。柱あたりの部分は褐色シルトが小ブロックで混じる黒褐色粘土質土で占められている。柱あたりは西壁に接する形で検出されている。P₁-P₂-P₃の3基を結ぶ方位はN-66°-Eであり、Ⅷ E掘立柱建物跡の長軸方位N-63°-Eとほぼ一致している。

出土遺物（第115図、写真図版79）

縄文土器 824は単節の縄文、無文に平行沈線を施文している体部片である。後期に位置づけられる。825は口縁部が短く緩く外反している深鉢形土器で底部が欠損している。口縁部は無文、体部は単節LRの斜縄文が施文さて、頸部には複節LRLの圧痕文が一条施文されている。後期に位置づけられる。

IX E-68柱穴（第43図）

調査区南東部IX E区柱穴列のIX E-67柱穴に接する形で検出されている。北西側を北東-南西方向に走るIX E-102溝跡に切られている。掘り方の規模は径102cm、深さ61cmである。柱あたりは径40cm、深さ76cmで東壁に接している。柱穴列の掘り方より規模は小さい。出土遺物はない。

IX E-63土坑

遺構（第44図）

本遺構は調査区IX E区の北西にある。南西1.4mにはIX E-62土坑がある。他の遺構との切り合いはない。検出面は暗褐色粘土質シルト層上面である。埴土は暗褐色シルトがブロックで混じる黒褐色粘土質シルト層である。本土坑は長径54cm、深さ16cmの規模をもつ円形土坑である。底面は凹凸がある。壁はほぼ真直ぐに立ち上がる。

出土遺物（第116図、写真図版80）

縄文土器 836は大型突起をもつ口縁部片で山形状をなし、沈線で曲線文を施文し、沈線に沿って連続刺突文が施文されている。837・841は無文、838・839は2条の連続刺突文で曲線文を施文している体部片である。840は磨消縄文、沈線文が施されている。

IX E-64土坑

遺構 (第44図)

本遺構は調査区南東部IX E区の北西にあり、IX E-61土坑と隣接している。検出面は暗褐色粘土質シルト層である。埋土は褐色シルトを少量、炭化物、焼土粒を混じる黒色粘土質シルト層である。本土坑は外径54cm、底径70cm、深さ30cmのフラスコ形土坑である。底面は平坦で副穴はもたない。

出土遺物 (第116図、写真図版79)

縄文土器 827は熱糸文、828・829は無節多条縄文が施文されている土器片である。828は口縁部に無文帯をもつ。

IX E-65土坑

遺構 (第44図)

本遺構は調査区南東IX E区の東側に位置している。検出面は暗褐色粘土質シルト層上面である。埋土は褐色シルトが斑状、塊状に混じる黒褐色粘土質シルト層で占められている。本土坑は長径98cm、短径78cm、深さ22~26cmの規模をもち、隅丸長方形をなしている。底面は緩い「U」字状を呈する。

出土遺物 (第116図、写真図版80)

縄文土器 830は大型突起をもつ口縁部片で刺突文、単節縄文が施文されている。831は無文帯をもつ口縁部片で頸部に単節の圧痕文が施され、地文は単節LRの斜縄文である。後期に位置づけられる。

IX E-66土坑

遺構 (第44図)

本遺構は調査区南東部IX E区の東側にあり、IX E-65土坑と隣接している。IX E-6住居跡の北壁を切ってつくられている。検出面は暗褐色粘土質シルト層上面である。埋土は下部ほど砂礫が多く混じり、褐色シルトを下部に含む黒褐色粘土質シルト層である。本土坑は長径1.64m、短径1.14m、深さ33cmの規模をもち、やや不整な長方形をなしている。底面は平坦である。

出土遺物 (第116図、写真図版80)

縄文土器 832は小波状口縁で平行沈線によって平行文、幾何学文が施文され、また刺突文も施されているもので体部下半が欠損している。834・835は平行沈線、磨消縄文が施されている体部である。後期に位置づけられる。

X E-51土坑

遺構 (第45図)

本遺構は調査区南東端部 X E 区の南側にあり南70cmには X E-52土坑がある。検出面は暗褐色シルト層である。埋土は径2~10cmを中心とした円礫の多く混じる黒褐色砂礫層である。礫の最大のもは長径27cmである。本土坑は径1.3~1.4mで、ほぼ円形を呈している。底部はやや丸底である。深さは中央部が78cm、壁際が72cmである。

出土遺物 (第116図、写真図版80)

縄文土器 842は底部片で網代痕をもつものである。

X E-52土坑 (第45図)

本遺構は調査区南東端部 X E 区の南側にあり、X E-51土坑が北に隣接している。検出面は暗褐色粘土質シルト層上面で、礫が密集して分布していることから遺構と判明した。埋土は径2~10cmを中心とした円礫が全体に多く混じる黒褐色砂礫層で占められ、流水による自然堆積の様相を呈する。本土坑は長径1.7m、短径1.1m、深さ71cmの規模をもち、楕円形状を呈する。断面は摺鉢状をなす。

出土遺物 (第116図、写真図版80)

縄文土器 843・844は平行沈線文、磨消縄文が施文されている体部片、845は地文に単節の斜縄文が施文されている体部片である。後期に位置づけられる。

X E-54土坑 (第45図)

本遺構は調査区南東端部 X E 区の中央にあり、X E-51・52土坑の北西2mに位置している。X E-59土坑を切ってつくられている。検出面は暗褐色粘土質シルト層上面である。埋土は X E-51・52土坑と同じ円礫が多く混じる黒褐色砂礫層である。本土坑は径1.6m、深さ1.1mの規模をもち、円形を呈している。底面は中央部が深く壁際が浅い上げ底である。出土遺物はない。

X E-55土坑

遺構 (第46図)

本遺構は調査区南東部 X E 区の中央に位置する。検出面は暗褐色粘土質シルト層である。埋土は全体に径5~15cmの礫が多く混じる黒褐色砂礫層である。本土坑は径1.5m、深さ1.1mの規模をもつ円形土坑である。北西壁側に幅0.8~1.3m、長さ0.9m、深さ21~56cmのスロープ状の付属施設をもつ。

出土遺物 (第117図、写真図版81)

縄文土器 848は底部片である。

X E-58土坑

遺構 (第45図)

本遺構は調査区南東端部 X E 区の中央に位置し、暗褐色粘土質シルト層上面で検出されたものである。埋土は上部層が暗褐色シルトがブロックで全体に混じり、炭化物、焼土粒を多く含む黒褐色粘土質シルト層、下部層は黒褐色シルトのブロックが少量混じり、炭化物を少量含む暗褐色粘土質シルト層で構成されている。上部層の下位には炭化物が多く分布している。本土坑は径1.1m、深さ34cmの楕円状の土坑で底面は北西壁側に傾斜している。

出土遺物 (第117図、写真図版81)

縄文土器 850は無文の口縁部である。851~853は平行沈線文が、854・855は沈線による曲線文が施文されている。後期に位置づけられる。

X E-59土坑

遺構 (第45図)

本遺構は調査区南東端部 X E 区の中央にあり、北側を X E-54土坑に切られている。検出面は暗褐色粘土質シルト層上面である。埋土は小礫混じりの黒褐色粘土質土である。本土坑は径92cm、深さ55cmの規模をもち、円形を呈していたと思われる。底面は平坦である。

出土遺物 (第117図、写真図版81)

縄文土器 856は刺突文、857は磨消縄文が施文されている体部片である。858は底部である。後期に位置づけられる。

土製品 円盤状土製品 (859) が1点で、磨消縄文をもつ後期の土器の体部片を使用している。

X E-60土坑 (第46図)

本遺構は調査区南東端部 X E 区の南西側にある。X E-2住居跡を精査している際に検出されたもので、上部を住居跡に切られている。埋土は径5~20cmの円礫が多く混じる黒褐色砂礫層である。本土坑は径1m、深さ1.4mの規模をもつ円形土坑で、X E-55土坑と同じく北西壁側に幅0.9~1.3m、長さ0.9m、深さ10~30cmの規模をもつスロープ状の施設をもつ。出土遺物はない。

X E-62土坑 (第47図)

本遺構は調査区南東端部 X E 区の南側に位置し、暗褐色粘土質シルト層上面で検出された。東 4 m には X E-58 土坑がある。埋土は暗褐色シルトのブロックが混じる黒褐色粘土質土である。本土坑は長径 90 cm、短径 80 cm、深さ 46 cm の規模をもち、ほぼ円形を呈する。底面は平坦であるが西壁側に寄る。出土遺物はない。

X E-63土坑

遺構 (第46図)

本遺構は調査区南東端部 X E 区の中央にあり、東 4 m には X E-54 土坑がある。検出面は暗褐色粘土質シルト層である。埋土は暗褐色シルトをブロックで混じる黒褐色粘土質シルト層である。本土坑は長径 1.5 m、短径 1.2 m、深さ 95 cm の規模をもつ摺鉢状の土坑である。底面は径 50 cm で中央部が深い。

出土遺物 (第117図、写真図版82)

縄文土器 871・874は単節の斜縄文をもつ粗製土器片で、874は口縁部に無文帯をもつ。872は沈線文、875は熱糸文が施文されている。873は底部である。後期に位置づけられる。

X E 区柱穴列 (X E-53・56・57・61柱穴)

遺構 (第47図)

調査区南東端部 X E 区から円形の掘り方をもつ柱穴が 4 個検出されている。P₁ (径 84 cm、深さ 109 cm、柱あたりの径 31 cm、深さ 144 cm)、P₂ (径 80 cm、深さ 92 cm、柱あたりの径 36 cm、深さ 113 cm)、P₃ (径 84 cm、深さ 86 cm、柱あたりの径 35 cm、深さ 114 cm)、P₄ (径 74 cm、深さ 41 cm、柱あたりの径 36 cm、深さ 87 cm) である。P₁-P₂ と P₃-P₄ は平行し、この線と P₂-P₄ は直交している。柱あたりとの距離は P₁-P₂ が 4.1 m、P₃-P₄ が 2.1 m、P₂-P₄ が 3.7 m である。P₁ と P₂ との中間に X E-55 土坑があり、重複する部分にさらに掘り方をもつ柱穴があったと思われる。北東-南西方向に長い 1 × 2 間の建物跡とも考えたが P₁ に対応する柱が検出できず柱穴列とした。

出土遺物 (第117図、写真図版81・82)

縄文土器 846は平行沈線、磨消縄文をもつ体部片で後期に位置づけられる。847は底部片である。860・862-864・868は沈線によって文様が施文され、861・865・866・869は沈線で区画された磨消縄文によって幾何学的な文様が施文されている。867は底部である。870は口縁部に無文帯をもち、単節の斜縄文が施文されている口縁部片である。

土師器 849は甕形土器で口縁部、底部が欠損しており、外面はヘラケズリで調整されている。

X E - 64土坑

遺構 (第53図)

本遺構は溝状の土坑で、調査区X E区南東端の北東側にある。検出面は暗褐色粘土質シルト層である。埋土は土器を多く包含し、炭化物、焼土粒が混じる黒色砂質シルト層である。礫も少量混じる。土坑は溝状を呈し、中央部が深い。規模は長さ3.8m、幅0.8~1.1m、深さ30~68cmである。当初溝状遺構として扱っていたものである。

出土遺物 (第118~121図、写真図版82~86)

縄文土器 深鉢形土器の876・877は口縁にB突起をもち、刻み目が施されており、頸部には兀字工字文が施文されている。888・889は口唇部に指頭圧痕文をもつものである。924・928は口縁部に刻み目をもち、頸部には平行沈線、刺突痕があるものである。916・925・951・960は口縁部に刻み目をもち、頸部に平行沈線をもつものである。939・944・961は口唇部に刻み目をもち、口縁部を無文にしているものである。940・958・959は数条の平行沈線が口縁部に施されている。940・959はB突起をもつ。914・935も口縁部に平行沈線をもつものである。941は口縁部を無文にしている粗製土器である。945・946は単節の斜縄文が施文されているもので、945はB突起をもつ。890・891・896・897は底部である。934はA突起をもつ口縁部片である。956はB突起をもち、沈線文が施文されている。978はB突起をもつ小型の深鉢形土器で単節の斜縄文が施文されている。

浅鉢形土器の880・883はB突起をもち兀字工字文をもつものである。912・915・917~919、921~923・930・933も同じ文様のもと思われる。879・881・882は頸部に平行沈線をもち、肩部に眼鏡状の浮文をもつ。903~911・913・921・927も同じ文様のものである。

壺形土器の920は平行沈線が施文されている。947~950・953・954・957は長楕円文が施文されている。892・894・885は底部である。885は底部に4つの小突起をもつ。

鉢形土器の936・937・943は沈線文が施文されている。937は曲線的で口唇部に刻み目が施される。952は三角文が施されている体部片である。955は連続刺突文が施されている。

台付浅鉢形土器の886・887は台部で平行沈線が施文されている。893は無文の底部である。886は底部内面に円形文が沈線で施文されている。

四脚付浅鉢形土器の884は口縁部が欠損しているが、体部に平行沈線が施されている。脚はやや太めで四隅についている。

土製品 土偶 1点である。右側の脚部で裏側に沈線文が施されている。

石器 石鏃 (899) は有柄のものである。900は削器の類で、一縁に二次加工されている。901・902は剥片を利用したもので使用痕がある。凹石は中央に円形の窪みをもつ三角形の扁平なものである。

4 溝跡

IV E-101溝跡 (第49図、写真図版32)

本遺構は調査区北西部IV E区の北西側にあり、褐色シルト層上面で検出されている。埋土は褐色シルトがブロックで混じる黒褐色シルト層の単層で占められている。本溝跡は北東-南西方向にのび、幅92~112cm、深さ26~38cmの規模をもち、その両端は調査区域外へのびている。検出されている部分での長さは14mである。横断面は逆台形をなし、底面は平坦である。出土遺物はない。

IV E-102溝跡 (第49図、写真図版32)

本遺構は調査区北西部V区の中央に位置し、やや惰行するがほぼ東西方向に走る溝跡で、その両端は調査区域外へのびている。埋土は円礫が幾分混じるボソボソの締まりのない黒色シルト層で占められている。溝跡は、幅28~50cm、深さ14~18cmの規模のものである。横断面は緩い「U」字状を呈し、底面は凹凸がある。検出されている部分の長さは32mである。出土遺物はない。

VD-101溝跡

遺構 (第50図、写真図版33)

本遺構は調査区北部のVDE区にあり、暗褐色シルト層上面で検出されている。本溝跡はほぼ南北にのび、北側でVD-102溝跡、南側でVD-102溝跡に切られ、両端は調査区域外へのびている。埋土は上部層が径20~30cmの川原礫が混じり、下位に暗褐色シルトがブロックで混じる黒褐色シルト層、下部層が暗褐色シルト層を僅かに含む黒褐色シルト層で構成されている。溝跡は幅0.8~1.5m、深さ24~43cmの規模をもち、検出されている部分での長さは18mである。横断面は緩い「U」字形を呈している。

出土遺物 (第122図、写真図版87)

土師器 坏形土器 (962・963) 2点で、底部に回転糸切り痕をもつ。再調整はない。体部は底部からやや内湾しながら立ち上がる。壺形土器 (967) は木葉圧痕をもつ底部である。

あかやき土器 坏形土器 (964) の1点で、底部が上底気味である。回転糸切り痕をもつ。

須恵器 壺形土器 2点のうち、965はロクロ調整されている底部である。968は同じく体部上半である。壺形土器は内外面に平行叩き目痕をもつ体部片である。

縄文土器 969は沈線文をもつ口縁部片である。

石器 台石 (970) は扁平なもので半分欠損している。凹石 (971) は楕円状のもので中央に

不整形な凹みがある。

VD-102溝跡 (第50図、写真図版33)

本遺構は調査区北部VD区にあり、黒褐色粘土質シルト層の面で検出されている。北東から南西方向にはほぼ真直ぐに走るもので、北端は調査区域外へのび、南端は自然に消失している。溝跡は幅38～64cm、深さ6～9cmの規模をもち、検出されている部分での長さは30mである。埋土は褐色シルトがブロックで混じる黒褐色シルト層で占められている。横断面は「U」字状を呈している。溝跡はVE-101溝跡を切っている。出土遺物はない。

VE-101溝跡

遺構 (第50図、写真図版34)

本遺構は調査区北西部VE区や北部VD区にまたがり、北東から南西方向にのびる溝跡で、その両端は調査区域外へのびる。その規模は幅47～76cm、深さ21～34cm、検出されている部分での長さは59mである。埋土は上部層が径2～4cmの小礫が混じり、褐色シルトのブロックを含む黒褐色砂質シルト層、下部層が川原石の多く混じる粗い砂質シルト層で構成されている。横断面は底面がやや丸味を帯びる「V」字状を呈している。本溝跡はVE-1住居跡の東側9m、VD-2住居跡の西2mの位置を走る。VD-101溝跡を切ってつくられている。

出土遺物 (第123図、写真図版87)

土師器 坏形土器 (972・975) は2点で、ロクロ調整されている。甕形土器 (974) はロクロ調整されている口縁部片である。

須恵器 坏形土器 (973・976) は回転糸切り痕をもつ底部片である。壺形土器 (977) は外面をヘラケズリで調整されている底部である。

VE-102溝跡

遺構 (第51図、写真図版34)

本遺構は調査区北西部VE区の北側にあり、暗褐色シルト層上面で検出されている。本溝跡は北西方向にのびた後、南に屈曲している。北端は調査区域外へのび、南端は自然に消失している。溝跡はVE-1住居跡の煙道や北壁を切ってつくられている。その規模は幅1.3～1.5m、深さ11～14cmで、検出されている部分での長さは4mである。埋土は径20～30cmの円礫が混じる黄褐色粘土質シルトブロックを含む黒褐色砂質シルトで占められている。横断面は緩い「U」字状を呈する。底面は平坦で締まっている。

出土遺物 (第123図、写真図版87・88)

土師器 壺形土器 (979) はロクロ調整されている口縁部片である。982は同じくロクロ調整されている底部である。

須恵器 壺形土器 (978・980・981) の3点でロクロ調整されている。

石製品 砥石 (983) は両面を使用している扁平なもので、片面には擦痕のほか切削痕をもつ。端部の一部は欠損している。

石器 不定形石器 (984) の1点で一縁の片面が二次加工されている。

ⅦE-101溝跡

遺構 (第50図、写真図版35)

本遺構は調査区中央部ⅦE区の北西側にあり、黒褐色シルト層上面で検出された。埋土は上部に炭化物が多く混じり、壁際に径8~10cmの礫が混じる黒褐色シルト層である。溝跡はほぼ南北に真直ぐに走り、北端は調査区域外へのび、南端は自然に消失している。規模は幅34~68cm、深さ5~7cm、検出されている部分での長さは4.4mである。横断面は緩い「U」字状を呈している。

出土遺物 (第124図、写真図版88)

石器 石匙 (985) は椀型のものである。石鏃 (986) は有柄式のものである。

ⅦE-102溝跡

遺構 (第51図、写真図版35)

本遺構は調査区中央部ⅦE区の北東側にあり、暗褐色粘土質シルト層の面で検出されている。溝跡は北東-南西方向にはほぼ真直ぐに走り、その両端は調査区域外へと伸びている。規模は幅29~52cm、深さ10~25cm、検出されている部分での長さは25.1mである。埋土は、炭化物、礫の混じる黒褐色砂質シルト層である。横断面は「U」字状を呈している。

本遺構はⅦE-1住居跡、ⅦE-4住居跡、ⅦE-104・105溝跡を切ってつくられている。

出土遺物 (第124図、写真図版88)

土師器 坏形土器 (988) は回転糸切り痕をもつ底部である。内面をヘラミガキ後、黒色処理されている。

あかやき土器 坏形土器はロクロ調整されているものである。

ⅦE-103溝跡 (第51図、写真図版36)

本遺構は調査区ⅦE区の北東部に位置し、ⅦE-102溝跡の東にあたる。ほぼ3~4m間隔

で並行して北東—南西に走り、南端は調査区域外にのび北端は消失している。幅は0.48～2 mで南側が広がっている。深さは10～24cmである。埋土は暗褐色シルトが混じる黒褐色シルト層である。横断面「U」字状を呈している。検出されている部分での長さは22.4mである。本溝跡はⅥE-4住居跡を切っつけられている。出土遺物はない。

ⅥE-104溝跡

遺構 (第49図、写真図版36)

本遺構は調査区中央部ⅥE区の東側に位置し、ほぼ東西方向に走るものである。検出面は暗褐色粘土質シルト層上面である。東端はⅥE-102溝跡、西端はⅥE-105溝跡に切られている。埋土は礫の混じる黒褐色砂質シルト層で占められている。規模は幅24～29cm、深さ10～20cm、検出されている部分の長さは6.1mである。横断面は「U」字状を呈している。

出土遺物 (第124図、写真図版88)

須恵器 坏形土器 (990・991) は2点で、口縁部が欠損し、底部に回転糸切り痕をもつ。

壺形土器 (989) はロクロ調整されている口縁部片である。

ⅥE-105溝跡

遺構 (第49図、写真図版37)

本遺構は調査区中央部ⅥE区に位置し、中央を東西方向にはほぼ真直ぐに走るものである。検出面は黒褐色粘土質シルト層上面である。東端は自然に消失し、南端は調査区域外へのびている。本溝跡は幅34～64cm、深さ21～40cm、検出されている部分での長さは21.6mである。埋土は上部層が径4～8cmの円礫がやや多く混じる焼土、炭化物を含む黒褐色粘土質シルト層、下部層が上部層より黒色を帯び礫も多く混じる黒褐色粘土質シルト層で構成されている。溝は礫層の一部を掘りこみ、またⅥE-4住居跡、ⅥE-104・106溝跡を切っつけられている。東端はⅥE-102溝に切られている。横断面は逆台形を呈する。底面は平坦だが礫が露出している。

出土遺物 (第124・125図、写真図版89)

土器 坏形土器 (992・993・995) 3点でロクロ調整されている。

須恵器 坏形土器 (994) は底部に回転糸切り痕をもつ底部である。壺形土器 (996～998) は内外面に叩き目痕をもつ体部片である。

ⅥE-106溝跡 (第49図、写真図版37)

本遺構は調査区中央部ⅥE区の南西側に位置し、暗褐色粘土質シルト層の上面で検出された。溝跡はほぼ南北方向に走り、北端は自然に消失し南端は調査区域外へのびている。溝跡は幅20

～26cm、深さ16～25cm、検出されている部分での長さ9.4mである。埋土は褐色シルトが混じる黒褐色シルト層である。横断面は長方形を呈する。溝跡は南側でⅦE-105溝跡に切られている。出土遺物はない。

ⅨE-101溝跡

遺構（第52図、写真図版38）

本遺構は調査区南東部ⅨE区にあり、暗褐色シルト層上面で検出されている。本溝跡は北東-南西方向にはほぼ真直に走り、ⅨE区の柱穴列P₄、柱穴P₅、ⅨE-4住居跡を切り、その両端は調査区域外へのびている。検出されている部分での規模は長さ29m、幅70～90cm、深さ30～68cmである。埋土は大半が小礫の混じる黒褐色粘土質シルトで占められ、僅かながら底面直上にはレンズ状に堆積する褐色シルトがブロックで混じる黒褐色粘土質シルト層がある。横断面は「U」字形を呈している。

出土遺物（第125図、写真図版89）

石器 台石（999）は扁平なもので両面に捺痕をもつ。石錘（1000）は自然石の一端をノッチ状に加工した扁平な石である。反対側の縁の一部も加工している。磨製石斧（1001）は柄部が欠損しているものである。磨石（1002）は磨痕、敲打痕をもち、ほぼ円形を呈している。石鏃（1003）は有柄式のものである。

ⅨE-102溝跡（第52図）

本遺構は調査区南東部ⅨE区の南西側にあり、検出面は暗褐色粘土質シルト層上面である。北西-南東方向に走る本溝跡は北西端をⅨE-9住居跡に切られ、南東端は調査区域外へのびている。本遺構はまたⅨE-101溝跡を切っている。検出されている部分での規模は長さ2.7m、幅30cm、深さ6～10cmである。埋土は褐色シルトがブロックで混じる黒褐色粘土質シルト層である。横断面は「U」字状を呈する。出土遺物はない。

5 焼土遺構

ⅦE-151焼土遺構（第54図）

調査区南東部に位置し、暗褐色粘土質シルト層上面で検出されている。焼土は、規模が42×52cm、厚さ10cmで、不整形に形成されている。東側の焼土直上には焼土粒混じりの黒褐色土が堆積している。

Ⅷ E-152焼土遺構 (第54図)

調査区南東部Ⅷ E区の北側でⅧ E-2住居跡の北隅の北70cmに位置している。焼土はガリガリ硬くはなく、規模は44×60cm、厚さ8cmで、形状は不整形を呈している。

Ⅷ E-153焼土遺構 (第54図)

調査区南東部Ⅷ E区の北側でⅧ E-2住居跡の西隅から40cmの位置にある。焼土は30×32cm、厚さ6cmの規模をもち、不整形である。焼土はガリガリに硬いものではない。

Ⅷ E-154焼土遺構 (第54図)

調査区南東部Ⅷ E区の北東部にあり、Ⅷ E-3住居跡の東30cmに位置している。焼土は44×74cm、厚さ8cmの規模で不整形円形を呈している。焼土周辺から土師器片が出土している。

Ⅸ E-151焼土遺構 (第54図)

調査区南東部Ⅸ E区の北東に位置し、黒褐色粘土質シルト層上面で検出されている。焼土は52×50cm、厚さ8cmの規模をもつ不整形円形を呈している。表面は強い焼成を受けている。

Ⅸ E-152焼土遺構 (第54図)

調査区南東部Ⅸ E区の北東に位置し、表土を取り除いた黒褐色粘土質シルト層上面で検出されている。焼土は40×48cm、厚さ5cmの規模をもち不整形円形を呈している。中部がやや窪み強い焼成を受けている。

Ⅸ E-153焼土遺構 (第54図)

調査区南東部Ⅸ E区にあり、Ⅸ E-152焼土遺構の南2mに位置している。焼土は12×28cmと18×30cmに不整形に広がり、厚さは4～10cmである。炭化物が少量混じる。

Ⅸ E-155焼土遺構 (第54図)

調査区南東部Ⅸ E区の北西側にあり、黒褐色粘土質シルト層上面で検出されている。焼土は径50cmの浅皿状を呈し、厚さは4cmである。上部には炭化物混じりの焼土が堆積している。

Ⅸ E-156焼土遺構 (第53図)

調査区南東部Ⅸ E区の北東側にあり、暗褐色粘土質シルト層上面で検出されている。焼土は60×90cm、厚さ10cmの規模をもち、不整形を呈している。

X E-151焼土遺構 (第53図)

調査区南東端部 X E 区の北東側にあり、暗褐色粘土質シルト層で検出されている。焼土は46×30cm、厚さ5cmの規模で、不整形を呈している。焼土はガリガリ硬くない。

X E-152焼土遺構 (第53図)

調査区南東端部 X E 区の中央部にあり暗褐色粘土質シルト層上面で検出されている。焼土は54×78cm、厚さ8cmの規模で、不整形を呈している。東側に径12cmの竈が埋置されていた。焼土は締まっている。

V 遺構外出土遺物

1 古代の土器

土師器・坏形土器

ロクロ不使用のものと同ロクロ使用のものがある。前者には外面をヘラナデ調整するもの(1008)とヘラミガキ調整するもの(1006)とがある。後者には回転糸切りのもの(1005・1007・1009・1010・1012)と、ロクロから切り離し後、手持ヘラケズリで体部下端、底部全面を再調整するもの(1011)とがある。1006は体部が口唇部近くで外反するものである。そのほかはやや内湾しながら立ち上がる。すべて内黒である。

土師器・高台付坏形土器

1013～1015の3点が遺構外から出土している。1015は高台が大きく高いものである。1014は高台の先端がやや外方にのびるものである。

須恵器・坏形土器

ロクロからの切り離しはすべて回転糸切りで再調整はみられない。1016～1020の5点出土している。口径と底形の比は3分の1以上2分の1未満である。体部の形態は内湾しながら立ち上がるもの(1016・1018・1020)とはほぼ外傾しているもの(1017・1019)とがある。1019は底部が台状に残存している。

土師器・甕形土器

ロクロ不使用のもの(1021・1027・1028・1029・1030)と同ロクロ使用のもの(1022～1026・1031)とがある。前者は口縁部がやや強く外反している。前者は外面がヘラケズリ、内面がハケメ、ヘラナデで調整されているもの(1021・1029・1030)と外面がヘラミガキ、内面がヘラミガキ、ヘラナデ調整(1027・1028)されているものがある。1028の底部外面には交叉する2本の刻線がみられる。後者はロクロ調整で口唇部を上下につまみ上げている。口縁部が外傾しているもの(1025・1026)と外傾し直上するもの(1024)とがある。1031は底部に回転糸切り痕をもつ。

土師器・壺形土器

1032はロクロ不使用のもので、外面をヘラケズリ後、一部ヘラミガキ、内面をヘラナデで調整されている。口縁部、底部が欠損している。

須恵器・壺形土器

1033～1044で、口縁部はすべてロクロ調整されている。下半部はロクロ調整されているもの(1041・1042)と外面をヘラケズリ、内面をハケメ、ヘラナデで調整されているもの(1040・1043・1044)とがある。1033は長頸壺と思われる。頸部下端に凸帯をもつものである。1036は広口壺である。1042は台付の底部である。

須恵器・変形土器

1045～1053は体部片で内外面に平行叩き目痕をもつ。

2 縄文時代の土器

遺構外から出土している縄文時代の土器は、後期・晩期に位置づけられるものである。後期のものは前葉、中葉、晩期のものは中葉、後葉が中心になっている。後期のものは2次的に堆積したもので完全に復元できるものはきわめて少ない。ここでは分類にあたって、縄文時代後期に位置づけられる土器群をⅠ群、晩期をⅡ群として、遺構外の出土遺物を説明する。更にまとめて、遺構内にあわせて触れるが、分類上、遺構内のみに出土しているものもここで幾分扱うことにする。

Ⅰ群

1類 多条沈線によって入組文、楕円文などの曲線文を無文の地文に施文しているもの

1054・1055は壺形土器で、口縁部、底部が欠損している。体部上半に入組文、後者は体部全体に曲線文が3条の平行沈線によって施文されている。1056は小型の壺形土器の底部半分である。底部には瘤状の脚が付いており、4隅に4つあったと思われる。他の例からこの土器は有蓋の切断土器であったと推定される。1110は壺形の体部片である。

2類 平行沈線や磨消縄文によって、曲線文が施文されているもの

本類は801・1058・1060・1062～1064・1115・1116～1146・1150のように刺突文をもたないもの（2a類）、1152～1156の半月状の刺突文をもつもの（2b類）、1157・1159～1162のように沈線と沈線との交点に円形刺突文を施しているもの（2c類）、1117・1118の隆帯をもつもの（2d類）に分けられる。

2a類 1058は壺形土器で体部中央に3条の平行沈線によって入組文が施文されている。1060・1062は体部上半に曲線文が施文されている。小波状の口縁をもつものが多い。1115・1116のように波状口縁の頂部に平行沈線が巡せられている円錐状の突起をもつものもある。1120は波状の口縁の裏面に2条の平行沈線を巡している。

2b類 入組文の上や横に三日月状の刺突文が連続的に施文されている。1151は小波状の口縁で数条の平行沈線で上下に施文されている間に、入組文が施され、上位の平行沈線に重なって4つの三日月状の刺突がなされている。

2c類 1157は波状口縁で口縁に沿って平行沈線を巡らし、下位に沈線と磨消縄文とで入組文が施文され、入組文の上位に円形の刺突文が沈線上に施されている。

2d類 1117・1118の2点で1117は無文に隆帯をつけ、その上面に縄文を施文している。1118は帯縄文をもつ。

3類 無文の地文に楕円、円形、入組文などの曲線文を沈線によって施文しているもの
1111～1114の4点で、1111は長楕円文、円形の沈線文が施されている体部片、1112～1114は波
状口縁で頂部に入組文が沈線によって施されている。

4類 数条の平行沈線によって、縦位を主体とした文様が施されているもので、820～823、
1147～1149点である。1148は単節のL Rが施文され、他の2点は無文の地文である。

5類 磨消縄文と平行沈線で幾何学的文様が施文され、ボタン状の貼付文をもつものである。
1166・1167で、口縁部には無文帯をもつ。1166の地文は単節L Rの斜縄文である。

6類 地文の斜縄文に平行沈線、長楕円沈線文が施されているもの、円形の形の刺突文をも
たないもの(6 a類)、円形の刺突文をもつもの(6 b類)に分けられる。地文は単節のL R
が多い。

6 a類 1061・1067・1168～1174・1176・1177・1179である。1171は波状口縁である。長楕
円文はその施文の仕方から3つに分かれる。数条の平行沈線を施してから左向き、右向きの弧
を交互につけ加えて長楕円文をつくるもの(1067・1171・1174)(6 a₁類)、交互に左にのび
る、右にのびる長楕円文を施文するもの(1061・1172)(6 a₂類)、数条の平行沈線を施した
後、縦位にS字状の曲線を描いて長楕円文を施すもの(1175・1177)(6 a₃類)とがある。
1067は浅鉢型の土器で体部中位に施文されている。

6 b類 1158・1163～1165で、長楕円沈線文の弧の横に2個の円形刺突文を上下につけてい
るもの(1163・1164)、円形刺突文を縦に連続してつけているもの(1165)などがある。

7類 無文の地文に平行沈線、長楕円沈線文を施文しているもので、1175・1178の2点出土
している。長楕円文の施文の仕方は6 a₂類と同じである。

8類 磨消縄文によって幾何学文が施文されているもの

1059は壺形の土器で体部に磨消縄文が施され、地文は単節L Rの斜縄文である。1065は壺形
土器で体部下半のみである。1208～1214は深鉢形土器のものである。1208は山形口縁で、口唇
部が肥厚している。地文は単節L Rの斜縄文であるが、口縁部の縁は斜めの回転をして横位の
縄文を施している。1070・1072・1074・1076も本類に入るもので大型の突起をもつ。

9類 磨消縄文によって幾何学的文様を施し、沈線によって文様を区画し、沈線にそって連
続刺突文が施文されている。連続刺突文は円形のもの(9 a類)と三日月状のもの(9 b類)
に分けられる。

9 a類 1073・1075・1079・1080・1089・1094・1095・1180～1197が本類に入る。1075は台
形状の大型突起を4個もつ深鉢形土器で、体部上半に磨消縄文を区画する沈線に沿って連続区
刺突文が施文されている。下半には刺突文はみられない。1191は円形状の突起の口唇部に連続
刺突文が施されている。

9-b類 1069・1071・1077・1078・1092・1094・1198～1207が本類に属する。1069は三角状の大型突起、1071・1077は台形状の口縁にねじれた形の円柱状の大型突起を、1092は中空の円柱状の突起をもつものである。1069は突起にも三日月状の連続刻突が口縁に沿って施されている。1073は隆帯がつけられ、1092には4つの孔をもつ。1094は幅広い台形状の突起で口唇部が肥厚している。

1081～1087・1090・1091・1093・1096～1098・1100・1108の大型突起の大半は本類に入るものと思われる。ほんの一部は8類に含まれるかもしれない。1108は非常に大型の突起で、円錐状を呈し、隆帯を巡している。中空で頂部中央が孔があいている。

10類 網目状捺糸文が施文されているものである。1215～1219でいずれも体部片である。

11類 磨消し縄文と圧痕文を持つ土器群で、いずれも口縁部ないし口縁部付近の破片である。1220・1222～1224は1条の圧痕文を横位に巡らせて体部と区画し、1222は体部側を、他は口縁部側を磨消している。地文はLR単節斜縄文である。1221は2条の圧痕文を、1225は横位・縦位・斜位に圧痕文を施文している。

II群

1類 工字文を主な文様として施文する土器群である。1226～1246・1279は口縁部または口縁部付近の破片で、口唇部に沈線や連続刻文が施文されるものや、口唇部直下の内側に沈線を巡らせるものがある。また、1226・1227のように工字文のなかに縄文が施させているもの(1a類)と1228などのように縄文がなく研磨されているもの(1b類)とがある。1276は口縁部から底部までの一部が残存する浅鉢の破片である。口縁部は直立気味に立ち上り、若干外傾する。山形突起があり、内側に1条の沈線が巡る。口唇部には連続刻状文が施文されている。1279は壺形土器の口縁部、1280は高台付土器の高台部分である。

1272～1274は斜位や横位の平行沈線等をモチーフとする文様が付けられた土器である。所属時期は、大洲A式期と考えられているが、いずれも体部の小破片のみであるため、断定はできかねる。

2類 口縁部に主に平行沈線や磨り消しによる文様の施された土器群である。1～5条の沈線が横位に巡り、沈線の間やその上位の口縁部側又は下位の体部側に縄文や磨り消しが施されている。地文は比較的拙りの細かいRLまたはLRの単節斜縄文である。1247は1.5～2cmの間隔で横走する平行沈線がなく、口縁部を磨り消し、体部に縄文が施されている。1253・1260は平行沈線がなく、口縁部を磨り消し、体部に縄文が施されている。1278も同様の施文で、口唇部に連続する押圧痕がつく。1263は肩部が若干角張り、口唇部に連続刻状文と小突起がつく。1275は浅鉢、1277は鉢の口縁部分で、口縁部と体部を横走する沈線で区切り、口縁部の文様は磨消しと平行沈線で、体部の地文はLR単節斜縄文である。

3類 粗製の鉢または深鉢の破片である。1264は縦位の摺糸文、1265や1270は摺りの細かいLR単節斜縄文が施文されている。1267は不規則な刺突痕がつけられている。1282は肩部がやや膨張り口縁部が若干外傾する。1282は頸部に圧痕文を付して口縁部と体部を区切り、口縁部はやや外傾する。1286は無文の鉢で、底部に網代痕を持つ。底部に網代痕を持つ土器は他に1271・1298～1304・1318がある。いずれも残存部の側面は無文である。1287～1297は鉢類の底部破片で、1296はLRの複節斜縄文、1292は縦位の摺糸文、他はLRまたはRLの単節斜縄文である。1306～1312はやはり鉢類の底部破片で、残存部分はいずれも無文である。

4類 ミニチュア土器で、1313・1314は口縁部の一部を1315は約2分の1を欠失する。1314の口縁部は左右不对称の波状をなしている。1316は高台部分、1317は底部が残存し、1317の底面には網代痕が付けられている。

5類 1318は脚付き土器の脚部ではないかと思われる。沈線が施され、外面は磨かれている。先端が尖っており、若干摩滅している。1319～1330は台付土器ないし高台付土器で、1320・1321は台付土器の底部、他は高台部分である。1328は高台部の中央付近に1条の沈線が横走り、その下位に縄文が施されている。1329は高台の取り付け部付近に1条の沈線が横走る。1322・1327は篋状工具で丁寧に磨いている。

3 土製品

土偶14点、鐙形土製品1点、土錘9点、円盤状土製品18点が出土している。

土偶はすべて破損しており、その部位は頭部のみもの3点、体部5点、上腕部2点、腕と思われるもの1点、脚部3点である。胎土は、いずれも粗砂泥じりで脆い。2001は眉と鼻を盛り上げ、目と口を小穴で表現し、学は凸形に張りだしている。2002は眉と鼻を隆帯で、口を小孔で表している。2003は眉部分を隆帯でV字状に表している。2004～2006・2009・2010は体部破片である。2004は右肩部で乳房状の突起がついている。2006は体部上半部で、2009は両手足と頭部を欠く体部みの土偶である。2007は左上腕部、2008は右上腕部で、2011～2013は脚部である。2011は下橋から1cm上に沈線が巡る。2014は内側の橋に1.2×1.9cmの椀状の凹みがあり、左手を握った形にも見える。2015は鐙形土製品で、横断面形は楕円形、紐部の形は台形状をていしている。器高は3.9cm、無文で、胎土には粗砂を含んでいて脆い。

2016～2024は土錘で、2016は楕円形を呈し、長軸と短軸に十文字の紐がかり状の溝がある。2017～2024は縦に孔の有る筒形の土錘である。

2025～2042は円盤状土製品で、2025～2041は鉢等の土器の破片を利用し、周辺部を整形して作られたものであるが、2042は中央部に径1.8cm程の椀状の窪みを持ち、制作当初からこういう形を意図して作られた円盤と思われる。

4 石器

遺構外からは石鏃・石匙・石鎌などの剥片石器78点と石斧6点、磨石・凹石などの礫石器30点が出土している。

(1) 剥片石器

2043～2070・2073・2074は石鏃で、30点出土している。そのうち有茎鏃は2043～2060・2062・2063・2065・2070の22点で、基部の形状は凹基が2040他7点、凸基が2056他5点、他の9点が平基である。無茎鏃は2点で、2067が凹基、2068が平基である。また、尖基鏃は2061他3点、円基鏃が2064他1点である。30点中完形品は7点のみで、約8割にあたる23点は破損品である。欠損部位は先端部がもっと多く13点、茎部が11点で、うち両方とも欠損しているのは6点である。他に、約2分の1欠失するもの3点、鏃身の一部を決算するもの2点である。2048の茎部にはアスファルトの付着が認められる。

2071・2072は尖頭器様石器に分類した。どちらもアスファルトが付着しない完形品で、先端角は80～90度と大きい。

2073・2074は石鎌である。どちらも両面全面加工され、2073は摘み部をT字状につくり出ししており、2074は棒状を呈している。

2077は異形石器で、両面全面加工されている。おそらくノッチの類であろう。

2078～2082は石匙で、2079と2087が横形、他は縦形である。いずれも刃部と摘み部のつくり出しのために二次加工が施されている。2078・2081の摘み部にはアスファルトの付着が認められる。2080は下半部を欠損している。

2083～2120は形状に一定の規格性を持たない石器群ということで不定形石器として一括したが、制作技法や用途などによっていくつかの種類に分けられる。

所謂接器・削器の類として2091・2096～2100・2110～2113・2017～2019がある。多くは連続する小剝離による調整をよって刃部調整は部分的にしか行なわれていない。ただし、緩斜面の縁辺部に微細な剝離痕が観察され、削器の類と考えられる。2100・2113は2か所に凸刃と凹刃の刃部を持つ。刃部調整は2100の凹刃が表側から、凸は裏側からなされ、2113はその逆である。他は概ね片縁の緩部調整が多い。

彫器の類と思われるものは・2104である。どちらも細長い剥片の尖った部分に二次加工が施されている。

2083・2084・2087・2092・2093・2095・2101・2102・2106・2108・2120は小形の比較的薄手の剥片の周辺に二次加工を施したものである。やや厚めの剥片の中にはほぼ全面加工されているものもある。剥片の大きさは最大長で1.7～2.9cm、重さは1.0～6.7gである。

2085・2086・2090・2103は折断面と反対側の側縁に小さい二次加工が施されたり、微細な剥離痕を持っている。2090は折断面と反対側の側縁に小さい二次剥離によってノッチ状の凹刃が作られている。2089・2014・2016は品格的急斜度の側縁に大きめの二次剥離によって刃部が作られ、その稜部は敲き潰されたような痕跡をもっている。

他に、2105などのように部分的に二次加工が施されたり、緩斜面の側縁に微細な剥離痕を持つ剥片がある。

(2)石斧

2121～2124は磨製石斧である。いずれも欠損しており、2121・2123は基端を含む基部が残存し、前者は平基、後者は尖基である。2121は刃部のみ残存し、刃刃で、側面形は蓼凸刃である。2124は基部を欠損し、刃部が剥落している。側面形は蓼凸刃である。

2125は打製石斧、2126は局部磨製石斧である。2125は基部と側縁を比較的小さい剥離によって形状を整え、刃部整形も同様に剥離のみによっている。2126は形状を剥離によって整え、刃部及び側面の一部を研磨している。

(3)礫石器

2127～2140・2149は磨石及び凹石である。2127～2130は円礫で、ほぼその全面を磨っている。2127は側縁部に2か所、また、2129は卵形を呈しているが、その両端に剥落痕があり、敲石としても用いられたと思われる。2132・2133は円礫の磨石の破片で、2132は約2分の1、2133は5分の1程が残存する。残存部分の表面はほぼ全面に研磨面がみられる。2131・2134は棒状の磨石の破片で、2131には凹状に湾曲した磨面とほぼ平坦な磨面の2面に使用痕が認められ、2134は平坦な磨面が1か所認められる。2149は側縁が平坦に表・裏面は凸形に若干湾曲した磨面を持つ。ただし、裏面の磨面は一部を残すのみで、多部分が剥落している。

2135・2138・2140は片面または両面2箇所凹みを持つ凹石で石質は両輝石安山岩、所謂溶岩である。2136は両面にそれぞれ1箇所ずつの凹みがあり、側縁には敲打痕が見られ。また、凹み部分や剥落部分以外の表面には磨り面が見られる。2137・2139は片面に1箇所の凹みがある凹石である。

2141～2143は敲石の類であろう。2141は約半分を欠損しており、側縁部に敲打痕が認められる。2142・2143は棒状を呈し、その一端に微細な凹凸が見られるが、自然石の可能性も考えられる。

2144～2148・2150～2152は石皿の類である。いずれも破片で完形品はない。側縁を整形した所謂典型的な石皿は2152のみで、2144・2145は凹形に湾曲した使用面を持ち、2146～2148・2151の使用面は平坦である。2150は一面に比較的大きく凹形に湾曲した磨面の他に、断面形がU字形の溝状の磨面と1つの面に小さい凹形の磨面を2個持っている。

2153～2155は最大長17cm以上の比較的大きい扁平な円礫で、2153・2155は2面に磨面があり、2154は両面の他に、側縁の一部に平坦な磨面がみられる。2154の側縁の磨面以外はいずれも若干凸形に湾曲している。台石の類であろうか。

2156は砥石である。破片で、表面には線刻状のキズがあり、裏面は3分の1ほどが剥落している。

5 石製品・その他

(1)石製品 (第 四 図；写真図版2157～2180)

2157は楕円形状を呈し、深さ1mm、幅2mmの溝1条が長軸のみに1周する有溝石錘である。

2158・2159は不整な円礫のやや端に寄った位置に孔を持つ有孔石製品である。2159には縄掛かり様の痕跡が認められるが、2158にそれらしい痕跡は認められない。

2160～2163は1から4箇所凹を持つ礫であるが、凹み部の状況が2135等の凹石とは異なり、凹み部が棒状のもの等によって磨り凹められた様相を呈している。2161は石質が凝灰岩で、ほぼ同一の位置に表裏両面から磨り凹められており、穿孔途中の凹みの可能性も考えられる。2160～2163は有孔石製品の未製品としての可能性も捨てきれず、この項で取り上げた。

2164～2166は錘状を呈する石製品で、2164は角の内側部分に擦痕があり、2165は同様の部分を打ち欠いて整形している。2166は側縁部が研磨されたようにつるつるしている。

2167は筒状を呈し、縦に孔を持つ有孔石製品で、石錘の一種であろう。

2168～2172は円盤状石製品で、2168が約半分を欠損するほかは、完形品である。いずれも周縁部を打ち欠いてほぼ円形に整形している。

2173は石刀の破片である。刀身部の約半分と柄頭部分を欠失している。表面は全面を磨って整形している。刃まちは背の方が若干絞り込まれ、その背刃部分には1条の溝がある。長さは、残存部の値で刃まちは約6cm、刀身部は約10cmである。

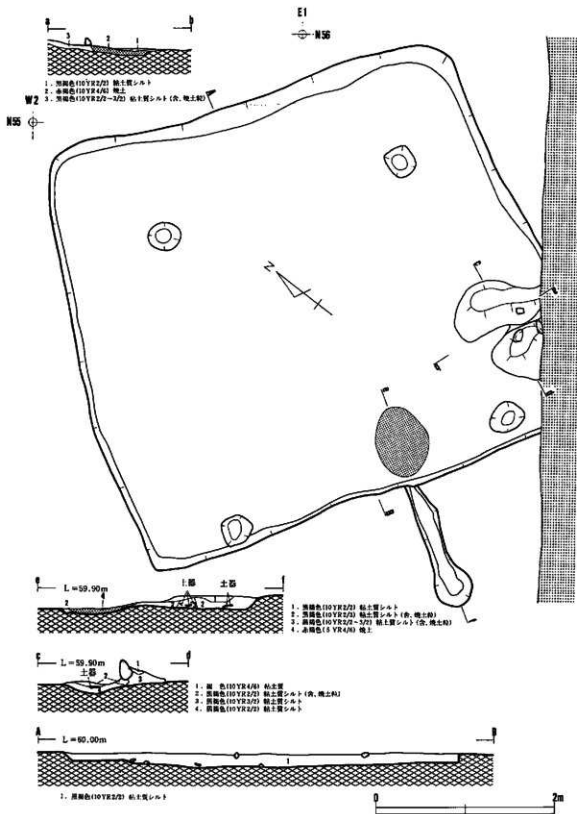
2174は石棒の一種と思われる。全面の約3分の2に研磨がみられる。2175は側縁部及び表裏面の一部に研磨されたようなつるつるな面がみられる。2176は半球状を呈し、磨きによって形状を整えている。2177は凹状に湾曲した面取りがなされ、側縁の稜部に敲打によるおもわれる痕が1箇所みられる。2175～2177の器種・用途等の詳細は不明である。

2178～2180は表面全体の5割から8割程を削りとられた礫である。2178の削りとられていない部分の表面は磨られたようになめらかである。

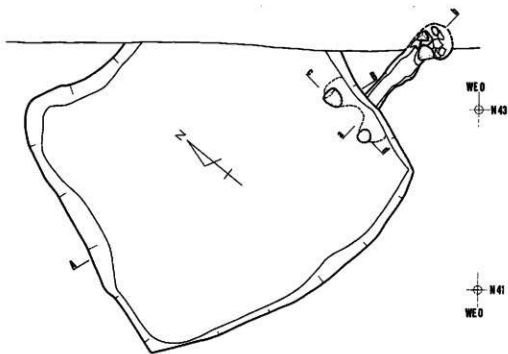
(2)鉄器

刀子3点、手鎌1点、鉄鎌ではないかと思われる経つ片2点が出土している。手鎌は3分の1程を欠損する。片方の目釘部分が残っており、背には木質部が若干付着する。2182の刀子は

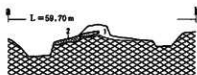
刀身の約2分の1を欠損する。他の2点は刀身から柄にかけの小破片である。2185・2186は両端を欠損し、断面形は方形である。



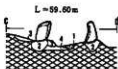
第8図 VD-1住居跡



1. 黒褐色(10YR3/1)シルト (金、河砂・炭屑・土粒等)
2. 褐色(10YR2/1)シルト (金、河砂)



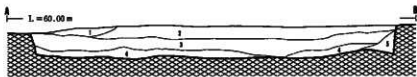
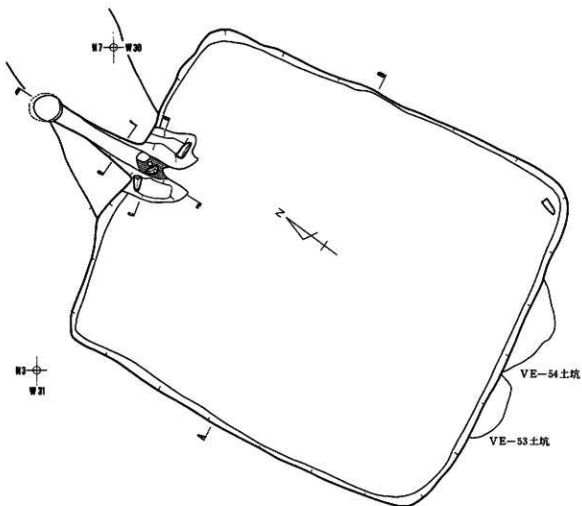
1. 黄褐色(10YR) 砂質シルト、硬質黄土
2. 暗赤褐色(5YR) 砂質シルト (金、焼土・炭化物)



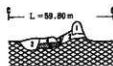
1. 赤褐色(5YR) 焼土
2. 黄褐色(10YR2/2) 焼土は盛り込んでつくられている
3. 暗赤褐色(5YR) 砂質シルト (河、焼土粒)



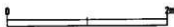
第9図 VD-2住居跡



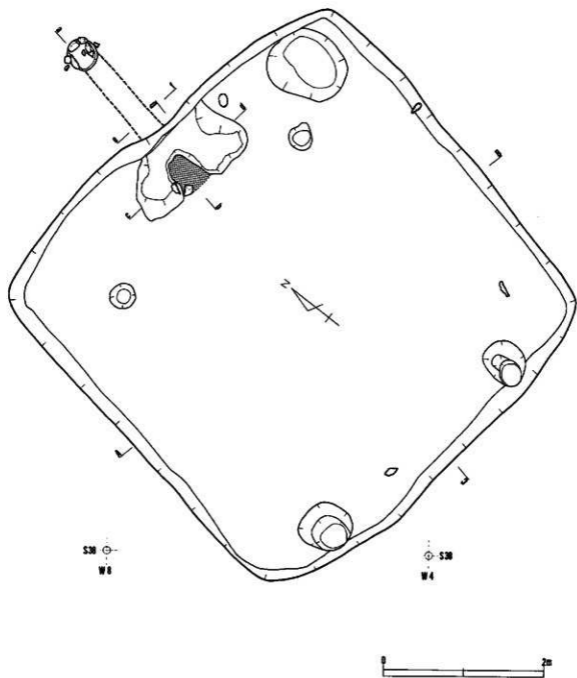
1. 黒褐色(10YR2/7) 砂質シルト (含、中礫)
2. 黒色(10YR2/1) シルト (含、赤山灰)
3. 黒褐色(10YR2/7) 粘土質シルト (含、暗褐色シルト・焼土・炭化物)
4. 黒褐色(10YR2/1) 粘土質シルト



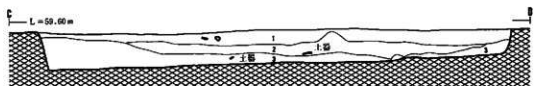
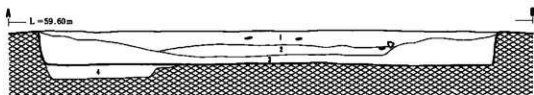
1. 黒色(10YR4/0) 砂質シルト (含、小礫)
2. 暗褐色(10YR2/3) シルト (炭、炭化物)
3. 暗赤褐色(5YR2/4) シルト (炭、焼土層)



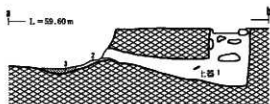
第10図 VE-1 住居跡



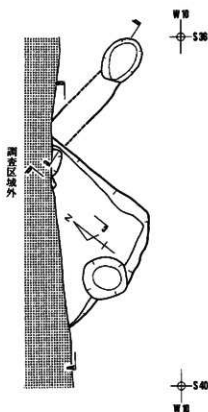
第11圖 VF-1 住居跡(1)



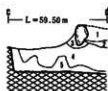
VF-1住
煙道断面



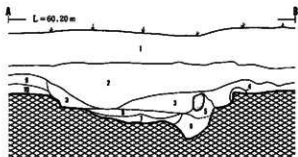
第12图 VF-1住居跡(2)



1. 赤褐色色(5 YR 6/0) 粘土質シルト (全、粘土層)
2. 暗赤褐色色(5 YR 2/2) 粘土質シルト (全、粘土層)
3. 黒褐色(5 YR 2/2) 粘土質シルト (全、粘土層)
4. 黒褐色(10 YR 2/1) 粘土質シルト (全、粘土層)
5. 黒褐色(10 YR 2/2) 粘土質シルト (全、小礫)



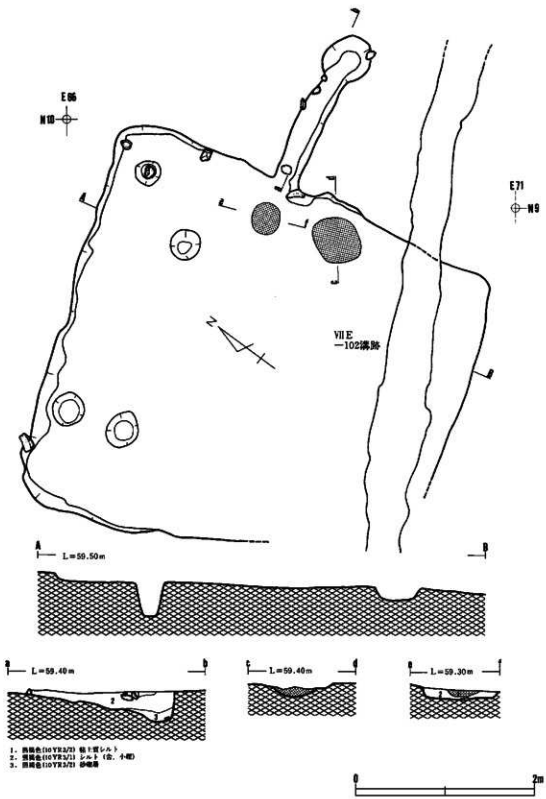
1. 暗赤褐色色(2.5 YR 2/2) 粘土質シルト (全、炭化物、焼土層)
2. 暗赤褐色色(2.5 YR 2/2) 粘土質シルト (全、粘土)
3. 赤褐色(5 YR 4/2) 粘土質シルト (全、粘土)
4. 黒褐色(10 YR 2/2) 砂質シルト (全、炭化物)



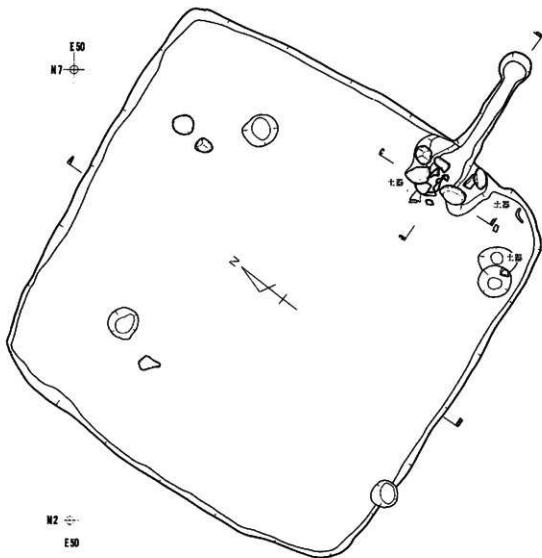
1. 黒褐色(10 YR 2/1) 砂質シルト
2. 黒褐色(10 YR 2/2) シルト (全、小礫)
3. 黒褐色(10 YR 2/2) シルト (全、粘土層・炭化物)
4. 黒色(10 YR 4/0) 粘状シルト
5. 黒色(10 YR 4/4) 砂質シルト (全、小礫)
6. 黒褐色(10 YR 2/2) 砂質シルト (全、炭化物)



第13図 VF-2 住居跡

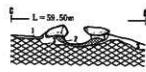


第14図 VII E-1 住居跡



1. 当層色(10YR2/3) 粘土質シルト (含、片礫)
2. 当層色(10YR2/3) シルト (含、焼土層)
3. 母層色(10YR2/3) 粘土質シルト (含、焼土層・灰化物)

1. 当層色(10YR2/3) 砂質シルト (含、灰化物・焼土層)

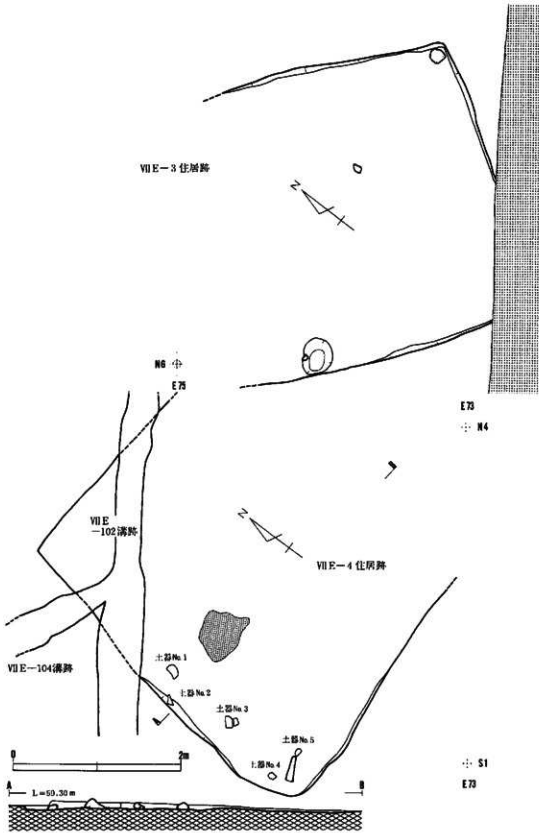


1. 当層色(10YR2/3) 粘土質シルト (含、焼土層)
2. 母層色(2YR3/3) 粘土質シルト (含、焼土層)
3. 母層色(7.5YR2/2) 粘土質シルト (含、焼土層)



第15図 VII E-2 住居跡

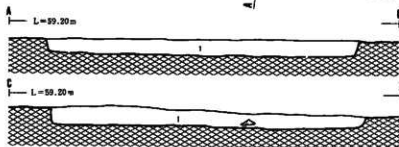
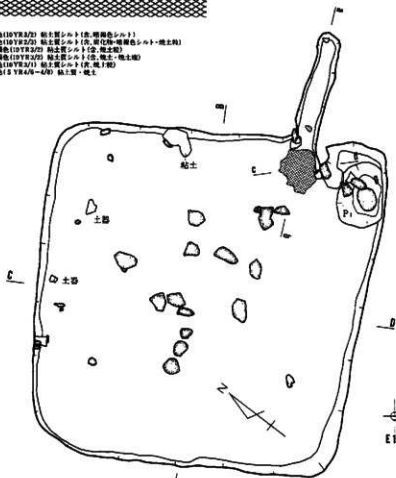
調査区域外



第16図 VII E-3・4 住居跡



1. 黒褐色(10YR2/2) 粘土質シルト(含、暗褐色シルト)
2. 黒褐色(10YR2/3) 粘土質シルト(含、炭化物・暗褐色シルト・焼土粒)
3. 暗赤褐色(10YR2/2) 粘土質シルト(含、焼土粒)
4. 暗赤褐色(10YR2/2) 粘土質シルト(含、焼土・焼土塊)
5. 黄褐色(10YR2/1) 粘土質シルト(含、焼土粒)
6. 赤褐色(5YR4/0-4/0) 粘土質・焼土



1. 黒褐色(10YR2/2) 粘土質シルト(含、暗褐色シルト)

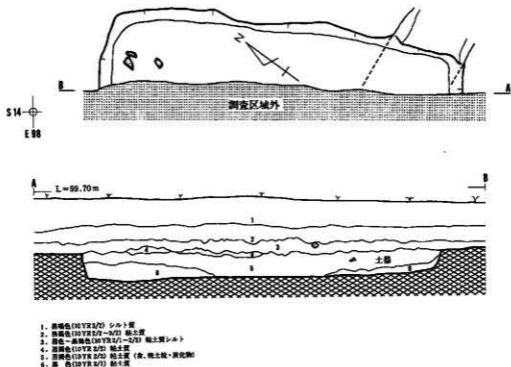


- 1a. 暗赤褐色(5YR5/0) 粘土質・焼土
- 1b. 赤褐色(5YR4/0-4/0) 粘土質・焼土
2. 暗褐色(10YR2/2) 粘土質(含、炭化物)
3. 黒褐色(7.5YR2/2) シルト質(含、炭化物・焼土粒)
4. 暗褐色(10YR3/2) 粘土質

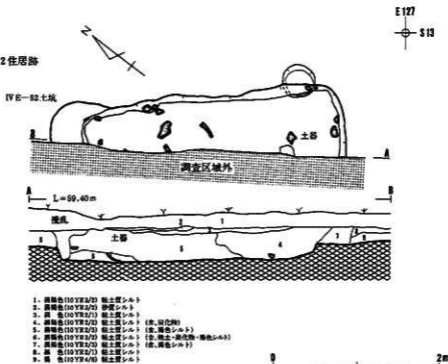


第20図 VIII E-4 住居跡

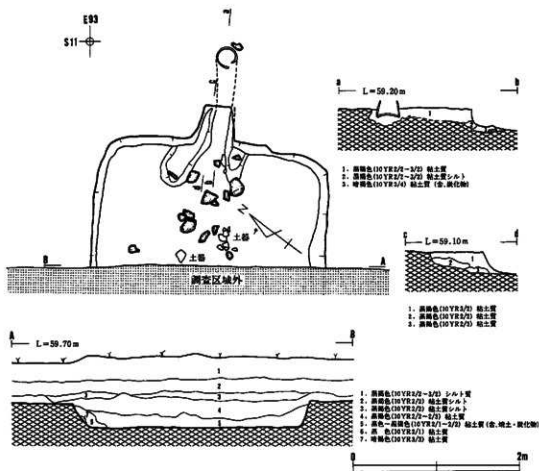
VIE-6 住居跡



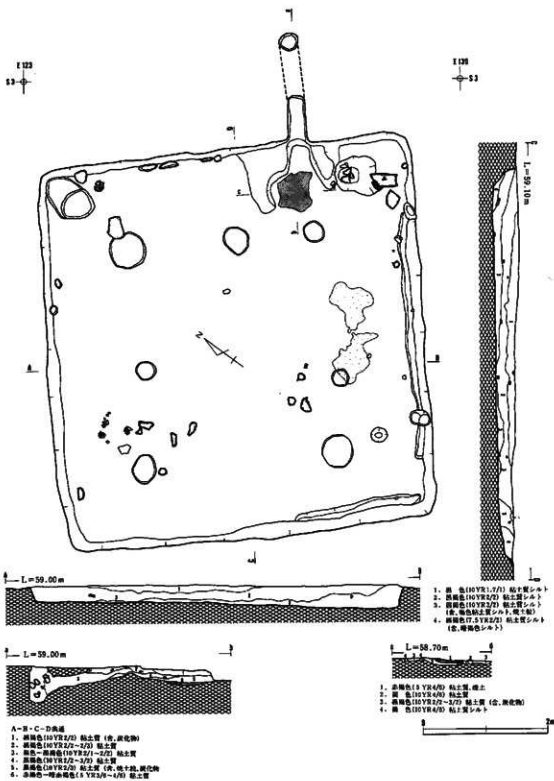
IXE-2 住居跡



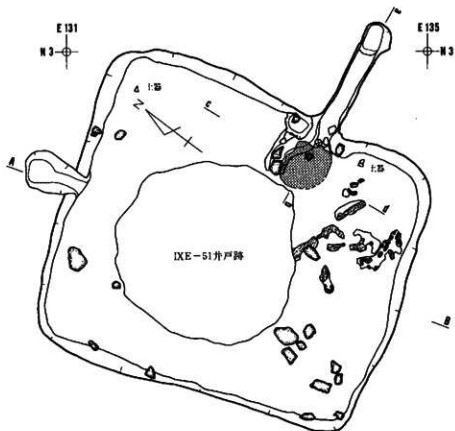
第21図 VIE-6・IXE-2 住居跡



第22図 VIII E-7 住居跡

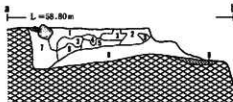


第23図 IXE-1 住居跡



IXE-51井戸跡

1. 深褐色(10YR2/3) 粘土質シルト
2. 深褐色(10YR3/2) 粘土質シルト (含、褐色シルト・粘土質)
3. 暗褐色(7.5YR2/3) 粘土質シルト (含、灰化層・焼土塊・炭)
4. 深褐色(7.5YR2/2) 粘土質シルト (含、褐色シルト・灰化層)
5. 深褐色(10YR2/2) 粘土質シルト (含、褐色シルト)



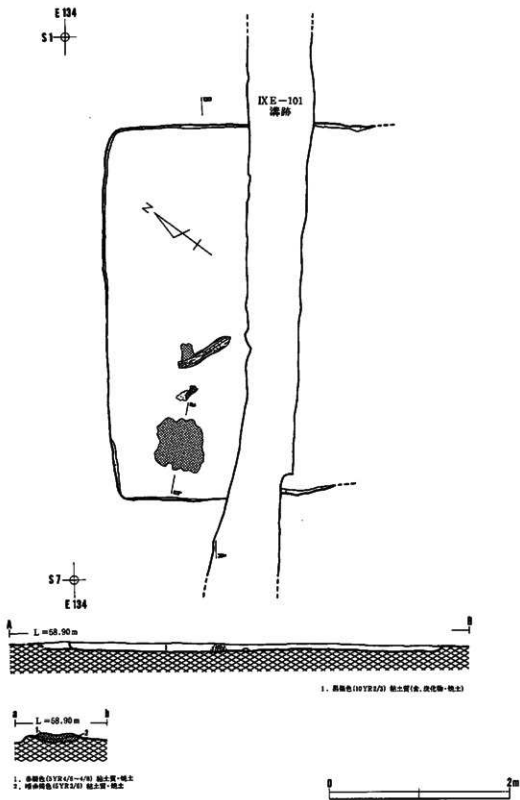
1. 深褐色(10YR2/2-3/2) 粘土質 (含、灰化層)
2. 深褐色(10YR2/2) 粘土質
3. 赤色-黒褐色(10YR2/1-2/3) シルト質
4. 深褐色(10YR2/3) シルト質
5. 深褐色(10YR2/2-3/2) 粘土質
6. 暗褐色(10YR2/2) 粘土質 (含、灰化層)
7. 深褐色(10YR2/2) シルト質
8. 深褐色-暗褐色(10YR2/2-3/3) シルト質
9. 深褐色(10YR4/6) 焼土



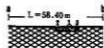
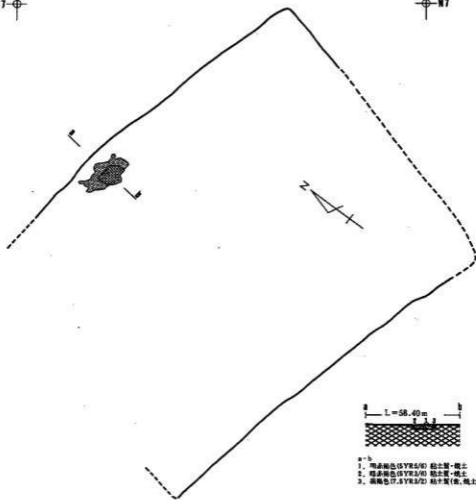
1. 赤褐色(5YR4/3) 粘土質・焼土
2. 深褐色-暗褐色(10YR2/2-3/2) 粘土質 (含、焼土粒・炭化物)



第25図 IXE-3 住居跡・IXE-51井戸跡



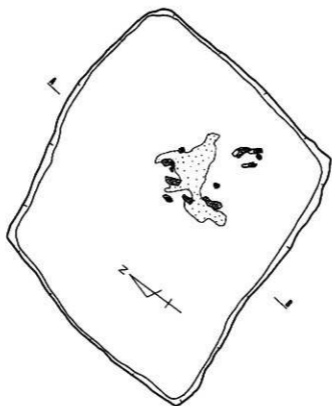
第26図 IXE-4 住居跡



- a-b
1. 用赤褐色(SYR5/0) 粘土質・焼土
 2. 用赤褐色(SYR2/0) 粘土質・焼土
 3. 用褐色(T.SYR3/2) 粘土質(赤・焼土)



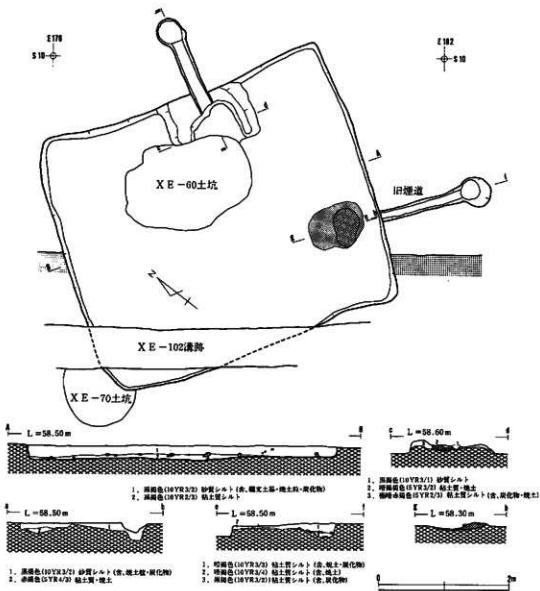
第28図 IXE-10住居跡



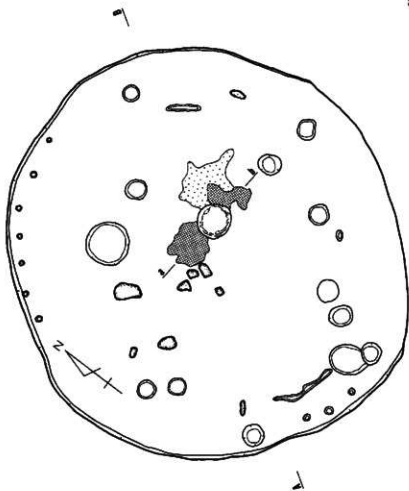
1. 瓦礫色(10YR2/2) 粘土質シルト (黄、粘土・炭化物・暗褐色シルト)



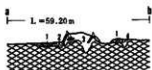
第29図 IXE-11住居跡



第30図 XE-2 住居跡



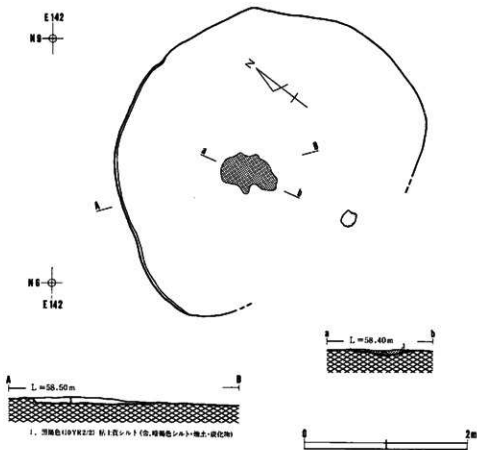
1. 赤褐色(10YR2/2) 粘土質シルト (赤、粘土質-炭化物)



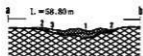
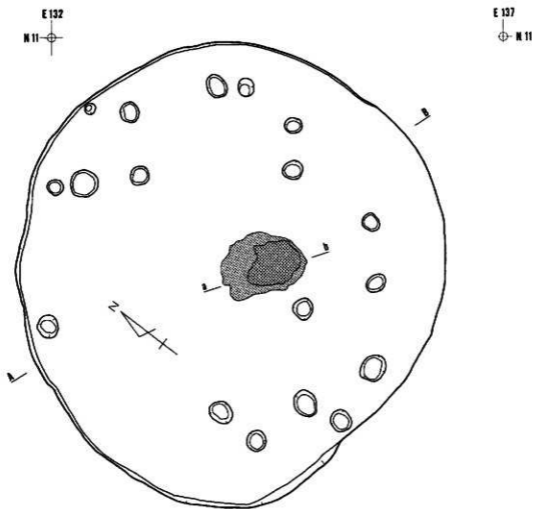
1. 赤褐色(10YR4/0) 粘土質-粘土
2. 赤赤褐色(10YR3/2) 粘土質-粘土
3. 赤色-赤褐色(10YR2/2-2/2) 粘土質 (赤、炭化物)
4. 赤褐色(10YR2/2) 粘土質 (赤、粘土)



第31岡 VII E-5 住居跡



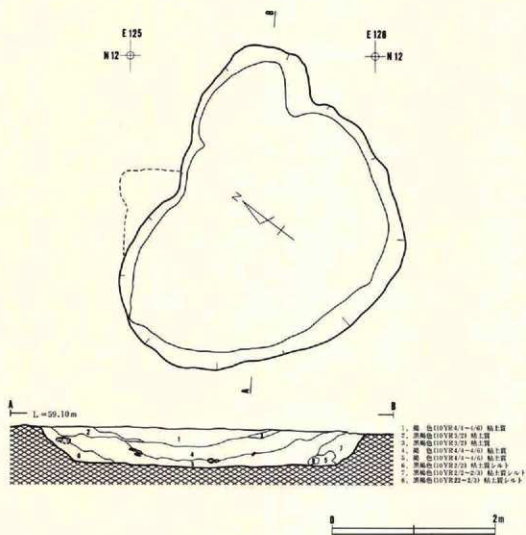
第32図 IXE-6 住居跡



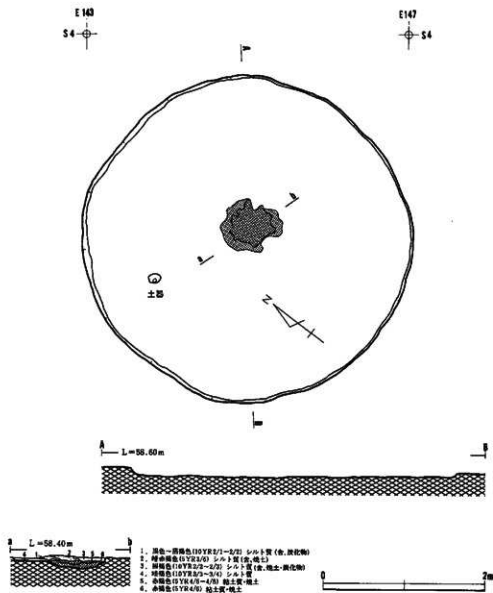
1. 赤褐色(YR4-3) 粘土質・硬土
2. 暗赤褐色(YR3-6) 粘土質・硬土
3. 灰褐色(7.5YR3) 砂→粘



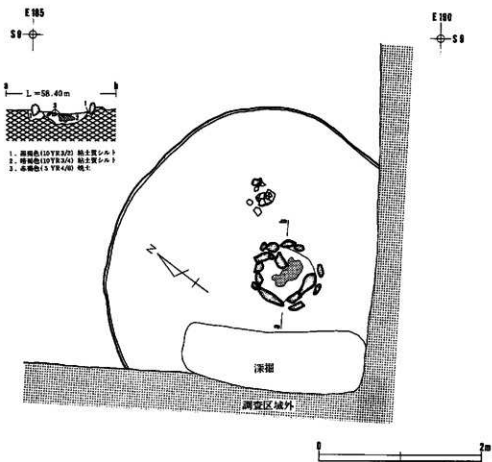
第33圖 IXE-7 住居跡



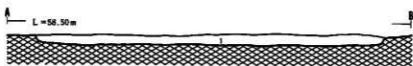
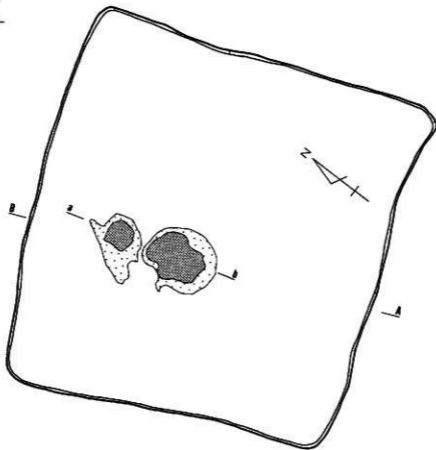
第34図 IXE-8 住居跡状遺構



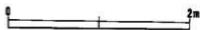
第35図 IXE-12住居跡



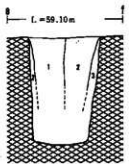
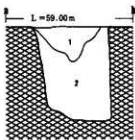
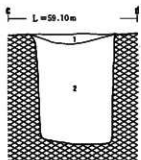
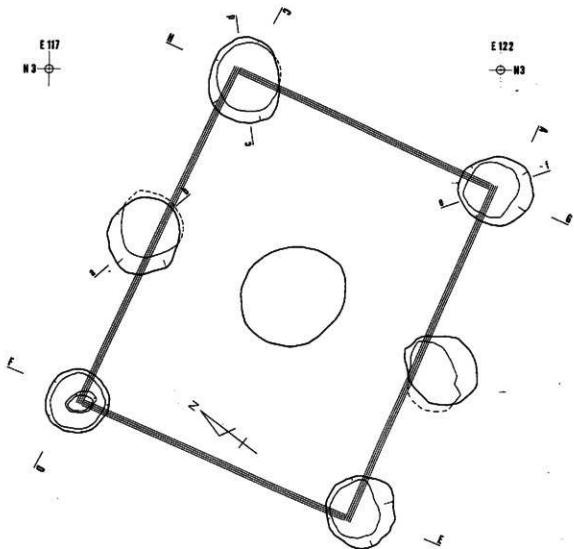
第36図 XE-1 住居跡



1. 薄褐色(10YR3/2) 粘上質シルト (炭素化腐-炭化腐-粘土層)



第37図 XE-3 住居跡



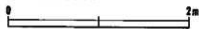
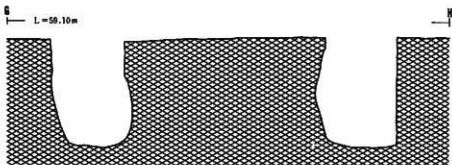
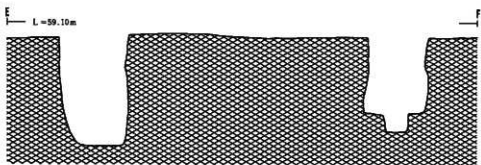
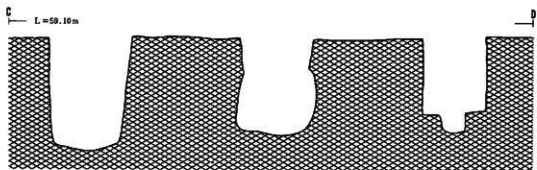
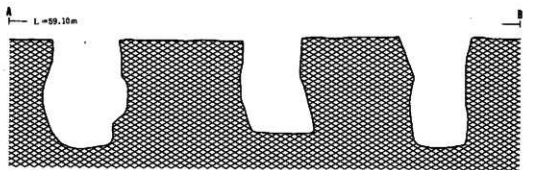
- 1. 青色-黒褐色(10YR2/1-2/2) 粘土質シルト(含、砂礫)
- 2. 黒褐色(10YR2/2-3/2) 粘土質シルト(含、砂礫)

- 1. 青色-黒褐色(10YR2/1-2/2) 粘土質シルト(含、砂礫)
- 2. 黒褐色(10YR2/2-3/2) 粘土質シルト(含、砂礫)

- 1. 青色-黒褐色(10YR2/1-2/2) 粘土質シルト(含、砂礫)
- 2. 黒褐色(10YR2/2) 粘土質シルト(含、砂礫)
- 3. 黒褐色(10YR2/2) 粘土質シルト(含、砂礫)

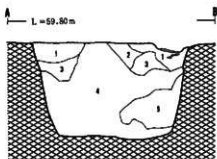
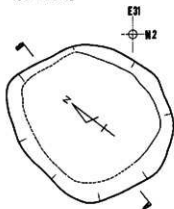


第38図 VII E-201掘立柱建物跡(1)



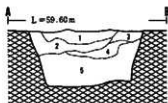
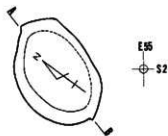
第39圖 VII E-201 掘立柱建物跡(2)

VIE-51土坑



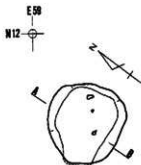
1. 黄褐色(10YR2/2) 砂礫層(赤、黄褐色砂礫)
2. 黄褐色(10YR2/3) 粘土質シルト(赤、黄)
3. 黄褐色(10YR2/1) 砂礫と粘土
4. 黄褐色(10YR2/1) 粘土質シルト
5. 黄褐色(10YR2/2) 砂礫層

VIE-51土坑



1. 黄褐色(10YR3/2) 砂礫層
2. 黄褐色(10YR2/3) 砂質シルト(赤、砂礫・炭化物)
3. 黄褐色(10YR3/1) 砂礫層
4. 黄褐色(7.5YR2/1) 砂礫層
5. 黄褐色(7.5YR3/2) 黄礫(赤、黄礫)

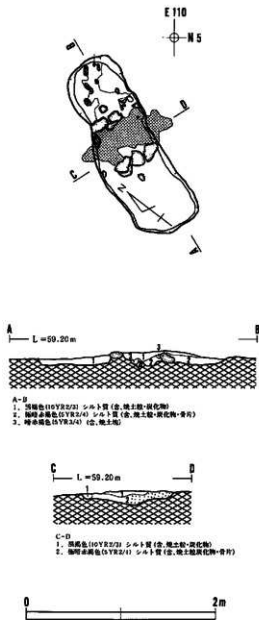
VIE-52土坑



1. 黄褐色(10YR2/2) 粘土質シルト(赤、炭化物・粘土質)
2. 黄褐色(10YR2/2) 砂礫層(赤、砂礫)

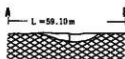
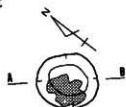


第40図 VIE-51、VIE-51・52土坑



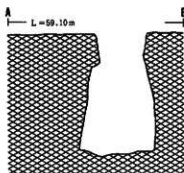
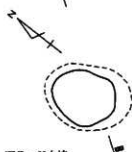
第41図 YME-51火葬墓

VME-52土坑

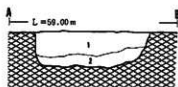
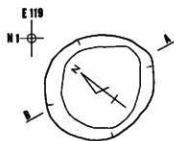


1. 暗赤褐色(10YR2/2) 粘土質シルト(常,炭化層)

VME-61土坑

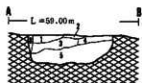
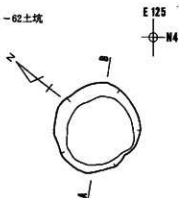


VME-62土坑



1. 黄褐色(10YR2/2) 粘土層(常,炭化層)
2. 黄褐色(10YR3/2) 粘土質(常,炭化層)

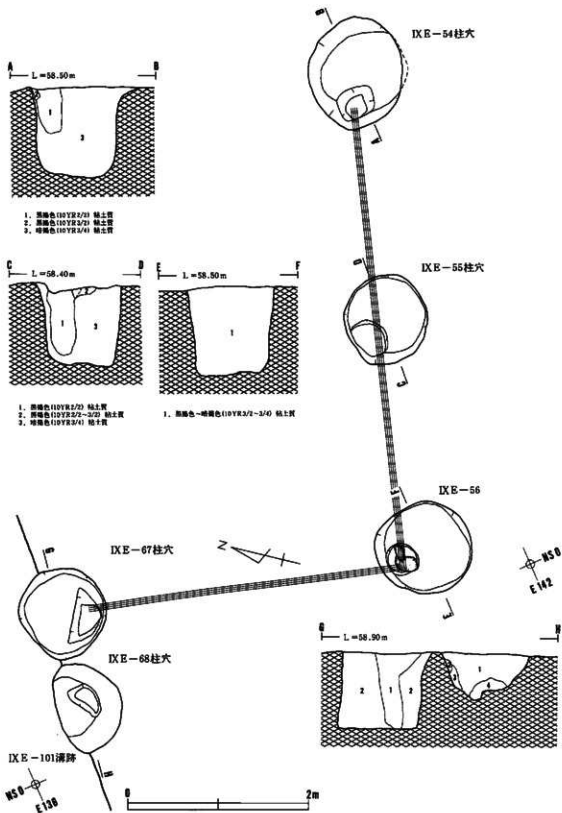
IXE-62土坑



1. 黄褐色-暗褐色(10YR2/1-2/2) 粘土質シルト(常,炭化層)
2. 黄褐色(10YR2/2) 粘土質シルト
3. 黄褐色(10YR2/2) 粘土質シルト(常,炭化層)
4. 黄褐色-暗褐色(10YR2/1-2/2) 粘土質シルト
5. 黄褐色(10YR2/2) 粘土質シルト(常,炭化層)
6. 深褐色(10YR2/2) 粘土質シルト

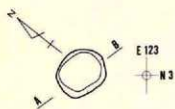


第42図 VME-52・61・62、IXE-62土坑

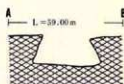
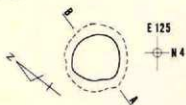


第43圖 IXE區柱穴列 (IXE-54·55·56·67柱穴)、IXE-68柱穴

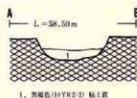
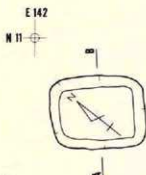
IXE-63土坑



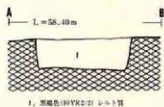
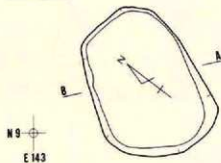
IXE-64土坑



IXE-65土坑

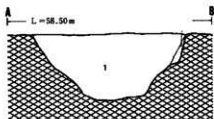
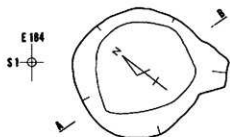


IXE-66土坑



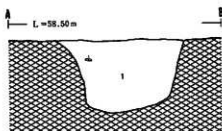
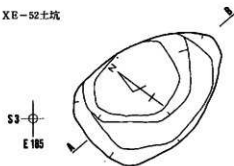
第44图 IXE-63·64·65·66土坑

XE-51土坑



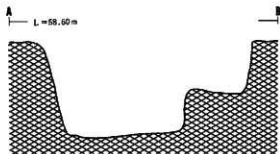
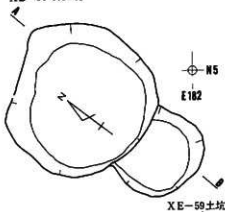
1. 深褐色砂礫層 (10YR2/2)

XE-52土坑



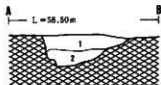
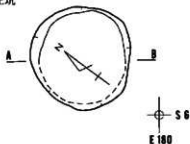
1. 深褐色砂礫層 (10YR2/2)

XE-54・59土坑



XE-59土坑

XE-58土坑

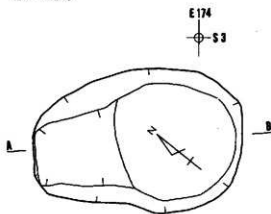


1. 深褐色 (10YR2/3) 粘土質シルト (含炭化物、焼土塊、碎褐色、粘土質シルト)
2. 暗褐色 (10YR3/4) 粘土質シルト (含深褐色シルト、磁化物)

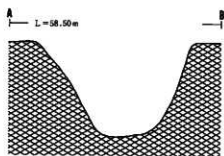
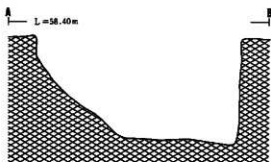
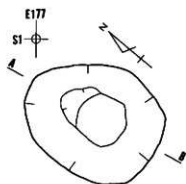


第45図 XE-51・52・54・58・59土坑

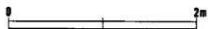
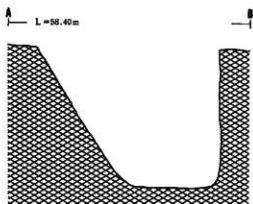
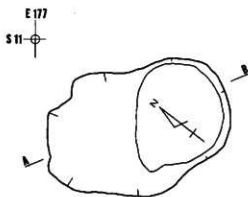
XE-55土坑



XE-63土坑

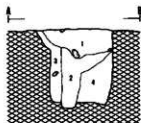
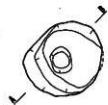


XE-60土坑



第46图 XE-55·60·63土坑

XE-53柱穴



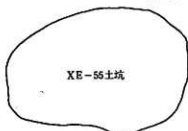
E178
S1



XE-56柱穴



1. 暗褐色(10YR2/2) 砂質シルト(赤、褐色シルト)
2. 褐色(10YR4/3) 或褐色(10YR4/6) 粘土質シルトの混合土
3. 暗褐色(10YR3/2) 粘土質シルト(赤、暗褐色シルト)
4. 黒色(10YR4/4) 粘土シルト(赤、暗褐色粘土質シルト)



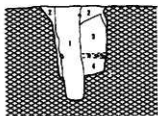
XE-61柱穴



XE-57柱穴



L=58.50m



L=58.50m



XE-62土坑



E178
S7

1. 暗褐色(10YR3/4) 粘土質シルト(赤、褐色、砂化物)
2. 黒色(10YR4/6) 砂質シルト(暗褐色シルト)少量混じる

1. 暗褐色(10YR3/0) 砂質シルト(赤、砂化物-粘土)
2. 暗褐色粘土質シルト(10YR3/4) 或褐色シルト(10YR4/6) 砂質シルトの混合土
3. 暗褐色(10YR3/2) 粘土質シルト(赤、砂化物-粘土)
4. 黒色(10YR4/0) 粘土質シルト(赤、暗褐色シルト)

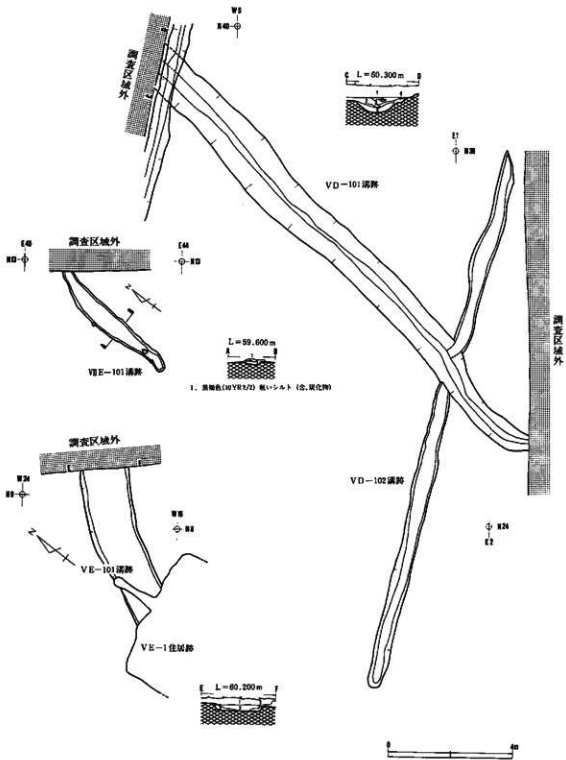
2m



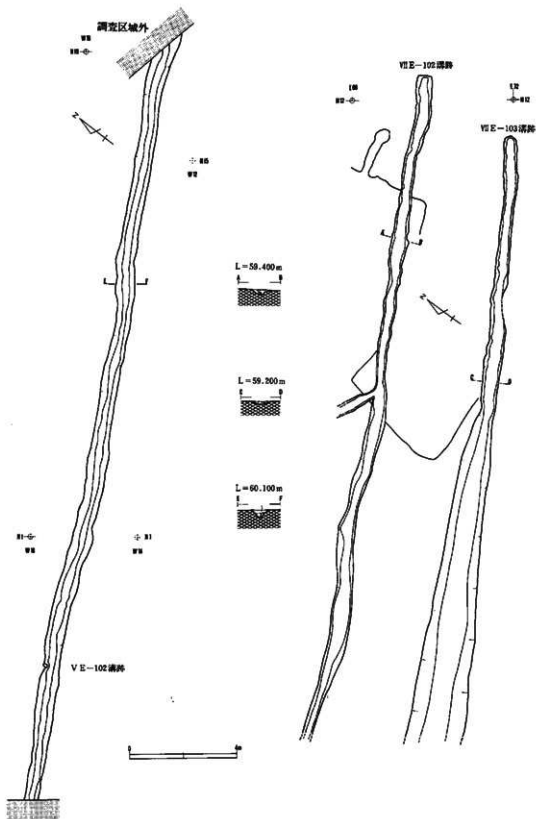
L=58.50m



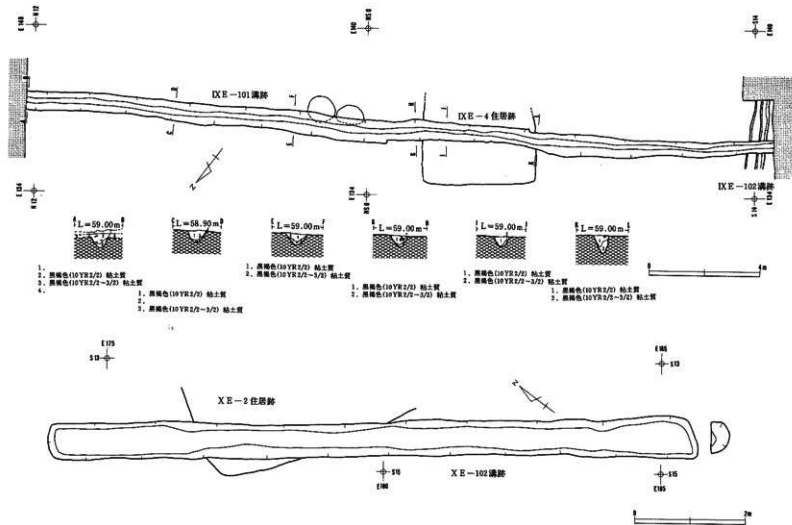
第47図 XE区柱穴列(XE-53・56・57・61柱穴)、XE-62土坑



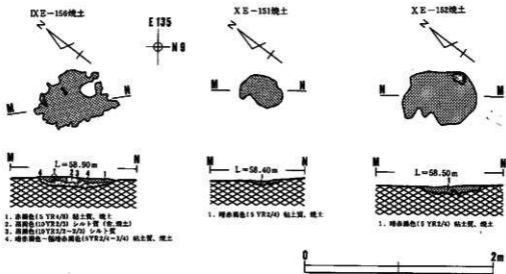
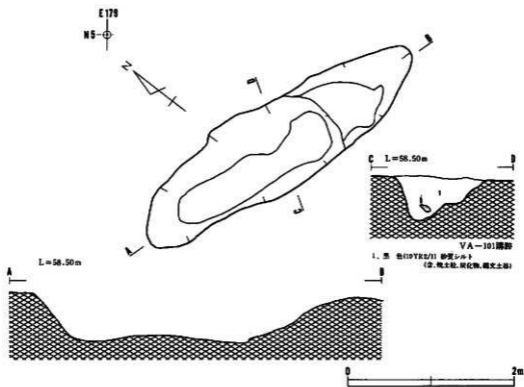
第50図 VD-101・102・VE-101・VIE-101溝跡



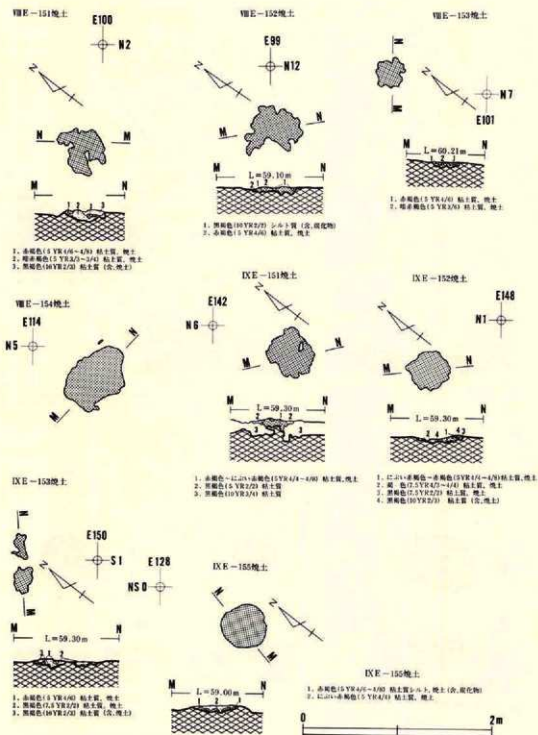
第51图 VE-102·VII E-102·103沟跡



第52圖 IXE-101・102・XE-102溝跡



第53図 XE-64土坑・焼土遺構(1)



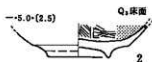
第54圖 燒土遺構(2)

VD-1 住居跡(1)(1-10)

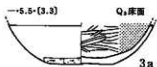
14.8---(4.8)



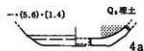
1



2



3a



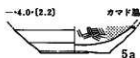
4a



3b



4b



5a



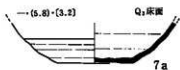
6a



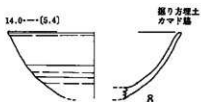
5b



6b



7a



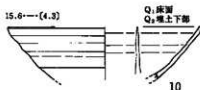
8



7b



9a



10

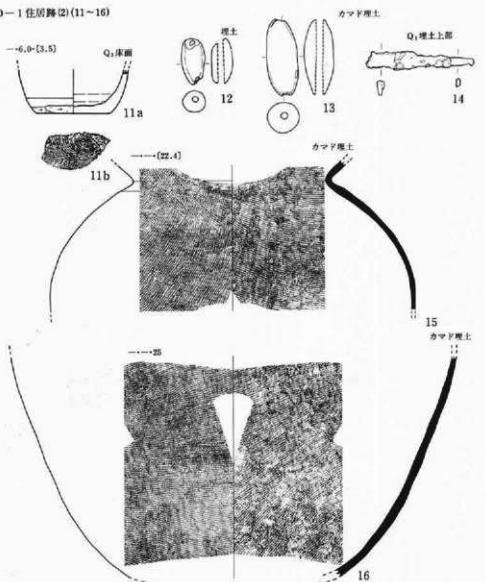


9b

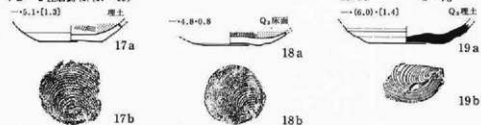
S = 1/2

第57図 VD-1 住居跡出土遺物(1)

VD-1 住居跡(2) (11~16)

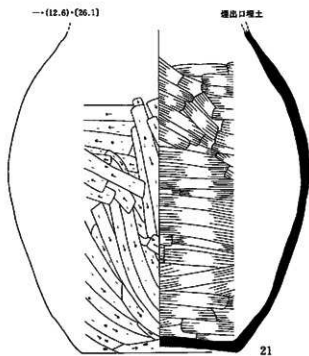
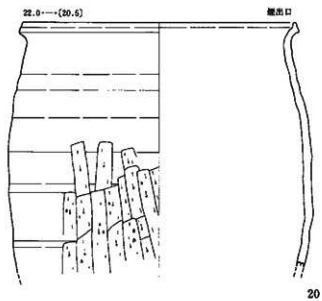


VD-2 住居跡(1) (17~19)



第58図 VD-1 (2)・2 (1)住居跡出土遺物

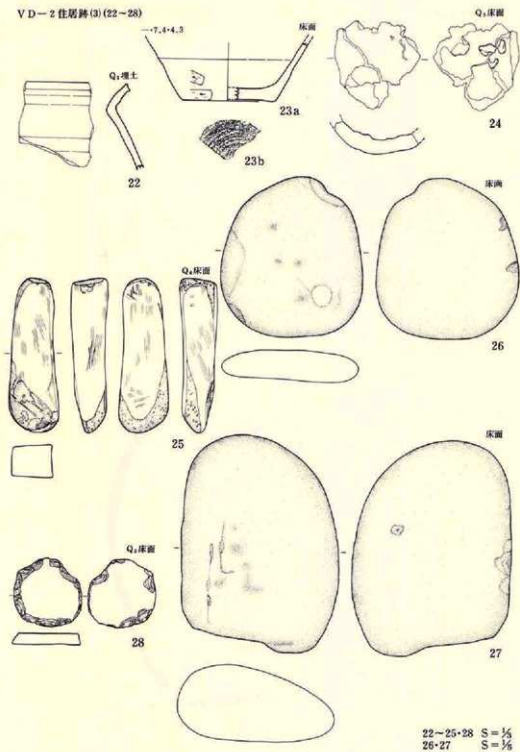
VD-2 住居跡(2)(20・21)



S=1/4

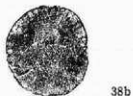
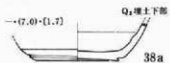
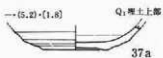
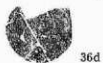
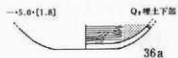
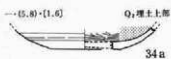
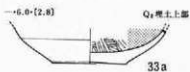
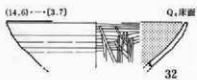
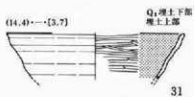
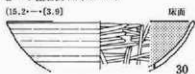
第59図 VD-2 住居跡出土遺物(2)

VD-2 住居跡(3) (22-28)



第60図 VD-2住居跡出土遺物(3)

VE-1 住居跡(1)(30-38)

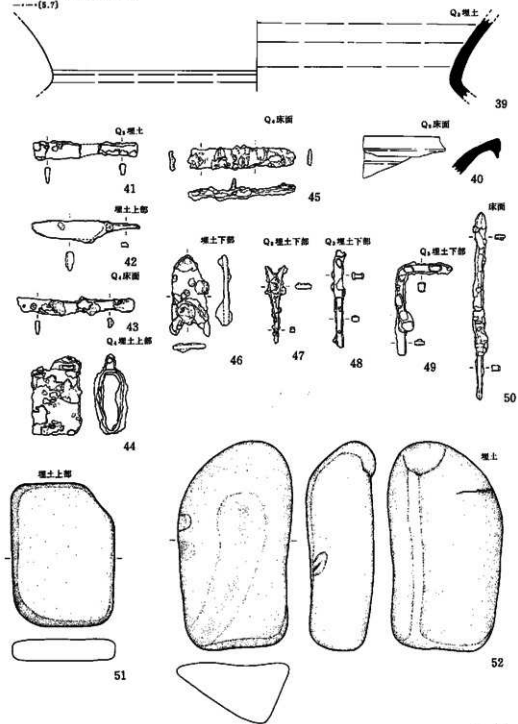


S=1/6

第61图 VE-1 住居跡出土遺物(1)

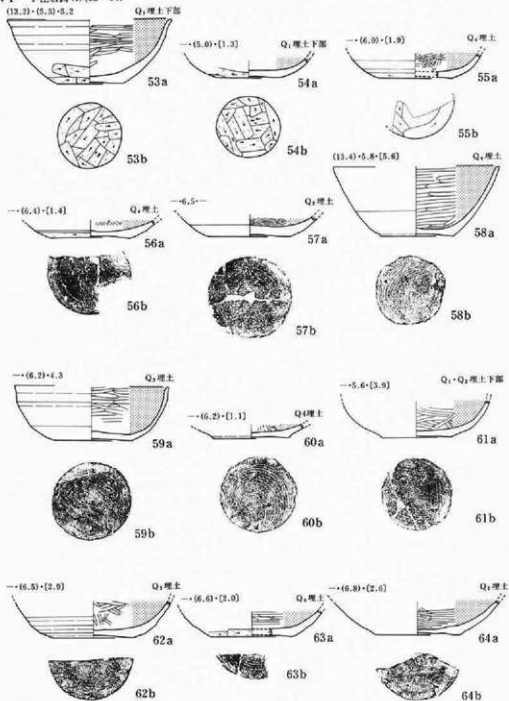
VE-1 住居跡(2) (39~52)

---(S.7)



第62図 VE-1 住居跡出土遺物(2)

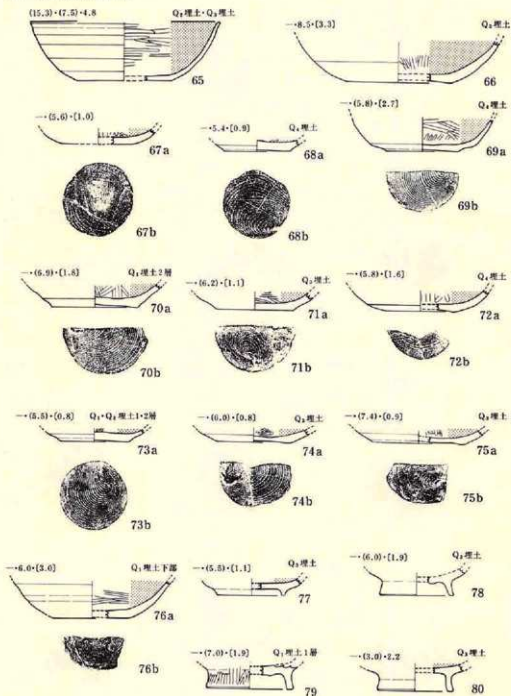
VF-1 住居跡(I) (53-64)



S = 1/4

第63図 VF-1 住居跡出土遺物(I)

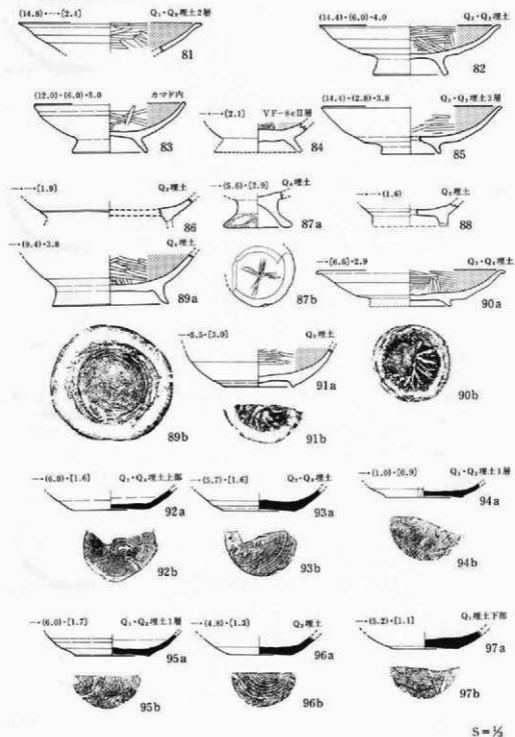
VF-1 住居跡(2) (65-80)



S = 1/6

第64图 VF-1 住居跡出土遺物(2)

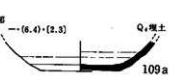
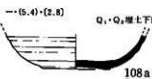
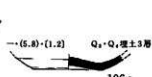
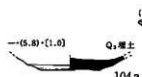
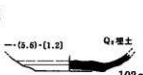
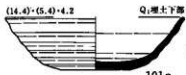
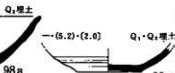
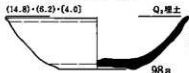
VF-1住居跡(3)(81-97)



第65図 VF-1住居跡出土遺物(3)

VF-1 住居跡(4) (98~109)

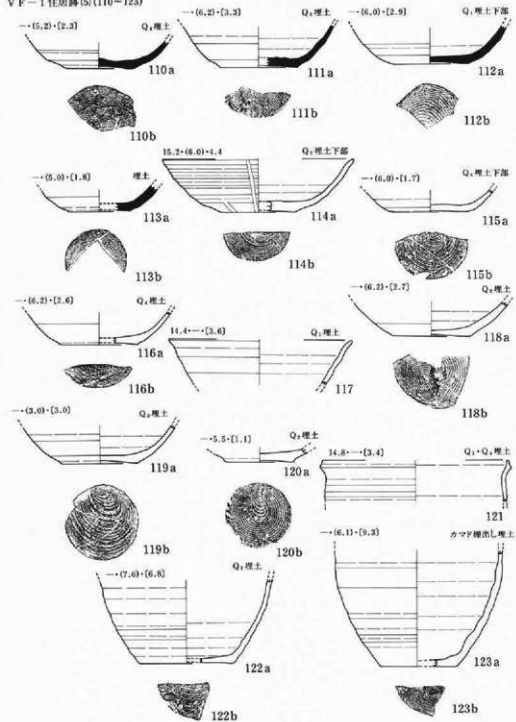
(14.8)・(6.2)・(4.0)



S = 1/4

第66圖 VF-1 住居跡出土遺物(4)

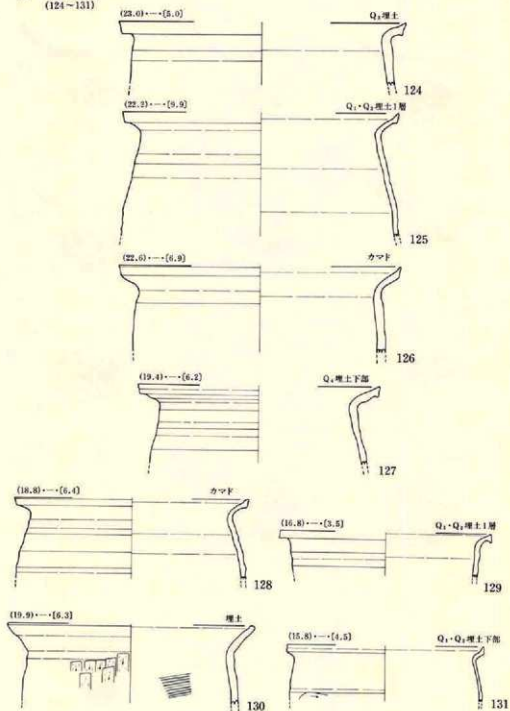
VF-1 住居跡(5)(110-123)



S = $\frac{1}{2}$

第67図 VF-1 住居跡出土遺物(5)

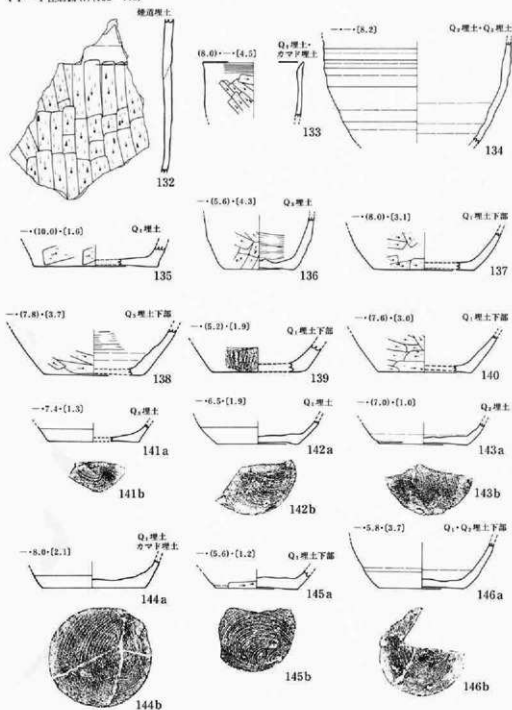
VF-1 住居跡(6)
(124~131)



S = 1/2

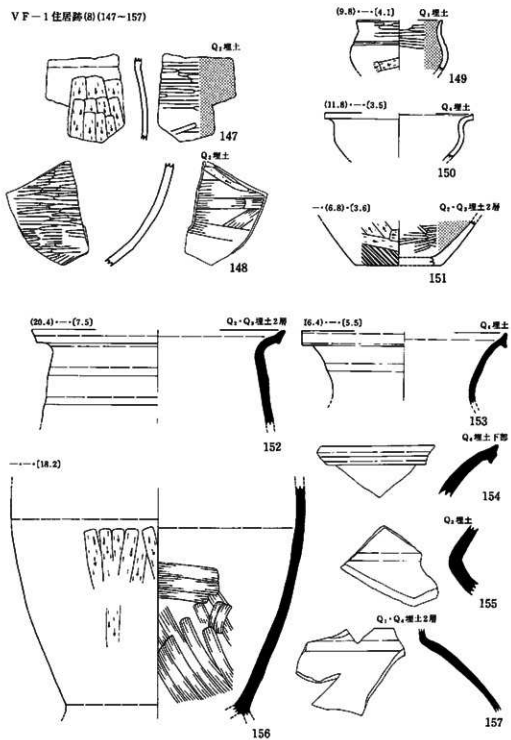
第68図 VF-1 住居跡出土遺物(6)

VF-1 住居跡(7)(132-146)



第69図 VF-1 住居跡出土遺物(7)

VF-1 住居跡(8)(147-157)

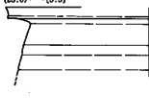


S = 1/4

第70図 VF-1 住居跡出土遺物(8)

VF-1 住居跡(9)(158~166)

(23.0)---(5.5)



158

159

---(6.5)



Q₁埋土下部



161



Q₁埋土



162

---(13.8)



Q₁埋土



163



Q₁埋土



164

---(6.0)・(2.7)

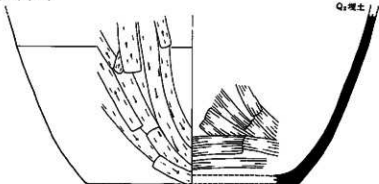


Q₁・Q₂埋土2層



165

---(17.0)・(13.7)



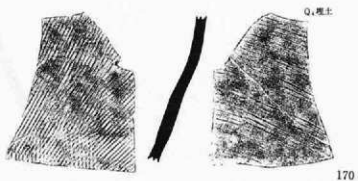
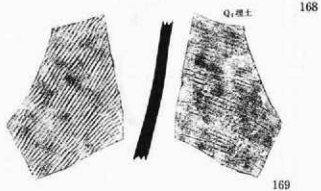
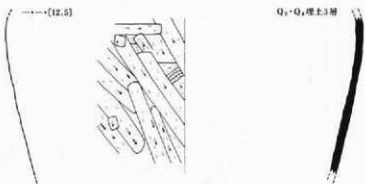
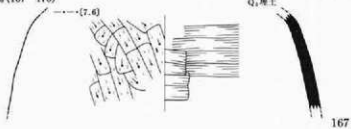
Q₁埋土

166

S=1/2

第71図 VF-1 住居跡出土遺物(9)

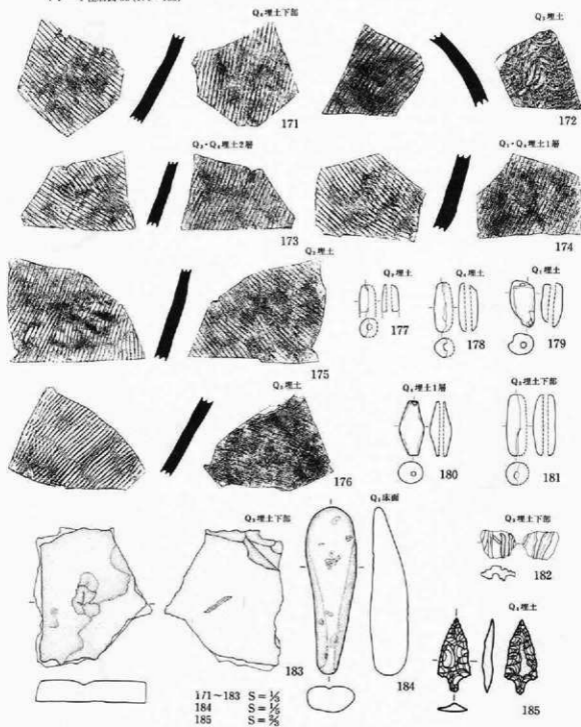
VF-1 住居跡00 (167-170)



S = 1/5

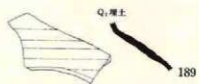
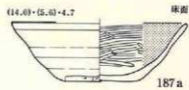
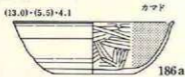
第72図 VF-1 住居跡出土遺物00

VF-1 住居跡00 (171-185)

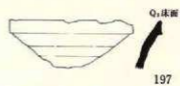
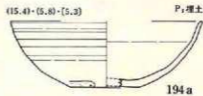
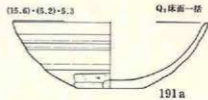
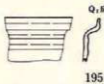
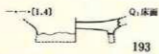
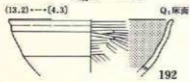


第73図 VF-1 住居跡出土遺物(II)

VF-2 住居跡(186~189)



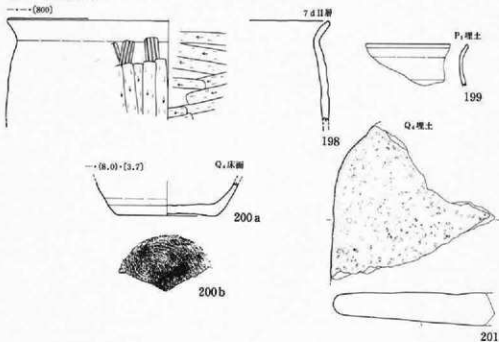
VIE-1 住居跡(1)(190~197)



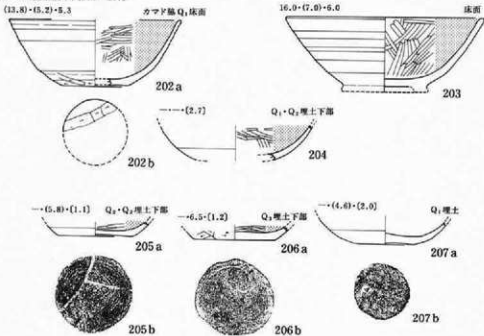
S = 1/2

第74図 VF-2・VIE-1(1)住居跡出土遺物

VII E-1 住居跡(2)(198-201)



VII E-2 住居跡(1)(202-207)



S = 1/4

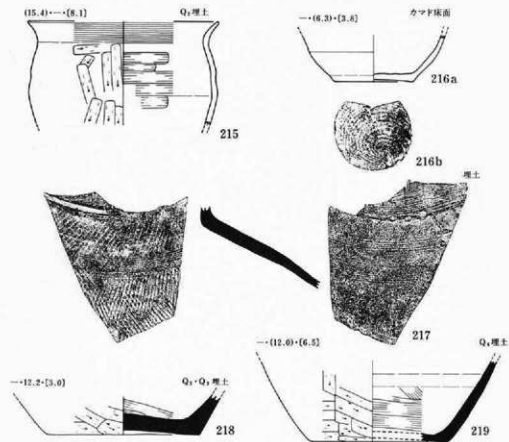
第75図 VII E-1(2)・2(1)住居跡出土遺物

VIE-2 住居跡(2) (209~214)

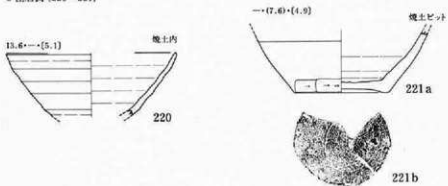


第76図 VIE-2 住居跡出土遺物(2)

VIE-2 住居跡(3)(215-219)



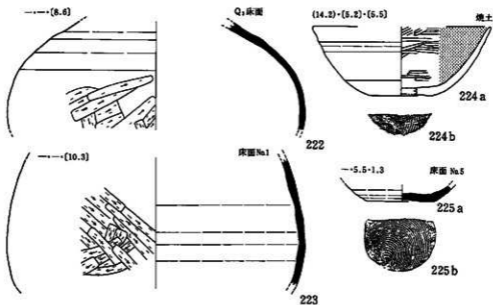
VIE-3 住居跡(220・221)



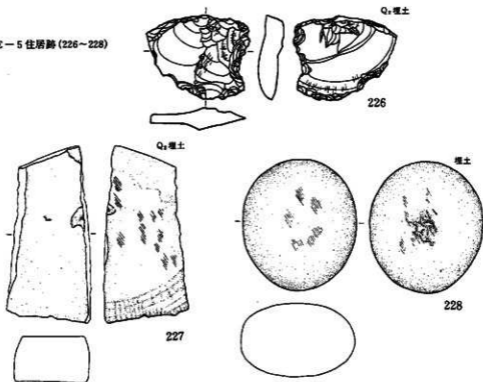
S = 1/4

第77図 VIE-2(3)・3住居跡出土遺物

VII E-4 住居跡(222~225)



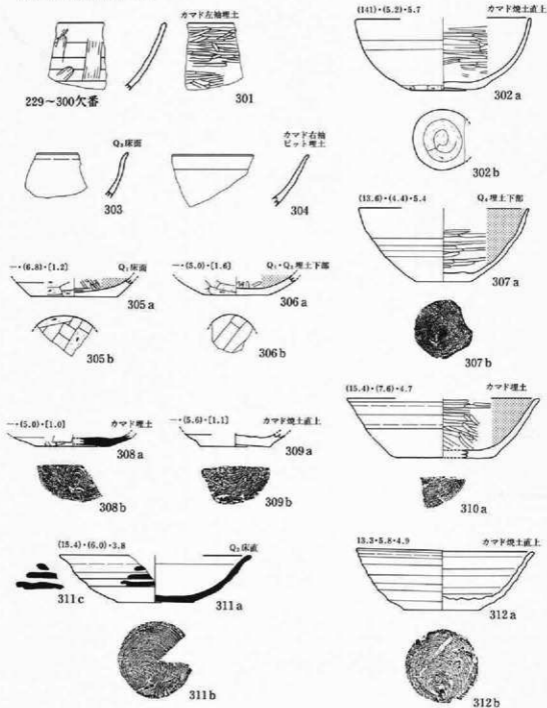
VIE-5 住居跡(226~228)



222~225・227・228 S = 1/2
226 S = 1/4

第78図 VII E-4・5 住居跡出土遺物

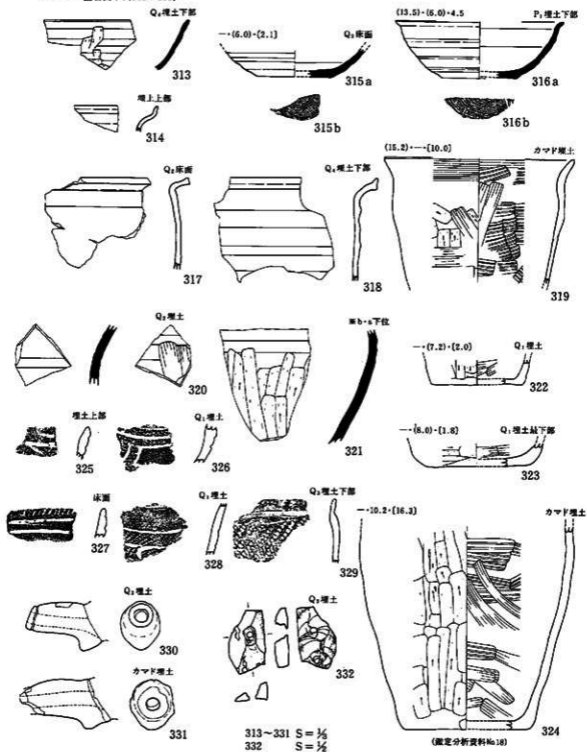
ⅧE-1 住居跡(1)(301-312)



S = 1/4

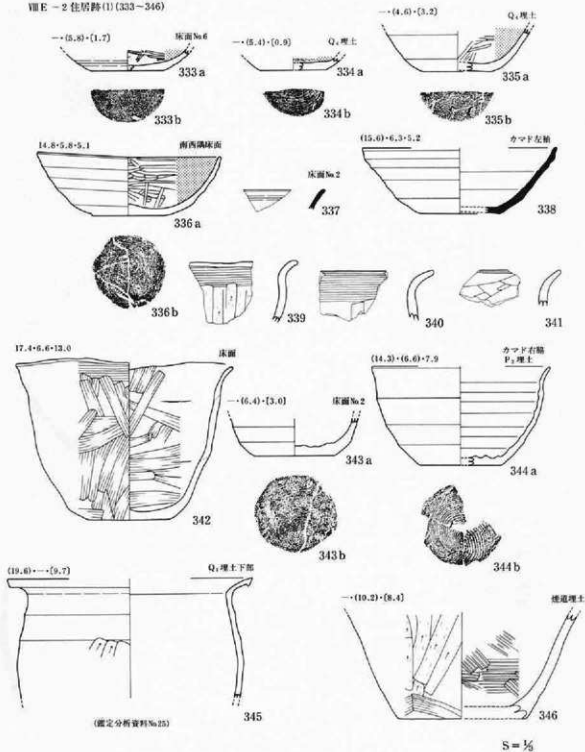
第79図 ⅧE-1 住居跡出土遺物(1)

ⅧE-1 住居跡(2) (313-332)



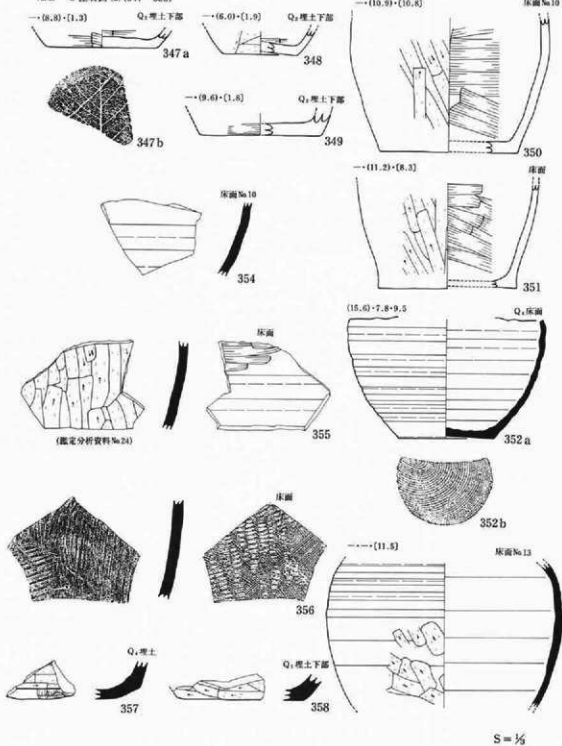
第80図 ⅧE-1 住居跡出土遺物(2)

VII E-2 住居跡(1) (333-346)



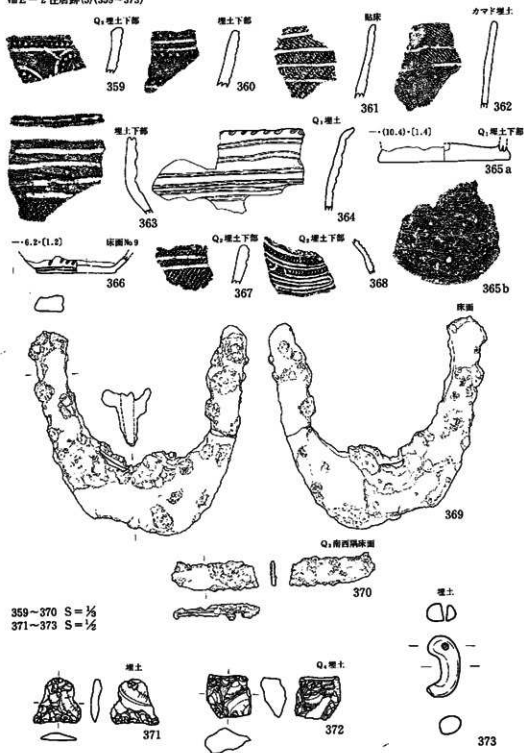
第81図 VII E-2 住居跡出土遺物(1)

VII E-2 住居跡(2)(347-358)

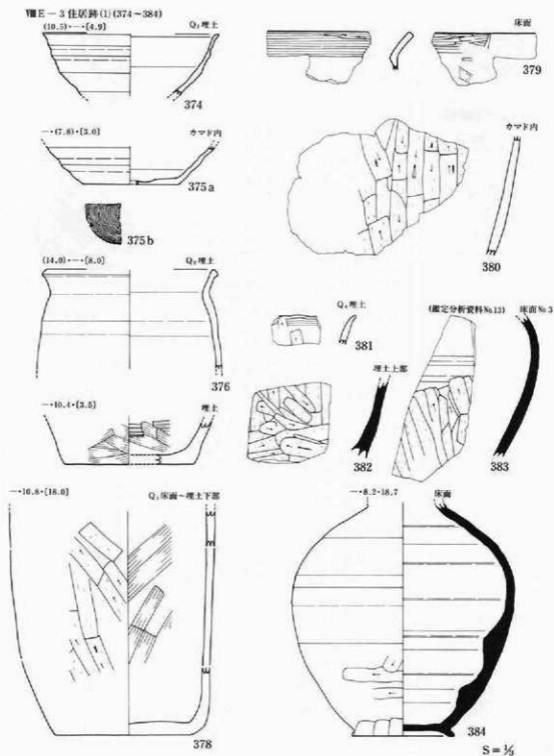


第82圖 VII E-2 住居跡出土遺物(2)

VIII E-2 住居跡(3)(359-373)

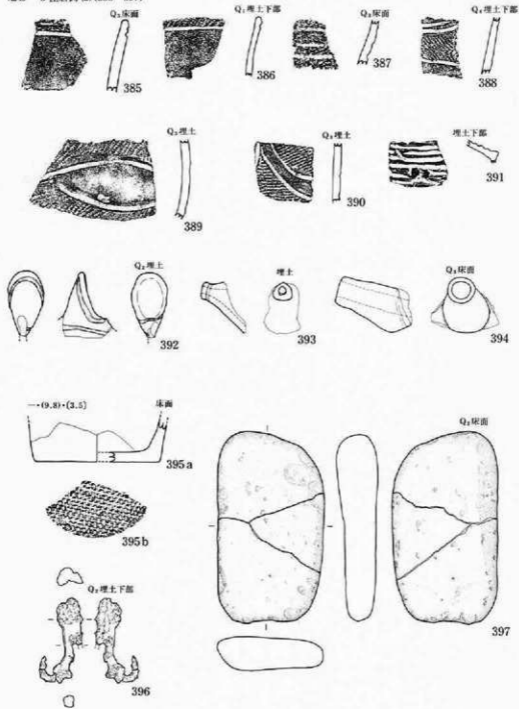


第83図 VIII E-2 住居跡出土遺物(3)



第84図 VIII E-3 住居跡出土遺物(1)

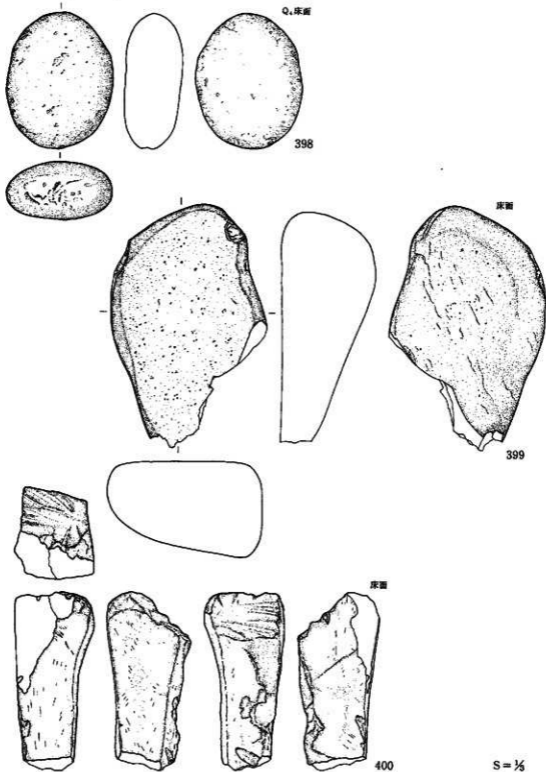
VIII E-3 住居跡(2)(385~397)



385-396 S = 1/2
397 S = 1/4

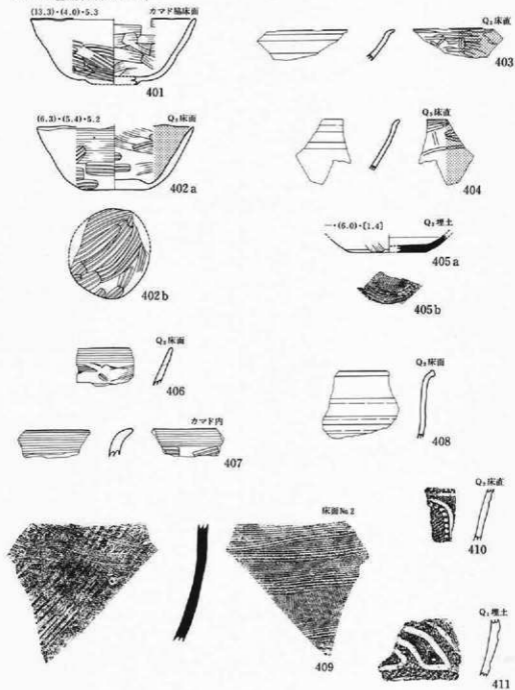
第85图 VIII E-3 住居跡出土遺物(2)

VII E-3 住居跡(3)(398~400)



第86图 VII E-3 住居跡出土遺物(3)

ⅧE-4 住居跡(1) (401~411)

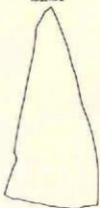
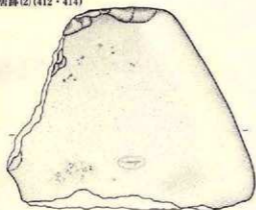


S = 1/6

第87図 ⅧE-4 住居跡出土遺物(1)

VIII E-4 住居跡(2)(412・414)

床面No.2



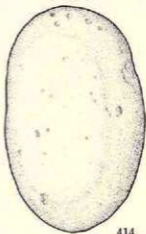
412



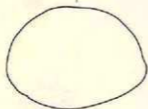
413欠番



カマド石盤



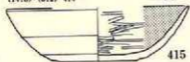
414



VIII E-6 住居跡(415・416)

(14.8)・(6.2)・4.4

埋土



415



埋土



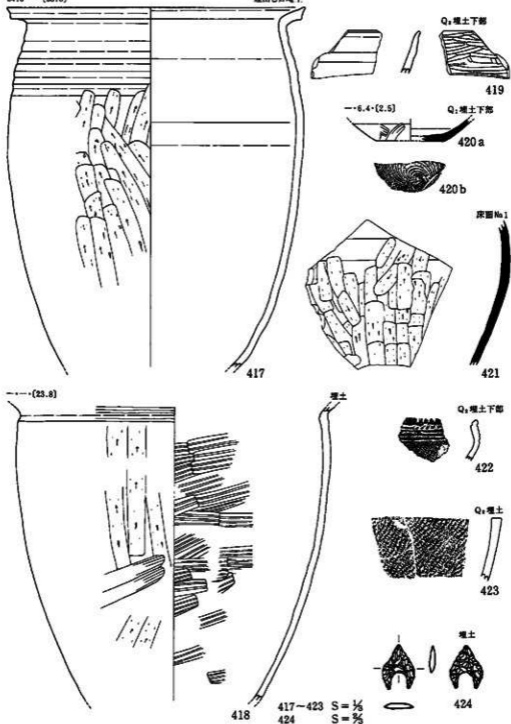
416

第88図 VIII E-4(2)・6 住居跡出土遺物

Ⅶ E-7 住居跡 (417~424)

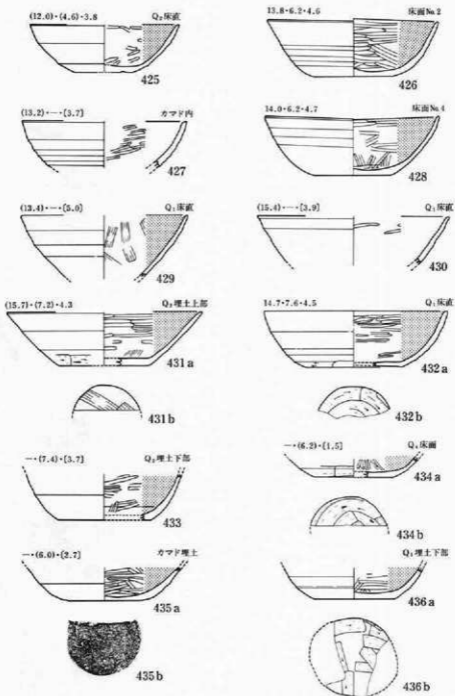
24.0---(28.6)

埋出し口埋土



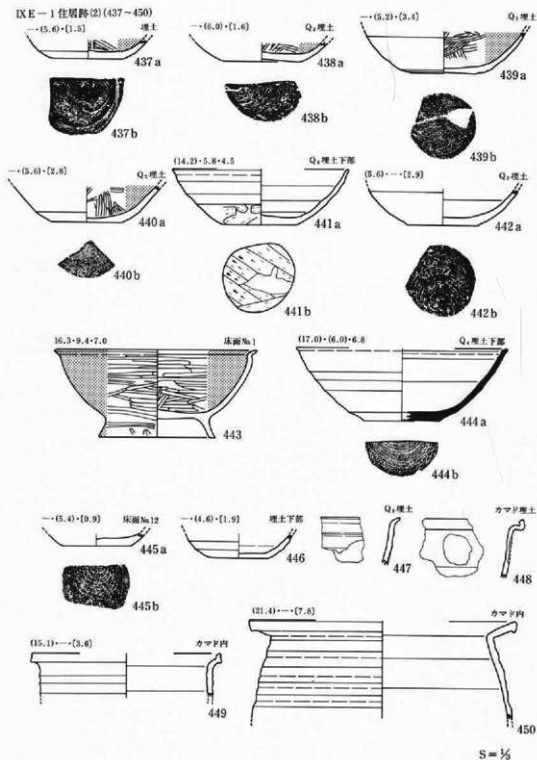
第89図 Ⅶ E-7 住居跡出土遺物

IXE-1 住居跡(1) (425-436)



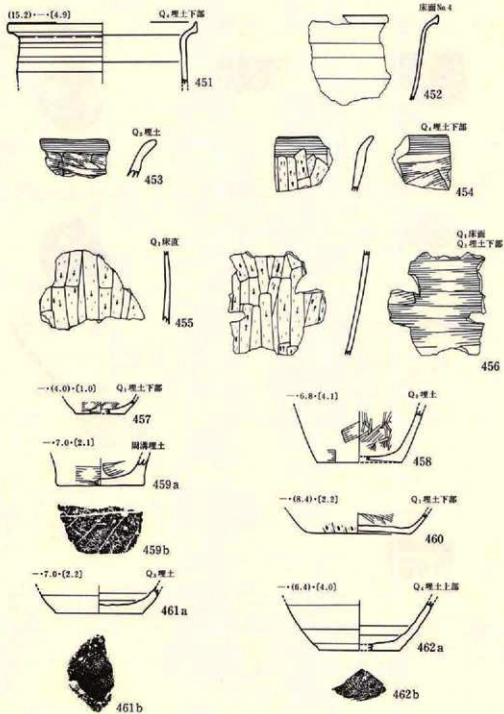
S = 1/6

第90図 IXE-1 住居跡出土遺物(1)



第91図 IXE-1 住居跡出土遺物(2)

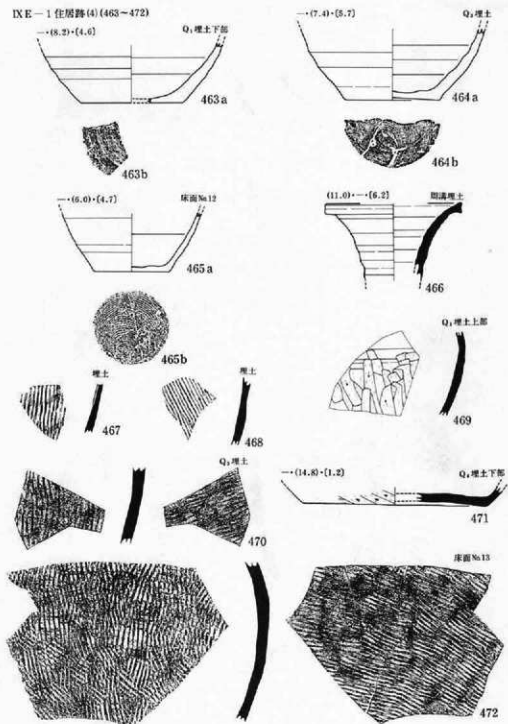
IXE-1 住居跡(3) (451~462)



S = $\frac{1}{4}$

第92図 IXE-1 住居跡出土遺物(3)

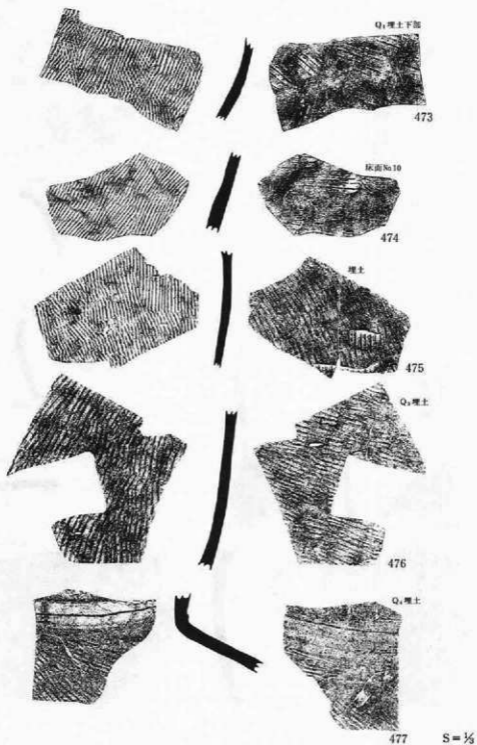
IXE-1 住居跡(4) (463~472)



S = 1/5

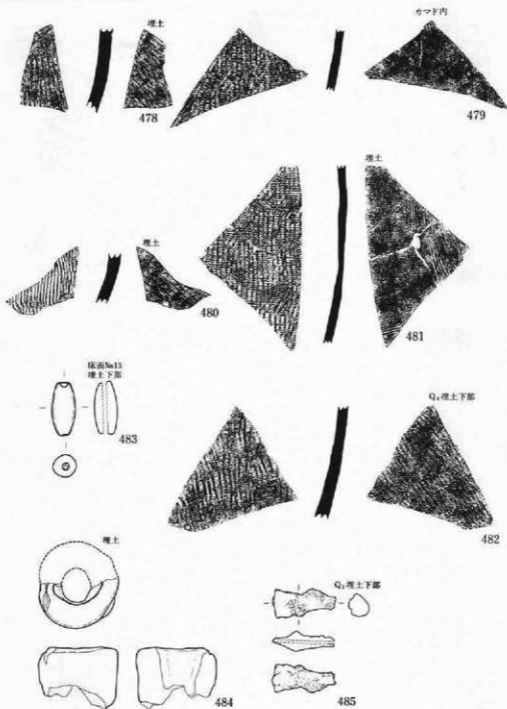
第93圖 IXE-1 住居跡出土遺物(4)

IXE-1 住居跡(5) (473-477)



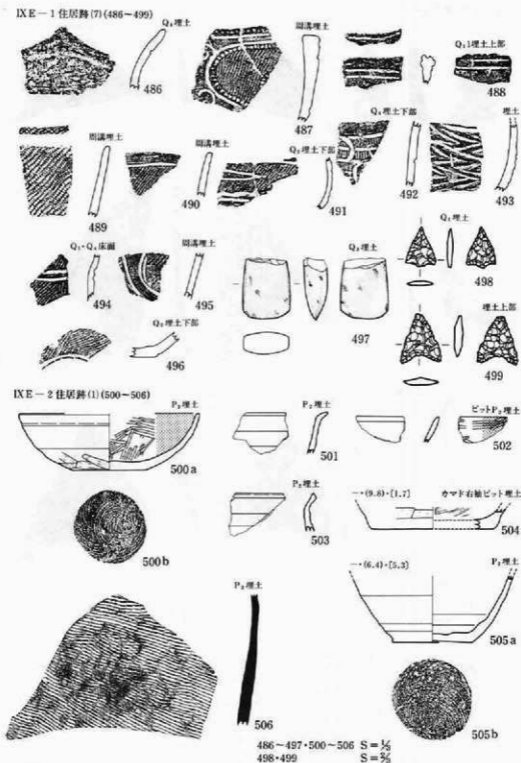
第94図 IXE-1 住居跡出土遺物(5)

IXE-1 住居跡(6)(478~485)



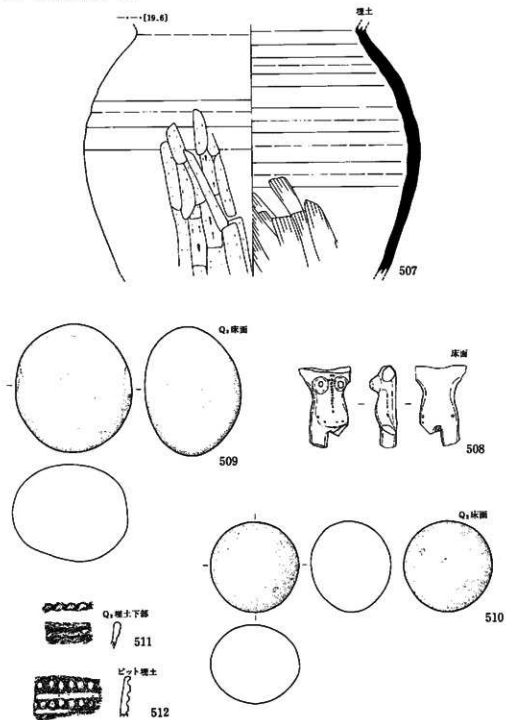
S = 1/4

第95図 IXE-1 住居跡出土遺物(6)



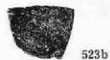
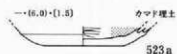
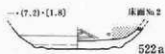
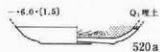
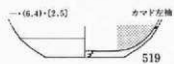
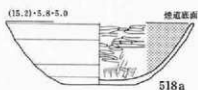
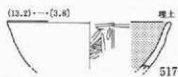
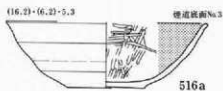
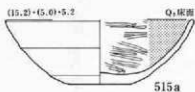
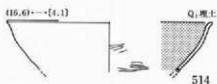
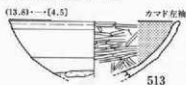
第96図 IXE-1(7)・2(1)住居跡出土遺物

IXE-2 住居跡(2) (507~512)



第97図 IXE-2 住居跡出土遺物(2)

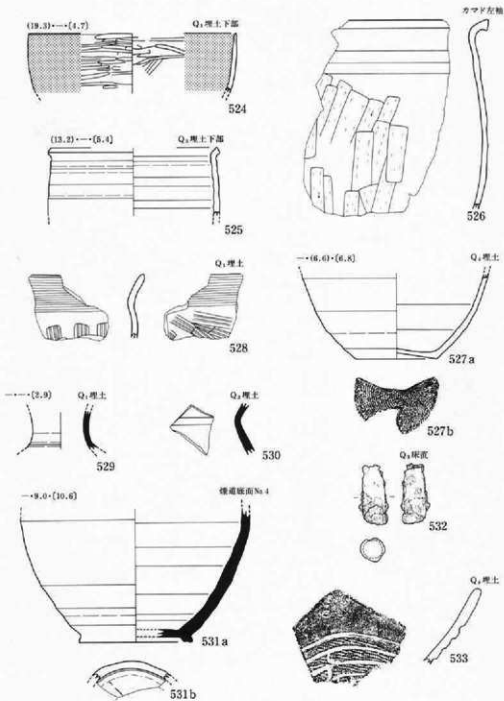
IXE-3 住居跡(1)(513-523)



S = 1/2

第98図 IXE-3 住居跡出土遺物(1)

IXE-3 住居跡(2)(524~533)



S = 1/5

第99図 IXE-3 住居跡出土遺物(2)

IXE-3 住居跡(3) (534~542)



540



Q₂埋土

Q₂埋土

Q₂埋土



534



535

Q₂埋土

Q₂埋土



536



537

Q₂埋土

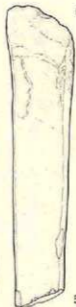
Q₂埋土



538



539



Q₂埋土

541

IXE-4 住居跡(543)



埋土

床面



542

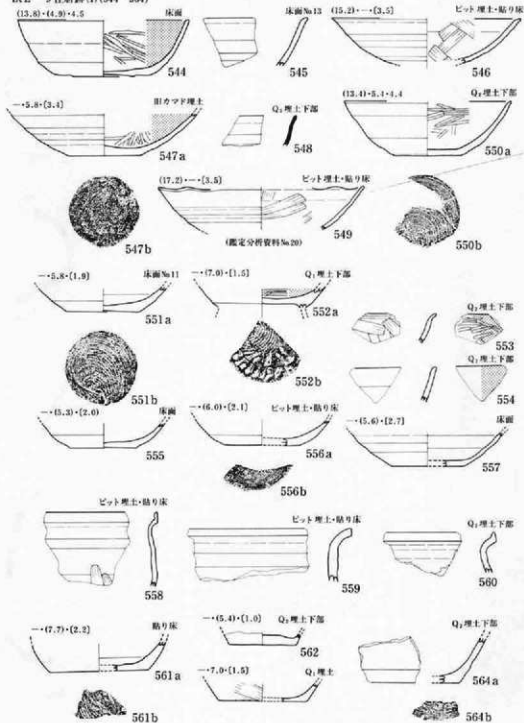


543

534-541-543 S = 1/4
542 S = 1/4

第100図 IXE-3(3)・4 住居跡出土遺物

IXE-9 住居跡(II) (544-564)

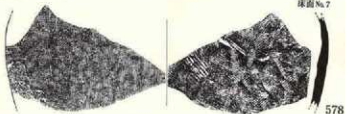


S = 1/5

第101図 IXE-9 住居跡出土遺物(1)

IXE-9 住居跡(3) (578~584)

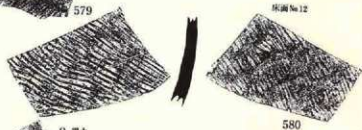
床面No.7



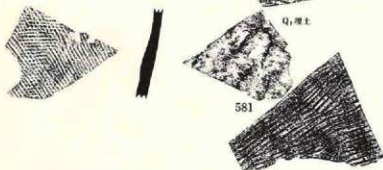
床面No.8



床面No.12



Q,埋土



床面



582

田カマド埋土



Q,埋土下部

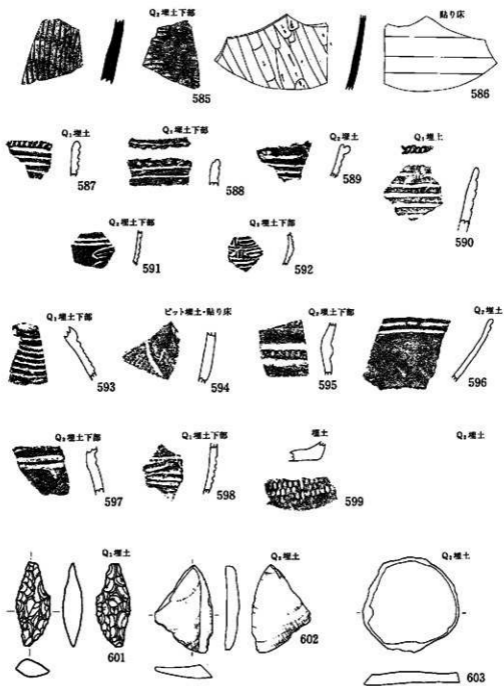


584

S=1/4

第103図 IXE-9 住居跡出土遺物(3)

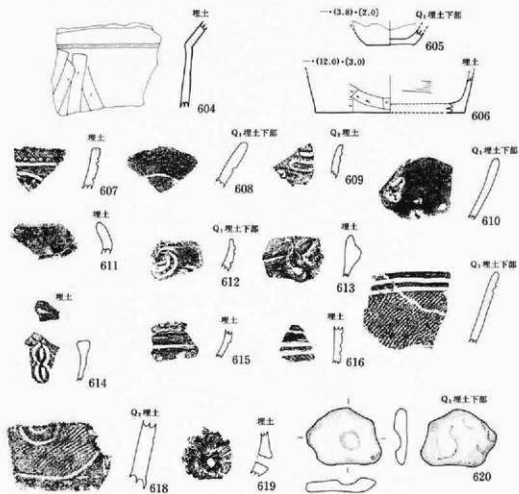
IX E-9 住居跡(4) (585-603)



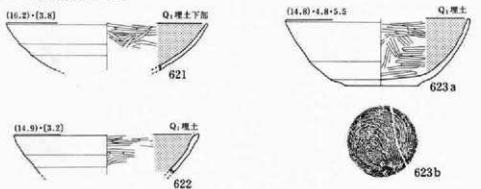
585~599・602・603 S = $\frac{1}{3}$
600・601 S = $\frac{2}{3}$

第104図 IX E-9 住居跡出土遺物(4)

IXE-11住居跡(604~620)



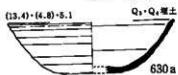
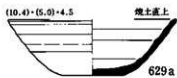
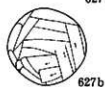
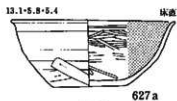
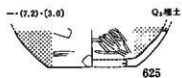
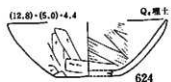
XE-2住居跡(1)(621~623)



S = 1/5

第105圖 IXE-11・XE-2(1)住居跡出土遺物

X E - 2 住居跡(2) (624 - 633)

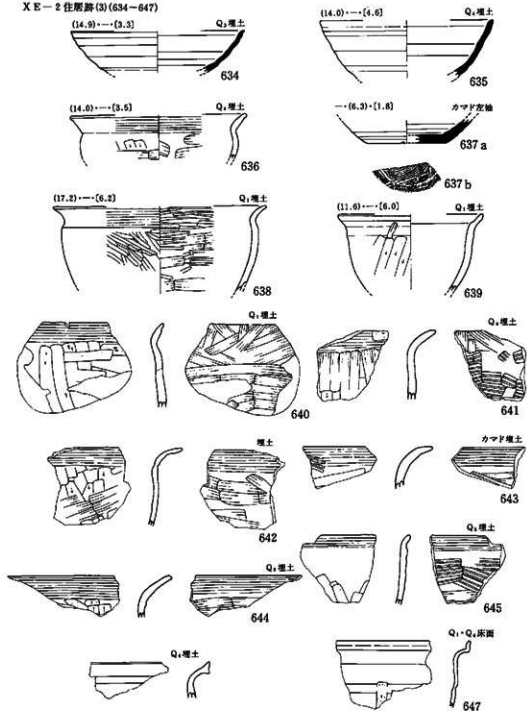


(鑑定分析資料 No.30)

S = 1/2

第106図 X E - 2 住居跡出土遺物(2)

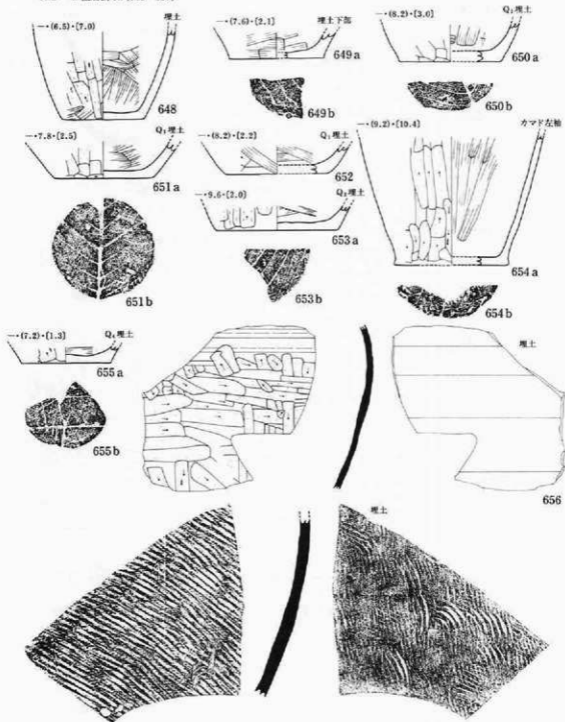
X E-2 住居跡(3)(634-647)



S = 1/5

第107図 X E-2 住居跡出土遺物(3)

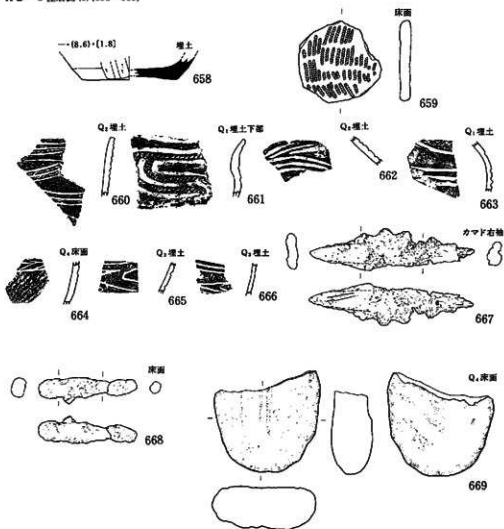
X E-2 住居跡(4)(648-657)



S = 1/2

第108図 X E-2 住居跡出土遺物(4)

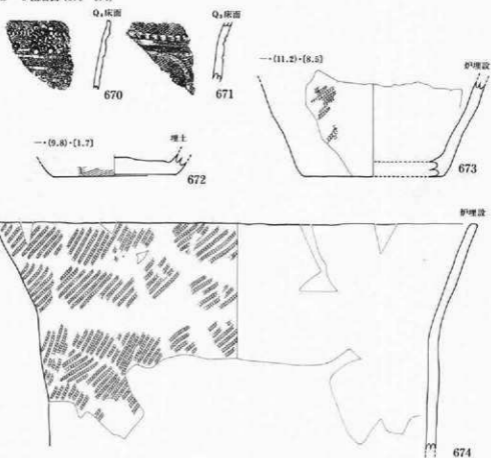
X E-2 住居跡(5) (658~669)



S = 1/4

第109図 X E-2 住居跡出土遺物(5)

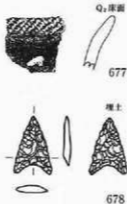
ⅧE-5 住居跡 (670-674)



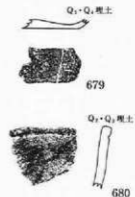
ⅨE-6 住居跡 (675-676)



ⅨE-7 住居跡 (677-678)



ⅨE-8 住居跡 (679-680)

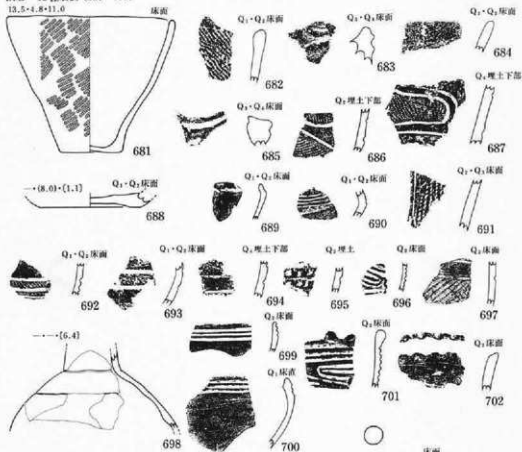


670-677-679-680 S = 1/3
678 S = 2/5

第110図 ⅧE-5・ⅨE-6・7・8住居跡出土遺物

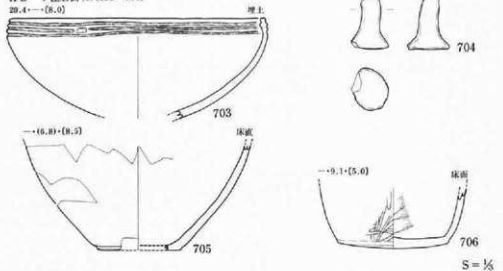
IXE-12 住居跡 (681~697)

13.5・4.8・11.0



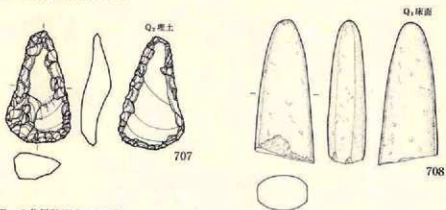
XE-1 住居跡(1) (698~706)

29.4・(8.0)

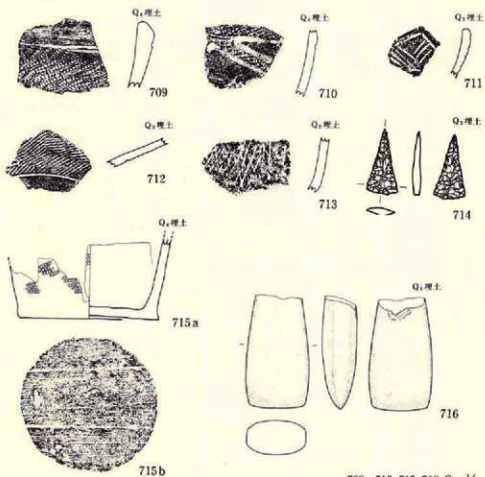


第111图 IXE-12・XE-1(1)住居跡出土遺物

XE-1 住居跡(2) (707・708)



XE-3 住居跡(1) (709~716)

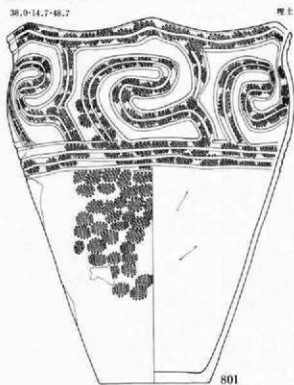


708~713・715・716 S = $\frac{1}{6}$
 707 S = $\frac{1}{6}$
 714 S = $\frac{3}{6}$

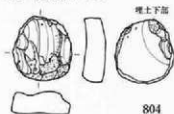
第112圖 XE-1(2)・3 住居跡出土遺物

IV E-51 土坑 (801)

38.0-14.7-48.7



VII E-51 火葬墓 (804)



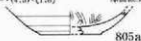
埋土下部

804

VII E-52 土坑 (805)

→(4.5)·(1.8)

床面或土

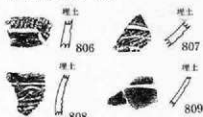


805a



805b

VIII E-62 土坑 (806-809)



埋土

806

埋土

807

埋土

808

埋土

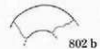
809

VII E-51 土坑 (802)



埋土

802 a



→(2.5)

底或

802 b

VII E-52 土坑 (803)



埋土

803a

803b

VIII E-62 土坑 (810-816)

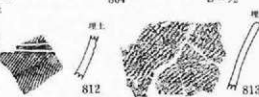


埋土

810

埋土

811



埋土

812

埋土

813

→(18.6)·(2.0)

底面或土

815

VIII E 区 掘立柱建物跡 (817-818)

底面或土



埋土

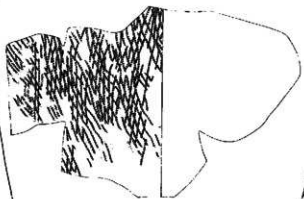
817

埋土

818

第114图 VII E-51·VII E-51·52土坑·VII E-51火葬墓·VIII E-52·62土坑
VIII E 区 掘立柱建物跡(1)出土遗物

VIII E区獨立柱建物跡 (819)



埋土

819

VIII E-61土坑 (820~823)



埋土下部

820



埋土

821



埋土

822

IX E-55柱穴 (824)



埋土

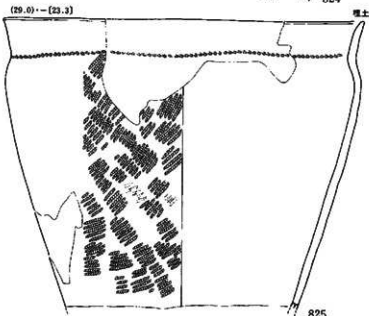
823



埋土

824

IX E-56柱穴 (825)



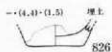
埋土

825

S = 1/4

第115图 VIII E区獨立柱建物跡(2)・VIII E-61土坑・IX E-55・56柱穴出土遺物

IXE-62土坑 (826)

埋土
826

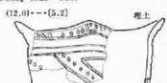
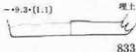
IXE-64土坑 (827-829)

埋土
827埋土
828埋土
829

IXE-65土坑 (830-831)

埋土
830埋土
831

IXE-66土坑 (823-835)

埋土
832埋土
833埋土
834埋土
835

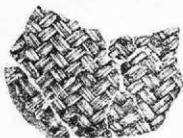
IXE-63土坑 (836-841)

埋土
836埋土
837埋土
838埋土
839埋土
840埋土
841

XE-51土坑 (842)



--16.0 (1.8)

埋土
842

XE-52土坑 (843-845)

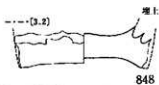
埋土
843埋土
844埋土
845

XE-53柱穴 (846-847)

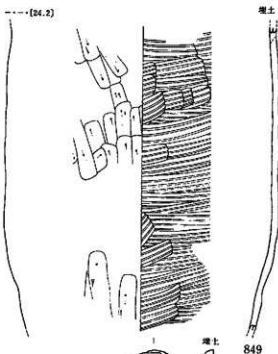
埋土
846埋土
847

第116圖 IXE-62·63·64·65·66·51·52·53柱穴

X E-55土坑 (848)



X E-57柱穴 (849)



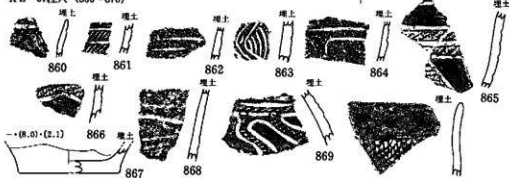
X E-58土坑 (850-855)



X E-59土坑 (856-859)



X E-61柱穴 (860-870)



X E-63土坑 (871-875)



第117图 XE-55·58·59·63土坑·XE-57·61柱穴出土遗物

XE-64土坑 (876-885)

19.7--(5.7)



Q₁ 埋土

876

(16.2)--(5.0)



埋土

879

(14.0)--(3.6)



Q₁ 埋土

877

(19.0)--(4.5)



Q₁ 埋土

880

(11.0)-5.0-7.9



埋土

878

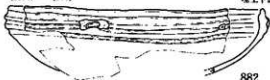
(19.6)--(4.1)



埋土

881

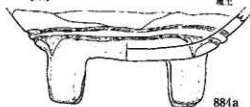
(20.4)--(5.1)



埋土下部

882

---(7.4)



埋土

884a



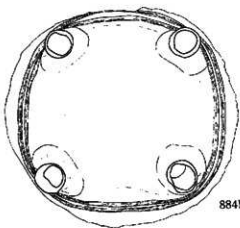
883

Q₁ 埋土下部

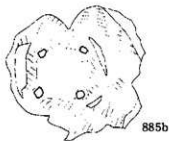


---(4.9)

885a



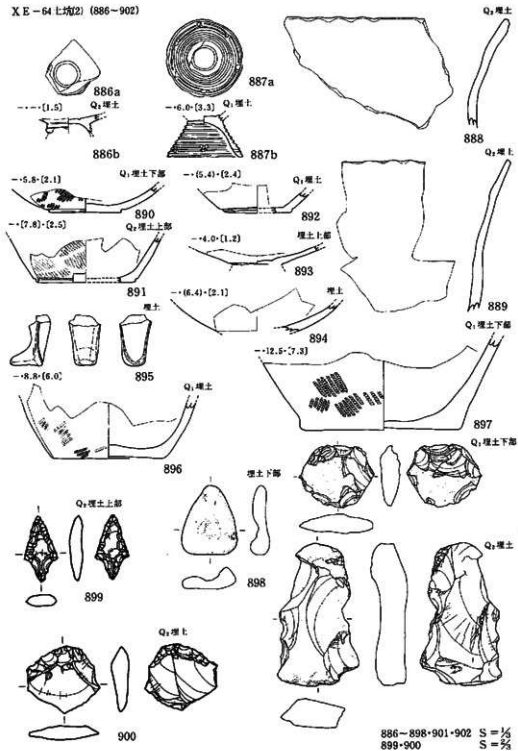
884b



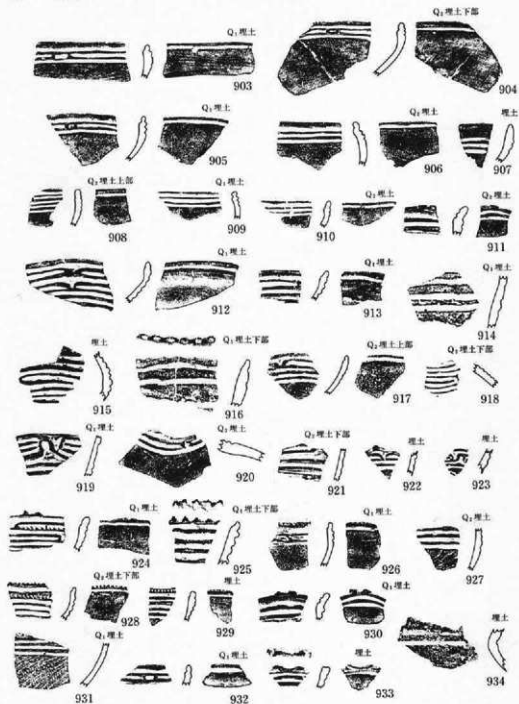
885b

第118圖 XE-64土坑出土遺物(1)

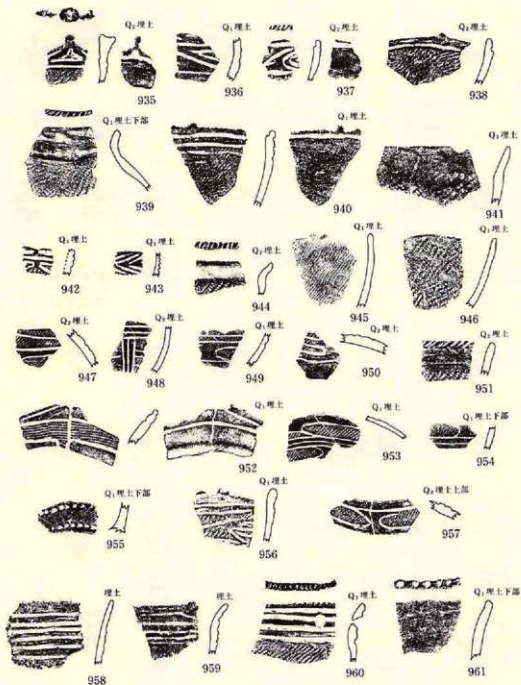
XE-64土坑2) (886-902)



第119图 XE-64土坑出土遗物(2)

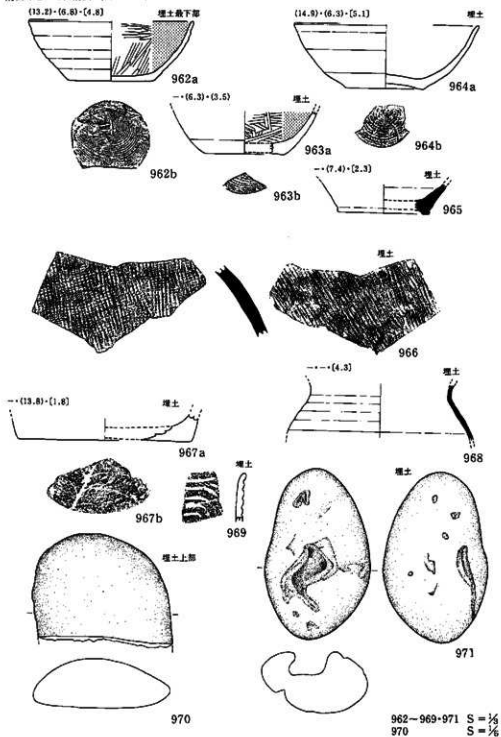


第120图 XE-64土坑出土器物(3)



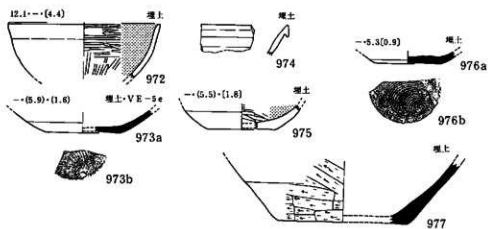
第121图 XE-64土坑出土文物(4)

清縣VD-101漢跡 (962-971)

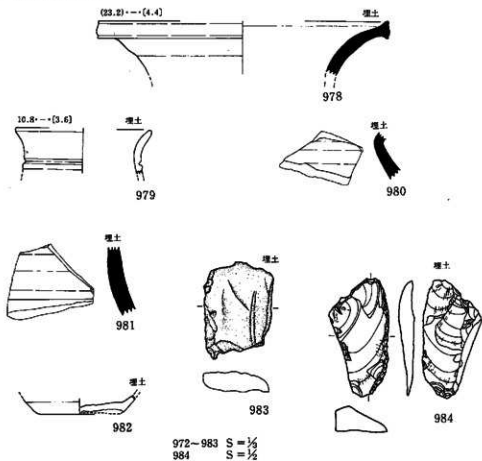


第122圖 VD-101漢跡出土遺物

VE-101溝跡 (972~977)

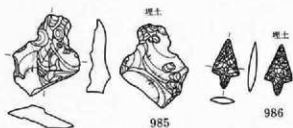


VE-102溝跡 (978~984)

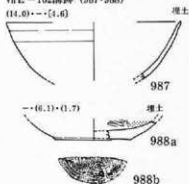


第123図 VE-101・102溝跡出土遺物

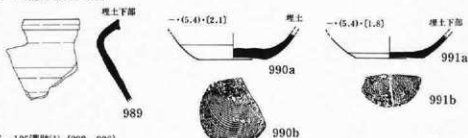
VIE-101溝跡 (985・986)



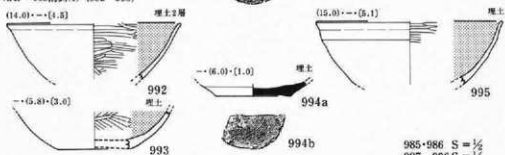
VIE-102溝跡 (987・988)



VIE-104溝跡 (989-991)



VIE-105溝跡(1) (992-996)



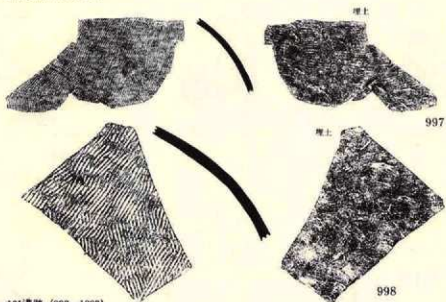
985・986 S = $\frac{1}{2}$
987-996 S = $\frac{1}{4}$



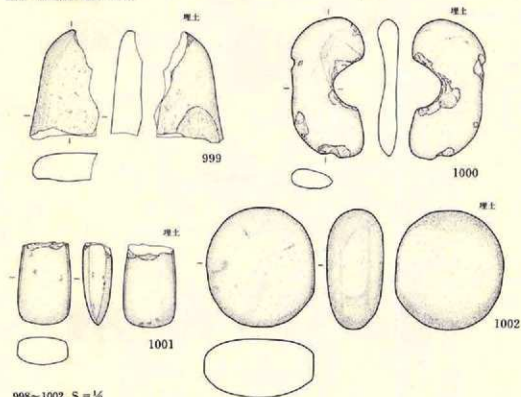
996

第124図 VIE-101・102・104・105(1)溝跡出土遺物

VIE-105溝跡(2) (997-998)



IXE-101溝跡 (999-1003)

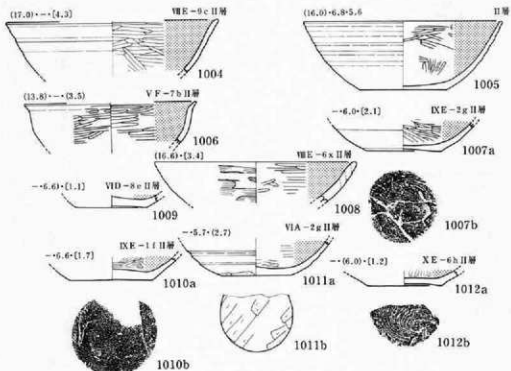


998-1002 S = 1/2
 997 S = 1/2
 1003 S = 1/2

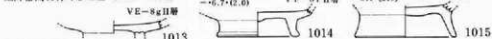
1003

第125圖 VIE-105(2)・IXE-101溝跡出土遺物

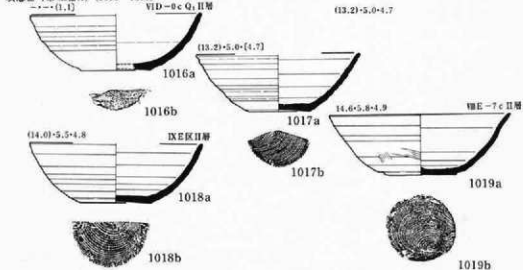
土師器坏形土器 (1004~1012)



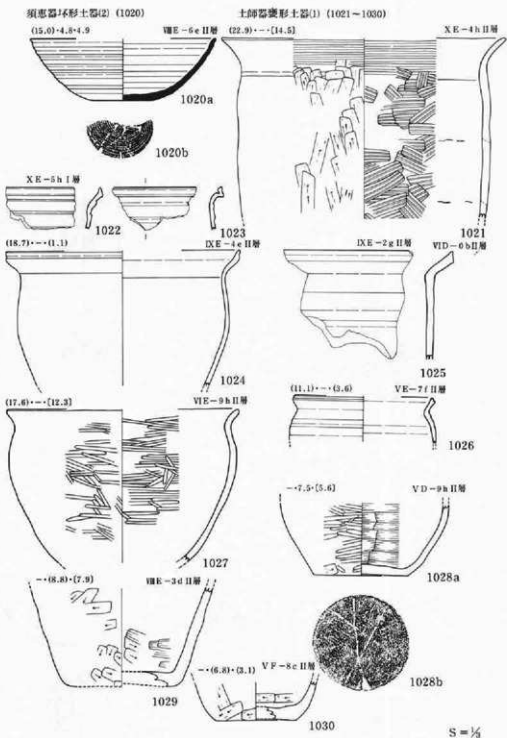
土師器高台付坏形土器 (1013~1015)



須惠器坏形土器(Ⅰ) (1016~1019)

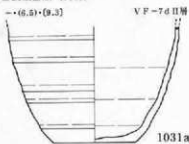


第126图 遺構外出遺物 土器(Ⅰ)

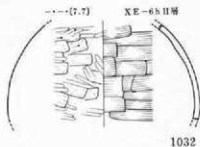


第127図 遺構外出土遺物 土器(2)

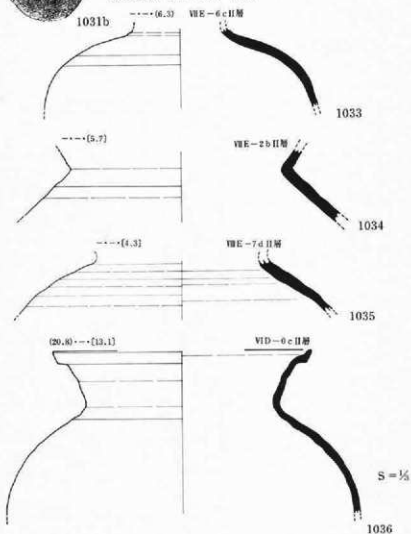
土師器裏土器(2) (1031)



土師器裏土器 (1032)

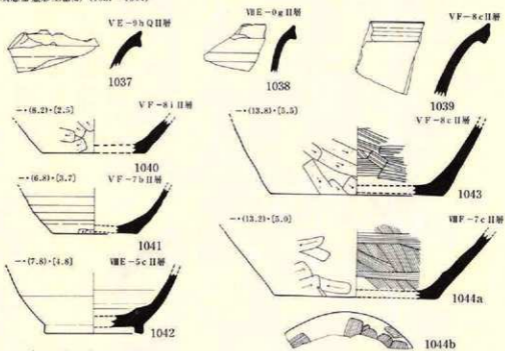


須惠器裏土器(1) (1033-1036)

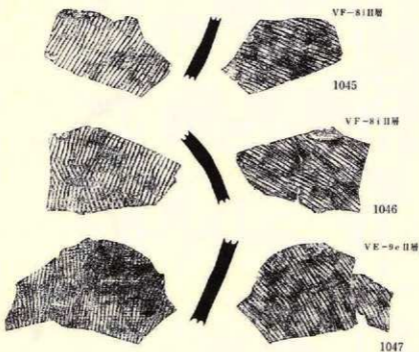


第128図 遺構外出土遺物 土器(3)

須惠器表彩土器(2) (1037~1044)

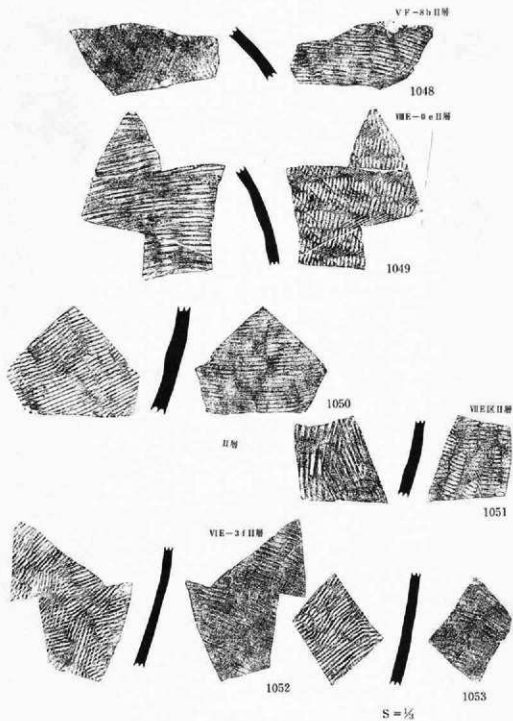


須惠器表彩土器(1) (1045~1047)



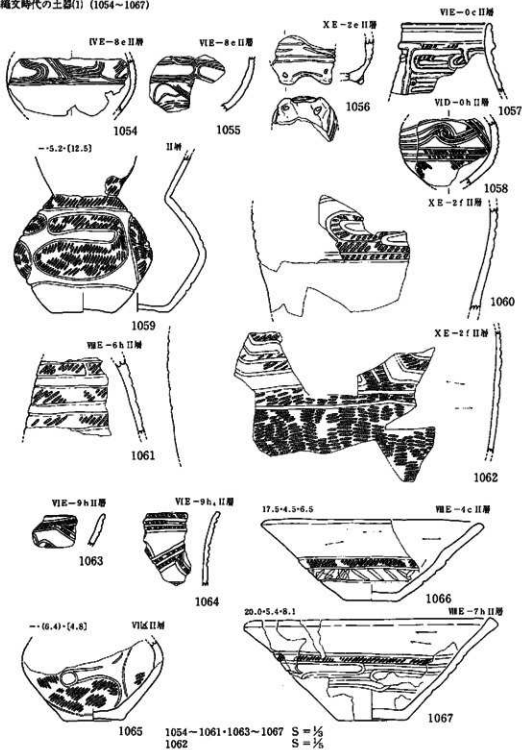
S = 1/2

第129図 遺構外出土遺物 土器(4)



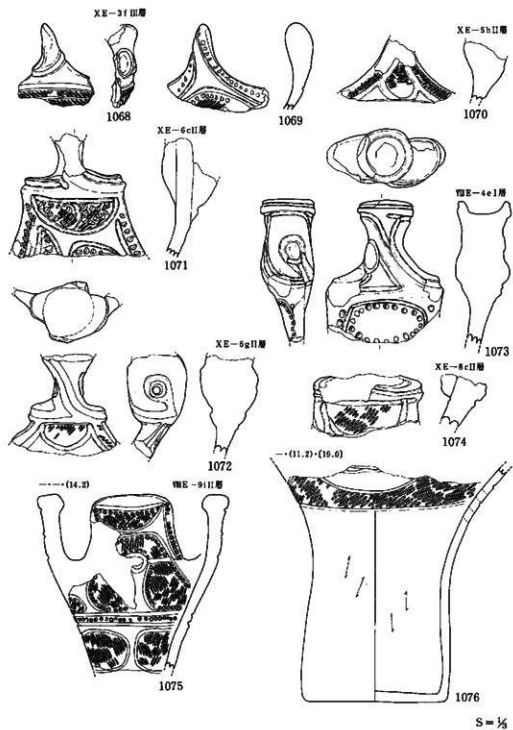
第130図 遺構外出土遺物 土器(5)

縄文時代の土器(1) (1054~1067)



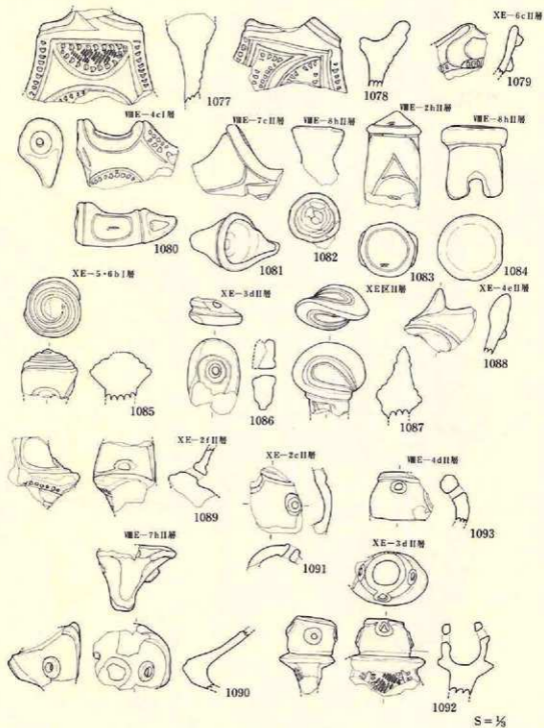
第131図 遺構外出土遺物 土器(6)

縄文時代の土器(2) (1068~1076)



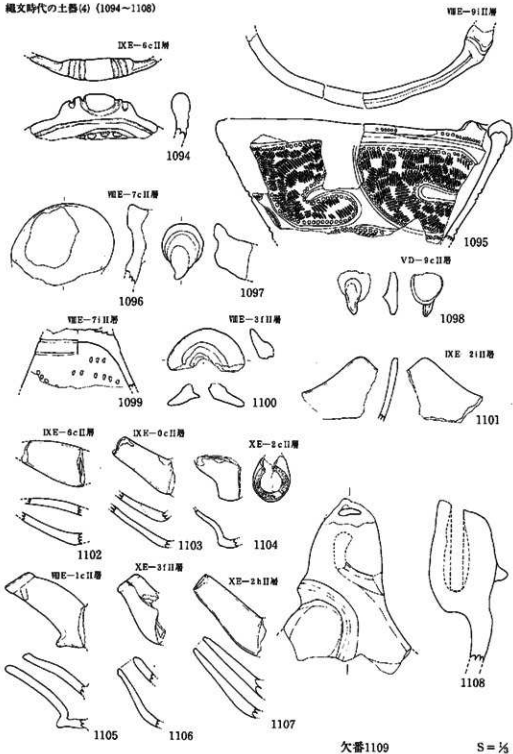
第132図 遺構外出土遺物 土器(7)

縄文時代の土器(3) (1077-1093)



第133図 遺構外出土遺物 土器(8)

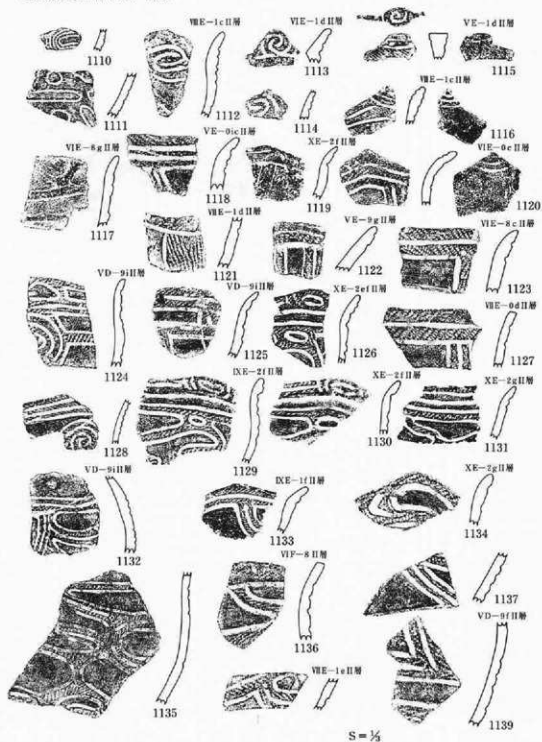
縄文時代の土器(4) (1094~1108)



欠番1109

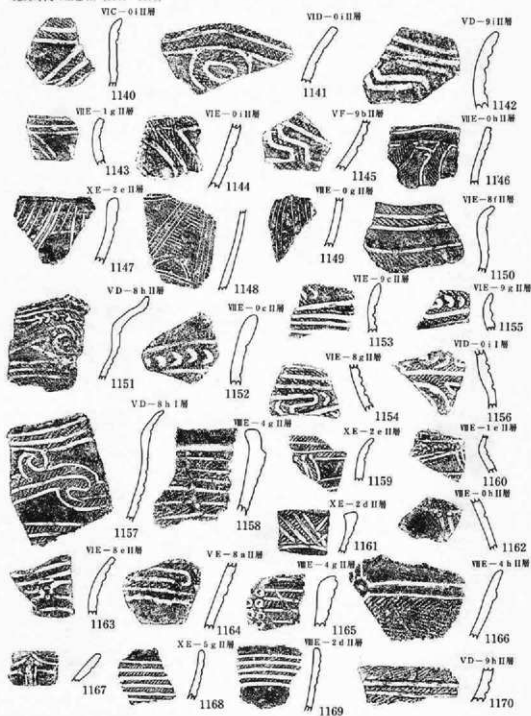
S = 1/2

第134図 遺構外出土遺物 土器(9)



第135図 遺構外出土遺物 土器00

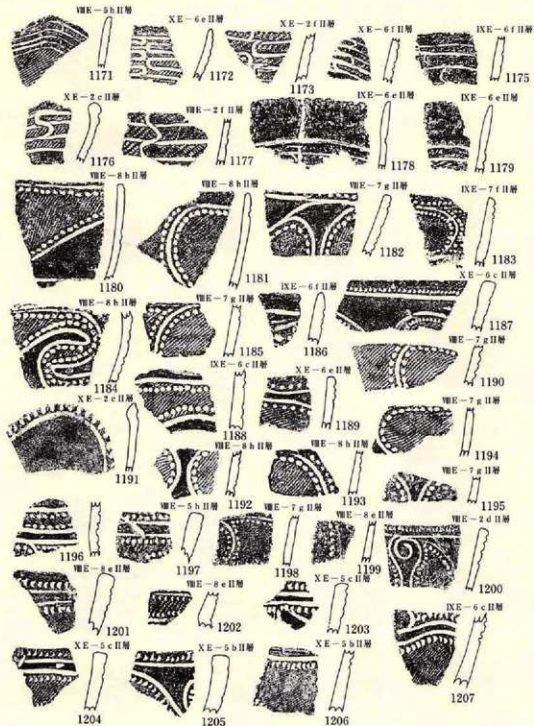
縄文時代の土器(6) (1140~1170)



S=1/4

第136図 遺構外出土遺物 土器(1)

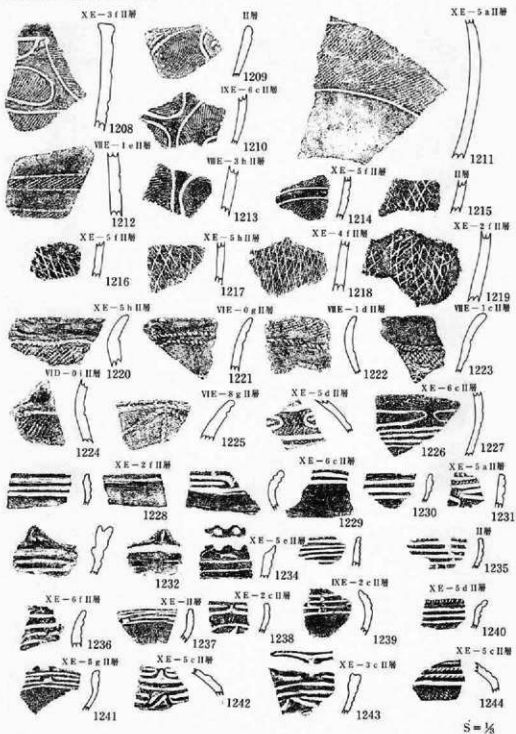
縄文時代の土器(7) (1171~1207)



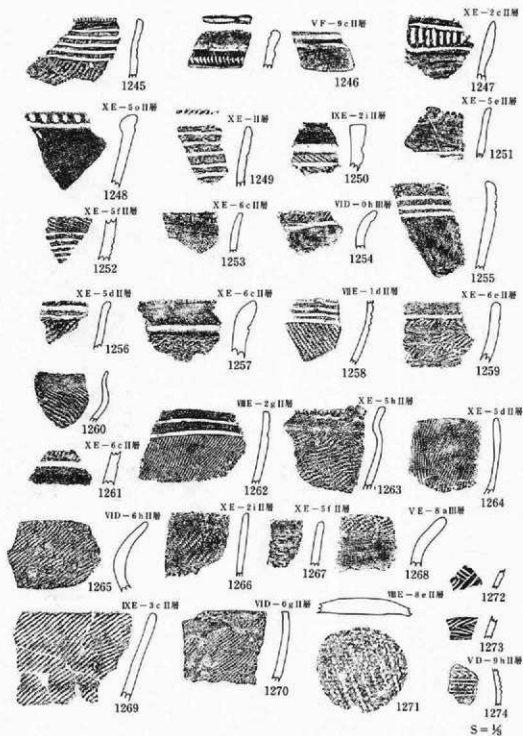
S = 1/2

第137図 遺構外出土遺物 土器(12)

縄文時代の土器(8) (1208-1244)

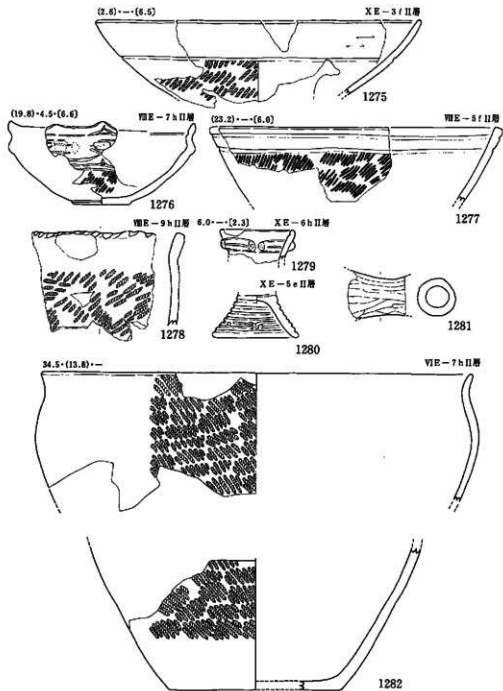


第138図 遺構外出土遺物 土器03



第139図 遺構外出土遺物 土器04

繩文時代の土器09 (1275-1282)



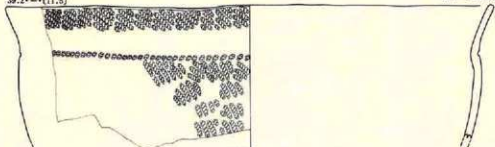
S = 1/6

第140図 遺構外出土遺物 土器09

縄文時代の土器Ⅱ (1283~1286)

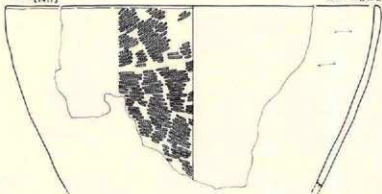
39.2-11.5

ⅤE-2b Ⅱ層



14.7

ⅤE-3g Ⅱ層

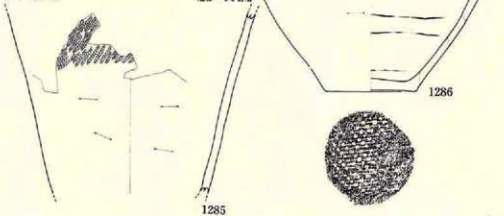


21.4-7.1-14.2

ⅤE-7j Ⅱ層

14.5

ⅤE-8c Ⅱ層



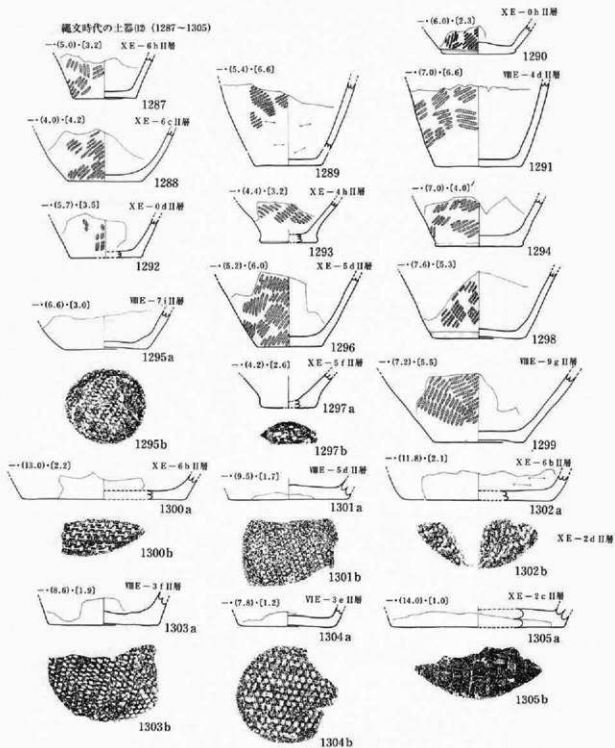
1286



S = 1/6

第141図 遺構外出土遺物 土器06

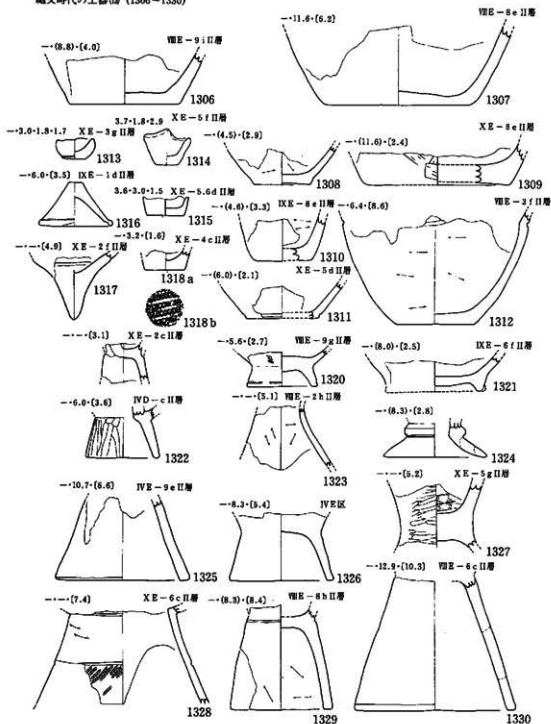
縄文時代の土器(1287-1305)



S = 1/2

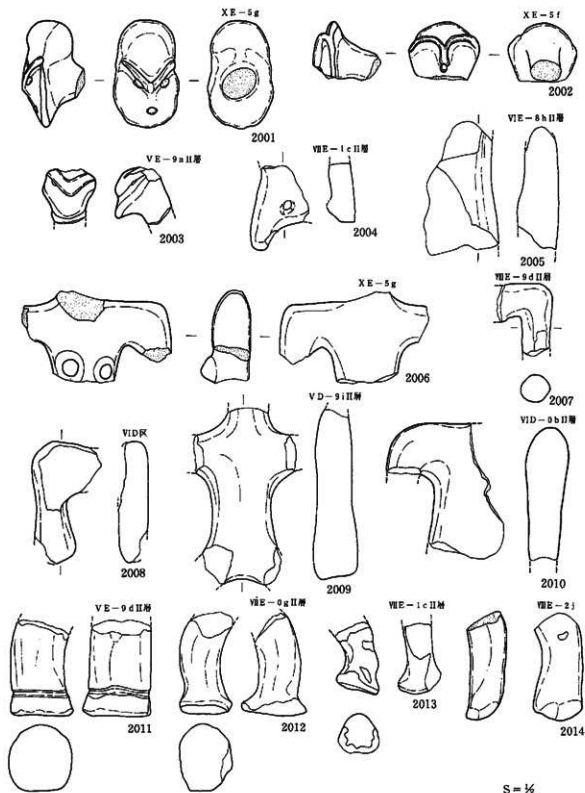
第142図 遺構外出土遺物 土器(1)

繩文時代の土器(III) (1306-1330)

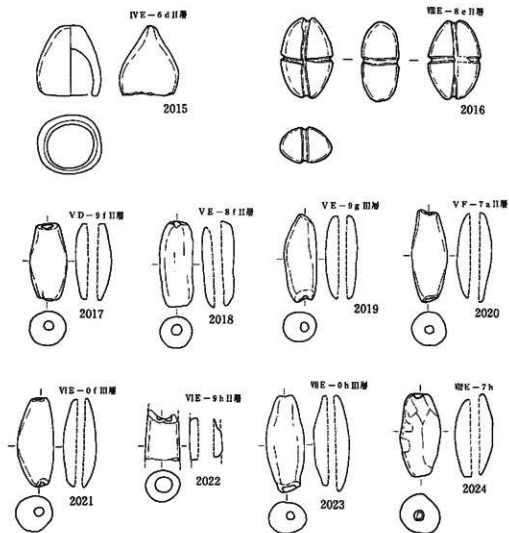


S = 1/4

第143図 遺構外出土遺物 土器(III)

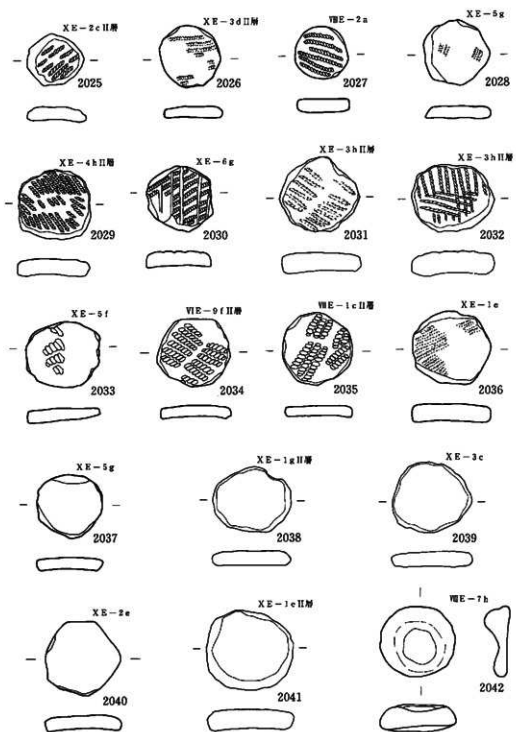


第144圖 遺構外出土遺物 土製品(1)



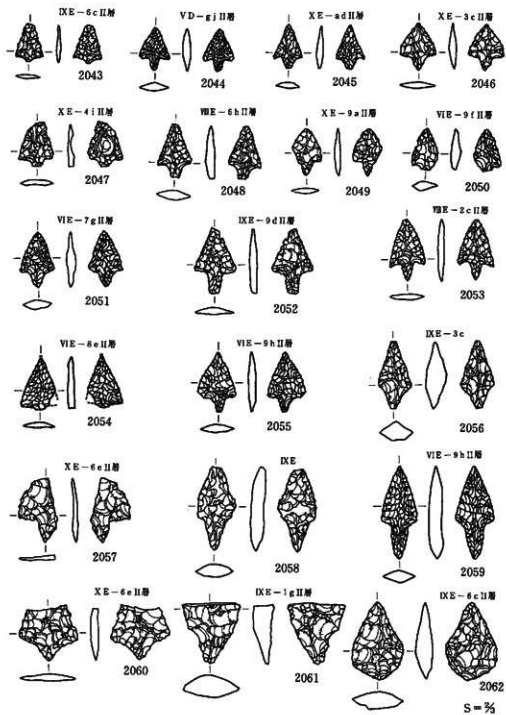
S = 1/2

第145圖 遺構外出土遺物 土製品(2)



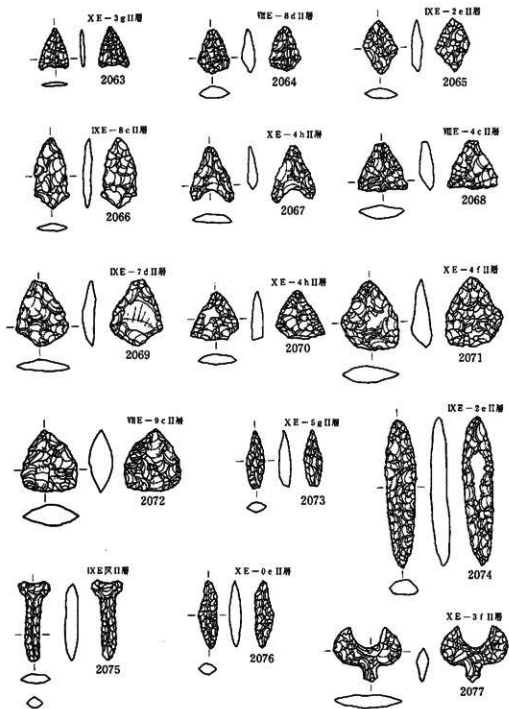
S = 1/4

第146図 遺構外出土遺物 土製品(3)



第147図 遺構外出土遺物 石器(1)

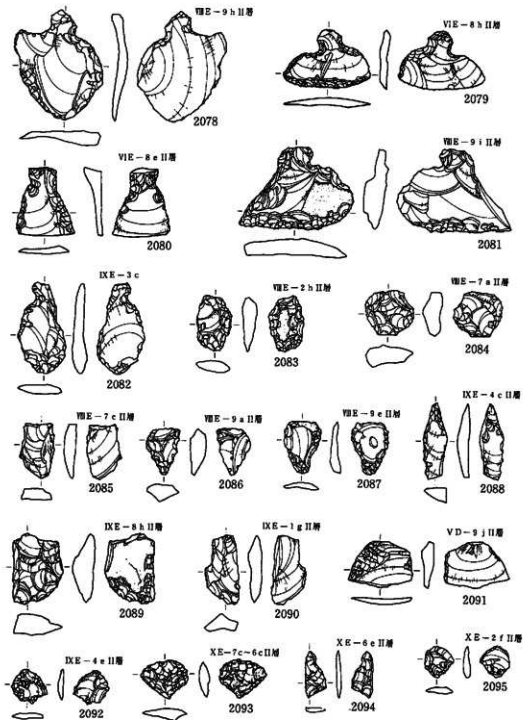
遺構外出土遺物() (2063-2077)



S = 3/4

第148圖 遺構外出土遺物 石器(2)

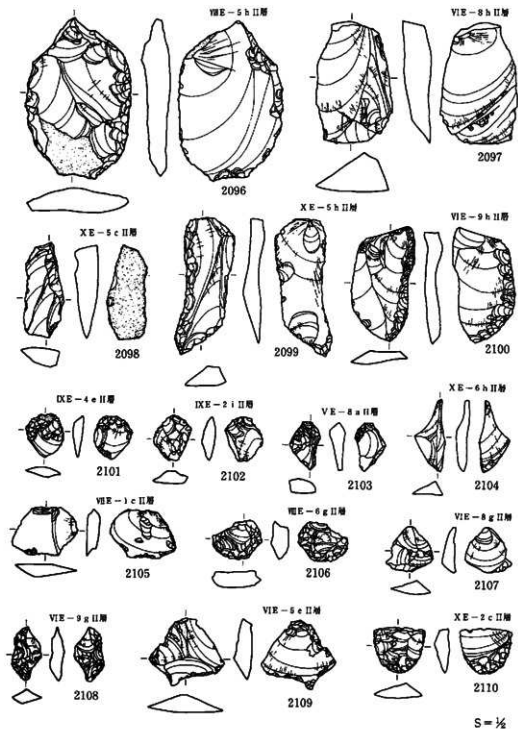
遺構外出土遺物() (2078~2095)



S = 1/2

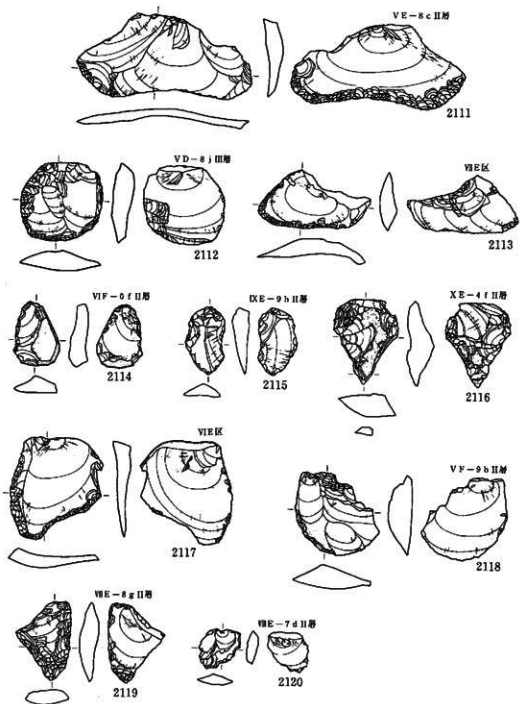
第149図 遺構外出土遺物 石器(3)

遺構外出土遺物() (2096~2110)



第150圖 遺構外出土遺物 石器(4)

遠構外出土遺物() (2111-2120)



S = 1/4

第151圖 遠構外出土遺物 石器(5)

遺構外出土遺物() (2121-2128)

XE-4f II層



2121



XE-6e II層

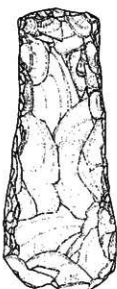
2122



2123



2125



2124

XE-7c II層

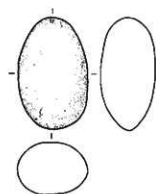


XE-6f II層

2127



2126



XE-9b II層

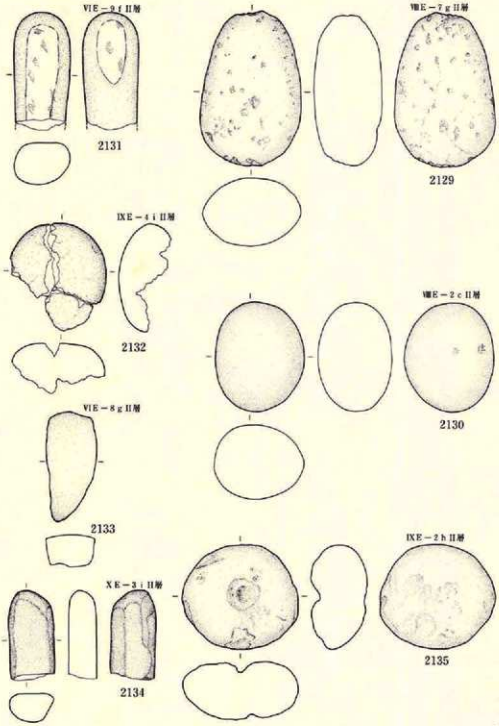
2128



S = 1/2

第152図 遺構外出土遺物 石器(6)

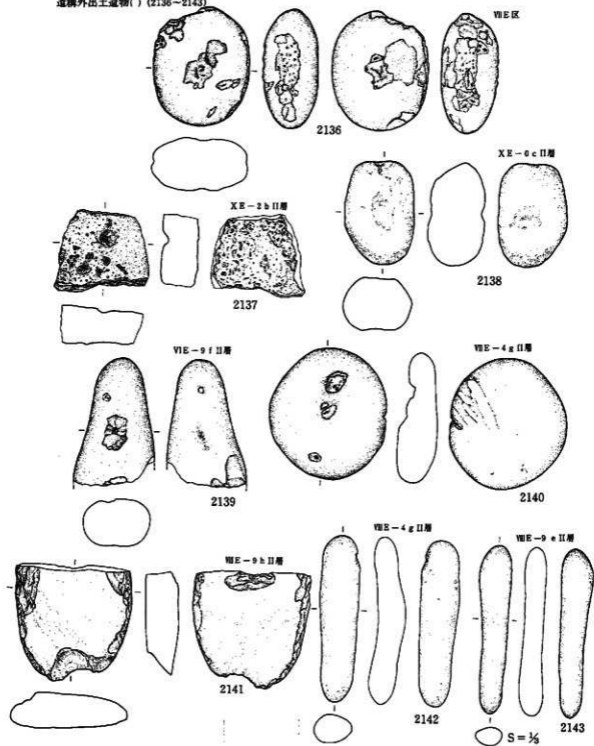
遺構外出土遺物() (2129~2135)



S = 1/4

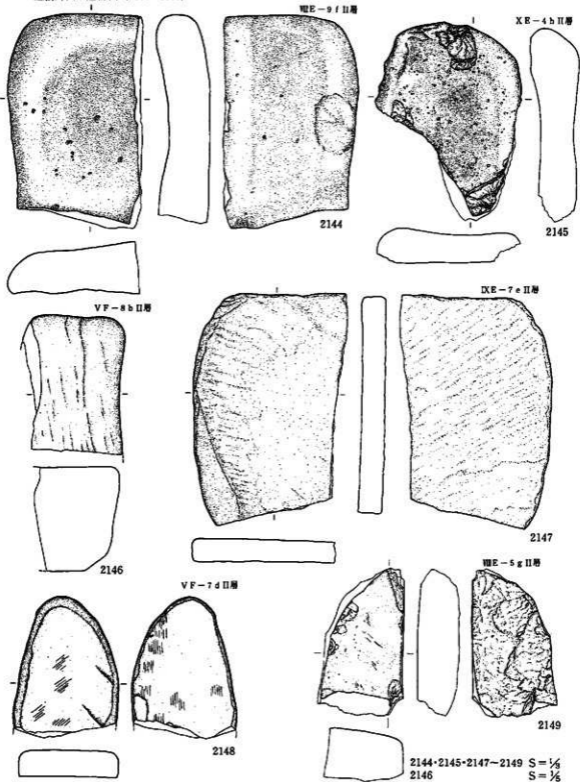
第153図 遺構外出土遺物 石器(7)

遺構外出土遺物() (2136~2143)



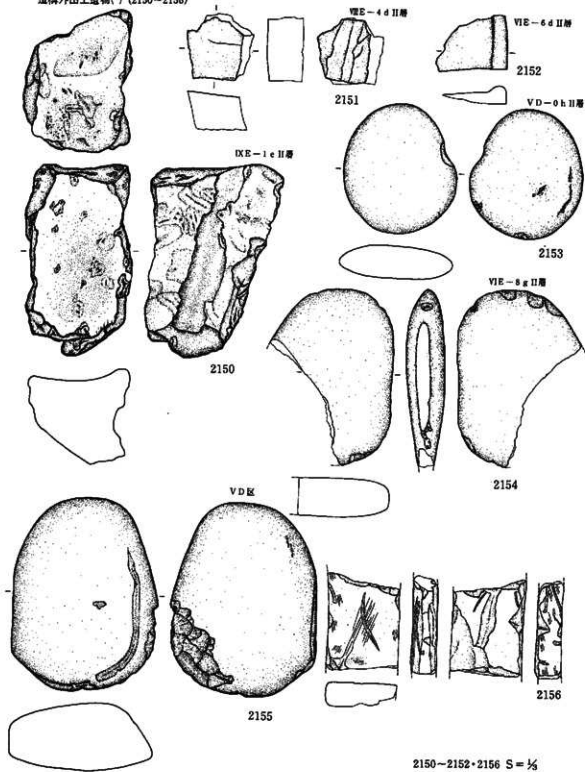
第154圖 遺構外出土遺物 石器(8)

遠構外出土遺物() (2144-2149)



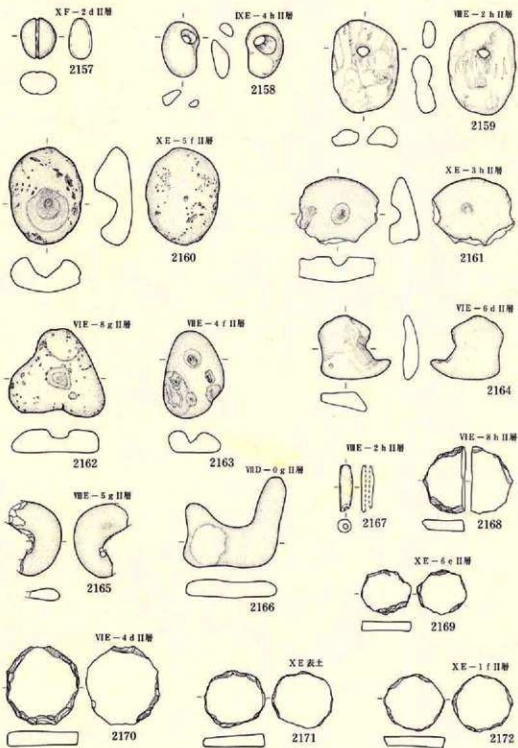
第155図 遠構外出土遺物 石器(9)

遺構外出土遺物() (2150-2156)



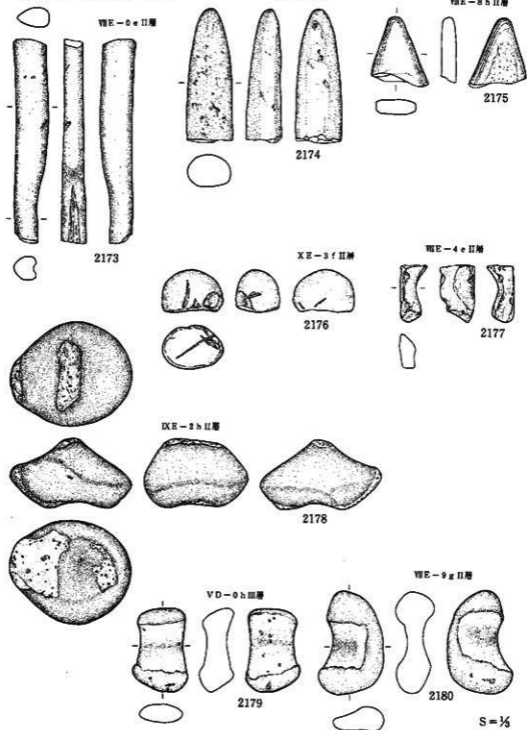
第156圖 遺構外出土遺物 石器00

遺構外出土遺物() (2157-2172)

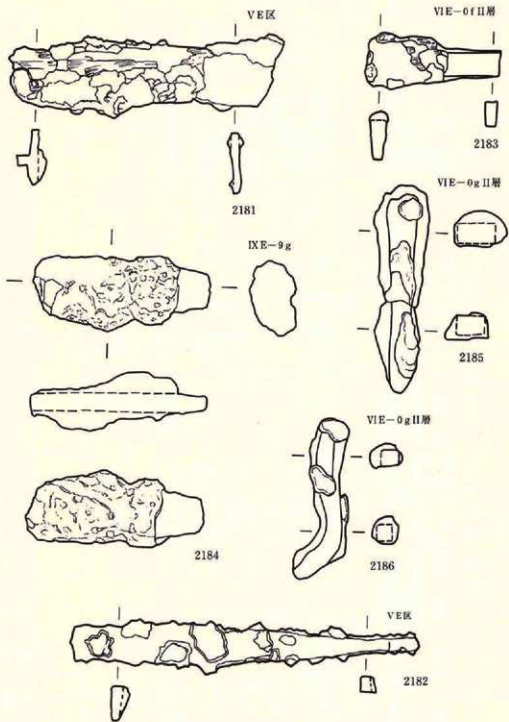


第157圖 遺構外出土遺物 石製品(1)

遺構外出土遺物() (2173-2180)



第158図 遺構外出土遺物 石製品(2)



S=1/4

第150圖 遺構外出土遺物 鉄製品

VI まとめ

1 遺構

(1) 縄文時代

竪穴住居跡

竪穴住居跡状遺構の1棟を含め6棟検出されている。縄文後期のもの5棟、晩期のもの1棟である。平面形はすべて円形を呈する。後期の竪穴住居跡は規模が直径3.5~4.5mのもの2棟、4.5~5.5mのもの3棟である。炉は地床炉3棟、不明2棟である。地床炉は円形を呈するものと、不整形のものがある。柱穴配置は不明である。壁周囲に小柱穴状のピットを巡っているものがある。床面はガリガリ硬くしまっている面はなく、炉の周辺が鋭分しまっている程度である。壁は大半が削平されており、出土遺物は少ないが後期前葉~中葉のものと思われる。占地は晩期の住居跡が検出されているX E区より北西に50m程離れた一段高いⅧ E区からⅨ E区にかけてである。晩期の住居跡は1棟で、石囲炉をもち、直径4.5~5.5mの規模のものとして推定される。床面は硬くなく、柱穴も検出されていない。調査区で最も北上川寄りのX E区東端で検出されている。晩期中葉~後葉に位置づけられるものと思われる。

(2) 古代

竪穴住居跡

平安時代の竪穴住居跡が25棟検出されている。平面形はほぼ正方形を呈するものが20棟と圧倒的に多い。そのほか台形1棟、長方形1棟、不明3棟である。規模は一辺が3.5m未済のもの3棟、3.5m~4.5mのもの14棟、4.5~5.5mのもの3棟、5.5~6.5mのもの2棟である。最小のものは一辺が2.7m、最大のものは一辺が6.2mである。

カマドが確認できた住居跡は16棟である。そのうち、3棟はカマドが別な位置につくり替えられている。カマドがもうけられて壁は、北壁のもの3棟、北東壁ないし東壁のもの8棟、南東壁のもの1棟、南壁のもの1棟である。カマドがつくり替え方は北西壁→北東壁が1棟、南東壁→北東壁が2棟である。北壁に設けられている1棟のみ壁中央で、そのほかはどちらかに寄った位置にカマドが設けられている。

煙道は半地下式の溝状のものが大多数である。掘込み式のものは1棟のみである。後者のものは煙出し口に土師器の壘形土器が利用されていた。

柱穴は4個でカマドのある壁に向かって右側に寄り、片側が壁に接する形で配置されているものが多い。

2 遺物

(1) 縄文時代の土器

縄文時代の土器については後期をⅠ群として11分類、主として晩期をⅡ群として5分類した。Ⅰ群1～5、11類は後期前葉、Ⅰ群6～9類は後期中葉、10類は後期前・中葉に位置づけられる。Ⅱ群1・2類は晩期中葉から後葉、5類は晩期に位置づけられる。3・4類は晩期のものの他に、後期のものが含まれる。

Ⅰ群土器

Ⅰ群1類は無文の地文に多糸沈線による曲線文が施文されているもので、壺形土器、有蓋土器(切断土器)、鉢形土器にみられる。十腰内式Ⅰ式に比定される。

Ⅰ群2類は地文の縄文に平行沈線による入組文などの曲線文を施文されているもので、十腰内Ⅰ式に比定される。深鉢形、鉢形土器などに多くみられる。中でも2b・2c類は新しい。

Ⅰ群3類は最も多く出土しており、深鉢形土器が中心である。十腰内Ⅰ式に比定される。

Ⅰ群4類は堀之内Ⅰ式のものにみられるものである。Ⅰ群5類は十腰内Ⅰ式に比定し、十腰内Ⅰ式の中でも最も新しく位置づけられる。

Ⅰ群6類は加曾利B1式に比定されるものである。Ⅰ群8類は長楕円文が施文されているもので、深鉢形土器、鉢形土器にみられる。加曾利B1式に比定される。

Ⅰ群8類は、磨消縄文で曲線文を施文しているもので、加曾利B式に比定される。

Ⅰ群9類は磨消縄文を構成する沈線に沿って連続刺突文が施されているもので、大型突起をもつ鉢形土器に多くみられる。北上市八天遺跡、大迫町立石遺跡などで少数発見されている。これらの分布は青森県から岩手県までである。花泉町貝取貝塚、大槌町崎山弁天遺跡からも出土している。大型突起をもつ土器には連続刺突文をもたないものもあるが、その文様は9類と酷似しているここでは8類の中に入れておいた。7～9類のうち、同じ後期中葉でも7類が最も古く位置づけられる。

Ⅱ群土器

Ⅱ群1類は大洞C2～A式期の精製土器である。1a類は工字文のなかに縄文が施されるもので、鉢形土器の類にみられる。大洞C2式に比定される。1b類は文様が工字文主体で、研磨されているものが多く、鉢形土器、浅鉢形土器、壺形土器等にみられる。大洞A式に比定される。また、脚付土器が1点出土している。口縁部を欠損するが、類似の土器が北上市九年橋遺跡からも出土しており、大洞A式期の土器と思われ、この類に含めた。他に、底部に4個の小突起の付くものがあり、広い意味での脚付土器と考え、この類に含める。

Ⅱ群2類は口縁部の文様帯に平行沈線が施されるもので、粗製の鉢形土器、浅鉢形土器等で

ある。大洞C2～A式期のものと思われる。

Ⅱ群3類は後期及び晩期の粗製の鉢形土器、深鉢形土器を一括した。無文のものや地文にLRまたはRLの単節斜縄文が施されているものが多い。また、底部に網代痕の付くものがある。本報告では口縁部及び底部を主に掲載した。

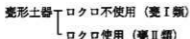
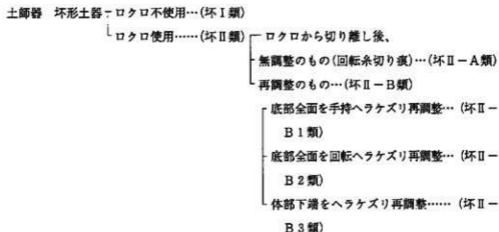
Ⅱ群4類は後期及び晩期と思われるミニチュア土器である。数点しか出土していない。底部に網代痕を持つものが1点ある。

Ⅱ群5類は晩期の高台付土器、台付土器である。高台部分などの破片で、無文で磨きのあるもの、沈線や縄文がみられるものなどがある。また、先端が尖る脚のような破片が1点出土している。脚付土器とすれば1b類に含めるべきかもしれないが、小破片で明確ではなく、とりあえず5類に含めた。

以上のように本遺跡出土の晩期の土器は、概ね大洞C2～A式期の比較的限られた時期のものである。大洞C2～A式期の遺物を出土する遺跡としては、都南村手代森遺跡、石島谷町安堵屋敷遺跡、九年橋遺跡、衣川村東裏遺跡など北上川流域にも数多くある。

(2) 古代の土器

土師器、あかやき土器、須恵器の3種類で、土師器が最も多い。器種では坏形土器、高台付坏形土器、高坏形土器、甕形土器、壺形土器、鉢形土器がある。土師器では坏形土器が圧倒的に多い。あかやき土器は坏形土器のみである。須恵器では、坏形土器、甕形土器が中心で、壺形土器は僅かである。便宜上、土師器の坏形土器、甕形土器を次のように分類する。



高台付坏形土器—ロクロ使用で付け高台である。高台の形態から2つに分けられる。1つは脚が「ハ」の字形で脚の先端が先細りのもの(A類)と僅かながら「ハ」字形に開き先端から先

細りでないもの（B類）の2つである。坏部は内面がヘラミガキ後、黒色処理が施されている。内外面を黒色処理されているものも1点出土している。

高坏形土器 ロクロ不使用で脚部のみであるが1点出土している。

鉢形土器 2点でロクロ不使用で内外面をヘラナデで調整されているものと、外面をヘラナデ、ヘラケズリ、ⅧE-2（住）内面をハケメ、ヘラナデで調整されているものがある。

須恵器は坏形土器、広口壺形土器、長頸壺形土器、甕形土器などが出土している。坏形土器はすべて回転糸切り痕をもつ。ロクロからの切り離しがヘラ切りのものはない、内面に火だすきをもつものもある。

長頸壺形土器は頸部下端に段をもつもの（A類）、段をもたないもの（B類）に分けられる。全体をロクロ調整されており、体部下半をヘラケズリで再調整されている。底部に台が付くものもある。

広口壺形土器はロクロで肩部または体部上半まで調整され、下半はヘラケズリで調整されているものが多い。

甕形土器は内外面に叩き目痕をもつもの（A類）、外面に叩き目痕、内面にかき目をもつもの（B類）とがある。全体の器形を把握できたものはない。

土師器の坏形・甕形土器、あかやき土器の相伴関係から土器群を次のように分けられる。

Aグループ 土師器坏Ⅰ・Ⅱ類、甕Ⅰ・Ⅱ類が伴うもので、ⅧE-4（住）、XE-2（住）が相当する。坏Ⅱ-B3類はみられない。

Bグループ 土師器坏Ⅱ類、甕Ⅰ・Ⅱ類、あかやき土器が伴い、ⅧE-1（住）、IXE-1（住）が相当する。坏Ⅱ-B3類は少量である。

Cグループ 土師器坏ⅡA類が主体で坏ⅡB3類が少量、甕Ⅱ類が主体で甕Ⅰ類が僅かに残り、あかやき土器も少量ながらみられる場合もあるもので、IXE-3（住）が相当する。

Dグループ 土師器坏ⅡA類、甕Ⅱ類が伴うものである。あかやき土器も少量伴う。IXE-9（住）が相当する。

●主体 ○少量

分類	土師器坏形土器					土師器甕形土器		あかやき土器 (坏形土器)
	I類	ⅡA類	Ⅱ-B1類	Ⅱ-B2類	Ⅱ-B3類	I類	Ⅱ類	
Aグループ	●	○	●	●		●	○	
Bグループ		○	●	●	○	●	○	●
Cグループ		●			○	○	○	○
Dグループ		●					○	○

(3) 古代のその他の遺物

土錘 VD-1 (住) から2点、VF-1 (住) から6点、XE-1 (住) から1点出土している。大きさでは長さ5～6cm前後の大きいものと、長さ3～4cm前後の小さいものの2つに分けられる。また、形態では箭状のものと中央部がふくらむそろばん玉状のものがあり、前者が多い、網の重りとして使用されていたと考えられる。

櫛の羽口 VD-2 (住)、XE-1 (住)、XE-4 (住) が各1点ずつ出土している。いずれも破片で、鉄滓などの付着していない。小鍛冶が行われていたと考えてよいと思われる。

砥石 VD-2 (住) から1点、VE-3 (住) から1点である。擦痕をもつ側面の4面のほかに先端部には切削痕がみられ、刃を立てて紙いだ痕跡と思われる。

鉄器

鉄鏝 VF-1 (住) から3点出土している。48・49はのみ状のもの、46は幅広い三角形状のものである。

雁股 VF-1 (住) から1点である。「Y」の字状に開いているもので、開きも小さく、蓋との区切りもたない。

穂柄み用手鎌 VF- (住) から1点、VE-2 (住) から1点出土している。

刀子 VF-1 (住) から2点、XE-2 (住) から2点出土している。

鋤先 VE-1 (住) から1点出土している。

釣針 VE-3 (住) から1点のみ出土している。

さや金具-VF-1 (住) から1点あり、上部には紐を通せる孔がある。

(4) 土製品

土製品としては土偶、埴形土製品、土錘、円盤状土製品などが出土している。ここでは土偶について若干まとめる。

土偶は遺構内外合わせて17点出土している。所属する時期は、704・895を除いて縄文時代後期と考えられる。508は妊婦の土偶で、正中線を刺突で表している。同様の土偶は盛岡市青内遺跡や西横町上斗内遺跡からも出土している。また、2001～2003に類似する土偶は大迫町立石遺跡や北上市八天遺跡などから出土している。2004～2014の土偶は、2011に沈線がある他は文様が付いていないが、胎土が2001等に類似していることなどからやはり後期の土偶と思われる。

704はXE-1住居跡、895がXE-64土坑から出土し、どちらも大洞A式の土器が共伴することから、この2点は晩期の土偶と思われる。しかし、704は胎土が他の後期の土偶に類似すること、O脚に湾曲する形状が立石遺跡などから出土した後期の土偶に類似することから、後期の可能性も考えられる。

出土した土偶は、すべて破片である。その内訳は、頭部3点、体部6点、脚部5点、上腕部2点、腕と思われるもの1点である。

(5) 石器

出土した石器は剥片石器99点、石斧10点、礫石器58点の計167点である。

剥片石器には、石鏃、尖頭器様石器、石錘、石匙、異形石器、不定形石器がある。礫石器には磨石、凹石、石皿、台石等がある。

石鏃は42点出土している。形状による内訳を見ると、有茎鏃30点、無茎鏃12点である。有茎鏃基部の形態は凹基式7点、平基式16点、凸基式7点で、無茎鏃では凹基式4点、平基式1点、尖基式4点、円基式2点である。完形品は12点と少なく、約7割にあたる30点は破損品である。先端部を欠損するもの17点、基部や基部15点、身部2点、2分の1以上の欠失3点である。なお、欠損部位は重複するものも1点づつかぞえている。アスファルトの付着するものは僅かに2点である。大きさは、下表に示すとおりであるが、全体の約8割前後は、長さが3cm未満、幅1～2cm、厚さ0.5cm未満、重さ2g未満である。

最大長	1 cm以上 2 cm未満	13点	最大厚	0.5cm未満	32点
	2 cm以上 3 cm未満	23点		0.5cm以上 1 cm未満	10点
	3 cm以上	6点		重さ	1 g未満
最大幅	1 cm未満	2点	1 g以上 2 g未満		10点
	1 cm以上 2 cm未満	34点	2 g以上 3 g未満		4点
	2 cm以上 3 cm未満	6点	3 g以上		3点

尖頭器様石器とした2071・2072はかつて岡村氏が「新器種」として抽出した(1979年)際に上げた属性のうち、先端角が大きいこと、アスファルトの付着がない完形品であることの2点が該当する。器種名は「里浜貝塚Ⅲ」(1984年)で用いられた名称によった。

石匙は6点出土している。縦形が4点、横形が2点である。縦形の石匙のうち2点は、約2分の1を欠損する。アスファルトは6点中2点に付着している。

不定形石器には搔器、削器、彫器、折断調整石器等の類がある。

礫石器58点のうち磨石、凹石の類が25点、石皿、台石の類は23点である。磨石、凹石は機能の重複するものが様々みられる。石皿と台石の区別は基本的には使用面の形態によったが必ずしも厳密ではない。使用面が磨り減って湾曲して凹むものを石皿とし、凸状のものは台石とした。

(6) 石製品

石製品の項で扱った物としては、石錘、有孔石製品、鍵状石製品、円盤状石製品、石刀、それに器種・用途等の不明なものなどがある。石製品は広義の意味では石器であり、本報告では石器と石製品の間に明確な区別は設けておらず、便宜的に石製品という語を用いている。

有孔石製品は4点出土している。ⅧE-1住居跡出土の332はオパールに穿孔されたものであり、装飾品の未製品と思われる。他の3点は凝灰岩に穿孔され、1点には幅広の紐掛り状の痕跡があり、1点は筒状を呈している。これらは石錘の類であろう。鍵状石製品は形状からそのように仮称したもので、鍵状に打ち欠いた痕や縁片に研磨されたような光沢がみられる。やはり石錘の一種であろうか。

円盤状石製品は7点出土している。円盤状石製品は県内の遺跡においても数多くの出土例が知られているが、なかでも盛岡市萩内遺跡、大迫町小田遺跡、都南村手代森遺跡、北上市九年橋遺跡、衣川村東裏遺跡など後期・晩期の遺跡では、1つの遺跡からの出土数が100点を越す場合もある。

2178~2180は表面が部分的に削りとられた石製品である。類似の遺物は、石鳥谷町安堵屋敷遺跡にもみられるが、器種や用途等の詳細は不明である。磨石等の類に属するものであろうか。

3. 古代住居跡の群別と年代

検出されている25棟について、出土遺物、住居跡のカマドの位置、柱穴配置、主軸方位などから次の2群に分けられる。出土遺物はⅤE-1(住)、ⅤF-1・2(住)ⅧE-7(住)は床面直上ものを中心に、そのほかの住居跡は、検出された壁の高さが10~30cmと極めて小さいことから、床面、埋土下部もあわせて考えた。

I群

土器器形土器に僅かにロクロ不使用のものがみられるが、主体はロクロ使用のものでロクロから切り離し後、手持ヘラケズリまたは回転ヘラケズリで底部全面を再調整したもの(Ⅱ-B1・B2類)が回転未切り無調整(Ⅱ-A類)と共存している。甕形土器はロクロ不使用(A類)、ロクロ使用のもの(B類)とが共存している。そのほか少量ながら高台付坏形土器、内外面黒色処理された坏形土器や高台付坏形土器がみられる。ロクロ不使用の鉢形土器も出土している。あかやき土器の坏形土器も共存しているものが多い。これらは、カマドの位置、柱穴配置、住居跡の形態構造から更に2つに分けられる。

I a群 カマドの位置が北壁中央部にあり、柱穴は四隅に4本あり、規模も大きく、壁も高い。ⅤE-1(住)、ⅤF-1(住)が相当する。

I b群 カマドの位置が南壁や北東壁中央部東または西寄りに設けられている。柱穴配置はカマドに向って右側に寄り、2本は壁と接する位置にある。住居跡の形態は正方形ないし台形である。VD-1・2 (住)、VF-2 (住)、WE-1・2 (住)、WE-1・4 (住)、XE-1 (住)、XE-2 (住) である。

II群

土師器坏形土器はすべてロクロ使用のもの(II類)で体部下端をヘラケズリ調整したもの(II-B3類)がみられるが主体は回転糸切り無調整のものである。甕形土器もロクロ使用のもの(B類)が多く、ロクロ不使用のもの(A類)は少ない。あかやき土器の坏形土器は僅かながら出土している。カマドの位置は北東壁中央部東寄りで形態はほぼ正方形を呈している。WE-2・3 (住)、XE-3 (住) が相当する。

III群

土師器坏形土器はロクロ使用で回転糸切り無調整(II-A類)で占められる。甕形土器もロクロ不使用(A類)は消え、ロクロ使用のもの(B類)である。あかやき土器の坏形土器も多く占める。カマドは北東壁中央部より東または西に寄った位置に設けられている。住居跡の形態はほぼ方形である。XE-9 (住) が相当する。

I群は9世紀、II群・III群は9世紀後葉～10世紀代に位置づけられる。

Ⅶ 鑑定・分析

1 試料種子同定報告

バリノ・サーヴェイ株式会社

(1)昭和63年度調査試料種子同定報告

1) 試料

上川岸Ⅱ遺跡では、平安時代（前後）に属する住居址が検出されている。住居址のカマド内には炭化物が多数認められている。

今回の種子同定には、これら住居址のカマド内から採取されて土壌試料を扱った。

同定試料として採取された土壌は、以下に示す3試料である。

試料1 KKⅡ-88ⅨE-3 (住)カマド内(風乾土500g)

試料2 KKⅡ-88ⅧE-2 (住)カマド内(風乾土500g)

試料3 KKⅡ-88ⅩE-1 (住)カマド内(風乾土500g)

2) 方法

土壌試料1・2・3を各々2mm・1mm・0.5mmの篩で流水及び浮遊選別し、2mm以上・1mm以上2mm未満・0.5mm以上1mm未満のものを全て集め、風乾した。各面分の風乾試料から炭化物各々の篩別で得られた試料の残渣は試料番号毎に分別しておいた。

3) 結果

試料から選別されたほとんどが炭化物破片であった。一部種実と判断できる炭化物片がみられてが、いずれも完全な形態を残していないため、同定に至らないものが多かった。

以下、それぞれの試料について記す。

<試料1>

- ・2mm以上：完全に炭化した材破片のみであり、果実及び種子はない。
- ・1mm以上2mm未満：完全に炭化した材破片のみであり、果実及び種子はない。
- ・0.5mm以上1mm未満：完全に炭化した材破片のほか、果実及び種子の破片が少量発見できた。おそらくイネの胚乳と考えられるもの。熱による変性で、灰白色を示している。

所属不明の種子破片。黒色光沢あり。1mm弱。推定できる形態は、回転楕円形で大きさ1mm(図版1-1)。

<試料2>

- ・2mm：完全に炭化した材破片のみであり、果実及び種子はない。
- ・1mm以上2mm未満：完全に炭化した材破片のほか、果実及び種子の破片も発見できた。
- ・0.5mm以上1mm未満：完全に炭化した材破片のほか、果実及び種子の破片も発見できた。お

そらくイネの胚乳と考えられるもの。熱による変性で、灰白色を示している。

所屬不明の種子破片。黒色光沢あり。1mm弱。推定できる形態は、回転楕円形(図版1-2)。

<試料3>

- ・2mm以上：完全に炭化した材破片のみであり、果実及び種子はない。
- ・1mm以上2mm未満：完全に炭化した材破片のほか、果実または種子の破片も発見できた(図版1-3)。2個体とも黒色。破片状で同定不能。
- ・0.5mm以上1mm未満：完全に炭化した材破片のほか、果実または種子の破片も発見できた(図版1-4)。いずれも破片であるが、中でも上面観は卵形で側面観は破損のため扁平になっている個体、またはヒエと考えられる個体のみがほぼ原型をとどめていたにすぎない。他は同定不能。

4) 考察

いずれの土壤試料中にも同定できた種実数は少なかった。

今回の試料はカマド内から採取された土壤試料であり、燃料に使用された材が炭化した可能性もある。今回の結果から当時の植物に関する多くの試料を得るには至らなかったが、一部イネやヒエの存在も示唆され、当時の栽培植物も一端をうかがうことができた。

図版1



1. 試料1-0.5mm



2. 試料2-0.5mm



3. 試料3-1mm



4. 試料3-0.5mm

スケールは1mmを示す。

(2)平成元年度調査試料種子同定時報告

1) 試料

試料は、上川岸Ⅱ遺跡のⅧE-2住カマド焼土より出土したものである。いずれもが炭化はしていないため、保存状態は比較的良好である。時代は平安時代とされている。

同定した試料はビニール袋に入れ分類し、種子以外のものはそのままシャーレの残した。

2) 方法

種子同定方法は、実体顕微鏡を用いて観察した。また、写真図版(図版7)も作成した。

3) 結果・考察

本遺跡から得られた大型植物遺体は、サルナシ・マタビ・スズメ・ウリ・ナス・不明A・Bである。

遺跡付近では栽培していたと考えられるものは、ナスのみである。その他人間が食糧ほかとして利用していたと考えられるものは、サルナシ・マタビである。これらは遺跡付近に育成していたものを採取し、持ち込まれたものが人為的にカマドまで運ばれたものと考えられる。

以下に各種類の特徴を述べる。

・サルナシ (*Actinidia arguta* PLANCHON) 種子 (1粒) (図版2の1)

種子は暗褐色。側面観は楕円形、上面観は両凸レンズ形。長さ2.4mm程度、幅1.5mm程度。表面に穴が規則的に分布する。種皮はやや厚く硬い。

・マタビ (*Actinidia polygama* PLANCHON) 種子 (1粒) (図版2の2)

種子は暗褐色。側面観は楕円形、上面観は凸レンズ形。長さ1.6mm程度、幅1mm程度。表面に穴が規則的に分布する。種皮はやや厚く硬い。

・スズメウリ (*Melothria japonica* MAXIMOWICZ) 種子 (1粒) (図版2の3)

不完全な種子が得られた。灰褐色。側面観はおそらく楕円形、上面観は偏平。推定できる長さ3.5mm、幅2mm、表面は滑らかである。

・ナス (*Solanum melongena* LINNE) 種子 (1粒) (図版2の4)

種子は淡褐色。側面観は楕円形、上面観は偏平。長さ3.5mm程度、幅2.5mm程度。表面に微細な畝状の構造があり、これが網目を構成している。

・不明A (Undetermined A) (1粒) (図版2の5)

植物材の一部と考えられる。黒色。

・不明B (Undetermined B) (1粒) (図版2の5)

種子破片と考えられる。茶灰色。ウリの種子ではない。

図版 2



1



2



3



4



5



6

1. サルナシ (×15), 2. マタタビ (×20), 3. スズメウリ (×10), 4. ナス (×10),
5. 不明A (×12), 6. 不明B (×10)

遺構内 出土土器観察表(1)

() 推定 [] 残存高

図面 番号	遺構名	出土地点	種別	調		状態	備考	法		分類	写真 番号	
				外面	内面			口径	底径			
07-1	VD-1 (他)	Q3 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	-		14.8		[6.8]	II	38-1
2	VD-1 (他)	Q3 灰土	土師器(底付付)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	-			5.0	[2.5]	II	2
3	VD-1 (他)	Q3 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	斜ヘリナシ調整			5.5	[3.3]	II-B3	3
4	VD-1 (他)	Q3 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			5.0	[1.4]	II	4
5	VD-1 (他)	カマド跡	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			4.0	[2.3]	II	5
6	VD-1 (他)	掘り方灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ	底縁未切り直			5.7	[1.5]	II	6
7	VD-1 (他)	Q3 灰土	灰土器(内)	ロクロ調整	ロクロ調整	底縁未切り直			5.0	[3.2]	II	7
8	VD-1 (他)	掘り方灰土・カマド跡	土師器(内)	ロクロ調整	ロクロ調整	-		14.0		[5.4]	II	8
9	VD-1 (他)	II 掘り方灰土	赤中々土師器(内)	ロクロ調整	ロクロ調整	底縁未切り直		14.3	5.2	[4.7]	II	9
10	VD-1 (他)	Q2 灰土下・Q1 灰土	赤中々土師器(内)	ロクロ調整	ロクロ調整	-	ひたき有り	15.6		[4.3]	II	10
08-11	VD-1 (他)	Q3 灰土	土師器(不調整)	ロクロ調整	ロクロ調整	底縁未切り直			6.0	[3.5]	II	11
15	VD-1 (他)	カマド跡	灰土器(他)	平行叩き目直	平行叩き目直		口縁部ナシ調整			[2.4]	A	15
16	VD-1 (他)	カマド跡	灰土器(他)	平行叩き目直	平行叩き目直					[26.0]	A	16
17	VD-2 (他)	灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			5.1	[1.3]	II-A	40-17
18	VD-2 (他)	Q3 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			4.8	[0.8]	II-A	18
19	VD-2 (他)	Q3 灰土	灰土器(内)	ロクロ調整	ロクロ調整	底縁未切り直			6.0	[1.4]	II	19
09-20	VD-2 (他)	掘り方	土師器(他)	叩き直ヘリナシ	ロクロ調整			22.0		[20.5]	II	30
21	VD-2 (他)	掘り方灰土	灰土器(他)	ヘラナシ	ヘラナシ				[12.0]	[26.1]	II	21
09-22	VD-2 (他)	Q1 灰土	土師器(他)	ロクロ調整	ロクロ調整					[6.9]	II	41-22
23	VD-2 (他)	灰土	土師器(他)	叩き直ヘリナシ	ロクロ調整	底縁未切り直			7.4	[4.3]	II	23
61-30	VE-1 (他)	灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	-		15.2		[4.9]	II	42-30
31	VE-1 (他)	Q1 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	-		14.0		[3.7]	II	31
32	VE-1 (他)	Q3・Q4 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	-		14.6		[3.7]	II	32
33	VE-1 (他)	Q2 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			6.0	[2.0]	II-A	33
34	VE-1 (他)	Q2 灰土上部	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			5.8	[1.6]	II-A	34
35	VE-1 (他)	Q1 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			5.5	[3.1]	II-A	35
36	VE-1 (他)	Q2 灰土下部	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			5.0	[1.8]	II-A	36
37	VE-1 (他)	Q1 灰土上部	赤中々土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			5.2	[1.0]	II	37
38	VE-1 (他)	Q2 灰土下部	赤中々土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			7.0	[1.7]	II	38
62-39	VE-1 (他)	Q3 灰土	灰土器(他)	ロクロ調整	ロクロ調整			-		[3.4]	II	39
40	VE-1 (他)	Q2 灰土	灰土器(他)						[3.4]		II	40
63-53	VF-1 (他)	Q1 灰土下部	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	斜ヘリナシ調整		13.2	5.2	5.2	II-B1	43-53
54	VF-1 (他)	Q1 灰土下部	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	斜ヘリナシ調整			5.0	[1.3]	II-B1	54
55	VF-1 (他)	Q4 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	斜ヘリナシ調整			6.0	[1.9]	II-B1	55
56	VF-1 (他)	Q4 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	ヘラナシ調整			6.0	[1.4]	II-B3	56
57	VF-1 (他)	Q2 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	ヘラナシ調整			6.5		II-A	57
58	VF-1 (他)	Q4 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直		13.4	5.8	[5.0]	II-A	58
59	VF-1 (他)	Q3 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			6.2	4.3	II-A	59
60	VF-1 (他)	Q4 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			5.2	[1.1]	II-A	60
61	VF-1 (他)	Q1・Q2 灰土下部	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			5.6	[3.9]	II-A	61
62	VF-1 (他)	Q3 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			6.5	[2.9]	II-A	62
63	VF-1 (他)	Q4 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			6.0	[2.0]	II-A	63
64	VF-1 (他)	Q2 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直			6.0	[2.0]	II-B3	64
64-65	VF-1 (他)	Q2・Q3 灰土	土師器(内)	ロクロ調整	ヘリナシ・底径不明	底縁未切り直		15.3	7.5	4.8	II-A	65

遺構内 出土土器観察表(2)

() 推定 [] 残存高

国庫 番号	遺構名	出土地点	種別	調 査		成 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分 類	写真 番号
				外 面	内 面			口径	底径	器高		
64-66	V.F-1 (他)	Q3 雑土	土師器(灰)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			8.5	[3.3]	I-A	64-66
67	V.F-1 (他)	Q2 雑土	土師器(灰)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			5.6	[1.0]	I-A	67
68	V.F-1 (他)	Q4 雑土	土師器(灰)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕	3本の別巻有り		5.4	[0.3]	I-A	68
69	V.F-1 (他)	Q4 雑土	土師器(灰)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			5.8	[2.7]	I-A	69
70	V.F-1 (他)	Q1 雑土2層	土師器(灰)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			7.0	[1.7]	I-A	70
71	V.F-1 (他)	Q3 雑土	土師器(灰)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			5.2	[1.1]	I-A	71
72	V.F-1 (他)	Q4 雑土	土師器(灰)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			5.6	[1.0]	I-A	72
73	V.F-1 (他)	Q1・Q2土1層	土師器(灰)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			5.5	[0.6]	I-A	73
74	V.F-1 (他)	Q3 雑土	土師器(灰)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			5.6	[0.6]	I-A	74
75	V.F-1 (他)	Q3 雑土	土師器(灰)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			7.4	[0.3]	I-A	75
76	V.F-1 (他)	Q1 雑土下部	土師器(灰)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			6.0	[3.0]	I-A	76
77	V.F-1 (他)	Q3 雑土	土師器(灰台付)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			5.5	[1.1]	A	77
78	V.F-1 (他)	Q3 雑土	土師器(灰台付)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			6.0	[0.4]	I-A	78
79	V.F-1 (他)	Q1 雑土1層	土師器(灰台付)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			7.0	[1.3]	B	79
80	V.F-1 (他)	Q3 雑土	土師器(灰台付)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			3.0	2.2	B	80
81	V.F-1 (他)	Q1・Q2 雑土2層	土師器(灰台付)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕		(14.0)		[2.4]		81
82	V.F-1 (他)	Q2・Q3 雑土2層	土師器(灰台付)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕		(14.0)	5.0	4.0	B	82
83	V.F-1 (他)	カマド内	土師器(灰台付)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕		(12.0)	5.0	5.0	B	83
84	V.F-1 (他)	(V.F. 8a) 3層	土師器(灰台付)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕				[2.1]	B	84
85	V.F-1 (他)	Q2・Q3 雑土3層	土師器(灰台付)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕		(14.0)	5.0	3.8	B	85
86	V.F-1 (他)	Q3 雑土	土師器(灰台付)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕				[1.9]		86
87	V.F-1 (他)	Q4 雑土	土師器(灰台付)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			5.5	[2.9]		87
88	V.F-1 (他)	Q2 雑土	土師器(灰台付)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕	「十」字状断面			1.0	A	88
89	V.F-1 (他)	Q4 雑土	土師器(灰台付)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕			9.4	3.8	B	89
90	V.F-1 (他)	Q3・Q4 雑土	土師器(灰台付)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕	放射状断面		5.6	2.9	A	90
91	V.F-1 (他)	Q2 雑土	土師器(灰台付)	口クロ調整	ヘリ内・地割	胴筋糸切り痕	放射状断面		3.5	[3.0]	A	91
92	V.F-1 (他)	Q1・Q4 雑土上部	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕			6.0	[2.6]		92
93	V.F-1 (他)	Q2・Q4 雑土	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕			5.7	[1.5]		93
94	V.F-1 (他)	Q1・Q2 雑土1層	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕			6.0	[0.9]		94
95	V.F-1 (他)	Q1・Q2 雑土1層	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕			6.0	[1.7]		95
96	V.F-1 (他)	Q2 雑土	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕			5.4	[1.3]		96
97	V.F-1 (他)	Q1 雑土下部	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕			5.2	[1.1]		97
98	V.F-1 (他)	Q2 雑土	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕		(14.0)	5.2	[4.0]		98
99	V.F-1 (他)	Q1・Q2 雑土	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕			5.2	[2.0]		99
100	V.F-1 (他)	Q1・Q3 雑土	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕		(14.0)	5.4	4.5		100
101	V.F-1 (他)	Q1 雑土下部	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕		(14.0)	5.4	4.2		101
102	V.F-1 (他)	Q2 雑土	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕			5.0	[1.2]		102
103	V.F-1 (他)	Q3・Q4 雑土下部	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕	内面にゴビ状突起有り	(13.0)	5.2	4.6		103
104	V.F-1 (他)	Q3 雑土	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕			5.0	[1.0]		104
105	V.F-1 (他)	Q1 雑土	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕		(14.0)	4.0	3.9		105
106	V.F-1 (他)	Q3・Q4 雑土1層	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕			5.0			106
107	V.F-1 (他)	Q4 雑土	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕			4.6	[3.0]		107
108	V.F-1 (他)	Q1・Q3 雑土下部	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕			5.4	[3.0]		108
109	V.F-1 (他)	Q4 雑土	灰土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	胴筋糸切り痕			6.4	[2.3]		109

遺構内 出土土器観察表(3)

() 推定 [] 残存高

図版 番号	遺構名	出土地点	種類	器 身		底 部	備 考	法 量 (cm)			分類 番号	
				外 面	内 面			口 径	底 径	残 高		
97-119	VF-1 (住)	Q4 灰土	腹巻器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕					45-110	
111	VF-1 (住)	Q3 灰土	腹巻器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕					111	
112	VF-1 (住)	Q1 灰土下部	腹巻器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕					112	
113	VF-1 (住)	灰土	腹巻器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕					113	
114	VF-1 (住)	Q1 灰土下部	あかやち土器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕	(15.0)	6.0	4.4		114	
115	VF-1 (住)	Q4 灰土下部	あかやち土器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕		6.0	1.7		115	
116	VF-1 (住)	Q4 灰土	あかやち土器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕		6.2	3.5		116	
117	VF-1 (住)	Q1 灰土	あかやち土器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	-	14.4		3.6		117	
118	VF-1 (住)	Q2 灰土	あかやち土器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕		6.2	2.7		118	
119	VF-1 (住)	Q3 灰土	あかやち土器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕		3.0	3.0		119	
120	VF-1 (住)	Q2 灰土	あかやち土器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕			5.5	[1.1]	120	
121	VF-1 (住)	Q3・Q4 灰土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	-					121	
122	VF-1 (住)	Q1 灰土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕		7.0	6.4	■	122	
123	VF-1 (住)	カマド遺出し層土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕		6.1	9.3	■	123	
69-124	VF-1 (住)	Q3 灰土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	-	(23.0)		5.0	■	124	
125	VF-1 (住)	Q1・Q2 灰土1層	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	-	(22.0)		9.9	■	125	
126	VF-1 (住)	カマド	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	-	(22.0)		6.9	■	126	
127	VF-1 (住)	Q4 灰土下部	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	-	(19.4)		6.2	■	127	
128	VF-1 (住)	カマド	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	-	(18.8)		6.4	■	128	
129	VF-1 (住)	Q1・Q2 灰土1層	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	-	(18.8)		3.5	■	129	
130	VF-1 (住)	灰土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整	(19.5)		6.3	■	130	
131	VF-1 (住)	Q1・Q2 灰土下部	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整	(15.0)		4.5	■	46-131	
69-132	VF-1 (住)	灰土層	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整			14.0	■	132	
133	VF-1 (住)	Q3 灰土・カマド層	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整	(6.0)		4.5	■	133	
134	VF-1 (住)	Q2・Q3 灰土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整			7.0	■	134	
135	VF-1 (住)	Q1 灰土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整	(10.0)		1.0	■	135	
136	VF-1 (住)	Q3 灰土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整	(5.0)		4.3	■	136	
137	VF-1 (住)	Q1 灰土下部	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整			6.0	[3.1]	137	
138	VF-1 (住)	Q3 灰土下部	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整			7.0	[3.7]	■	138
139	VF-1 (住)	Q1 灰土下部	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整			5.2	[1.9]	139	
140	VF-1 (住)	Q1 灰土下部	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整			7.0	[3.0]	140	
141	VF-1 (住)	Q3 灰土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕			7.4	[1.3]	■	141
142	VF-1 (住)	Q1 灰土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕			6.5	[1.9]	■	142
143	VF-1 (住)	Q2 灰土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕			7.0	[1.7]	■	143
144	VF-1 (住)	Q1 灰土・カマド層	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕			8.0	[2.1]	■	144
145	VF-1 (住)	Q1 灰土下部	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕			7.0	[1.0]	■	145
146	VF-1 (住)	Q1・Q2 灰土下部	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	凹形糸切り痕			5.8	[3.7]	■	146
70-147	VF-1 (住)	Q2 灰土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整					147	
148	VF-1 (住)	Q2 灰土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整					148	
149	VF-1 (住)	Q1 灰土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整			7.0	[4.1]	149	
150	VF-1 (住)	Q4 灰土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整			(11.0)	[3.5]	150	
151	VF-1 (住)	Q2・Q3 灰土2層	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整			(6.0)	[3.0]	151	
152	VF-1 (住)	Q2・Q3 灰土2層	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整			(10.0)	[7.0]	152	
153	VF-1 (住)	Q4 灰土	土師器(灰)	ワタロ調整	ワタロ調整	ワタロ調整			(16.0)	[5.5]	153	

遺構内 出土土器観察表(4)

() 推定 [] 残存高

図版 番号	遺構名	出土地点	種別	調 査		地 部	備 考	法 量 (cm)			分類	写真 番号	
				外 面	内 面			口徑	底径	器高			
70-154	VF-1 (Ⅸ)	Q 4 埋土下層	須恵器(Ⅸ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[4.1]		66-154	
155	VF-1 (Ⅸ)	Q 2 埋土	須恵器(Ⅸ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[4.6]		155	
156	VF-1 (Ⅸ)	Q 1 床面	須恵器(Ⅸ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[18.2]		47-156	
157	VF-1 (Ⅸ)	Q 1-Q 4 埋土 2 層	須恵器(Ⅸ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[6.5]		157	
71-158	VF-1 (Ⅸ)	Q 1-Q 2 埋土	須恵器(Ⅸ)	ロクロ調整	ロクロ調整			023.40		[5.5]		158	
159	VF-1 (Ⅸ)	Q 1-Q 2 埋土 1 層	須恵器(Ⅸ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[2.46]		159	
160	VF-1 (Ⅸ)	Q 1 埋土下層	須恵器(Ⅸ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[6.8]	A	160	
161	VF-1 (Ⅸ)	Q 1 埋土	須恵器(Ⅸ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[4.6]		161	
162	VF-1 (Ⅸ)	Q 4 埋土	須恵器(Ⅸ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[6.4]	A	162	
163	VF-1 (Ⅸ)	Q 4 埋土	須恵器(Ⅸ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[11.9]		163	
164	VF-1 (Ⅸ)	Q 2 埋土	須恵器(Ⅸ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[3.1]		164	
165	VF-1 (Ⅸ)	Q 3-Q 4 埋土 1 層	須恵器(Ⅸ)	ロクロ調整	ロクロ調整				66.30	[2.4]		165	
166	VF-1 (Ⅸ)	Q 埋土	須恵器(Ⅸ)	ヘラケズリ	ヘラケズリ				17.00	[13.7]		166	
72-167	VF-1 (Ⅸ)	Q 3 埋土	須恵器(Ⅸ)	ヘラケズリ	ヘラケズリ					[7.6]		167	
168	VF-1 (Ⅸ)	Q 3-Q 4 埋土 1 層	須恵器(Ⅸ)	ヘラケズリ	ヘラケズリ					[12.5]	A	168	
169	VF-1 (Ⅸ)	Q 1 埋土	須恵器(Ⅸ)	平行叩き目痕	平行叩き目痕						A	169	
170	VF-1 (Ⅸ)	Q 4 埋土	須恵器(Ⅸ)	平行叩き目痕	平行叩き目痕						A	68-170	
73-171	VF-1 (Ⅸ)	Q 4 埋土下層	須恵器(Ⅸ)	平行叩き目痕	平行叩き目痕						A	171	
172	VF-1 (Ⅸ)	Q 3 埋土	須恵器(Ⅸ)	平行叩き目痕	点て具痕						A	172	
173	VF-1 (Ⅸ)	Q 3-Q 4 埋土 2 層	須恵器(Ⅸ)	平行叩き目痕	平行叩き目痕						A	173	
174	VF-1 (Ⅸ)	Q 1-Q 4 埋土 1 層	須恵器(Ⅸ)	平行叩き目痕	平行叩き目痕						A	174	
175	VF-1 (Ⅸ)	Q 3 埋土	須恵器(Ⅸ)	平行叩き目痕	平行叩き目痕						A	175	
176	VF-1 (Ⅸ)	Q 3 埋土	須恵器(Ⅸ)	平行叩き目痕	平行叩き目痕						A	176	
74-186	VF-2 (Ⅹ)	カマド	土師器(Ⅹ)	ロクロ調整	ヘラケズリ・点て具痕			03.00	5.50	4.1	Ⅱ B-2	68-186	
187	VF-2 (Ⅹ)	床面	土師器(Ⅹ)	ロクロ調整	ヘラケズリ・点て具痕							187	
188	VF-2 (Ⅹ)	カマド埋土	須恵器(Ⅹ)	ロクロ調整	ロクロ調整			14.00	5.60	4.7	Ⅱ B-3	188	
189	VF-2 (Ⅹ)	Q 1 埋土	須恵器(Ⅹ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[3.20]	Ⅱ-A	189	
190	Ⅷ E-1 (Ⅷ)	Q 1 床面一括	土師器(Ⅷ)	ロクロ調整	ヘラケズリ・点て具痕					[4.9]	4.5	Ⅱ-A	190
191	Ⅷ E-1 (Ⅷ)	Q 1 床面一括	赤中土師器(Ⅷ)	ロクロ調整	ヘラケズリ			15.00	5.20	5.3		191	
192	Ⅷ E-1 (Ⅷ)	Q 1 床面	土師器(Ⅷ)	ロクロ調整	ヘラケズリ・点て具痕					[4.1]		192	
193	Ⅷ E-1 (Ⅷ)	Q 1 床面	土師器(Ⅷ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[1.4]	B	193	
194	Ⅷ E-1 (Ⅷ)	P 1 埋土	土師器(Ⅷ)	ロクロ調整	ロクロ調整			15.4	5.8		Ⅱ	194	
195	Ⅷ E-1 (Ⅷ)	Q 1 床面	土師器(Ⅷ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[3.6]	Ⅱ	195	
196	Ⅷ E-1 (Ⅷ)	Q 1 床面	土師器(Ⅷ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[2.8]		196	
197	Ⅷ E-1 (Ⅷ)	Q 2 床面	須恵器(Ⅷ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[3.9]		197	
75-198	Ⅷ E-1 (Ⅷ)	7 d 2 層	土師器(Ⅷ)	ヘラケズリ	ヘラケズリ					[6.0]	I	198	
199	Ⅷ E-1 (Ⅷ)	P 1 埋土	土師器(Ⅷ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[3.7]	Ⅱ	199	
200	Ⅷ E-1 (Ⅷ)	Q 4 床面	土師器(Ⅷ)	ロクロ調整	ロクロ調整				06.00	[2.5]	Ⅱ	50-200	
201	Ⅷ E-2 (Ⅷ)	カマド脇 Q 1 床面	土師器(Ⅷ)	ロクロ調整	ヘラケズリ・点て具痕			13.80	5.20	5.3	Ⅱ B-3	201	
202	Ⅷ E-2 (Ⅷ)	床面No.1一括	土師器(Ⅷ赤中付付)	ロクロ調整	ヘラケズリ・点て具痕			16.00	7.00	6.0	Ⅱ	202	
203	Ⅷ E-2 (Ⅷ)	Q 1-Q 2 埋土下層	土師器(Ⅷ)	ロクロ調整	ヘラケズリ・点て具痕					[2.7]	Ⅱ	203	
204	Ⅷ E-2 (Ⅷ)	Q 1-Q 2 埋土下層	土師器(Ⅷ)	ロクロ調整	ヘラケズリ・点て具痕					[5.8]	[1.1]	Ⅱ-A	204
205	Ⅷ E-2 (Ⅷ)	Q 3 埋土下層	土師器(Ⅷ)	ロクロ調整	ヘラケズリ・点て具痕					6.5	[1.2]	Ⅱ-A	205
207	Ⅷ E-2 (Ⅷ)	Q 1 埋土	赤中土師器(Ⅷ)	ロクロ調整	ロクロ調整					[4.6]	[2.6]	207	

遺構内 出土土器観察表 (5)

() 推定 [] 残存高

項数 番号	遺構名	出土地点	種別	形 態		底 部	備 考	法 量 (cm)			分類 番号		
				外 面	内 面			口径	底径	器高			
76-208	ⅡE-2 (住)	Q1 雑土下層	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整			24.2		8.4	Ⅱ	50-208	
209	ⅡE-2 (住)	東面	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整			21.0		6.2	Ⅱ	209	
210	ⅡE-2 (住)	南り東・雑土	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整					8.7	Ⅱ	210	
211	ⅡE-2 (住)	カマド風土Q1東面	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕		16.0	7.0	13.7	Ⅱ	211	
212	ⅡE-2 (住)	南面西側カマド	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整			20.0		6.5	Ⅱ	212	
213	ⅡE-2 (住)	Q1 雑土下層	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕			7.0	8.2	Ⅱ	213	
214	ⅡE-2 (住)	Q2 雑土	土師器(甕)	ヘラケズリ	ヘラナデ				7.4	8.4	Ⅱ	53-214	
77-215	ⅡE-2 (住)	Q2 雑土	土師器(甕)	ヘラケズリ	ヘラナデ			15.4			I	215	
216	ⅡE-2 (住)	カマド東面	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕			6.3	8.6	Ⅱ	216	
217	ⅡE-2 (住)	雑土	須恵器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整						B	217	
218	ⅡE-2 (住)	Q2-Q3 雑土	須恵器(甕)	ヘラケズリ	ヘラナデ				12.2	8.0	Ⅱ	218	
219	ⅡE-2 (住)	Q4 雑土	須恵器(甕)	ヘラケズリ	ヘラナデ				12.0	6.3	Ⅱ	219	
220	ⅡE-3 (住)	雑土内	赤ヤマト土(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整			13.6		5.1		220	
221	ⅡE-3 (住)	雑土ピット	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕			7.0	6.9	Ⅱ	221	
78-222	ⅡE-4 (住)	Q3 東面	須恵器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整					8.6		222	
223	ⅡE-4 (住)	東面No.1	須恵器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整					10.3		223	
224	ⅡE-4 (住)	雑土内	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕		14.2	5.2	5.5	Ⅱ-A	224	
225	ⅡE-4 (住)	東面No.5	須恵器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕			5.5	1.3		225	
79-301	ⅡE-1 (住)	カマド立輪雑土	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整							50-301	
302	ⅡE-1 (住)	カマド雑土直上	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕		14.1	5.2	5.7	Ⅱ-B-1	302	
303	ⅡE-1 (住)	Q3 東面	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整						Ⅱ	303	
304	ⅡE-1 (住)	ピット雑土・カマド直上	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整						Ⅱ	304	
305	ⅡE-1 (住)	Q1 東面	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕			6.8	1.2	ⅡB-2	305	
306	ⅡE-1 (住)	Q1-Q2 雑土下層	土師器(甕)	ヘラケズリ	ワタロ調整	瓦板未切り痕			5.0	1.6	ⅡB-2	306	
307	ⅡE-1 (住)	Q1-Q2 雑土下層	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕		13.6	4.4	5.4	ⅡB-1	307	
308	ⅡE-1 (住)	カマド風土	須恵器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕			5.0	1.0		308	
309	ⅡE-1 (住)	カマド雑土直上	赤ヤマト土(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕			5.6	1.1		309	
310	ⅡE-1 (住)	カマド風土	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕		15.4	7.0	4.7		310	
311	ⅡE-1 (住)	Q2 東面直上	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕	黒土土器「三」		15.4	6.0	2.8		311
312	ⅡE-1 (住)	カマド雑土直上	赤ヤマト土(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕			13.3	5.8	4.9		312
50-313	ⅡE-1 (住)	Q4 雑土下層	須恵器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整							313	
314	ⅡE-1 (住)	雑土上層	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整							314	
315	ⅡE-1 (住)	Q2 東面	須恵器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕			5.0	2.1		315	
316	ⅡE-1 (住)	P1 雑土下層	須恵器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整	瓦板未切り痕		13.5	5.0	4.5		316	
317	ⅡE-1 (住)	Q2 東面	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整						Ⅱ	317	
318	ⅡE-1 (住)	Q4 雑土下層	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整						Ⅱ	53-318	
319	ⅡE-1 (住)	カマド雑土	土師器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整			15.2		10.0	I	319	
320	ⅡE-1 (住)	Q2 雑土	須恵器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整							320	
321	ⅡE-1 (住)	東面直上	須恵器(甕)	ワタロ調整	ワタロ調整							321	
322	ⅡE-1 (住)	Q1 雑土	土師器(甕)	ヘラケズリ	ヘラナデ				7.2	2.0		322	
323	ⅡE-1 (住)	Q1 雑土下層	土師器(甕)	ヘラケズリ	ヘラナデ				6.0	1.0		323	
324	ⅡE-1 (住)	カマド雑土	土師器(甕)	ヘラケズリ	ヘラナデ				10.2	16.3	I	324	

遺構内 出土土器観察表(6)

() 測定 [] 残存高

図版番号	遺構名	出土地点	種別	施文	底部外面	備考	法量 (cm)			分類	写真番号
							口径	底径	器高		
305	ⅡE-1 (住)	Q 2 埋土層	縄文土器(鉢)	沈線文、磨滑縄文		口縁部				I-2	55-305
306	ⅡE-1 (住)	Q 1 埋土	縄文土器(鉢)	沈線文、磨滑縄文		底部				I-2	306
327	ⅡE-1 (住)	床面	縄文土器(鉢)	平行沈線、刷み目		口縁部				II-1 b	327
328	ⅡE-1 (住)	Q 1 埋土	縄文土器(鉢)	磨滑縄文、草部 L R		底部				I-6	328
329	ⅡE-1 (住)	Q 3 埋土下部	縄文土器(鉢)	磨文帯、草部 L R		口縁部				II-2	329
330	ⅡE-1 (住)	Q 3 埋土	縄文土器(注門)			注門部					330
331	ⅡE-1 (住)	カマド埋土	縄文土器(注門)			注門部					331

図版番号	遺構名	出土地点	種別	胴		底部外面	備考	法量 (cm)			分類	写真番号
				外 形	内 形			口径	底径	器高		
333	ⅡE-2 (住)	床面No 6	土師器(片)	口クロ調整	ハナハナ調整	底ハナハナ(傾)		-	6.40	[1.7]	I-A	55-333
334	ⅡE-2 (住)	Q 4 埋土	土師器(片)	口クロ調整	ハナハナ調整	底ハナハナ(傾)		-	6.40	[0.9]	II-A	334
335	ⅡE-2 (住)	Q 4 埋土	土師器(片)	口クロ調整	ハナハナ調整	底ハナハナ(傾)		-	4.40	[3.2]	II-A	56-335
336	ⅡE-2 (住)	南西隅縁部	土師器(片)	口クロ調整	ハナハナ調整	底ハナハナ(傾)		14.8	5.6	5.1	II-A	336
337	ⅡE-2 (住)	床面No 2	須恵器(片)	口クロ調整	口クロ調整							337
338	ⅡE-2 (住)	カマド左縁	須恵器(片)	口クロ調整	口クロ調整			(15.4)	6.3	5.2		338
339	ⅡE-2 (住)	Q 1 埋土下部	土師器(鉢)	コナテハナナ	コナテハナナ						I	339
340	ⅡE-2 (住)	床面	土師器(鉢)	コナテハナナ	コナテハナナ						I	340
341	ⅡE-2 (住)	床面	土師器(鉢)	ハラケズリ	コナテハナナ						I	341
342	ⅡE-2 (住)	床面	土師器(鉢)	コナテハナナ	ハラケナ			12.4	4.4	13.0	I	342
343	ⅡE-2 (住)	床面No 2	土師器(鉢)	口クロ調整	口クロ調整	底ハナハナ(傾)			6.40	[3.0]	II	343
344	ⅡE-2 (住)	カマド縁部 2 埋土	土師器(鉢)	口クロ調整	口クロ調整	底ハナハナ(傾)		(14.3)	6.0	7.9	II	344
345	ⅡE-2 (住)	Q 1 埋土下部	土師器(鉢)	ハナハナ調整	口クロ調整			(19.4)	-	[8.7]		345
346	ⅡE-2 (住)	南西隅埋土	土師器(鉢)	ハナハナ調整	ハラケナ			-	(10.2)	[6.4]		346
347	ⅡE-2 (住)	Q 2 埋土下部	土師器(鉢)	ハラケナ	ハラケナ	水置汪痕		-	6.80	[1.3]	I	55-347
348	ⅡE-2 (住)	Q 2 埋土下部	土師器(鉢)	ハラケズリ	ハラケナ			-	6.40	[1.0]		348
349	ⅡE-2 (住)	Q 2 埋土下部	土師器(鉢)	ハラケズリ	ハラケナ			-	6.40	[1.8]		349
350	ⅡE-2 (住)	床面No 2	土師器(鉢)	ハラケズリ	ハラケナ			-	(10.9)	[16.8]		350
351	ⅡE-2 (住)	床面	土師器(鉢)	ハラケズリ	ハラケナ			-	(11.2)	[6.3]		351
352	ⅡE-2 (住)	Q 4 床面	須恵器(鉢)	口クロ調整	口クロ調整	底ハナハナ(傾)		(15.4)	7.6	9.5		352
353	ⅡE-2 (住)	床面No 13	須恵器(鉢)	口クロ調整	口クロ調整					[11.3]		353
354	ⅡE-2 (住)	床面No 10	須恵器(鉢)	口クロ調整	口クロ調整							354
355	ⅡE-2 (住)	床面	須恵器(鉢)	ハラケズリ	口クロ調整							355
356	ⅡE-2 (住)	床面	須恵器(鉢)	平行印目	磨て具板							356
357	ⅡE-2 (住)	Q 4 埋土	須恵器(鉢)	ハラケズリ	ハラケナ							357
358	ⅡE-2 (住)	Q 1 埋土下部	須恵器(鉢)	ハラケズリ	ハラケナ							358

図版番号	遺構名	出土地点	種別	施文	底部外面	備考	法量 (cm)			分類	写真番号
							口径	底径	器高		
359	ⅡE-2 (住)	Q 2 埋土下部	縄文土器(深鉢)	透線刻文文、磨滑縄文		底部				I-9	56-359
360	ⅡE-2 (住)	埋土下部	縄文土器(深鉢)	透線刻文文、平行沈線、磨滑縄文		口縁部				I-9	360
361	ⅡE-2 (住)	粘土	縄文土器(深鉢)	草部 L R、平行沈線		口縁部				I-6	361
362	ⅡE-2 (住)	カマド埋土	縄文土器(深鉢)	平行沈線		口縁部				I-6	362
363	ⅡE-2 (住)	埋土下部	縄文土器(深鉢)	平行沈線、口唇部に磨滑		口縁部				II-2	363
364	ⅡE-2 (住)	Q 1 埋土	縄文土器(深鉢)	平行沈線、刷み目		口縁部				II-2	364

遺構内 出土土器観察表(7)

()推定 []残存高

図版 番号	遺構名	出土地点	種別	施文	底部 外面	備考	法 量 (cm)			分類	写真 番号
							口径	底径	器高		
35-365	ⅡE-2 (住)	Q 1 雑土下部	縄文土器(漆器)	工字文、連続刺突文	壁の裏面	底部	(10.6)	-	[1.4]	Ⅱ-3	56-365
365	ⅡE-2 (住)	床面Ⅱ9	縄文土器(漆)	沈線、平筋L文		底部	-	6.2	[1.7]	Ⅱ-3	365
367	ⅡE-2 (住)	Q 2 雑土下部	縄文土器(漆器)	平行沈線、平筋LR		口縁部				Ⅱ-2	367
369	ⅡE-2 (住)	Q 3 雑土下部	縄文土器(漆)	斜目月、*型工字文		底部				Ⅱ-1 b	369

図版 番号	遺構名	出土地点	種別	調 整		底部 外面	備考	法 量 (cm)			分類	写真 番号
				外 面	内 面			口径	底径	器高		
374-374	ⅡE-3 (住)	Q 2 雑土	あかやぶ土器(伊)	ロクロ調整	ロクロ調整			(10.5)	-	[4.6]		37-374
375	ⅡE-3 (住)	カマド内	あかやぶ土器(伊)	ロクロ調整	ロクロ調整	図紙片切り痕		-	(7.6)	[3.0]		375
376	ⅡE-3 (住)	Q 2 雑土	土師器(楚)	ロクロ調整	ロクロ調整			(14.0)	-	[8.0]	Ⅱ	376
377	ⅡE-3 (住)	雑土	土師器(楚)	ヘラナデ	ヘラナデ			-	10.4	[3.5]		377
378	ⅡE-3 (住)	Q 1 床面~雑土下部	土師器(楚)	ヘラナズリ	ヘラナデ			-	10.8	[16.0]	I	378
379	ⅡE-3 (住)	床面	土師器(楚)	ヨコナデ	ヘラミダキ						I	379
380	ⅡE-3 (住)	カマド内	土師器(楚)	ヘラナズリ	ヘラナデ						I	380
381	ⅡE-3 (住)	Q 4 雑土	土師器(楚)	ヨコナデ~ヘラナデ	ヘラナデ							381
382	ⅡE-3 (住)	Q 4 雑土下部	須恵器(楚)	ヘラナズリ	ロクロ調整							382
383	ⅡE-3 (住)	床面Ⅱ3	須恵器(楚)	ヨコナデ~ヘラナデ	ロクロ調整							383
384	ⅡE-3 (住)	所帯	須恵器(須恵器)	ヨコナデ~ヘラナデ	ロクロ調整			-	5.2	[18.7]		384

図版 番号	遺構名	出土地点	種別	施文	底部 外面	備考	法 量 (cm)			分類	写真 番号	
							口径	底径	器高			
35-385	ⅡE-3 (住)	Q 3 床面	縄文土器(漆器)	漆器陶文		口縁部					57-385	
386	ⅡE-3 (住)	Q 1 雑土下部	縄文土器(漆器)	漆器陶文		口縁部					386	
387	ⅡE-3 (住)	Q 3 床面	縄文土器(漆器)	平行沈線		底部					387	
388	ⅡE-3 (住)	Q 4 雑土下部	縄文土器(漆器)	漆器陶文		底部					I-8	388
389	ⅡE-3 (住)	Q 3 雑土	縄文土器(漆器)	漆器陶文		底部					I-8	58-389
390	ⅡE-3 (住)	Q 3 雑土	縄文土器(漆器)	漆器陶文		底部					I-8	390
391	ⅡE-3 (住)	雑土下部	縄文土器(漆)	工字文		底部					Ⅱ-1 b	391
392	ⅡE-3 (住)	Q 2 雑土	縄文土器(漆)			口縁部の突起						392
393	ⅡE-3 (住)	雑土	縄文土器(注門)			注門部						393
394	ⅡE-3 (住)	Q 3 床面	縄文土器(注門)			注門部						394
395	ⅡE-3 (住)	床面	縄文土器(漆器)		現代板	底部	-	(9.5)	[3.5]			395

図版 番号	遺構名	出土地点	種別	調 整		底部 外面	備考	法 量 (cm)			分類	写真 番号
				外 面	内 面			口径	底径	器高		
37-401	ⅡE-4 (住)	カマド床面	土師器(伊)	ハケメ	ヘラナデ			(18.3)	(4.0)	5.3	I	56-401
402	ⅡE-4 (住)	Q 2 床面	土師器(伊)	ヘラナデ	ヘラナデ			(6.3)	(5.4)	5.2	I	402
403	ⅡE-4 (住)	Q 2 床面直上	土師器(伊)	ロクロ調整	ヘラナデ~ヘラナデ						Ⅱ	403
404	ⅡE-4 (住)	Q 3 床面直上	土師器(伊)	ロクロ調整	ヘラナデ~ヘラナデ						Ⅱ	404
405	ⅡE-4 (住)	Q 2 床面	須恵器(伊)	ヘラナデ				(6.10)		[1.4]		405
406	ⅡE-4 (住)	Q 2 床面	土師器(伊)	ヨコナデ	ヨコナデ						I	406
407	ⅡE-4 (住)	カマド内	土師器(伊)	ヨコナデ	ヨコナデ~ハケメ						I	407
408	ⅡE-4 (住)	Q 3 床面	土師器(楚)	ロクロ調整	ロクロ調整						Ⅱ	408
409	ⅡE-4 (住)	床面Ⅱ2	須恵器(楚)	斜目月	斜目月						B	409

遺構内 出土土器観察表(8)

() 測定 [] 残存高

図版番号	遺構名	出土地点	種別	施文	底部外面	備考	法量(m)			分類	写真番号
							口径	底径	器高		
87-410	ⅡE-4(位)	Q2床面直上	縄文土器(深鉢)	施文縄文、流紋刺突文		併部				I-3A	88-410
411	ⅡE-4(位)	Q1埋土	縄文土器(深鉢)	施文縄文、流紋刺突文		併部				I-2	411

図版番号	遺構名	出土地点	種別	調量		底部外面	備考	法量(m)			分類	写真番号
				外面	内面			口径	底径	器高		
88-415	ⅡE-6(位)	埋土	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ・流紋刺突			(14.6)	(5.2)	4.4	Ⅱ	88-415
416	ⅡE-6(位)	埋土	土師器(深鉢)	ハナナシ・ハナナシ	ハナナシ						I	416
88-417	ⅡE-7(位)	埋土し埋土	土師器(甕)	口ナロ調整	口ナロ調整			24.0		(26.4)	Ⅱ	417
418	ⅡE-7(位)	埋土	土師器(甕)	ハナナシ・ハナナシ	ハナナシ					(26.4)	I	418
419	ⅡE-7(位)	Q1埋土下層	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ						Ⅱ	419
420	ⅡE-7(位)	Q1埋土直下層	須恵器(杯)	口ナロ調整	口ナロ調整			(6.4)		(1.5)		420
421	ⅡE-7(位)	床面直上	須恵器(杯)	口ナロ調整	口ナロ調整							421

図版番号	遺構名	出土地点	種別	施文	底部外面	備考	法量(m)			分類	写真番号	
							口径	底径	器高			
88-422	ⅡE-7(位)	Q2埋土下層	縄文土器(鉢)	平行流紋		口縁部					Ⅱ-2	88-422
423	ⅡE-7(位)	Q2埋土	縄文土器(深鉢)	華飾LR		口縁部					Ⅱ-3	423

図版番号	遺構名	出土地点	種別	調量		底部外面	備考	法量(m)			分類	写真番号
				外面	内面			口径	底径	器高		
89-425	ⅡE-1(位)	Q2床面直上	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ・流紋刺突			(12.0)	(4.0)	3.8	Ⅱ-A	89-425
426	ⅡE-1(位)	床面直上	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ・流紋刺突			(13.8)	(5.2)	4.6	Ⅱ-A	426
427	ⅡE-1(位)	オマド内	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ			(13.2)		(3.7)	Ⅱ	427
428	ⅡE-1(位)	床面直上	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ・流紋刺突			14.9	6.2	4.7	Ⅱ-A	428
429	ⅡE-1(位)	Q1床面	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ・流紋刺突			(13.4)		(5.0)	Ⅱ	429
430	ⅡE-1(位)	Q1床面	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ			(15.4)		(5.9)	Ⅱ	430
431	ⅡE-1(位)	Q2埋土直上	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ・流紋刺突		不明	(15.7)	(7.2)	4.3	Ⅱ	431
432	ⅡE-1(位)	Q3床面	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ・流紋刺突			14.7	7.6	4.5	Ⅱ-B1	432
433	ⅡE-1(位)	Q2埋土下層	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ・流紋刺突			(7.4)		(3.7)	Ⅱ-A	433
434	ⅡE-1(位)	Q4床面	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ・流紋刺突			(13.8)		(1.5)	Ⅱ-B1	434
435	ⅡE-1(位)	オマド埋土	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ・流紋刺突			(6.0)		(2.7)	Ⅱ-A	435
436	ⅡE-1(位)	Q1埋土下層	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ・流紋刺突					(2.5)	Ⅱ-B2	436
89-437	ⅡE-1(位)	埋土	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ・流紋刺突			(5.0)		(1.5)	Ⅱ-A	437
438	ⅡE-1(位)	Q3埋土	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ・流紋刺突			(6.0)		(1.6)	Ⅱ-A	89-438
439	ⅡE-1(位)	Q1埋土	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ・流紋刺突			(5.2)		(3.4)	Ⅱ-A	439
440	ⅡE-1(位)	Q3埋土	土師器(杯)	口ナロ調整	ハナナシ・流紋刺突			(6.0)		(3.6)	Ⅱ-A	440
441	ⅡE-1(位)	Q4埋土下層	赤中々土器(杯)	口ナロ調整	口ナロ調整			(5.0)	5.8	4.5	Ⅱ-B2	441
442	ⅡE-1(位)	Q3埋土	赤中々土器(杯)	口ナロ調整	口ナロ調整			(5.0)		(2.9)	Ⅱ-A	442
443	ⅡE-1(位)	床面直上	赤中々土器(杯)	口ナロ調整	口ナロ調整			16.3	8.4	7.0	-	443
444	ⅡE-1(位)	Q4埋土下層	赤中々土器(杯)	口ナロ調整	口ナロ調整			(12.0)	(6.0)	6.8	Ⅱ-A	444
445	ⅡE-1(位)	床面直上	赤中々土器(杯)	口ナロ調整	口ナロ調整			(5.4)		(3.9)	Ⅱ-A	445
446	ⅡE-1(位)	埋土下層	土師器(杯)	口ナロ調整	口ナロ調整			(4.0)		(1.9)	-	446
447	ⅡE-1(位)	Q3埋土	土師器(甕)	口ナロ調整	口ナロ調整						Ⅱ	447
448	ⅡE-1(位)	オマド埋土	土師器(甕)	口ナロ調整	口ナロ調整						Ⅱ	448
449	ⅡE-1(位)	オマド内	土師器(甕)	口ナロ調整	口ナロ調整			(15.1)		(3.6)	Ⅱ	449
450	ⅡE-1(位)	オマド内	土師器(甕)	口ナロ調整	口ナロ調整			(21.4)		(7.6)	Ⅱ	450

遺構内 出土土器観察表(9)

()推定 [] 残存高

頭取 番号	遺構名	出土地点	種別	調 査		底 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分類	写真 番号
				外 面	内 面			口徑	底径	器高		
95-451	ⅩE-1 (住)	Q 4 雑土下部	土師器(甕)	ロクロ調整	ロクロ調整			(15.2)		[4.9]	Ⅱ	05-451
452	ⅩE-1 (住)	床面№4	土師器(甕)	ロクロ調整							Ⅱ	452
453	ⅩE-1 (住)	Q 3 雑土	土師器(甕)	ヘラナデ							I	453
454	ⅩE-1 (住)	Q 4 雑土下部	土師器(甕)	ヘラナズリ	ヘラナデ						I	454
455	ⅩE-1 (住)	Q 1 床面	土師器(甕)	ヘラナズリ								455
456	ⅩE-1 (住)	Q 1 床面~雑土下部	土師器(甕)	ヘラナズリ								63-456
457	ⅩE-1 (住)	Q 1 雑土下部	土師器(甕)	ヘラナデ	ヘラナデ			(4.0)		[1.0]	I	457
458	ⅩE-1 (住)	Q 2 雑土	土師器(甕)	ヘラナデ	ヘラナズリ			6.8		[4.1]	I	458
459	ⅩE-1 (住)	割溝雑土	土師器(甕)	ヘラナデ	ヘラナデ			7.0		[2.1]	I	459
460	ⅩE-1 (住)	Q 1 雑土上部	土師器(甕)	ヘラナズリ	ヘラナデ			(6.4)		[4.0]	Ⅱ	460
461	ⅩE-1 (住)	Q 3 雑土	土師器(甕)	ロクロ調整	ロクロ調整	割溝赤切り灰		7.0		[2.2]	Ⅱ	461
462	ⅩE-1 (住)	Q 4 雑土上部	土師器(甕)	ロクロ調整	ロクロ調整	割溝赤切り灰		(6.4)		[4.0]	Ⅱ	462
95-463	ⅩE-1 (住)	Q 1 雑土下部	土師器(甕)	ロクロ調整	ロクロ調整	割溝赤切り灰		(6.2)		[4.6]	Ⅱ	463
464	ⅩE-1 (住)	Q 3 雑土	土師器(甕)	ロクロ調整	ロクロ調整	割溝赤切り灰		(7.4)		[5.7]	Ⅱ	464
465	ⅩE-1 (住)	床面№12	土師器(甕)	ロクロ調整	ロクロ調整	割溝赤切り灰		(6.0)		[4.7]	Ⅱ	465
466	ⅩE-1 (住)	割溝雑土	灰土器(灰土器)	ロクロ調整	ロクロ調整			(1.0)		[6.2]		466
467	ⅩE-1 (住)	雑土	灰土器(甕)	平行叩き目	平行叩き目							467
468	ⅩE-1 (住)	雑土	灰土器(甕)	平行叩き目	平行叩き目							468
469	ⅩE-1 (住)	Q 1 雑土上部	灰土器(甕)	叩き目~ヘラナズリ	ロクロ調整						A	469
470	ⅩE-1 (住)	Q 3 雑土	灰土器(甕)	平行叩き目	平行叩き目						A	470
471	ⅩE-1 (住)	Q 4 雑土下部	灰土器(甕)	ヘラナズリ	ヘラナデ			(14.6)		[1.2]	A	471
472	ⅩE-1 (住)	床面№13	灰土器(甕)	平行叩き目	平行叩き目						A	64-472
94-473	ⅩE-1 (住)	Q 1 雑土下部	灰土器(甕)	平行叩き目	平行叩き目						A	63-473
474	ⅩE-1 (住)	床面№10	灰土器(甕)	平行叩き目	平行叩き目						A	64-474
475	ⅩE-1 (住)	雑土	灰土器(甕)	平行叩き目	平行叩き目						A	475
476	ⅩE-1 (住)	Q 3 雑土	灰土器(甕)	平行叩き目	平行叩き目						A	476
477	ⅩE-1 (住)	Q 4 雑土	灰土器	叩き目~ヘラナズリ	叩き目~ヘラナズリ						B	477
53-478	ⅩE-1 (住)	雑土	灰土器(甕)	平行叩き目	平行叩き目						A	478
479	ⅩE-1 (住)	カマド内	灰土器(甕)	平行叩き目	平行叩き目						A	479
480	ⅩE-1 (住)	雑土	灰土器(甕)	平行叩き目	平行叩き目						A	480
481	ⅩE-1 (住)	雑土	灰土器(甕)	平行叩き目	平行叩き目						A	481
482	ⅩE-1 (住)	Q 4 雑土下部	灰土器(甕)	平行叩き目	平行叩き目						A	482

頭取 番号	遺構名	出土地点	種別	施 文	底 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分類	写真 番号	
							口徑	底径	器高			
95-486	ⅩE-1 (住)	Q 4 雑土	縄文土器(甕鉢)	沈線		山形口縁					Ⅱ	65-486
487	ⅩE-1 (住)	割溝雑土	縄文土器(甕鉢)	沈線文、透視刺突文		口縁部					I-9 a	487
488	ⅩE-1 (住)	Q 1 雑土上部	縄文土器(甕鉢)	平行沈線		口縁部					Ⅱ-1 b	488
489	ⅩE-1 (住)	割溝雑土	縄文土器(甕鉢)	基部LR		口縁部					Ⅱ-3	489
490	ⅩE-1 (住)	割溝雑土	縄文土器(甕鉢)	沈線		口縁部					Ⅱ-2	490
491	ⅩE-1 (住)	Q 2 雑土下部	縄文土器(甕)	透視刺突文		体部					I-8 a	491
492	ⅩE-1 (住)	Q 4 雑土下部	縄文土器(甕鉢)	平行沈線		体部					I-6 a	492
493	ⅩE-1 (住)	雑土	縄文土器(甕鉢)	沈線文		体部					Ⅱ-1 b	493
494	ⅩE-1 (住)	Q 1・Q 4 床面	縄文土器(甕鉢)	透視刺突文		体部					I-8	494

遺構内 出土土器観察表 (10)

() 推定 [] 残存高

図版番号	遺構名	出土地点	種別	施文	底部外面	備考	法量 (cm)			分類	写真番号
							口径	底径	器高		
96-495	ⅡE-1 (併)	川橋川土	縄文土器(漆器)	漆器縄文		漆器				I-8	95-495
496	ⅡE-1 (併)	Q 2層土下部	縄文土器(漆)	漆器縄文		漆器				I-8	496

図版番号	遺構名	出土地点	種別	調査		底部外面	備考	法量 (cm)			分類	写真番号
				外面	内面			口径	底径	器高		
96-500	ⅡE-2 (併)	P 2層土	土器器(陶)	97588-ハナナ	ハナナ	回転糸切り		(4.6)	(5.8)	4.9	ⅡB-1	96-500
501	ⅡE-2 (併)	P 2層土	土器器(陶)	ロクロ調整							Ⅱ	501
502	ⅡE-2 (併)	P 2層土	土器器(陶)		ハナナ						Ⅱ	502
503	ⅡE-2 (併)	P 2層土	土器器(陶)	ロクロ調整							Ⅱ	503
504	ⅡE-2 (併)	177546(ハナナ)層1	土器器(陶)	ハナナズリ	ハナナ				(9.8)	[1.7]		504
505	ⅡE-2 (併)	P 2層土	土器器(陶)	ロクロ調整	ロクロ調整	回転糸切り			(6.4)	[5.3]	Ⅱ	505
506	ⅡE-2 (併)	P 2層土	須恵器	平行吹線	平行吹線						A	506
97-507	ⅡE-2 (併)	埋土	須恵器(器)	97588-ハナナ	97588-ハナナ					[18.6]		507

図版番号	遺構名	出土地点	種別	施文	底部外面	備考	法量 (cm)			分類	写真番号	
							口径	底径	器高			
97-511	ⅡE-2 (併)	Q 2層土下部	縄文土器(漆器)	平行吹線		門縁部						97-511
512	ⅡE-2 (併)	ビツト埋土	縄文土器(漆器)	平行吹線、連続刺突文		門縁部					I-9 a	512

図版番号	遺構名	出土地点	種別	調査		底部外面	備考	法量 (cm)			分類	写真番号
				外面	内面			口径	底径	器高		
96-513	ⅡE-3 (併)	カマド左輪	土器器(陶)	ロクロ調整	ハナナ			(13.8)		[4.5]		96-513
514	ⅡE-3 (併)	Q 1層土	土器器(陶)		ハナナ			(16.6)		[4.1]		514
515	ⅡE-3 (併)	Q 2床面	土器器(陶)	ロクロ調整	ハナナ	回転糸切り		(15.2)	(5.9)	5.2	Ⅱ-A	515
516	ⅡE-3 (併)	埋土表面 № 3	土器器(陶)	ロクロ調整	ハナナ	回転糸切り		(16.2)	(6.2)	5.3	Ⅱ-A	516
517	ⅡE-3 (併)	埋土	土器器(陶)		ハナナ			(13.2)		[5.8]		517
518	ⅡE-3 (併)	埋土表面	土器器(陶)	ロクロ調整	ハナナ			(15.2)	5.8	5.0	Ⅱ-A	518
519	ⅡE-3 (併)	カマド左輪	土器器(陶)	褐色地層		回転糸切り		(6.4)		[2.5]		519
520	ⅡE-3 (併)	Q 1層土	土器器(陶)	ハナナ		回転糸切り		6.0		[1.5]	Ⅱ-A	520
521	ⅡE-3 (併)	床面 № 1	土器器(陶)	ハナナ		回転糸切り		(6.2)		[1.5]	Ⅱ-A	521
522	ⅡE-3 (併)	床面 № 2	土器器(陶)	ハナナ		回転糸切り		(7.2)		[1.4]	Ⅱ-A	522
523	ⅡE-3 (併)	カマド埋土	土器器(陶)	ハナナ		回転糸切り		(6.9)		[1.5]	Ⅱ-A	523
96-524	ⅡE-3 (併)	Q 1層土下部	土器器(陶)	ハナナ	ハナナ			(12.2)		[4.7]		96-524
525	ⅡE-3 (併)	Q 3層土下部	土器器(陶)	ロクロ調整	ロクロ調整			(13.2)		[5.4]		525
526	ⅡE-3 (併)	カマド左輪	土器器(陶)	97588-ハナナ							Ⅱ	526
527	ⅡE-3 (併)	Q 4層土	土器器(陶)	ロクロ調整	ロクロ調整	回転糸切り		(5.6)		[6.8]	Ⅱ	527
528	ⅡE-3 (併)	Q 1層土	土器器(陶)	ハナナ	ハナナ						I	528
529	ⅡE-3 (併)	Q 1層土	須恵器							[2.9]	A	529
530	ⅡE-3 (併)	Q 3層土	須恵器									530
531	ⅡE-3 (併)	埋土表面 № 4	須恵器	ロクロ調整	ロクロ調整			9.0		[10.4]		531

図版番号	遺構名	出土地点	種別	施文	底部外面	備考	法量 (cm)			分類	写真番号	
							口径	底径	器高			
96-533	ⅡE-3 (併)	Q 4層土	縄文土器(漆)	平行吹線		山形打線					I-6 a	96-533
534	ⅡE-3 (併)	Q 1層土	縄文土器(漆)			門縁部						534
535	ⅡE-3 (併)	Q 3層土	縄文土器(漆)	漆器縄文、連続刺突文		門縁部					I-6 a	535

遺構内 出土土器観察表 (11)

() 推定 [] 残存高

図版 番号	遺構名	出土地点	種 別	施 文	底 部 外 面	備 考	法 量 (m)			分類	写調 番号
							口径	底径	器高		
100-526	Ⅸ E-3 (住)	Q 3 雑土	縄文土器(鉢)	滑潤縄文		口縁部					00-526
527	Ⅸ E-3 (住)	Q 2 雑土	縄文土器(鉢)	滑潤縄文		体部				I-8	527
528	Ⅸ E-3 (住)	Q 3 雑土	縄文土器(鉢)	滑潤縄文		体部				I-8	528
529	Ⅸ E-3 (住)	Q 4 雑土	縄文土器(注口)			注口部	幅4.3	長さ3.1	厚さ2.3		529

図版 番号	遺構名	出土地点	種 別	調 整		底 部 外 面	備 考	法 量 (m)			分類	写調 番号
				外 面	内 面			口径	底径	器高		
101-544	Ⅸ E-9 (住)	床面	土師器(杯)	ロクロ調整	ヘリゾク・滑潤		回転糸切り痕	(3.8)	(4.9)	4.5	Ⅱ-A	00-544
545	Ⅸ E-9 (住)	床面No.13	土師器(杯)	ロクロ調整								545
546	Ⅸ E-9 (住)	ビッド雑土・粘り床	土師器(杯)	ロクロ調整	ヘラナデ			(15.2)		[3.5]		546
547	Ⅸ E-9 (住)	厨カマド雑土	土師器(杯)	ロクロ調整	ヘリゾク・滑潤		回転糸切り痕		5.8	[3.4]	Ⅱ-A	547
548	Ⅸ E-9 (住)	Q 2 雑土下部	須恵器(杯)	ロクロ調整								548
549	Ⅸ E-9 (住)	ビッド雑土・粘り床	土師器(杯)	ロクロ調整	ヘラナデ			(17.2)		[3.5]		549
550	Ⅸ E-9 (住)	Q 2 雑土下部	土師器(杯)	ロクロ調整	ヘラナデ		回転糸切り痕	(13.4)	5.4	4.4	Ⅱ-A	550
551	Ⅸ E-9 (住)	床面No.11	あかやき土器(杯)	ロクロ調整	ロクロ調整		回転糸切り痕		5.8	[1.9]	Ⅱ-A	551
552	Ⅸ E-9 (住)	Q 1 雑土下部	土師器(高台付杯)	ロクロ調整	ヘリゾク・滑潤			(7.0)		[1.5]		552
553	Ⅸ E-9 (住)	Q 2 雑土下部	土師器(杯)	ヘラナデ	ヘリゾク・滑潤							553
554	Ⅸ E-9 (住)	Q 1 雑土下部	土師器(杯)	ロクロ調整	ヘリゾク・滑潤							554
555	Ⅸ E-9 (住)	床面	あかやき土器(杯)	ロクロ調整	ロクロ調整		回転糸切り痕	(5.3)		[2.0]		555
556	Ⅸ E-9 (住)	ビッド雑土・粘り床	あかやき土器(杯)	ロクロ調整	ロクロ調整		回転糸切り痕	(6.0)		[2.1]		556
557	Ⅸ E-9 (住)	床面	あかやき土器(杯)	ロクロ調整	ロクロ調整		回転糸切り痕	(5.6)		[2.7]		557
558	Ⅸ E-9 (住)	ビッド雑土・粘り床	土師器(罎)	ロクロ調整	ロクロ調整						Ⅱ	558
559	Ⅸ E-9 (住)	ビッド雑土・粘り床	土師器(罎)	ロクロ調整	ロクロ調整						Ⅱ	559
560	Ⅸ E-9 (住)	Q 2 雑土下部	土師器(罎)	ロクロ調整	ロクロ調整						Ⅱ	560
561	Ⅸ E-9 (住)	粘り床	土師器(罎)	ロクロ調整	ロクロ調整		回転糸切り痕	(7.7)		[2.2]	Ⅱ	561
562	Ⅸ E-9 (住)	Q 2 雑土下部	土師器(罎)					(3.4)		[1.0]		562
563	Ⅸ E-9 (住)	Q 1 雑土	土師器(罎)	ヘラナデ				7.0		[1.5]	Ⅱ	563
564	Ⅸ E-9 (住)	Q 2 雑土下部	土師器(罎)	ロクロ調整	ロクロ調整		回転糸切り痕					564
102-565	Ⅸ E-9 (住)	Q 1 雑土	土師器(罎)	ヘラナズリ	ヘラナデ							70-565
566	Ⅸ E-9 (住)	Q 2 雑土下部	土師器(罎)	ロクロ調整	ロクロ調整			(9.2)		[2.5]		566
567	Ⅸ E-9 (住)	床面	土師器(罎)	ヘラナズリ	ヘラナデ			(9.8)		[5.4]		567
568	Ⅸ E-9 (住)	覆り方雑土	須恵器(罎)	ロクロ調整	ロクロ調整						B	568
569	Ⅸ E-9 (住)	Q 1・Q 2 雑土	須恵器(罎)									569
570	Ⅸ E-9 (住)	床面	須恵器(罎)	ロクロ調整	ロクロ調整			(14.2)		[7.7]		570
571	Ⅸ E-9 (住)	床面No.5	須恵器(罎)	ロクロ調整	ロクロ調整			(13.3)		[6.2]		571
572	Ⅸ E-9 (住)	床面No.3	須恵器(罎)	ヘリゾク・ヘラナデ	ロクロ調整					[7.5]		572
573	Ⅸ E-9 (住)	Q 2 雑土	須恵器(罎)	ロクロ調整								573
574	Ⅸ E-9 (住)	雑土No.1	須恵器(罎)	平行叩き目痕	平行叩き目痕						A	574
575	Ⅸ E-9 (住)	Q 1・Q 2 雑土	須恵器(罎)	叩き目痕→ヘリゾク	ロクロ調整							575
576	Ⅸ E-9 (住)	雑土	須恵器(罎)									576
577	Ⅸ E-9 (住)	Q 2 雑土下部	須恵器(罎)	ロクロ調整	ロクロ調整			(7.0)		[0.7]		577
102-578	Ⅸ E-9 (住)	床面No.7	須恵器(罎)	平行叩き目痕	平行叩き目痕						A	71-578
579	Ⅸ E-9 (住)	床面No.8	須恵器(罎)	平行叩き目痕	平行叩き目痕						A	579
580	Ⅸ E-9 (住)	床面No.15	須恵器(罎)	平行叩き目痕	平行叩き目痕							580

遺構内 出土土器観察表 (12)

() 推定 [] 残存高

図版 番号	遺構名	出土地点	種 別	調 査		底 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分類	写真 番号
				外 面	内 面			口径	底径	器高		
103-582	ⅡE-9 (住)	Q1 瓦土	須恵器(甕)	平行円形口縁	平行円形口縁						A	73-581
582	ⅡE-9 (住)	東園地 6	須恵器(甕)	平行円形口縁	平行円形口縁						A	582
583	ⅡE-9 (住)	百かマド瓦土	須恵器(甕)	平行円形口縁	平行円形口縁						A	583
584	ⅡE-9 (住)	Q2 瓦土下部	須恵器(甕)	平行円形口縁	オキ目						B	584
104-585	ⅡE-9 (住)	Q2 瓦土下部	須恵器(甕)	平行円形口縁	オキ目						B	72-585
585	ⅡE-9 (住)	是り床	須恵器(甕)	ヘラケズリ	ロクロ調整							585

図版 番号	遺構名	出土地点	種 別	施 文	底 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分類	写真 番号
							口径	底径	器高		
104-587	ⅡE-9 (住)	Q1 瓦土	縄文土器(鉢)	平行沈線、割み目		口縁部				B-1 b	72-587
588	ⅡE-9 (住)	Q1 瓦土下部	縄文土器(鉢)	平行沈線		口縁部				B-1 b	588
589	ⅡE-9 (住)	Q2 瓦土	縄文土器(鉢)	平行沈線		口縁部				B-1 b	589
590	ⅡE-9 (住)	Q1 瓦土	縄文土器(鉢)	平行沈線、割み目		口縁部				B-2	590
591	ⅡE-9 (住)	Q2 瓦土下部	縄文土器(甕)	横溝沈線文		各部				B-1 b	591
592	ⅡE-9 (住)	Q2 瓦土下部	縄文土器(甕)	工字文		各部				B-1 b	592
593	ⅡE-9 (住)	Q1 瓦土下部	縄文土器(鉢)	平行沈線		各部				303	593
594	ⅡE-9 (住)	ピット瓦土・是り床	縄文土器(鉢)	磨製縄文		各部				I-9	594
595	ⅡE-9 (住)	Q2 瓦土下部	縄文土器(鉢)	平行沈線		各部				B-2	595
596	ⅡE-9 (住)	Q2 瓦土	縄文土器(鉢)	平行沈線		口縁部				B-1 b	596
597	ⅡE-9 (住)	Q2 瓦土下部	縄文土器(鉢)	平行沈線		各部				B-1 b	597
598	ⅡE-9 (住)	Q1 瓦土下部	縄文土器(鉢)	縦筋工字文		各部				B-1 b	598
599	ⅡE-9 (住)	瓦土	縄文土器(深鉢)			底部				B-3	599

図版 番号	遺構名	出土地点	種 別	調 査		底 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分類	写真 番号
				外 面	内 面			口径	底径	器高		
105-604	ⅡE-11 (住)	瓦土	土師器(甕)	ヘラケズリ							I	72-604
605	ⅡE-11 (住)	Q1 瓦土下部	土師器(甕)					(3.4)	(2.0)			605
606	ⅡE-11 (住)	瓦土	土師器(甕)	ヘラケズリ	ヘラナデ			(12.0)	(3.0)			606

図版 番号	遺構名	出土地点	種 別	施 文	底 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分類	写真 番号
							口径	底径	器高		
105-607	ⅡE-11 (住)	瓦土	縄文土器(鉢)	磨製縄文、連続刺突文		口縁部				I-9 a	72-607
608	ⅡE-11 (住)	Q1 瓦土下部	縄文土器(鉢)	磨製縄文		口縁部				I-8	608
609	ⅡE-11 (住)	Q2 瓦土	縄文土器(鉢)	磨製縄文		口縁部					609
610	ⅡE-11 (住)	Q1 瓦土下部	縄文土器(鉢)	無文		口縁部					610
611	ⅡE-11 (住)	瓦土	縄文土器(鉢)	無文		口縁部					611
612	ⅡE-11 (住)	Q1 瓦土下部	縄文土器(鉢)	沈線文(褐色)		口縁部				I-2 a	612
613	ⅡE-11 (住)	瓦土	縄文土器(鉢)	貼付文		口縁部				I-2 d	613
614	ⅡE-11 (住)	瓦土	縄文土器(鉢)	沈線文		口縁部				I-2	73-614
615	ⅡE-11 (住)	瓦土	縄文土器(鉢)	平行沈線		各部				B-2	615
616	ⅡE-11 (住)	瓦土	縄文土器(鉢)	平行沈線		各部					616
617	ⅡE-11 (住)	Q1 瓦土下部	縄文土器(鉢)	平行沈線		口縁部				B-2	617
618	ⅡE-11 (住)	Q2 瓦土	縄文土器(鉢)	磨製縄文		各部				I-8	618
619	ⅡE-11 (住)	瓦土	縄文土器(深鉢)			注口部分の各部					619

遺構内 出土土器観察表 (13)

() 推定 [] 残存高

図版 番号	遺構名	出土地点	種 別	質 量		基 部 外 面	備 考	法 量 (m)			分類	写真 番号
				外 面	内 面			口 径	底 径	器 高		
105-021	X E-2 (住)	Q1 雑土下部	土師器(灰)	ロクロ調整	ヘリゴテ・器底直			16.2		3.4		73-021
022	X E-2 (住)	Q1 雑土	土師器(灰)	ロクロ調整	ヘリゴテ・器底直			14.9		3.5		022
023	X E-2 (住)	Q1 雑土	土師器(灰)	ロクロ調整	ヘリゴテ・器底直	器底直切り痕		14.0	4.8	5.5	II-A	023
106-034	X E-2 (住)	Q4 雑土	土師器(灰)	ヘラケズリ	ヘラナデ		曲線	12.0	5.0	4.4	I	034
025	X E-2 (住)	Q3 雑土	土師器(灰)	ヘリゴテ・ヘリゴテ	ヘラミガキ		内外直線		7.2	3.0		025
026	X E-2 (住)	Q1 雑土下部	土師器(灰)	ヘリゴテ・器底直	手触ヘリゴテ調整			14.0	5.0	4.8	II-B 1	026
027	X E-2 (住)	床間直上	土師器(灰)	ロクロ調整	ヘリゴテ・器底直	手触ヘリゴテ調整		13.1	5.8	5.4	II-B 1	027
028	X E-2 (住)	Q4 雑土	土師器(灰)	ロクロ調整	ロクロ調整	器底直切り痕		14.0	5.0	4.8		028
029	X E-2 (住)	横土直上	灰塗器(灰)	ロクロ調整	ロクロ調整	器底直切り痕		10.0	5.0	4.5		029
030	X E-2 (住)	Q3・Q4 雑土	灰塗器(灰)	ロクロ調整	ロクロ調整	器底直切り痕		13.0	4.0	5.1		030
031	X E-2 (住)	Q1 雑土	灰塗器(灰)	ロクロ調整	ロクロ調整	器底直切り痕		14.5	4.0	4.4		031
032	X E-2 (住)	Q1 雑土	灰塗器(灰)	ロクロ調整	ロクロ調整	器底直切り痕		14.4	5.0	5.0		74-032
033	X E-2 (住)	Q1 雑土	灰塗器(灰)	ロクロ調整	ヘリゴテ・ヘリゴテ	器底直切り痕	直線	13.0	5.0	4.4		73-033
107-034	X E-2 (住)	Q3 雑土	灰塗器(灰)	ロクロ調整	ロクロ調整			14.0		3.0		74-034
035	X E-2 (住)	Q4 雑土	灰塗器(灰)	ロクロ調整	ロクロ調整			14.0		4.6		035
036	X E-2 (住)	Q4 雑土	土師器(灰)	ヘラケズリ	ヘラナデ			14.0		3.5	I	036
037	X E-2 (住)	カマド左袖	灰塗器(灰)	ロクロ調整	ロクロ調整	器底直切り痕			6.5	1.5		037
038	X E-2 (住)	Q1 雑土	土師器(灰)	ヘリゴテ・ヘリゴテ	ヘラナデ			17.2		6.2	II	038
039	X E-2 (住)	Q1 雑土	土師器(灰)	ヘリゴテ・ヘリゴテ	ロクロ調整			11.0		6.0		039
040	X E-2 (住)	Q1 雑土	土師器(灰)	ヘラケズリ	ヘラナデ						I	040
041	X E-2 (住)	Q4 雑土	土師器(灰)	ヘリゴテ・ヘリゴテ	ヘラナデ・ハタメ						I	041
042	X E-2 (住)	雑土	土師器(灰)	ヘリゴテ・ヘリゴテ	ヘラナデ						I	042
043	X E-2 (住)	カマド雑土	土師器(灰)	ヘリゴテ・ヘリゴテ	ヘラナデ						I	043
044	X E-2 (住)	Q3 雑土	土師器(灰)	ヘラケズリ	ヘラナデ						I	044
045	X E-2 (住)	Q3 雑土	土師器(灰)	ヘラケズリ	ヘラナデ・ハタメ						I	045
046	X E-2 (住)	Q4 雑土	土師器(灰)	ロクロ調整	ロクロ調整						II	046
047	X E-2 (住)	Q1・Q4 床間	土師器(灰)	ヘリゴテ・ヘリゴテ	ロクロ調整						II	047
108-048	X E-2 (住)	雑土	土師器(灰)	ヘラケズリ	ヘラナデ			6.5		7.0	II	048
049	X E-2 (住)	雑土下部	土師器(灰)	ヘラナデ	ヘラナデ	木置圧痕		7.0		3.1		049
050	X E-2 (住)	Q1 雑土	土師器(灰)	ヘラケズリ	ヘラナデ	木置圧痕		8.2		3.0		050
051	X E-2 (住)	Q1 雑土	土師器(灰)	ヘラケズリ	ヘラナデ	木置圧痕		7.8		3.5		051
052	X E-2 (住)	Q1 雑土	土師器(灰)	ヘラナデ	ヘラナデ			8.2		3.2		052
053	X E-2 (住)	Q2 雑土	土師器(灰)	ヘラケズリ	ヘラナデ	木置圧痕		9.6		3.0		053
054	X E-2 (住)	カマド左袖	土師器(灰)	ヘラケズリ	ヘラナデ	木置圧痕		8.2		10.4		054
055	X E-2 (住)	Q4 雑土	土師器(灰)	ヘラケズリ	ヘラナデ	木置圧痕		7.2		1.3		75-055
056	X E-2 (住)	雑土	灰塗器(灰)	ヘリゴテ・ヘリゴテ	ロクロ調整							056
057	X E-2 (住)	雑土	灰塗器(灰)	平行厚目直	厚目直							057
109-058	X E-2 (住)	雑土	灰塗器(灰)	ヘリゴテ・ヘリゴテ	ロクロ調整			8.0		1.8		058

図版 番号	遺構名	出土地点	種 別	施 文	基 部 外 面	備 考	法 量 (m)			分類	写真 番号	
							口 径	底 径	器 高			
109-060	X E-2 (住)	Q2 雑土	縄文土器(陶器)	磨削縄文		口縁部					I-8	75-060
061	X E-2 (住)	Q1 雑土下部	縄文土器(陶器)	磨削縄文		口縁部					I-8	061
062	X E-2 (住)	Q2 雑土	縄文土器(陶器)	磨削縄文		底部					II-1 b	062

遺構内 出土土器観察表 (14)

() 推定 [] 残存高

図版番号	遺構名	出土地点	種別	施文	底部外面	備考	法量 (cm)			分類	写真番号
							口径	底径	器高		
109-052	X E-2 (住)	Q1 瓦土	縄文土器(焼)	磨滑縄文		底部				I-8	75-653
604	X E-2 (住)	Q4 床面	縄文土器(焼)	磨滑縄文		底部					604
605	X E-2 (住)	Q3 瓦土	縄文土器(焼)	磨滑縄文		底部					605
606	X E-2 (住)	Q3 瓦土	縄文土器(焼)	磨滑縄文		底部				I-8	606
110-670	管 E-5 (住)	Q4 床面	縄文土器(焼)	沈線文							670
671	管 E-5 (住)	Q3 床面	縄文土器(焼)	沈線文、研突文		底部				I-9 a	671
672	管 E-5 (住)	瓦土	縄文土器(焼)			底部		(9.0)	[1.7]		672
673	管 E-5 (住)	护壁段	縄文土器(焼)	草部 L R (嵌定)		底部		(11.0)	[8.5]		673
674	管 E-5 (住)	护壁段	縄文土器(焼)	草部 L R (嵌定)		口縁部		38.5	[17.4]		76-674
675	管 E-6 (住)	Q1 床面	縄文土器(焼)	沈線文、草部 L R (嵌定)		口縁部					675
676	管 E-6 (住)	Q2 瓦土下部	縄文土器(焼)	草部 L R (嵌定)		底部		5.0	[4.0]		676
677	管 E-7 (住)	Q2 床面	縄文土器(焼)	草部 L R 及、磨滑文、磨滑縄文		口縁部					677

図版番号	遺構名	出土地点	種別	調 整		底部外面	備考	法量 (cm)			分類	写真番号
				外面	内面			口径	底径	器高		
110-678	管 E-8 (住)	Q1 - Q4 瓦土	土器(焼)			磨滑余切り痕	底部					76-678

図版番号	遺構名	出土地点	種別	施文	底部外面	備考	法量 (cm)			分類	写真番号	
							口径	底径	器高			
110-680	管 E-8 (住)	Q2 - Q3 瓦土	縄文土器(焼)	細沈線		口縁部					76-680	
111-681	管 E-12 (住)	床面	縄文土器(焼)	草部 R L		底部		13.5	4.8	11.0	II-3	681
682	管 E-12 (住)	Q1 - Q2 床面	縄文土器(焼)	草部 R L		口縁部					682	
683	管 E-12 (住)	Q3 - Q4 床面	縄文土器(焼)			口縁部					683	
684	管 E-12 (住)	Q1 - Q2 床面	縄文土器(焼)			口縁部					684	
685	管 E-12 (住)	Q3 - Q4 床面	縄文土器(焼)			口縁部					685	
686	管 E-12 (住)	Q2 瓦土下部	縄文土器(焼)	草部 R L、磨滑縄文		底部					I-8	686
687	管 E-12 (住)	Q4 瓦土下部	縄文土器(焼)	草部 R L、磨滑縄文		底部					I-8	687
688	管 E-12 (住)	Q1 - Q2 床面	縄文土器(焼)			底部		(9.0)	[1.1]			688
689	管 E-12 (住)	Q1 - Q2 床面	縄文土器(焼)			口縁部					II-1 b	689
690	管 E-12 (住)	Q1 - Q2 床面	縄文土器(焼)	平行沈線		底部					II-1 b	690
691	管 E-12 (住)	Q2 - Q3 床面	縄文土器(焼)	草部 R L、磨滑縄文		底部						691
692	管 E-12 (住)	Q1 - Q2 床面	縄文土器(焼)	草部 R L、平行沈線		底部					II-2	692
693	管 E-12 (住)	Q1 - Q2 床面	縄文土器(焼)	平行沈線		底部					II-2	693
694	管 E-12 (住)	Q4 瓦土下部	縄文土器(焼)	平行沈線		底部						694
695	管 E-12 (住)	Q4 瓦土	縄文土器(焼)	濃緑研突文		底部						695
696	X E-1 (住)	Q2 床面	縄文土器(焼)	実形工字文		底部					II-1 b	696
697	X E-1 (住)	Q2 床面	縄文土器(焼)	平行沈線		底部					II-2	697
698	X E-1 (住)	Q2 瓦土	縄文土器(焼)			底部一底部			[6.4]			698
699	X E-1 (住)	Q2 床面	縄文土器(焼)	平行沈線		口縁部					II-1 b	699
700	X E-1 (住)	Q1 床面	縄文土器(焼)	平行沈線		口縁部					II-1 b	700
701	X E-1 (住)	Q2 床面	縄文土器(焼)	実形工字文		口縁部					II-1 b	701
702	X E-1 (住)	Q2 床面	縄文土器(焼)			口縁部						702
703	X E-1 (住)	瓦土	縄文土器(焼)	平行沈線文		底部欠損		20.4		[8.0]	II-1 b	77-703
705	X E-1 (住)	床面直上	縄文土器(焼)	粗文		底部		(6.0)	[8.5]		II-3	705
706	X E-1 (住)	床面	縄文土器(焼)	粗文		底部		(6.0)	[5.0]		II-3	706

遺構内 出土土器観察表 (15)

() 推定 [] 残存高

図版 番号	遺構名	出土地点	種 別	施 文	底 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分類	写真 番号
							口径	底径	器高		
112-709	X E-3 (住)	Q 4 瓦土	縄文土器(鉢)	赤褐色文、草筋 L R (横位)		口縁部				II-2	77-709
710	X E-3 (住)	Q 4 瓦土	縄文土器(鉢)	赤褐色文、草筋 R L (横位)		底部				I-2 a	710
711	X E-3 (住)	Q 3 瓦土	縄文土器(鉢)	沈着文		口縁部				II-1 b	711
712	X E-3 (住)	Q 3 瓦土	縄文土器(鉢)	赤褐色文、草筋 R L (横位)		底部				I-8	712
713	X E-3 (住)	Q 3 瓦土	縄文土器(鉢)	網目状縄文		底部				I-10	713
715	X E-3 (住)	Q 4 瓦土	縄文土器(鉢)	草筋 L R (横位)	壁の遺り痕	底部				E-3	715
114-801	VI E51 土坑	瓦土	縄文土器(深鉢)	黒い沈着文、網目状縄文、草筋 L R (横位)		口縁部	38.0	14.7	48.7	I-2 a	78-801

図版 番号	遺構名	出土地点	種 別	調 査		底 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分類	写真 番号	
				外 面	内 面			口径	底径	器高			
114-805	III E-52 土坑	底面直上	土師器(杯)	コロコ調整	ヘラで調整	底面直上				(4.6)	(1.8)		78-805

図版 番号	遺構名	出土地点	種 別	施 文	底 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分類	写真 番号
							口径	底径	器高		
114-806	III E-55 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)	草筋 L R、赤褐色文		底部				I-2 a	78-806
807	III E-55 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)	草筋 R L、赤褐色文		底部					807
808	III E-55 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)	平行沈着		底部					808
809	III E-55 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)	平行沈着		底部					809
810	III E-55 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)	草筋 R L、赤褐色文		口縁部				E-2	810
811	III E-55 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)	平行沈着		底部					811
812	III E-55 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)	草筋 L R、赤褐色文、平行沈着		底部				II-3	812
813	III E-55 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)			口縁部				II-3	813
814	III E-55 土坑	底面直上	縄文土器(鉢)	草筋 R L		口縁部				[2.5]	814

図版 番号	遺構名	出土地点	種 別	調 査		底 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分類	写真 番号	
				外 面	内 面			口径	底径	器高			
114-815	III E-55 土坑	底面直上	土師器(瓶)	ヘラナデ	ヘラナデ		口縁部			(18.6)	(2.6)		78-815

図版 番号	遺構名	出土地点	種 別	施 文	底 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分類	写真 番号
							口径	底径	器高		
814-817	III E-58 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)			口縁部					78-817
818	III E-58 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)	網目状赤文		底部					818
115-819	III E-58 土坑	瓦土	縄文土器(深鉢)	網目状赤文					[15.0]	I-10	78-819
820	III E-61 土坑	瓦土下部	縄文土器(深鉢)	平行沈着、入版文、草筋 L R		口縁部・口内口縁				I-4	820
821	III E-61 土坑	瓦土	縄文土器(深鉢)	平行沈着、入版文、草筋 L R		底部				I-4	821
822	III E-61 土坑	瓦土	縄文土器(深鉢)	平行沈着、入版文、草筋 L R		底部				I-4	822
823	III E-61 土坑	瓦土	縄文土器(深鉢)	平行沈着、入版文		口縁部				I-4	823
824	III E-51 土坑	瓦土	縄文土器(深鉢)	平行沈着、赤褐色文、草筋 R L		底部				I-6 a	824
825	III E-56 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)	草筋 L R、底面に草筋 L R の沈着文		口縁部～底部	(29.0)		[23.3]	II-3	825
116-826	III E-62 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)	赤文		底部		(4.4)	[1.5]		826
827	III E-64 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)	赤文		底部					827
828	III E-64 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)	黒野多桑縄文		口縁部					828
829	III E-64 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)	黒野多桑縄文		底部					829
830	III E-65 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)	斜交文、草筋 L R		口縁部・大器口縁				I-9 a	83-830
831	III E-65 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)			口縁部					831
832	III E-66 土坑	瓦土	縄文土器(鉢)	斜交文、平行沈着文		口縁部	(12.6)		[5.2]	I-3	832

遺構内 出土土器観察表 (16)

() 推定 [] 残存高

図版 番号	遺構名	出土地点	種別	施文	成形 外面	備考	法 量 (cm)			分類	写真 番号
							口径	底径	器高		
116-822	Ⅹ E-46土坑	竪土	縄文土器(漆)			底部		9.3	[1.1]	I-2 a	80-833
824	Ⅹ E-46土坑	竪土	縄文土器(漆)	平行沈線文、磨滑縄文		底部				I-2 a	834
825	Ⅹ E-46土坑	竪土	縄文土器(漆)	平行沈線文、磨滑縄文		底部					835
826	Ⅹ E-46土坑	竪土	縄文土器(漆)	沈線文、透眼刺突文		大型突起・口縁部				I-9 b	836
827	Ⅹ E-46土坑	竪土	縄文土器(漆)	無文		口縁部					837
828	Ⅹ E-46土坑	竪土	縄文土器(漆)	透眼刺突文		底部				I-9 a	838
829	Ⅹ E-46土坑	竪土	縄文土器(漆)	透眼刺突文		底部				I-9 a	839
840	Ⅹ E-46土坑	竪土	縄文土器(漆)	磨滑縄文、草部 L		底部					840
841	Ⅹ E-49土坑	竪土	縄文土器(漆)			底部					841
842	Ⅹ E-51土坑	竪土	縄文土器(漆)		新代直	底部		(16.0)			842
843	Ⅹ E-52土坑	竪土	縄文土器(漆)	沈線文、磨滑縄文、草部 L R		底部				I-6 a	843
844	Ⅹ E-52土坑	竪土	縄文土器(漆)	沈線文、磨滑縄文、草部 L R		底部				I-2 a	844
845	Ⅹ E-52土坑	竪土	縄文土器(漆)			底部					845
846	Ⅹ E-52土坑	竪土	縄文土器(漆)	沈線文、磨滑縄文、草部 L R		底部					846
847	Ⅹ E-53土坑	竪土	縄文土器(漆)	無文		底部					847
117-848	Ⅹ E-56土坑	竪土	縄文土器(漆)			底部			[3.2]		81-848

図版 番号	遺構名	出土地点	種別	罫		成形 外面	備考	法 量 (cm)			分類	写真 番号
				外 罫	内 罫			口径	底径	器高		
117-849	Ⅹ E-47土坑	竪土	土器部(罫)	ヘラケズリ	ハケメ		底部			[26.1]		81-849

図版 番号	遺構名	出土地点	種別	施文	成形 外面	備考	法 量 (cm)			分類	写真 番号
							口径	底径	器高		
117-850	Ⅹ E-58土坑	竪土	縄文土器(漆)	無文		口縁部					81-850
851	Ⅹ E-58土坑	竪土	縄文土器(漆)	平行沈線、草部 L R		底部					851
852	Ⅹ E-58土坑	竪土	縄文土器(漆)	平行沈線		底部					852
853	Ⅹ E-58土坑	竪土	縄文土器(漆)	平行沈線、草部 L R		底部					853
854	Ⅹ E-58土坑	竪土	縄文土器(漆)	沈線文		底部					854
855	Ⅹ E-58土坑	竪土	縄文土器(漆)	沈線文		底部					855
856	Ⅹ E-58土坑	竪土	縄文土器(漆)	刺突文		底部					856
857	Ⅹ E-58土坑	竪土	縄文土器(漆)	磨滑縄文、草部 L R		底部				I-8	857
858	Ⅹ E-59土坑	竪土	縄文土器(漆)			底部		(7.5)	[0.9]	I-3	858
859	Ⅹ E-61土坑	竪土	縄文土器(漆)	沈線文		口縁部					859
861	Ⅹ E-61土坑	竪土	縄文土器(漆)	平行沈線、草部 L R		底部					861
862	Ⅹ E-61土坑	竪土	縄文土器(漆)	平行沈線		底部					862
863	Ⅹ E-61土坑	竪土	縄文土器(漆)	平行沈線文		底部				I-4	863
864	Ⅹ E-61土坑	竪土	縄文土器(漆)	沈線文		底部					864
865	Ⅹ E-61土坑	竪土	縄文土器(漆)	磨滑縄文		底部				I-2 a	865
866	Ⅹ E-61土坑	竪土	縄文土器(漆)	磨滑縄文		底部					866
867	Ⅹ E-61土坑	竪土	縄文土器(漆)			底部		8.0	[2.1]		867
868	Ⅹ E-61土坑	竪土	縄文土器(漆)	沈線文		底部					82-868
869	Ⅹ E-61土坑	竪土	縄文土器(漆)	磨滑縄文、刺突文		底部				I-2 c	869
870	Ⅹ E-61土坑	竪土	縄文土器(漆)	無文、草部 L R		口縁部					870
871	Ⅹ E-62土坑	竪土	縄文土器(漆)	草部 L R		底部				I-3	871
872	Ⅹ E-63土坑	竪土	縄文土器(漆)	沈線文		底部					872

遺構内 出土土器観察表 (17)

() 推定 [] 残存高

調査 番号	遺構名	出土地点	検 別	施 文	底 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分 類	写 真 番号
							口径	底径	器高		
117-872	X E-42土坑	瓦土	縄文土器(深鉢)		底部					I-3	85-873
874	X E-42土坑	瓦土	縄文土器(深鉢)	無文等、草書L	底部					I-3	874
875	X E-42土坑	瓦土	縄文土器(深鉢)	無文等	底部					I-3	875
118-876	X E-44土坑	Q1 瓦土	縄文土器(深鉢)	草書L、草書R、草書L、草書R	口縁部		19.7		[5.7]	II-1b	876
877	X E-44土坑	Q2 瓦土	縄文土器(深鉢)	草書L、草書R、草書L、草書R	口縁部		[4.0]		[3.0]	II-1b	877
878	X E-44土坑	瓦土	縄文土器(深鉢)	草書L	底部		[1.0]	5.0	7.9	II-1b	878
879	X E-44土坑	瓦土	縄文土器(浅鉢)	平行波線	口縁部		[6.2]		[5.0]	II-1b	879
880	X E-44土坑	瓦土	縄文土器(浅鉢)	草書L、草書R、草書L、草書R	口縁部		[9.0]		[4.5]	II-1b	880
881	X E-44土坑	瓦土	縄文土器(浅鉢)	平行波線	口縁部		[9.6]		[4.1]	II-1b	85-881
882	X E-44土坑	瓦土下部	縄文土器(浅鉢)	平行波線	口縁部		[9.0]		[5.1]	II-1b	882
883	X E-44土坑	瓦土	縄文土器(浅鉢)	草書L、草書R、草書L、草書R	口縁部					II-1b	883
884	X E-44土坑	瓦土	縄文土器(浅鉢)	平行波線	底部				[7.4]	II-1b	884
885	X E-44土坑	Q1 瓦土下部	縄文土器(器)	無文	底部				[4.9]	II-1b	885
119-886	X E-44土坑	Q2 瓦土	縄文土器(器)	平行波線	底部				[1.5]	II-1b	84-886
887	X E-44土坑	Q1 瓦土	縄文土器(器)	平行波線	底部		6.0		[3.3]	II-1b	887
888	X E-44土坑	Q2 瓦土	縄文土器(深鉢)	無文、得原圧痕文	口縁部					II-3	888
889	X E-44土坑	Q2 瓦土	縄文土器(深鉢)	無文、得原圧痕文	口縁部					II-3	889
890	X E-44土坑	Q2 瓦土上部	縄文土器(深鉢)	草書L、R	底部		5.8		[2.1]	II-3	890
891	X E-44土坑	Q2 瓦土上部	縄文土器(深鉢)	無文	底部		[7.4]		[3.3]	II-3	891
892	X E-44土坑	Q1 瓦土	縄文土器(器)		底部		[5.4]		[2.4]	II-3	892
893	X E-44土坑	瓦土上部	縄文土器(浅鉢)		底部				[1.2]	II-5	893
894	X E-44土坑	瓦土	縄文土器(浅鉢)		底部		[6.4]		[2.1]	II-3	894
896	X E-44土坑	Q1 瓦土	縄文土器(深鉢)	草書L、R	底部		8.8		[6.0]	II-3	896
897	X E-44土坑	Q1 瓦土下部	縄文土器(深鉢)	草書L、R	底部		12.5		[7.3]	II-3	897
120-903	X E-44土坑	Q1 瓦土	縄文土器(浅鉢)	平行波線	口縁部					II-1b	85-903
904	X E-44土坑	Q2 瓦土下部	縄文土器(浅鉢)	平行波線	口縁部					II-1b	904
905	X E-44土坑	Q1 瓦土	縄文土器(浅鉢)	平行波線	口縁部					II-1b	905
906	X E-44土坑	Q2 瓦土	縄文土器(浅鉢)	平行波線	口縁部					II-1b	906
907	X E-44土坑	瓦土	縄文土器(浅鉢)	平行波線	口縁部					II-1b	907
908	X E-44土坑	Q2 瓦土上部	縄文土器(浅鉢)	平行波線	口縁部					II-1b	908
909	X E-44土坑	Q1 瓦土	縄文土器(浅鉢)	平行波線	口縁部					II-1b	909
910	X E-44土坑	Q2 瓦土	縄文土器(浅鉢)	平行波線	口縁部					II-1b	910
911	X E-44土坑	Q2 瓦土	縄文土器(浅鉢)	平行波線	口縁部					II-1b	911
912	X E-44土坑	Q1 瓦土	縄文土器(浅鉢)	草書L、R	口縁部					II-1b	912
913	X E-44土坑	Q1 瓦土	縄文土器(浅鉢)	平行波線	口縁部					II-1b	913
914	X E-44土坑	Q1 瓦土	縄文土器(深鉢)	平行波線	口縁部					II-1b	914
915	X E-44土坑	瓦土	縄文土器(浅鉢)	草書L、R	底部					II-1b	915
916	X E-44土坑	Q1 瓦土下部	縄文土器(浅鉢)	平行波線	口縁部					II-1b	916
917	X E-44土坑	Q2 瓦土上部	縄文土器(浅鉢)	草書L、R	口縁部					II-1b	917
918	X E-44土坑	Q2 瓦土下部	縄文土器(浅鉢)	草書L、R	口縁部					II-1b	918
919	X E-44土坑	Q1 瓦土	縄文土器(浅鉢)	草書L、R	底部					II-1b	919
920	X E-44土坑	Q2 瓦土	縄文土器(器)	草書L、R	底部					II-1b	920
921	X E-44土坑	Q2 瓦土下部	縄文土器(浅鉢)	草書L、R	底部					II-1b	921
922	X E-44土坑	瓦土	縄文土器(浅鉢)	草書L、R	底部					II-1b	922

遺構内 出土土器觀察表 (18)

() 推定 [] 残存高

国版 番号	遺構名	出土地点	類別	施文	底部 外面	備考	法 量 (cm)			分類	写取 番号
							口径	底径	器高		
120-902	X E-44土坑	埋土	縄文土器(陶器)	* 字形工字文		体部				I-1 b	85-923
904	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(陶器)	B 突起, 斜向		口縁部				I-1 b	924
905	X E-44土坑	Q 2 埋土下部	縄文土器(陶器)	刻小目, 平行沈線		口縁部				I-1 b	925
906	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(陶器)	平行沈線		口縁部				I-1 b	926
907	X E-44土坑	Q 2 埋土	縄文土器(陶器)	平行沈線		口縁部				I-1 b	927
908	X E-44土坑	Q 2 埋土下部	縄文土器(陶器)	刻小目, 斜突, 平行沈線		口縁部				I-1 b	928
909	X E-44土坑	埋土	縄文土器(陶器)	斜突, 平行沈線		口縁部				I-1 b	929
910	X E-44土坑	Q 2 埋土	縄文土器(陶器)	B 突起, 平行沈線		口縁部				I-1 b	930
911	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(陶器)	平行沈線		体部				I-1 b	931
912	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(陶器)	平行沈線		口縁部				I-1 b	932
913	X E-44土坑	埋土	縄文土器(陶器)	B 突起		口縁部				I-1 b	933
914	X E-44土坑	埋土	縄文土器(陶器)	平行沈線		体部				I-1 b	934
121-305	X E-44土坑	Q 2 埋土	縄文土器(陶器)	A 突起		体部				I-1 b	85-935
936	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(陶器)	沈線文		体部				I-1 b	936
937	X E-44土坑	Q 2 埋土	縄文土器(陶器)	沈線文, 刻小目		口縁部				I-1 b	937
938	X E-44土坑	Q 2 埋土	縄文土器(陶器)	沈線, A 突起		口縁部				I-1 b	938
939	X E-44土坑	Q 1 埋土下部	縄文土器(陶器)	刻小目		口縁部				I-1 b	939
940	X E-44土坑	Q 2 埋土	縄文土器(陶器)	平行沈線, B 突起		口縁部				I-1 b	940
941	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(陶器)			口縁部				I-3	941
942	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(陶器)	* 字形工字文		口縁部				I-1 b	942
943	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(陶器)	沈線文		体部				I-1 b	943
944	X E-44土坑	Q 2 埋土	縄文土器(陶器)	刻小目		口縁部				I-1 b	944
945	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(陶器)	A 突起		口縁部				I-1 b	945
946	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(陶器)			口縁部				I-3	946
947	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(磁)	兵様円文		体部				I-1 a	947
948	X E-44土坑	Q 2 埋土	縄文土器(磁)	兵様円文		体部				I-1 a	948
949	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(磁)	兵様円文		体部				I-1 a	949
950	X E-44土坑	Q 2 埋土	縄文土器(磁)	兵様円文		体部				I-1 a	950
951	X E-44土坑	Q 2 埋土	縄文土器(陶器)	刻小目		口縁部				I-1 a	951
952	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(陶)	山形口縁, 沈線文		体部				I-1 a	952
953	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(磁)	兵様円文		体部				I-1 a	953
954	X E-44土坑	Q 1 埋土下部	縄文土器(磁)	兵様円文		体部				I-1 a	954
955	X E-44土坑	Q 1 埋土下部	縄文土器(陶)	蓮葉斜向文		体部				I-1 a	955
956	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(陶器)	B 突起, 沈線文		口縁部				I-1 a	956
957	X E-44土坑	Q 2 埋土上部	縄文土器(磁)	兵様円文		体部				I-1 a	957
958	X E-44土坑	埋土	縄文土器(陶器)	平行沈線文		口縁部				I-2	958
959	X E-44土坑	埋土	縄文土器(陶器)	平行沈線文		口縁部				I-2	959
960	X E-44土坑	Q 1 埋土	縄文土器(陶器)	平行沈線文, 刻小目		口縁部				I-2	960
961	X E-44土坑	Q 1 埋土下部	縄文土器(陶器)	刻小目		口縁部				I-2	961

国版 番号	遺構名	出土地点	類別	調 査		底部 外面	備考	法 量 (cm)			分類	写取 番号
				外 面	内 面			口径	底径	器高		
120-902	VD-101跡	埋土痕下部	土師器(灰)	ク口口調査	* 21.4 × 16.8 × 8.8	器胎未始り痕		(3.2)	(6.6)	(4.4)	I-A	87-962
903	VD-101跡	埋土	土師器(灰)		* 21.4 × 16.8 × 8.8	器胎未始り痕		(6.3)	(3.5)		I-A	963

遺構内 出土土器観察表 (19)

() 推定 [] 残存高

図版 番号	遺構名	出土地点	類別	調 査		底 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分類	写原 番号
				外 面	内 面			口径	底径	器高		
122-964	VD-101溝	埴土	あかやぶ土器(灰)	口クロ調整		凹縁糸切り痕		14.9	6.2	5.1	A	87-964
965	VD-101溝	埴土	須恵器(灰)	口クロ調整		凹縁糸切り痕			7.4	2.3		965
966	VD-101溝	埴土	須恵器(灰)	叩き目痕	叩き目痕							966
967	VD-101溝	埴土	土師器(灰)			木葉痕			13.4	1.8		967
968	VD-101溝	埴土	須恵器(灰)	口クロ調整						4.3		968

図版 番号	遺構名	出土地点	類別	施 文	底 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分類	写原 番号	
							口径	底径	器高			
122-969	VD-101溝	埴土上部	縄文土器(滑鉢)	辻線文		口縁部					I-9	87-969

図版 番号	遺構名	出土地点	類別	調 査		底 部 外 面	備 考	法 量 (cm)			分類	写原 番号
				外 面	内 面			口径	底径	器高		
123-972	VE-101溝	埴土	土師器(灰)	口クロ調整	へりけり・糸切り痕			12.1		4.4		87-972
973	VE-101溝	埴土	須恵器(灰)	口クロ調整		凹縁糸切り痕			5.9	1.6		973
974	VE-101溝	埴土	土師器(灰)	口クロ調整	口クロ調整							974
975	VE-101溝	埴土	土師器(灰)	口クロ調整	へりけり・糸切り痕				5.5	1.8		975
976	VE-101溝	埴土	須恵器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	凹縁糸切り痕			5.3	0.9		976
977	VE-101溝	埴土	須恵器(灰)	へらケズリ	へらケズリ				10.5	4.8		977
978	VE-102溝	埴土	須恵器(灰)	口クロ調整	口クロ調整		口縁部		23.2	4.4		978
979	VE-102溝	埴土	土師器(灰)	口クロ調整	口クロ調整				10.8	3.6		979
980	VE-102溝	埴土	須恵器(灰)	口クロ調整	口クロ調整							88-980
981	VE-102溝	埴土	須恵器(灰)	口クロ調整	口クロ調整							981
982	VE-102溝	埴土	土師器(灰)	口クロ調整	口クロ調整				6.5	1.3		982
124-987	WE-102溝	埴土	あかやぶ土器(灰)	口クロ調整	口クロ調整			14.0		4.6		987
988	WE-102溝	埴土	土師器(灰)	口クロ調整	へりけり・糸切り痕	凹縁糸切り痕			6.1	1.7	B-A	988
989	WE-104溝	埴土下部	須恵器(灰)	口クロ調整	口クロ調整							989
990	WE-104溝	埴土	須恵器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	凹縁糸切り痕			5.4	2.1		990
991	WE-104溝	埴土下部	須恵器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	凹縁糸切り痕			5.4	1.8		991
992	WE-105溝	埴土3層	土師器(灰)	口クロ調整	へりけり・糸切り痕			14.0		4.5		88-992
993	WE-105溝	埴土	土師器(灰)	口クロ調整	へりけり・糸切り痕				5.8	3.0		993
994	WE-105溝	埴土	須恵器(灰)	口クロ調整	口クロ調整	凹縁糸切り痕			6.0	1.0		994
995	WE-105溝	埴土	土師器(灰)	口クロ調整	へりけり・糸切り痕			15.0		5.1		995
996	WE-105溝	埴土	須恵器(灰)	叩き目痕	叩き目痕						A	996
125-997	WE-105溝	埴土	須恵器(灰)	叩き目痕	叩き目痕						A	997
998	WE-105溝	埴土	須恵器(灰)	叩き目痕								998

土偶一覽表

図版番号	出土地点	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	備考	遺物番号	写図番号
97-508	ⅩE-2 (住)	床面	6.6	4.2	2.2	36.9	体部	16	67-508
111-704	ⅩE-1 (住)	床面	4.4	2.9	3.4	19.75	脚部	19	77-704
119-895	ⅩE-64土坑	埋土	4.0	2.1	2.4	15.5	脚部	21	84-895
144-2001	ⅩE-5 g	Ⅱ層	5.5	3.5	3.5	40.5	頭部	18	108-2001
2002	ⅩE-5 f	Ⅱ層	2.9	3.4	3.5	16.35	頭部	12	2002
2003	ⅤE-9 a	Ⅱ層	3.0	2.9	3.1	15.55	頭部		2003
2004	ⅤE-1 c	Ⅱ層	4.6	3.1	1.5	13.65	体部		2004
2005	ⅤE-8 h	Ⅱ層	6.8	2.7	2.5	51.65	体部		2005
2006	ⅩE-5 g	Ⅱ層	5.0	7.6	2.7	80	体部	15	2006
2007	ⅩE-9 d	Ⅱ層	3.5	2.7	1.5	13.0	腕部	1805	2007
2008	ⅤD区	Ⅱ層	6.5	4.0	1.5	31.4	腕部		2008
2009	ⅤD区	Ⅱ層	8.8	5.4	2.2	100	体部		2009
2010	ⅤD-0 b	Ⅱ層	7.0	4.8	2.2	70	体部		2009
2011	ⅤE-9 d	Ⅱ層	5.2	3.2	3.7	70	脚部	70	2011
2012	ⅤE-0 g	Ⅱ層	5.4	2.2	2.1	35.05	脚部	73	2012
2013	ⅤE-1 c	Ⅱ層	3.6	1.8	1.5	14.4	脚部		2013
2014	ⅩE-2 j	Ⅱ層	5.7	2.6	2.1	24.65	腕部?	10	2014

土鍾一覽表

図版番号	出土地点	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	内孔径 (cm)	備考	遺物番号	写図番号
58-12	ⅤD-1 (住)	埋土	3.8	1.9	1.7	7.85	0.5			39-12
13	ⅤD-1 (住) カマド	埋土	6.1	2.5	2.4	33.4	0.5		81	13
73-177	ⅤF-1 (住) Q3	埋土	2.2	1.3	[0.8]	[2.0]	0.4	欠損1/4	80	48-177
178	ⅤF-1 (住) Q4	埋土	4.0	1.5	[0.9]	[4.10]	0.5	欠損1/2	71	178
179	ⅤF-1 (住) Q1	埋土	3.5	2.0	1.8	8.85	0.4		69	179
180	ⅤF-1 (住) Q4	埋土1層	4.4	2.0	1.8	9.35	0.3		68	180
181	ⅤF-1 (住) Q3	埋土下部	4.9	1.6	[0.95]	[7.25]	0.4	欠損1/2	76	181
93-483	ⅩE-1 (住)	埋土下部	4.3	2.0	1.8	17.75	0.4		13	65-483
145-2019	ⅤE-9 g	Ⅲ層	4.5	1.7	1.6	9.15	0.5		14	109-2019
2020	ⅤF-7 a	Ⅱ層	4.8	1.8	1.8	11.80	0.5		15	2020
2018	ⅤF-8 f	Ⅱ層	4.5	1.7	1.7	12.65	0.6		16	2018
2017	ⅤD-9 f	Ⅲ層	3.9	1.9	1.9	12.95	0.6		74	2017
2022	ⅤE-9 h	Ⅱ層	[2.5]	1.9	1.7	5.25	0.8	破損品	75	2022
2021	ⅤE-0 f	Ⅲ層	4.7	1.9	1.8	12.90	0.5		77	2021
2023	ⅤE-0 h	Ⅱ層	5.0	2.0	1.9	12.90	0.4		78	2023
2016	ⅤE-8 e	Ⅲ層	4.1	2.7	2.0	19.85	-	有溝土鍾	11	108-2016
2024	ⅤE-7 h	Ⅱ層	4.3	2.2	1.8	16.0	0.5		14	109-2024
-	ⅤE-9 e	Ⅲ層	4.6	1.7	1.7	12.35	0.6		17	-
-	ⅤE-9 C	Ⅲ層	4.4	1.7	1.6	10.80	0.5		79	-

円盤状土製品一覧表

図版番号	出土地点	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考	遺物番号	写図番号
104-603	ⅩE-9 (住) Q 2	埋土	7.6	7.7	1.0	56.1		211	72-603
109-659	ⅩE-2 (住)	床面	6.5	6.5	0.8	39.15		1	75-659
117-859	ⅩE-59土坑	埋土	5.0	5.0	0.8	22.95		20	81-859
146-2025	ⅩE-2 c	Ⅱ層	2.6	2.6	0.5	4.9		1311	109-2025
2026	ⅩE-3 d	Ⅱ層	3.0	2.9	0.6	7.05		6	2026
2027	ⅩE-2 d	Ⅱ層	2.6	2.5	0.6	6.3		2	2027
2028	ⅩE-5 g	Ⅱ層	3.2	3.2	0.6	8.15		9	2028
2029	ⅩE-4 h	Ⅱ層	3.4	3.4	0.7	14.55		1312	2029
2030	ⅩE-6 g	Ⅱ層	3.1	3.0	0.6	10.75		8	2030
2031	ⅩE-3 h	Ⅱ層	3.6	3.8	1.0	11.95		1310	2031
2032	ⅩE-3 h	Ⅱ層	3.1	3.9	1.0	20.0		1306	2032
2033	ⅩE-5 f	Ⅱ層	3.1	3.4	0.6	12.35		4	2033
2034	ⅩE-9 f	Ⅱ層	3.3	3.4	0.6	9.3		10	2034
2035	ⅩE-1 c	Ⅱ層	3.5	3.3	0.5	9.15		11	2035
2036	ⅩE-1 e	Ⅱ層	3.5	3.8	0.9	16.2		5	2036
2037	ⅩE-5 g	Ⅱ層	3.2	3.2	0.6	9.0		7	2037
2038	ⅩE-1 g	Ⅱ層	3.2	3.9	0.6	11.95		1308	2038
2039	ⅩE-3 c	Ⅱ層	3.4	3.8	0.7	12.65		1307	2039
2040	ⅩE-2 c	Ⅱ層	3.6	3.6	0.6	12.0		3	2040
2041	ⅩE-1 e	Ⅱ層	3.8	4.1	1.0	22.4		1309	2041
2042	ⅩE-7 i	Ⅱ層	3.4	3.5	1.4	13.75		17	2042

輪の羽口一覧表

図版番号	出土地点	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	備考	遺物番号	写図番号
60-24	VD-2 (住) Q 3	床面	6.9	6.9	1.5			41-24
95-484	ⅩE-1 (住)	埋土	5.0	6.4	2.2		158	65-484
100-543	ⅩE-4 (住)	床面	3.1	1.8	1.3		194	68-543
114-802	ⅩE-51土坑	埋土	5.2	4.9	2.1	柄部	330	78-802
114-803	ⅩE-52土坑	埋土	4.1	2.7	2.6		332	78-803

その他の土製品一覧表

図版番号	出土地点	層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考	遺物番号	写図番号
73-182	VF-1 (住) Q 3	埋土下部	不明	2.2	2.9	1.3	3.6		72	48-182
145-2015	ⅩE-6 d	Ⅱ層	蹄形土器	3.7	3.3	3.0	17.35	内径2.4cm		108-2015

石器・石製品一覧表(1)

図 書 版 号	出土地点	層位	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ(g)	石 質	備 考	遺物 番号	写図 番号	
60-25	VD-2(作)Q4	床面	砥石	12.4	4.0	3.0	180.00	輝綠凝灰岩	奥羽山地、中新統	21	41	
60-26	VD-2(住)	床面	台石	21.5	19.1	4.7	2,330.00	両碑石安山岩	福瀬、中新統	52	41	
60-27	VD-2(作)	床面	台石	29.0	21.0	10.4	3,450.00	両碑石安山岩	福瀬、中新統	85	41	
60-28	VD-2(作)Q3	床面	片磨状石製品	5.5	5.4	0.9	39.70	硬砂沈岩	奥羽山地、中新統	41	41	
62-51	VE-1(部)Q3-Q4	埋土上部	台石	11.4	8.2	1.7	360.00	石質凝灰岩	奥羽山地、中新統	53	42	
62-52	VE-1(部)Q3-Q4	埋土上部	磨石	16.6	9.0	4.8	1,040.00	両碑石安山岩	福瀬、中新統	54	42	
73-183	VF-1(住)Q3	埋土下部	台石	11.0	9.0	1.8	280.00	硬砂岩質凝灰岩	奥羽山地、中新統	67	49	
73-184	VF-1(住)Q1	床面	凹石	22.4	6.6	3.5	760.00	両碑石安山岩	福瀬、中新統	58	49	
73-185	VF-1(住)Q4	埋土	石鏝	3.0	1.3	0.4	0.80	埴貫泥岩	奥羽山地、中新統	34	49	
75-201	WE-1(住)Q4	埋土	台石	11.5	12.9	2.5	420.00	両碑石安山岩	福瀬、中新統	28	50	
78-226	WE-5(住)Q2	埋土	切刃器	4.4	5.5	1.2	23.90	流紋岩	奥羽山地、中新統	5	51	
78-227	WE-5(住)Q2	埋土	台石	14.1	6.7	3.7	680.00	片磨状安山岩	福瀬(?!)、中新統	30	51	
78-228	WE-5(住)Q1	埋土	磨石	10.5	9.1	5.9	760.00	両碑石安山岩	福瀬、中新統	29	51	
80-332	WE-1(住)Q3	埋土	有孔石製品	3.4	2.0	0.7	6.95	黒白石(オパール)			88	53
83-371	WE-2(住)	埋土	不定形石器	2.3	2.5	0.4	2.40	輝綠凝灰岩	北上山地、古生界	9	56	
83-372	WE-2(住)Q4	埋土	不定形石器	2.2	2.3	1.1	7.20	チャート質凝灰岩	北上山地、古生界	10	56	
83-373	WE-2(住)	埋土	勾玉	3.3	1.5	1.2	2.05	玉髓	産地不詳	4	56	
85-397	WE-3(住)Q2	床面	磨石	31.7	17.3	6.6	5,540.00	輝綠凝灰岩(?!)	奥羽山地、中新統	110	58	
86-398	WE-3(住)Q4	床面	磨石	10.8	8.5	4.5	640.00	花崗閃緑岩	北上山地、中生界	99	58	
86-399	WE-3(住)Q2	床面	台石	18.7	12.4	7.5	2,400.00	珠寶輝綠凝灰岩	奥羽山地、中新統	109	58	
86-400	WE-3(住)	床面	砥石	14.3	6.3	6.5	720.00	凝灰質硬砂岩	奥羽山地、古生界	104	59	
88-412	WE-4(住)	床面	台石	16.0	19.6	6.8	2,760.00	両碑石安山岩	奥羽山地、中新統	108	59	
88-414	WE-4(住)	カマド	磨石	18	11.2	8.2	1,180.00	両碑石安山岩(硬砂)	奥羽山地、中新統	100	59	
89-424	WE-7(住)	埋土	石鏝	1.8	1.3	0.2		チャート	北上山地、古生界	11	60	
96-497	XE-1(住)Q3	埋土	磨製石斧	4.8	3.8	1.8	60.00	緑色凝灰岩	奥羽山地、中新統	114	65	
96-498	XE-1(住)Q1	埋土	石鏝	1.6	2.2	0.2	0.25	玉髓	産地不詳	13	65	
96-499	XE-1(住)Q1	埋土上部	石鏝	1.7	1.6	0.25	0.75	珠寶輝綠凝灰岩	奥羽山地、中新統	12	65	
97-509	XE-2(住)Q2	床面	磨石	10.3	9.3	7.8	1,020.00	両碑石安山岩	奥羽山地、中新統	93	67	
97-510	XE-2(住)Q2	床面	磨石	7.2	7.1	6.4	420.00	両碑石安山岩	奥羽山地、中新統	98	67	
100-540	XE-2(住)Q4	埋土	石鏝	15.4	13.3	4.6	1,360.00	珠寶輝綠凝灰岩(?!)	奥羽山地、中新統	107	68	
100-541	XE-2(住)Q4	床面	台石	24.0	10.0	4.6	1,660.00	埴貫泥岩	奥羽山地、中新統	105	68	
100-542	XE-3(住)Q2	埋土	石鏝	2.2	1.3	0.2	0.45	玉髓	産地不詳	14	68	
104-600	XE-9(住)Q2	埋土	石鏝	2.0	1.6	0.4	0.85	珠寶輝綠凝灰岩	奥羽山地、中新統	17	72	
104-601	XE-9(住)Q1	埋土	石鏝	3.4	1.3	0.8	2.80	チャート質凝灰岩	北上山地、古生界	16	72	
104-602	XE-9(住)Q2	埋土	不定形石器	7.0	4.6	1.0	40.00				136	72
105-620	XE-11(住)Q1	埋土下部	石製品	4.6	6.0	1.1	36.40	珠寶輝綠凝灰岩	奥羽山地、中新統	84	73	
109-669	XE-2(住)Q4	床面	磨石	8.2	8.4	3.4	140.00	奥羽山地、中新統	奥羽山地、中新統	123	75	
110-678	XE-7(住)	埋土	石鏝	2.4	1.5	0.3		黒曜石	産地不詳	15	76	
112-707	XE-1(住)Q2	埋土	石鏝	6.0	3.6	1.5	22.80	輝綠凝灰岩	北上山地、古生界	7	77	
112-708	XE-1(住)Q1	床面	磨製石斧	11.5	4.6	2.8	240.00	緑色凝灰岩	奥羽山地、中新統	117	77	
112-714	XE-3(住)Q3	埋土	石鏝	2.6	1.3	0.3	0.70	チャート質凝灰岩	北上山地、古生界	18	77	
112-716	XE-3(住)Q1	埋土	磨製石斧	9	5.1	2.8	230.00	緑色凝灰岩	奥羽山地、中新統	118	77	
114-804	WE-51土坑	埋土下部	片磨状石製品	3.4	3.2	1.2	17.85	埴貫泥岩	奥羽山地、中新統	19	78	
114-816	WE-55土坑	底面直上	石製品	5.4	5.2	1.7	20.00	奥羽石安山岩(硬砂)	奥羽山地、中新統	131	78	

※ 写図番号の遺物番号は図版番号に同じ

石器・石製品一覽表(2)

図版 番号	出土地点	層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ(g)	石質	備考	遺物 番号	写図 番号
119-898	X E-64土坑	埋土下部	凹石	5.6	4.5	1.6	41.90	斑岩類燧石	奥羽山地、新第三系	83	84
119-899	X E-64土坑Q2	埋土上部	石鏃	2.7	1.4	0.5	1.40	硬質泥岩	奥羽山地、新第三系	21	84
119-900	X E-64土坑Q2	埋土	不定形石器	2.7	2.9	0.7	4.90	硬質泥岩	奥羽山地、新第三系	22	84
119-901	X E-64土坑Q1	埋土下部	不定形石器	5.0	6.1	1.6	57.40	チャート	北上山地、古生界	58	84
119-902	X E-64土坑Q2	埋土	不定形石器	11.4	6.2	2.7	220.00	珪質泥岩	奥羽山地、新第三系	90	84
122-970	V D-101溝跡	埋土下部	台石	15.0	19.0	6.6	6,790.00	ホルンフェルス	北上山地、古生界	56	87
122-971	V D-101溝跡	埋土	凹石	13.6	8.4	4.9	500.00	閃輝石質頁岩	産地不詳	32	87
123-983	V E-102溝跡	埋土	砥石	7.0	5.5	1.5	50.00	流紋岩質燧石	奥羽山地、中新統	48	88
123-984	V E-102溝跡	埋土	不定形石器	6.2	3.2	1.2	19.25	流紋岩	奥羽山地、中新統	44	88
124-985	VI E-101溝跡	埋土	石砧	4.4	3.5	1.2	11.70	硬砂泥岩	奥羽山地、中新統	3	88
124-986	VI E-101溝跡	埋土	石鏃	2.6	1.4	0.4	1.00	珪質泥岩	奥羽山地、中新統	2	88
125-999	IX E-101溝跡	埋土	台石	8.4	5.3	2.3	140.00	珪質燧石	奥羽山地、新第三系	102	89
125-1000	IX E-101溝跡	埋土	石鏃	11.3	5.8	1.7	120.00	珪質燧石	奥羽山地、新第三系	89	89
125-1001	IX E-101溝跡	埋土	磨製石斧	6.6	4.2	2.3	100.00	奥羽山石(燧石)	奥羽山地、新第三系	113	89
125-1002	IX E-101溝跡	埋土	磨石	9.5	8.7	4.5	600.00	阿摩石(燧石)	奥羽山地、新第三系	96	89
125-1003	IX E-101溝跡	埋土	石鏃	2.6	1.7	0.4	1.25	チャート	北上山地、古生界	20	89
147-2043	IX E-6 C	II層	石鏃	1.6	1.1	0.2	0.3	チャート	北上山地、古生界	49	110
147-2044	V D-9 J	II層	石鏃	1.7	1.2	0.35	0.35	チャート	北上山地、古生界	88	110
147-2045	IX E-0 d	II層	石鏃	1.8	1.2	0.2	0.35	玉髓	産地不詳	48	110
147-2046	IX E-0 c	II層	石鏃	1.9	1.5	0.3	0.60	輝綠巖灰岩	北上山地、古生界	66	110
147-2047	IX E-4 i	II層	石鏃	1.8	1.4	0.25	0.60	チャート質燧石	北上山地、古生界	64	110
147-2048	VI E-6 h	II層	石鏃	2.2	1.4	0.4	0.70	斑岩類燧石	北上山地、古生界	34	110
147-2049	IX E-9 d	II層	石鏃	1.9	1.2	0.2	0.40	チャート	北上山地、古生界	47	110
147-2050	IV E-9 f	II層	石鏃	1.7	1.0	0.4	0.45	チャート	北上山地、古生界	11	110
147-2045	IX E-0 d	II層	石鏃	1.8	1.2	0.2	0.35	玉髓	産地不詳	48	110
147-2046	IX E-0 c	II層	石鏃	1.9	1.5	0.3	0.60	輝綠巖灰岩	北上山地、古生界	66	110
147-2047	IX E-4 i	II層	石鏃	1.8	1.4	0.25	0.60	チャート質燧石	北上山地、古生界	64	110
147-2048	VI E-6 h	II層	石鏃	2.2	1.4	0.4	0.70	斑岩類燧石	北上山地、古生界	34	110
147-2049	IX E-9 d	II層	石鏃	1.9	1.2	0.2	0.40	チャート	北上山地、古生界	47	110
147-2050	IV E-9 f	II層	石鏃	1.7	1.0	0.4	0.45	チャート	北上山地、古生界	11	110
147-2051	VI E-7 g	II層	石鏃	2.1	1.4	0.3	0.86	硬砂岩	北上山地、古生界	36	110
147-2052	IX E-9 d	II層	石鏃	2.7	1.7	0.3	0.96	黒曜石	産地不詳	44	110
147-2053	VI E-2 c	II層	石鏃	2.5	1.5	0.25	0.60	玉髓	産地不詳	31	110
147-2054	VI E-8 e	II層	石鏃	2.1	1.4	0.2	0.50	珪質泥岩	奥羽山地、中新統	1	110
147-2055	VI E-9 h	II層	石鏃	2.3	1.5	0.3	0.75	流紋岩	奥羽山地、中新統	6	110
147-2056	IX E-3 c		石鏃	2.7	1.4	0.8	2.10	チャート質燧石	北上山地、古生界	38	110
147-2057	X E-6 e	II層	石鏃	2.6	1.6	0.2	0.85	チャート質燧石	北上山地、古生界	67	110
147-2058	IX E区		石鏃	3.4	1.5	0.6	2.25	斑岩類燧石	奥羽山地、新第三系	46	110
147-2059	VI E-9 h	II層	石鏃	3.7	1.4	0.4	1.85	チャート	北上山地、古生界	12	110
147-2060	X E-6 e	II層	石鏃	2.2	2.4	0.3	1.70	チャート質燧石	北上山地、古生界	61	110
147-2061	IX E-1 g	II層	石鏃	2.4	2.3	0.8	4.00	チャート	北上山地、古生界	50	110
147-2062	IX E-6 c	II層	石鏃	3.1	2.1	0.7	4.20	輝綠巖灰岩	北上山地、古生界	51	110
148-2063	X E-3 g	II層	石鏃	1.7	1.2	0.2	0.40	チャート	北上山地、古生界	62	111
148-2064	VI E-8 d	II層	石鏃	1.8	1.3	0.6	0.40	チャート質燧石	北上山地、古生界	28	111

* 写図番号の遺物番号は図版番号に同じ

石器・石製品一覧表(3)

図版番号	出土地点	層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ(g)	石質	備考	遺物 番号	写真 番号
148-2065	IXE-8c	II層	石鏃	2.1	1.5	0.4	1.00	チャート質燧石	北上山地・古生界	42	111
148-2066	IXE-8c	II層	石鏃	2.8	1.5	0.3	1.15	チャート	北上山地・古生界	41	111
148-2067	XE-4h	II層	石鏃	2.2	1.8	0.4	1.20	チャート	北上山地・古生界	69	111
148-2068	VI E-4c	II層	石鏃	1.9	2.0	0.5	1.35	チャート質燧石	北上山地・古生界	30	111
148-2069	XE-7d	II層	石鏃	2.7	2.2	0.45	2.40	チャート	北上山地・古生界	40	111
148-2070	XE-4h	II層	石鏃	2.0	1.9	0.4	1.65	チャート	北上山地・古生界	65	111
148-2071	XE-4f	II層	尖頭燧石器	2.8	2.3	0.6	4.40	チャート	北上山地・古生界	59	111
148-2072	WE-9c	II層	尖頭燧石器	2.4	2.3	0.9	4.15	流紋岩	奥羽山地・中新統	38	111
148-2073	XE-5g	II層	石鏃	2.3	0.8	0.5	0.75	輝緑凝灰岩	北上山地・古生界	71	111
148-2074	IXE-2e	II層	石鏃	6.0	1.3	0.6	5.15	珧質泥岩	奥羽山地・新第三系	43	111
148-2075	IXE区	II層	石鏃	3.2	1.3	0.6	1.35	チャート	北上山地・古生界	53	111
148-2076	XE-0e	II層	石鏃	2.7	0.8	0.5	0.70	珧質泥岩	奥羽山地・新第三系	70	111
148-2077	XE-3f	II層	異形石器	2.3	2.7	0.5	1.65	黒曜石	産地不詳	74	111
149-2078	WE-9h	II層	石匙	5.8	4.7	0.8	12.90	珧質泥岩	奥羽山地・新第三系	32	112
149-2079	VI E-8h	II層	石匙	3.1	4.6	0.6	6.35	粘板岩	北上山地・古生界	4	112
149-2080	VI E-8e	II層	石匙	3.5	3.0	0.9	5.65	流紋岩	奥羽山地・中新統	8	112
149-2081	WE-9i	II層	石匙	4.4	6.1	1.1	24.45	硬質泥岩	奥羽山地・新第三系	23	112
149-2082	IXE-3c		石匙	4.8	2.6	0.8	7.30	珧質泥岩	奥羽山地・新第三系	37	112
149-2083	WE-2h	II層	不定形石器	2.9	1.9	0.8	4.10	チャート質燧石	北上山地・古生界	26	112
149-2084	WE-7d	II層	不定形石器	2.4	2.6	1.0	6.70	蛋白石		24	112
149-2085	WE-7c	II層	不定形石器	2.9	1.8	0.7	3.65	チャート	北上山地・古生界	27	112
149-2086	WE-9d	II層	不定形石器	2.4	1.8	0.9	3.00	珧質泥岩	奥羽山地・新第三系	25	112
149-2087	WE-9e	II層	不定形石器	2.7	2.0	0.5	2.55	チャート質燧石	北上山地・古生界	29	112
149-2088	IXE-4c	II層	不定形石器	4.0	1.3	0.8	3.25	珧質泥岩	奥羽山地・新第三系	57	112
149-2089	IXE-8h	II層	不定形石器	3.7	2.7	1.1	12.90	自費燧石燧石	奥羽山地・新第三系	39	112
149-2090	IXE-1g	II層	不定形石器	3.6	1.9	0.8	3.80	黒曜石	産地不詳	54	112
149-2091	VD-9j	III層	不定形石器	2.4	3.4	0.7	3.85	流紋岩	産地不詳	37	112
149-2092	IXE-4e	II層	不定形石器	1.8	1.9	0.3	1.45	チャート質燧石	北上山地・古生界	52	112
149-2093	XE-7c~6c	II層	不定形石器	2.1	2.5	0.7	2.55	輝緑凝灰岩	北上山地・古生界	76	112
149-2094	XE-6e	II層	不定形石器	2.5	1.1	0.25	0.70	チャート質燧石	北上山地・古生界	77	112
149-2095	XE-2f	II層	不定形石器	1.7	1.6	0.4	1.00	玉髓	産地不詳	72	112
150-2096	WE-5h	II層	不定形石器	8.5	5.6	1.5	70.0	珧質泥岩	奥羽山地・新第三系	36	113
150-2097	VI E-8h	II層	不定形石器	6.9	3.8	2.0	40.95	珧質泥岩	奥羽山地・中新統	66	113
150-2098	XE-5c	II層	不定形石器	5.1	2.1	1.2	12.00	珧質泥岩	奥羽山地・新第三系	63	113
150-2099	XE-5h	II層	不定形石器	7.2	3.0	0.9	20.45	珧質泥岩	奥羽山地・新第三系	68	113
150-2100	VI E-9h	II層	不定形石器	5.7	3.1	0.7	15.80	珧質泥岩	奥羽山地・中新統	57	113
150-2101	IXE-4e	II層	不定形石器	2.3	2.0	0.5	2.20	珧質泥岩	奥羽山地・新第三系	45	113
150-2102	IXE-2i	II層	不定形石器	2.4	2.1	0.7	2.70	チャート	北上山地・古生界	55	113
150-2103	VE-8a	III層	不定形石器	2.5	1.4	0.7	2.75	チャート	北上山地・古生界	10	113
150-2104	XE-6h	II層	不定形石器	3.8	1.6	0.7	2.00	珧質泥岩	奥羽山地・新第三系	60	113
150-2105	WE-1c	II層	不定形石器	2.5	3.2	0.6	5.60	珧質泥岩	奥羽山地・中新統	13	113
150-2106	WE-6g-f	II層	不定形石器	2.1	2.6	0.9	5.40	自費燧石燧石	奥羽山地・新第三系	33	113
150-2107	VI E-8g	II層	不定形石器	2.3	2.3	0.7	2.50	チャート	北上山地・古生界	63	113
150-2108	VI E-9g	II層	不定形石器	2.9	1.3	0.7	2.15	チャート	北上山地・古生界	40	113

* 写真番号の遺物番号は図版番号に同じ

石器・石製品一覧表(4)

図版 番号	出土地点	層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ(g)	石質	備考	遺物 番号	写図 番号
150-2109	VI E-5 e	II層	不定形石器	3.4	3.9	0.9	4.55	流紋岩	奥羽山地、中新統	43	113
150-2110	X E-2 c	II層	不定形石器	2.5	2.7	0.8	4.85	奥羽山地、中新統	奥羽山地、中新統	75	113
151-2111	VE-8 c	II層	不定形石器	4.2	9.2	0.9	31.90	珪質泥岩	奥羽山地、中新統	7	114
151-2112	VD-8 j	III層	不定形石器	4.1	4.3	1.0	20.50	珪質泥岩	奥羽山地、中新統	9	114
151-2113	VE区		不定形石器	3.1	5.6	0.9	13.35	チャート	北上山地、古生界	42	114
151-2114	VI F-0 f	II層	不定形石器	3.3	2.5	0.9	8.34	チャート	北上山地、古生界	50	114
151-2115	IX E-9 h	II層	不定形石器	3.6	2.1	0.9	6.25	珪質泥岩	奥羽山地、中新統	56	114
151-2116	X E-4 f	II層	不定形石器	4.5	3.5	1.3	15.35	チャート	北上山地、古生界	73	114
151-2117	VE区		不定形石器	5.3	4.8	0.8	19.75	硬砂泥岩	奥羽山地、中新統	45	114
151-2118	VF-9 b	III層	不定形石器	4.1	4.1	1.2	20.55	硬砂泥岩	奥羽山地、中新統	61	114
151-2119	WE-8 g	III層	不定形石器	4.2	2.9	0.9	9.30	チャート	北上山地、古生界	51	114
151-2120	WE-7 d	III層	不定形石器	2.1	2.1	0.6	2.45	珪質泥岩	奥羽山地、中新統	35	114
152-2121	X E-4 f	II層	磨製石斧	4.7	3.4	2.1	60.00	凝灰質硬砂岩	北上山地、古生界	121	115
152-2122	X E-6 e	II層	磨製石斧	2.8	4.1	1.1	20.00	凝灰質硬砂岩	北上山地、古生界	116	115
152-2123			磨製石斧	5.1	3.2	2.3	40.00	凝灰質硬砂岩	北上山地、古生界	120	115
152-2124	WE-7 c	II層	磨製石斧	9.2	5.4	2.7	240.00	緑色凝灰岩	奥羽山地、中新統	112	115
152-2125	WE区	II層	打製石斧	22.6	9.1	2.7	840.00	北土山 ¹⁾	北上山地、古生界	92	115
152-2126			角礫磨製石斧	15.9	7.2	4.5	740.00	珪質凝灰質凝灰岩	奥羽山地、中新統	91	115
152-2127	IX E-6 f	II層	磨石・敲石	8.8	9.3	4.7	520.00	両碑石安山岩	奥羽山地、中新統	95	115
152-2128	WE-9 h	II層	磨石	9.0	5.6	4.3	170.00	両碑石安山岩(磨製)	奥羽山地、中新統	101	115
152-2129	WE F-7 g	II層	磨石・敲石	12.2	7.9	5.4	180.00	両碑石安山岩	奥羽山地、中新統	94	115
153-2130	WE-2 c	II層	磨石	8.7	7.1	5.9	520.00	両碑石安山岩	奥羽山地、中新統	126	115
153-2131	VI E-9 f	II層	磨石	9.4	4.5	3.3	220.10	硬砂岩	北上山地、古生界	24	116
153-2132	IX E-4 i	II層	磨石	8.8	7.6	3.5	180.00	両碑石安山岩	奥羽山地、中新統	128	116
153-2133	VI E-8 g	II層	磨石	8.6	3.9	2.2	60.00	流紋岩質凝灰岩	奥羽山地、中新統	47	116
153-2134	X E-3 i	II層	磨石	7.2	3.6	2.2	100.00	凝灰質硬砂岩	北上山地、古生界	122	116
153-2135	IX E-2 h	II層	凹石	8.3	9.3	4.5	260.00	両碑石安山岩(磨製)	奥羽山地、中新統	97	116
154-2136	WE区		凹石・磨石・敲石	9.5	7.7	4.2	440.00	両碑石安山岩	奥羽山地、中新統	27	116
154-2137	X E-2 b	II層	凹石	6.5	7.2	3.2	180.00	角閃石安山岩	奥羽山地、中新統	125	116
154-2138	X E-0 c	II層	凹石	8.2	5.5	4.3	150.00	両碑石安山岩(磨製)	奥羽山地、中新統	124	116
154-2139	VI E-9 f	II層	凹石	10.1	6.2	3.7	260.00	流紋岩質凝灰岩	奥羽山地、中新統	84	116
154-2140	WE-4 g	II層	凹石	10.4	9.3	3.1	200.00	両碑石安山岩(磨製)	奥羽山地、中新統	26	116
154-2141	WE-9 h	II層	敲石	9.2	9.2	2.9	380.00	硬質泥岩	奥羽山地、中新統	103	116
154-2142	WE-4 g	II層	敲石類	13.4	3.0	2.2	120.00	珪質凝灰質凝灰岩	奥羽山地、中新統	130	117
154-2143	VI E-9 e	II層	敲石類	13.6	2.6	1.9	70.00	珪質凝灰質凝灰岩	奥羽山地、中新統	81	117
155-2144	WE-9 f	II層	石皿	16.9	10.6	4.1	1,120.00	角閃石安山岩	奥羽山地、中新統	135	117
155-2145	X E-4 h	II層	石皿	31.2	23.4	5.6	6,740.00	珪質凝灰質凝灰岩	奥羽山地、中新統	111	117
155-2146	VF-8 b	II層	石皿	18.8	13.6	13.2	2,800.00	花崗閃緑岩	北上山地、古生界	59	117
155-2147	IX E-7 e	II層	石皿	18.2	11.5	1.8	780.00	硬砂岩	北上山地、古生界	134	117
155-2148	VF-7 d	II層	石皿	11.2	8.3	2.2	380.00	石質凝灰岩	奥羽山地、中新統	31	118
155-2149	WE-5 g	II層	磨石	11.7	6.8	4.1	540.00	奥羽山地 ¹⁾	北上山地、古生界	133	118
156-2150	IX E-1 e	II層	石皿	15.1	8.0	6.7	760.00	両碑石安山岩(磨製)	奥羽山地、中新統	106	118
156-2151	WE-4 d	II層	石皿	5.2	5.3	2.9	120.00	奥羽山地 ¹⁾	北上山地、古生界	132	118
156-2152	VI E-6 d	II層	石皿	5.2	5.6	1.2	36.20	奥羽山地 ¹⁾	奥羽山地、中新統	87	118

※ 写図番号の遺物番号は図版番号に同じ

石器・石製品一覽表(5)

図版 番号	出土地点	層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ(g)	石質	備考	遺物 番号	写図 番号
156-2153	VD-o h	II層	白石	17.2	15.1	3.8	1,680.00	両輝石安山岩	稲瀬 中新統	33	118
156-2154	WE-8 g	II層	白石	23.5	16.5	5.1	2,270.00	両輝石安山岩	稲瀬 中新統	86	119
156-2155	VD区		白石	28.6	19.6	9.0	6,720.00	両輝石安山岩	稲瀬 中新統	66	119
156-2156	WE区	II層	礫石	7.7	5.8	2.0	120.00	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	22	118
157-2157	XE-2 d	II層	石鐮	3.2	2.9	1.8	20.05	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	1	120
157-2158	XE-4 h	II層	有孔石製品	4.4	3.0	1.2	20.95	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	2	120
157-2159	WE-2 h	II層	有孔石製品	7.4	4.4	1.8	80.00	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	3	120
157-2160	XE-5 f	II層	石製品?	7.7	5.9	3.0	140.00	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	85	120
157-2161	XE-3 h	II層	石製品?	5.4	6.6	2.4	80.00	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	86	120
157-2162	WE-8 g	II層	石製品?	6.5	7.7	1.8	140.00	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	62	120
157-2163	WE-4 f	II層	石製品?	7.0	4.8	1.7	84.00				120
157-2164	WE-6 d	II層	鐮状石製品	5.2	5.6	1.2	36.20	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	87	120
157-2165	WE-5 g	II層	鐮状石製品	5.8	4.1	0.8	20.90	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	39	120
157-2166	WD-0 g	II層	鐮状石製品	6.2	7.3	1.4	80.00	石質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	25	120
157-2167	WE-2 h	II層	筒状石製品	3.8	1.1	1.0	5.25	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	5	120
157-2168	WE-8 h	II層	円盤状石製品	5.2	3.3	0.9	19.30	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	49	120
157-2169	XE-6 e	II層	円盤状石製品	3.7	3.9	0.7	16.15	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	78	120
157-2170	WE-4 d	II層	円盤状石製品	6.3	5.7	1.2	55.30	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	19	120
157-2171	XE区	I層	円盤状石製品	4.5	4.9	1.1	35.80	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	79	120
157-2172	XE-1 f	II層	円盤状石製品	4.7	4.8	0.9	29.95	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	80	120
158-2173	WE-0 e	II層	石刀	16.4	2.6	2.0	120.00	粘板岩	北上山地 古生界	129	121
158-2174	XF-1 c	II層	棒状石製品	10.6	3.7	2.8	180.00	プロビライト	奥羽山地 新第三系	119	121
158-2175	WE-8 h	II層	石製品	5.2	4.4	1.2	40.00	輝緑礫灰岩	北上山地 古生界	113	121
158-2176	XE-3 f	II層	石製品	3.4	5.0	3.4	33.85	白色粘板岩	奥羽山地 新第三系	6	121
158-2177	WE-4 e	I層	石製品	4.6	2.2	2.7	24.95	流紋岩質礫灰岩	奥羽山地 新第三系	82	121
158-2178	XE-2 h	II層	石製品	8.3	9.7	5.3	460.00	輝石安山岩	奥羽山地 新第三系	127	121
158-2179	VD-0 h	II層	石製品	6.8	4.3	2.7	80.00	両輝石安山岩	稲瀬 中新統	20	121
158-2180	WE-9 g	II層	石製品	8.4	5.0	2.1	130.00	両輝石安山岩	稲瀬 中新統	64	121

鉄製品一覽表(1)

※ 写図番号の遺物番号は図版番号に同じ

図版番号	出土地点	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	備考	遺物 番号	写図 番号
58-14	VD-1 (住)	埋土上部	刀子	8.6	1.5	4.0			39-14
62-41	VE-1 (住)	埋土	刀子	8.4	1.4	0.4			42-41
62-42	VE-1 (住)	埋土上部	刀子	8.7	1.5	0.5			42
62-43	VE-1 (住)	床面	刀子	9.4	1.1	0.3			43
62-44	VE-1 (住)	埋土上部	刀器具	6.3	3.8	0.7			44
62-45	VE-1 (住)	床面	手鐮	8.6	0.3	1.5			45
62-46	VE-1 (住)	埋土下部	鉄鏝?	6.5	0.4	3.0			46
62-47	VE-1 (住)	埋土下部	履取鍬	6.2	1.0	0.4			47
62-48	VE-1 (住)	埋土下部	鉄鏝	7.8	0.7	0.4			48
62-49	VE-1 (住)	埋土下部	鉄鏝	9.8	0.7	0.5			49
62-50	VE-1 (住)	床面	鉄鏝	15.1	0.5	0.3			50
83-369	WE-1 (住)	床面	鋸先	16.7	17.5	1.0		6	56-369

鉄製品一覽表(2)

図版番号	出土地点	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	備考	遺物番号	写図番号
83-370	ⅤE-1 (住)	南西隅床面	手鏡	7.0	2.0	0.3		2	56-370
85-396	ⅤE-1 (住)	礎土下部	釣針	6.9	2.0	0.8		1	58-396
95-485	ⅨE-1 (住)	礎土下部	刀子?	5.0	2.4	1.9		7	65-485
99-532	ⅨE-1 (住)	床面	不明	4.9	2.4	1.9			68-532
109-667	XE-1 (住)	礎土	刀子	3.0	13.3	0.7		5	75-667
109-668	XE-1 (住)	床面	刀子	2.1	7.9	1.2		4	75-668
159-2181	ⅤE区		手鏡	7.0	1.7	0.2		13	122-2181
159-2182	ⅤE区		刀子	9.2	1.1	0.4		14	122-2182
159-2183	ⅤE-0 f	Ⅱ層	刀子	3.5	1.4	0.5		17	122-2183
159-2184	ⅨE-9 g	Ⅱ層	刀子	4.7	2.0	1.3		8	122-2184
159-2185	ⅤE-7 g	Ⅱ層	鉄線?	5.5	1.5	1.1		16	122-2185
159-2186	ⅤE-0 g	Ⅱ層	鉄線?	4.4	0.9	0.8		15	122-2186

<引用・参考文献>

- 岩手県埋蔵文化財センター (1982) 「新内遺跡」岩埋文報告書第32集
- 岩手県埋蔵文化財センター (1984) 「上斗内Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ遺跡発掘調査報告書」岩埋文報告書第71集
- 岩手県埋蔵文化財センター (1984) 「安堵屋敷遺跡発掘調査報告書」岩埋文報告書第74集
- 岩手県埋蔵文化財センター (1985) 「曲田Ⅰ遺跡発掘調査報告書」岩埋文報告書第87集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター (1986) 「古館Ⅱ遺跡発掘調査報告書」岩埋文報告書第103集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター (1986) 「手代森遺跡発掘調査報告書」岩埋文報告書第108集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター (1989) 「駒焼場遺跡発掘調査報告書」岩埋文報告書第133集
- 岩手県教育委員会 (1980) 「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」(一岡地区東義遺跡) 岩手県文化財調査報告書第55集
- 大迫町教育委員会 (1979) 「立石遺跡」大迫町埋蔵文化財報告書第3集
- 大迫町教育委員会 (1979) 「小田遺跡発掘調査報告書」大迫町埋蔵文化財報告書第4集
- 北上市教育委員会 (1978) 「八天遺跡」図版編 文化財調査報告書第24集
- 北上市教育委員会 (1979) 「八天遺跡」本文編 文化財調査報告書第27集
- 北上市教育委員会 (1978) 「九年橋遺跡第4次調査報告書」文化財調査報告書第23集
- 北上市教育委員会 (1980) 「九年橋遺跡第6次調査報告書」文化財調査報告書第23集
- 北上市教育委員会 (1984) 「九年橋遺跡第7次調査報告書」文化財調査報告書第23集
- 北上市教育委員会 (1985) 「九年橋遺跡第8次調査報告書」文化財調査報告書第23集
- 北上市教育委員会 (1986) 「九年橋遺跡第9次調査報告書」文化財調査報告書第23集
- 北上市教育委員会 (1987) 「九年橋遺跡第10次調査報告書」文化財調査報告書第23集
- 北上市教育委員会 (1988) 「九年橋遺跡第11次調査報告書」文化財調査報告書第23集
- 北上市教育委員会 (1989) 「藤沢遺跡」文化財調査報告書第54集
- 宮城県教育委員会 (1986) 「田柄貝塚Ⅱ」土製品・石器・石製品編 宮城県文化財調査報告書第111集
- 岡村道雄 (1979) 「縄文時代石器の基礎的研究法とその具体例—その1—」東北歴史資料館研究紀要第5号
- 岡村道雄・森嶋秀一 (1984) 「里浜貝塚Ⅲ」東北歴史資料館 資料集9
- 佐々木嘉直 (1988) 「岩手県内出土の石製円盤・土製円盤について」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 紀要第

写 真 图 版

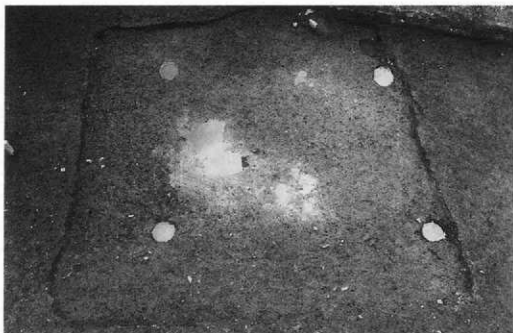


昭和28年度調査区域

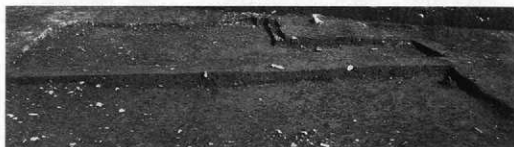


平成31年度調査区域

写真図版 1 調査区域全景



完覆



埋土断面



カマド完覆

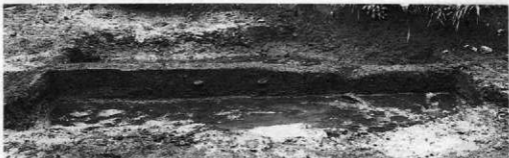


煙道部完覆

写真図版2 VD-1住居跡



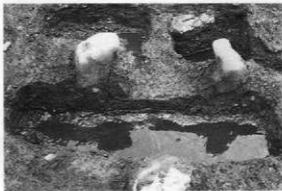
完掘



埋土断面



カマド完掘



カマド横断面

写真図版3 VD-2 住居跡



完掘



埋土断面



カマド完掘



煙道縦断面

写真図版4 VE-1住居跡



完掘



埋土断面



カマド完掘



横道縦断面

写真図版5 VF-1住居跡



完概



埋土断面



カマド横断面



煙道断面

写真図版6 VF-2 住居跡



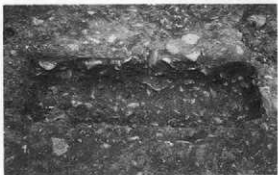
完掘



埋土断面



カマド完掘

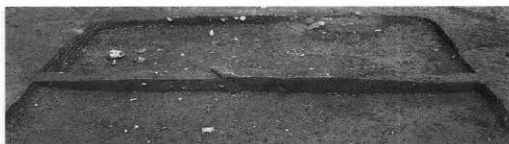


境土断面

写真図版7 VII E-1 住居跡



完掘



埋土断面



カマド完掘

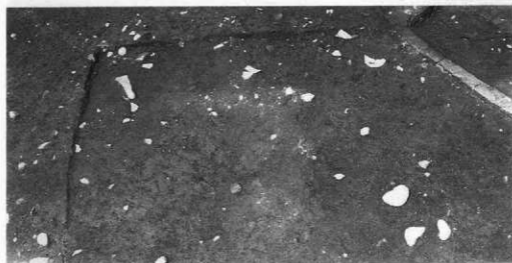


カマド縦断面

写真図版 8 VII E-2 住居跡



VII E-3 住居跡完照

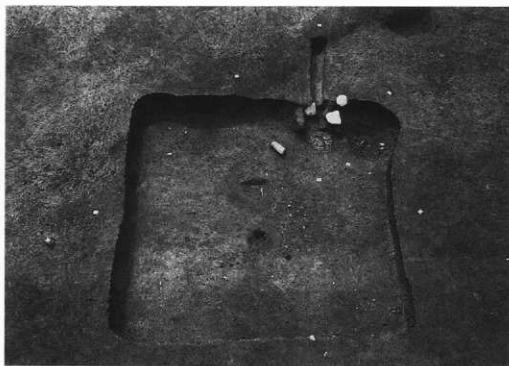


VII E-4 住居跡完照



VII E-4 住居跡埋土断面

写真図版9 VII E-3・4 住居跡



完掘



埋土断面



カマド横断面



P, 埋土断面

写真図版10 VIII E-1 住居跡



完備



埋土断面

写真図版11 VIII E-2 住居跡



完器



埋土断面



カマド横断面



遺物出土状況

写真図版12 VIII E-3 住居跡



完掘



埋土断面



カマド横断面

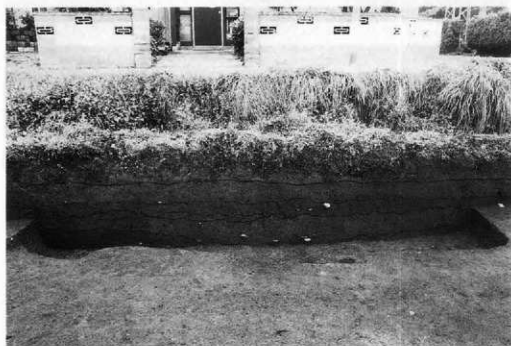


煙道埋土断面

写真図版13 VIII E-4 住居跡

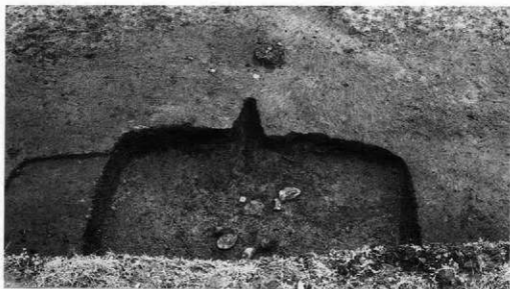


完掘

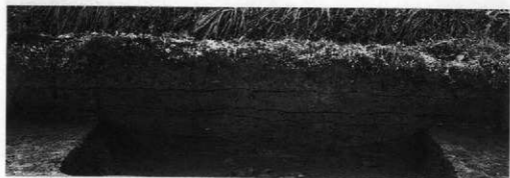


埋土断面

写真図版14 VIII E-6 住居跡



完掘



埋土断面



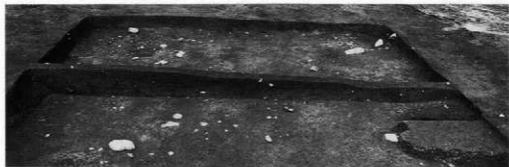
燔道埋土断面



完掘



埋土断面



埋土断面

写真図版16 IXE-1住居跡(1)



IXE-1 住居跡カマド



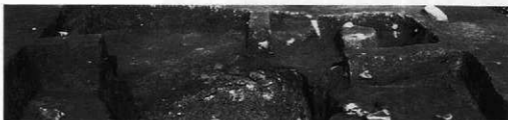
IXE-1 住居跡
ピット埋土断面



IXE-2 住居跡完掘



完掘・IXE-51井戸跡



埋土断面

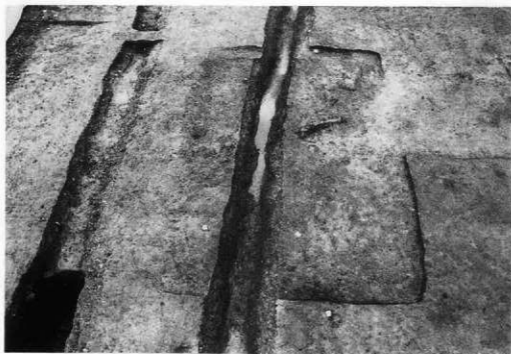


カマド完掘



カマド横断面

写真図版18 IXE-3住居跡・IXE-51井戸跡 52土坑



完備



埋土断面



炉断面

写真図版19 IXE-4 住居跡



完掘



埋土断面



カマド完掘



IXE-11住居跡埋土断面



XE-2住居跡埋土断面

写真図版21 IXE-11・XE-2住居跡(1)



完瓶



1号罐道埋土断面



2号罐道埋土断面

写真图版22 XE-2 住居跡(2)



完攝



埋土断面



切断面

写真図版23 VIII E-5 住居跡



完掘

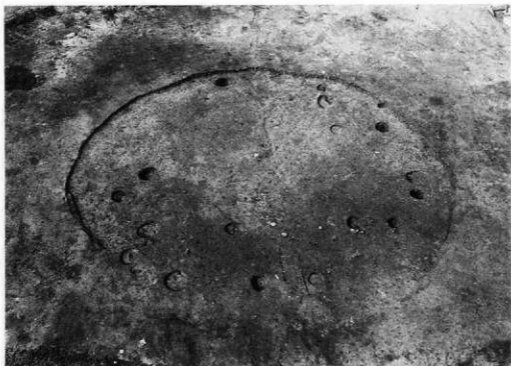


埋土断面



埋土断面

写真図版24 IXE-6 住居跡



完攝

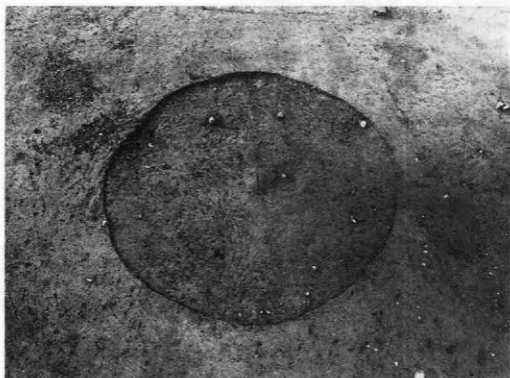


埋土断面



地球炉断面

写真図版25 IXE-7 住居跡



完掘



埋土断面

写真図版26 IXE-12住居跡



完掘



埋土断面



炉完掘



炉断面

写真图版27 XE-1住居跡



完掘

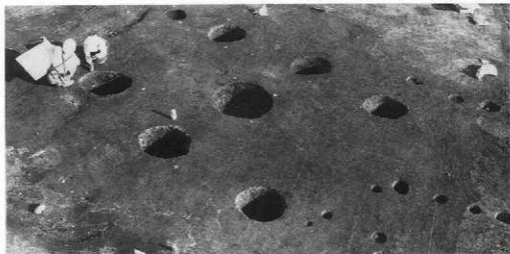


炉完掘



炉断面

写真図版28 XE-3 住居跡



完掘



柱穴掘り方埋土断面



柱穴掘り方



柱穴掘り方埋土断面

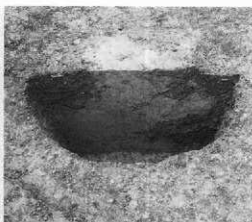


柱穴掘り方埋土断面

写真図版29 VIII E-201掘立柱建物跡



VIE-51 土坑完掘



VIE-51 土坑埋土断面



VII E-51 土坑完掘



VII E-51 土坑埋土断面



VII E-52 土坑完掘

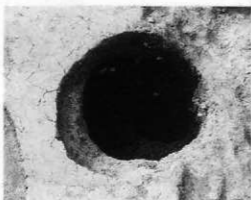


VII E-52 土坑埋土断面

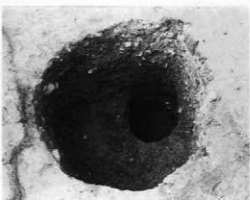
写真図版30 VIE-51・VII E-51・52 土坑



IXE区柱穴列



IXE-54柱穴掘り方



IXE-55柱穴掘り方



IXE-56柱穴掘り方



IXE-67柱穴掘り方埋土断面

写真図版31 IXE区柱穴列 (IXE-54・55・56・57柱穴)



IVE-101溝跡完掘



IVE-102溝跡完掘



IVE-101溝跡埋土断面



IVE-102溝跡埋土断面

写真図版32 IVE-101・102溝跡



VD-101・102溝跡完掘

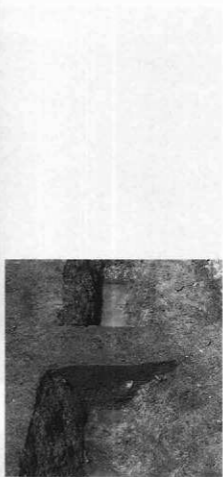


VD-101溝跡埋土断面

写真図版33 VD-101・102溝跡



VE-102溝跡完照



VE-102溝跡埋土断面



VE-101溝跡完照



VE-101溝跡埋土断面

写真図版34 VE-101・102溝跡



VII E-101溝跡完掘



VII E-102溝跡完掘



VII E-101溝跡埋土断面



VII E-102溝跡埋土断面

写真図版35 VII E-101・102溝跡



VIE—103溝跡完復



VIE—103溝跡埋土断面



VIE—104溝跡埋土断面

写真図版36 VIE—103・104溝跡



VII E-105-106 溝跡完掘

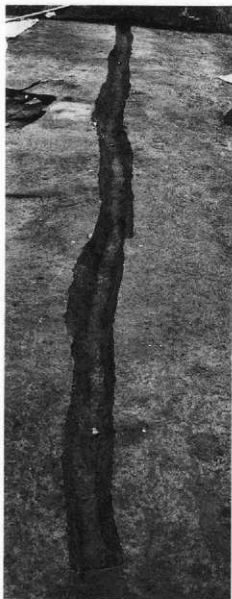


VII E-105 溝跡埋土断面



VII E-105 溝跡埋土断面

写真図版37 VII E-105・106 溝跡



完掘



埋土断面(1)



埋土断面(2)



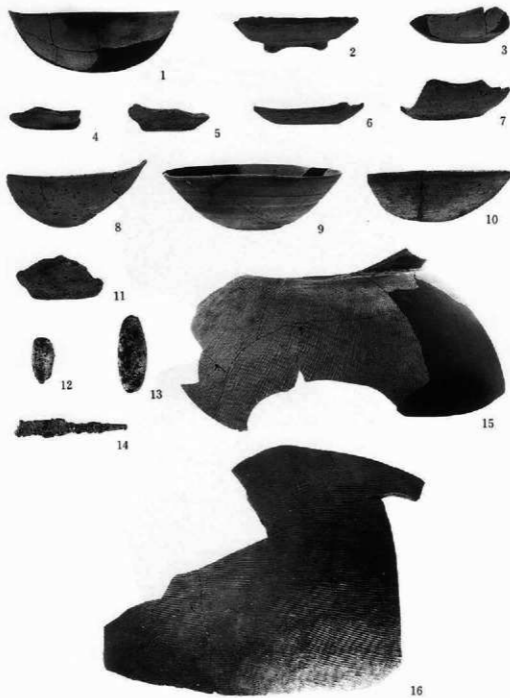
埋土断面(3)



埋土断面(4)

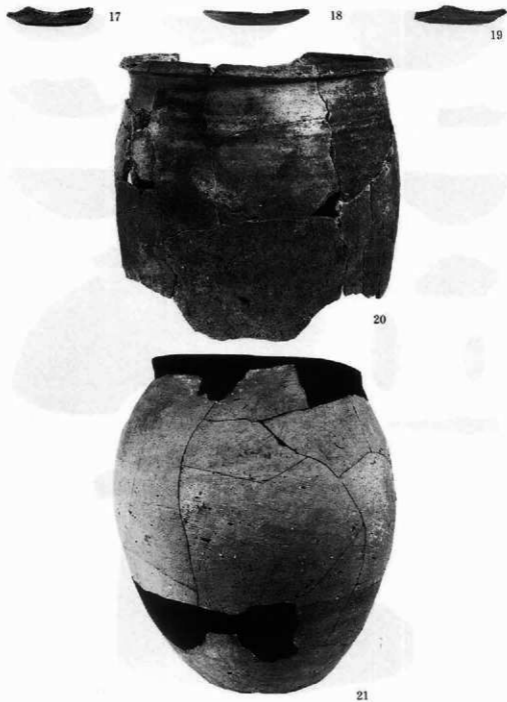
写真図版38 IXE-101溝跡

VD-1住居跡 (1-16)



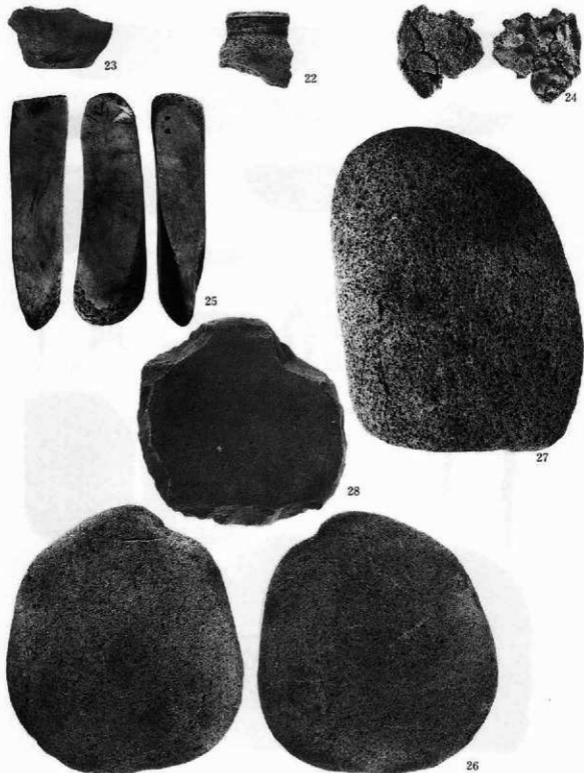
写真図版39 VD-1住居跡出土遺物

VD-2住居跡(1) (17~21)



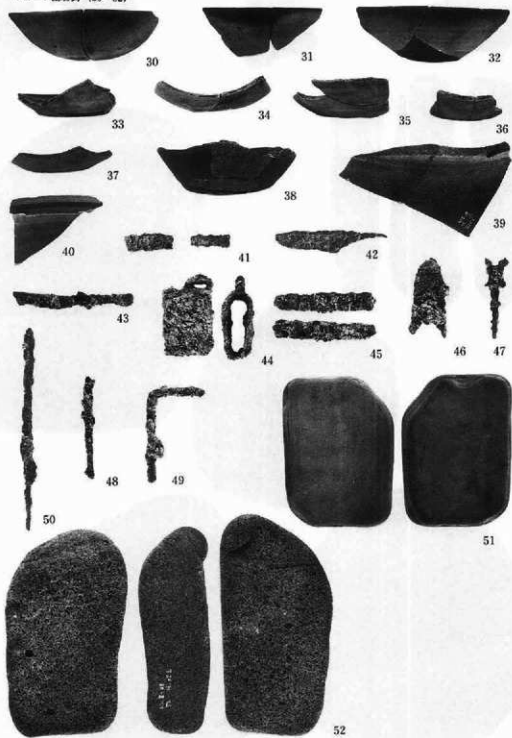
写真図版40 VD-2住居跡出土遺物(1)

VD-2 住居跡 (2) (22-28)



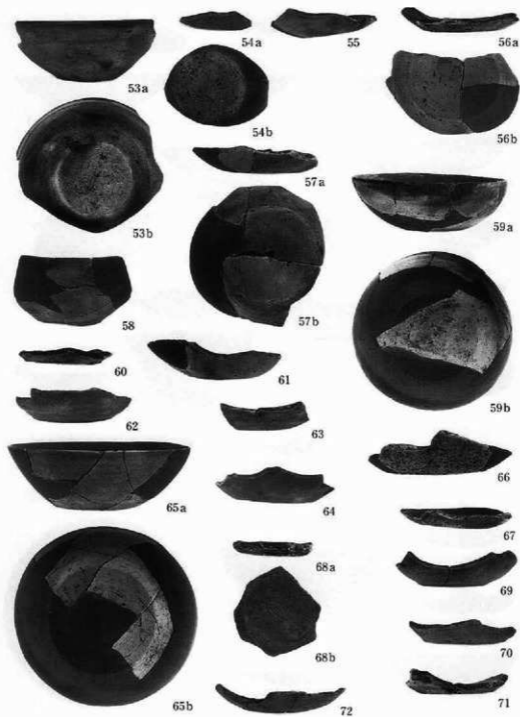
写真図版41 VD-2 住居跡出土遺物(2)

VE-1住居跡 (30-52)



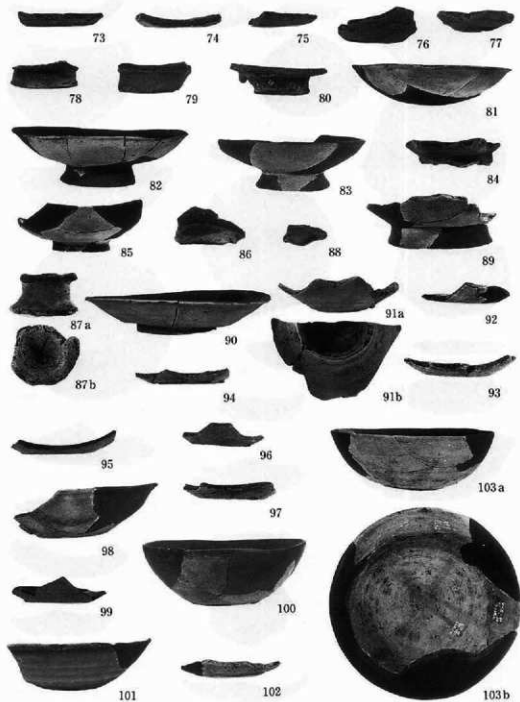
写真図版42 VE-1住居跡出土遺物

VF-1 住居跡(1) (53-72)



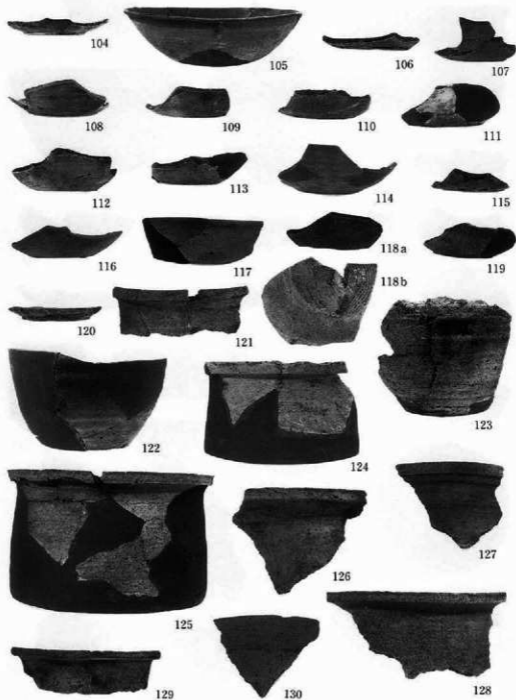
写真図版43 VF-1 住居跡出土遺物(1)

VF-1 住居跡(2) (73~103)



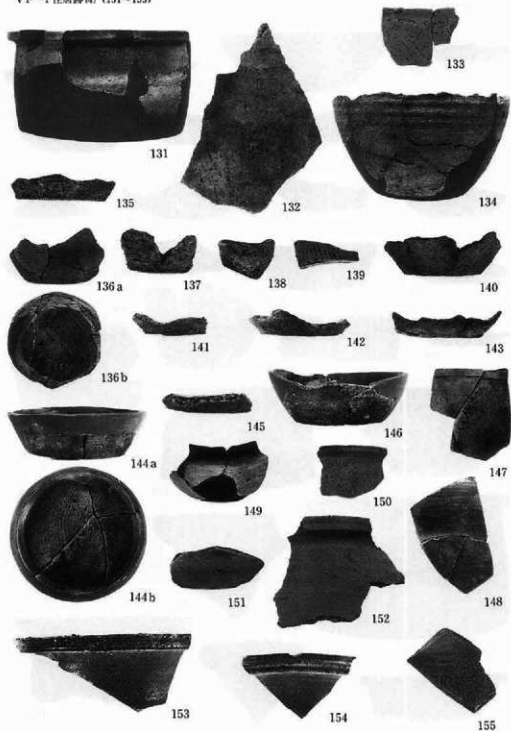
写真図版44 VF-1 住居跡出土遺物(2)

VF-1住居跡(3) (104~130)



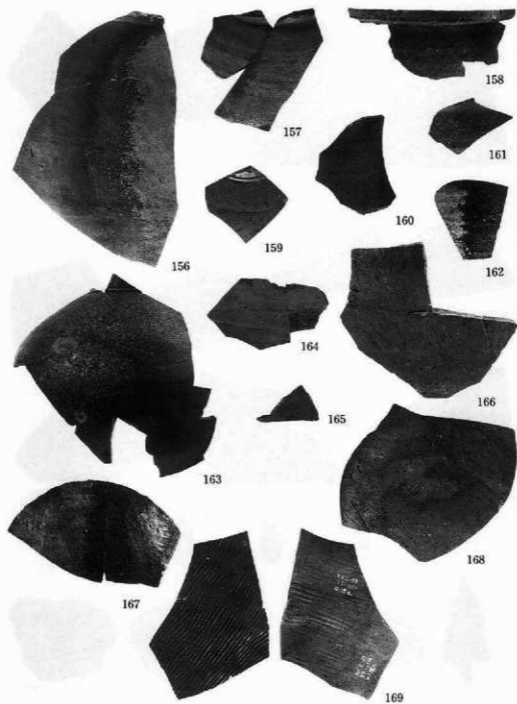
写真図版45 VF-1住居跡出土遺物(3)

VF-1 住居跡(4) (131~155)



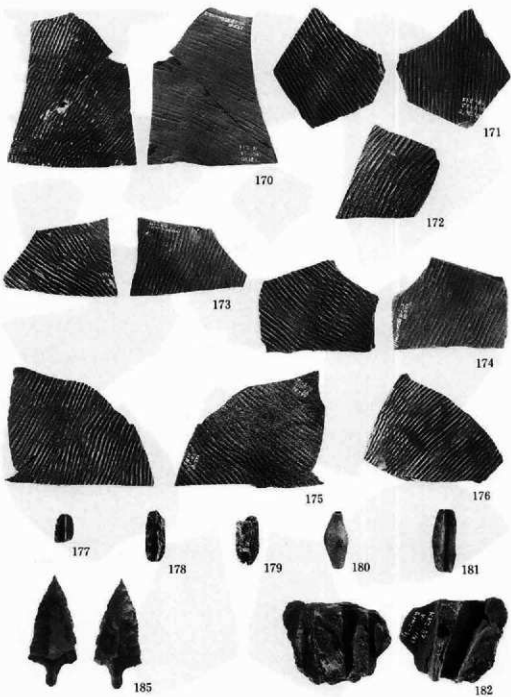
写真図版46 VF-1 住居跡出土遺物(4)

VF-1住居跡(5) (156-169)



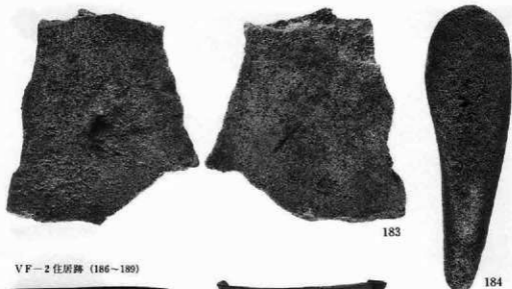
写真図版47 VF-1住居跡出土遺物(5)

VF-1 住居跡(6) (170-182・185)



写真図版48 VF-1 住居跡出土遺物(6)

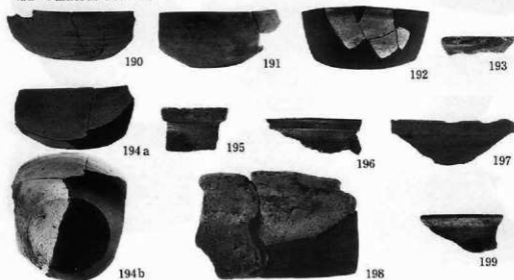
VF-1 住居跡(7) (183・184)



VF-2 住居跡 (186~189)



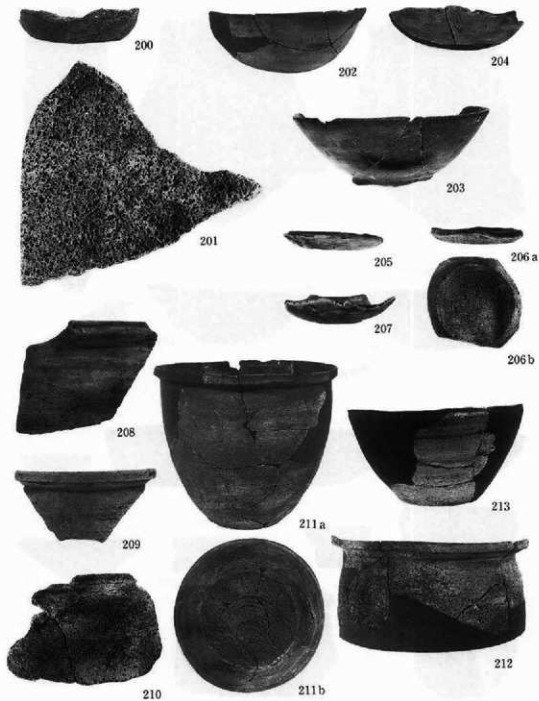
VIE-1 住居跡(1) (190~199)



写真図版49 VF-1(7)・2・VIE-1(1)住居跡出土遺物

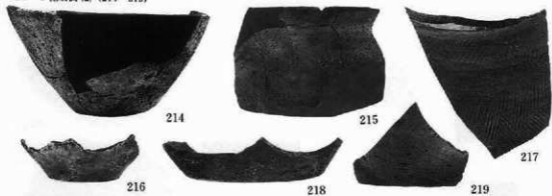
VII E-1 住居跡(2) (200・201)

VII E-2 住居跡(1) (202-213)

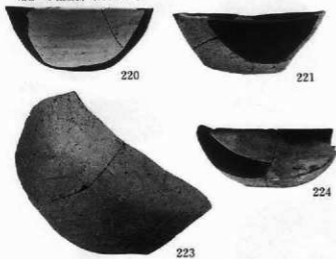


写真図版50 VII E-1(2)・2(1)住居跡出土遺物

VII E-2 住居跡(2) (214~219)



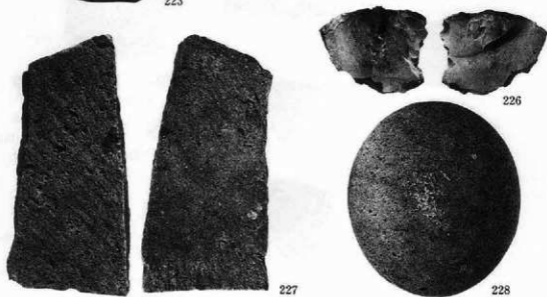
VII E-3 住居跡(220~221)



VII E-4 住居跡(222~225)

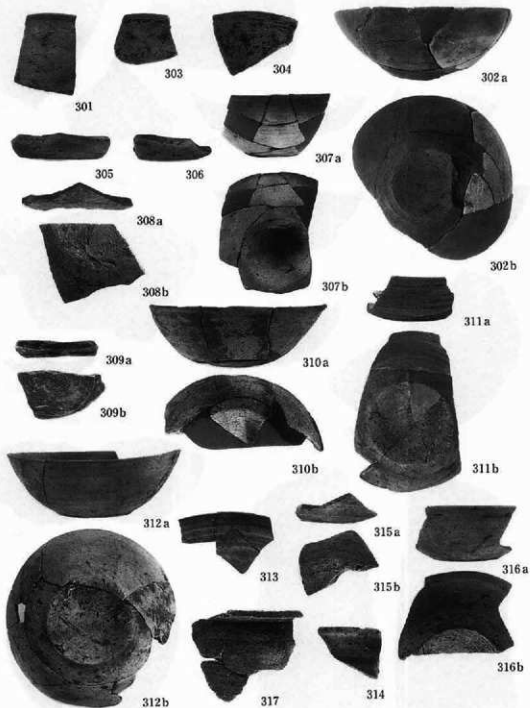


VII E-5 住居跡(226~228)



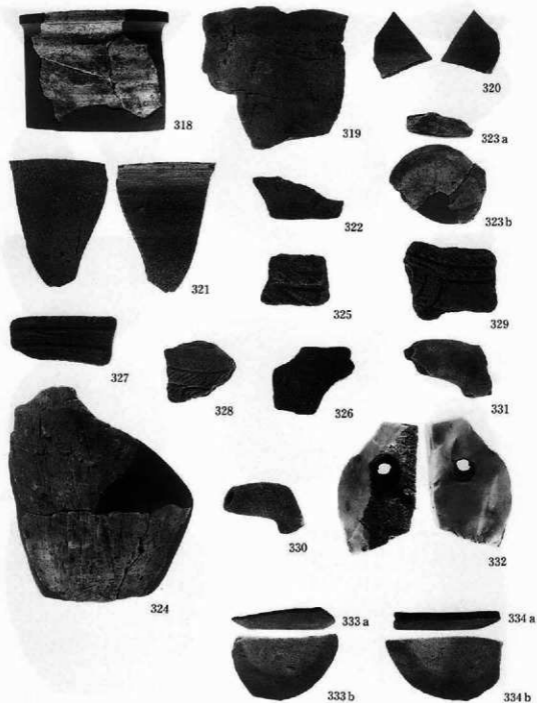
写真図版51 VII E-2(2)・3・4・5 住居跡出土遺物

VIII E-1 住居跡(1) (301-317)



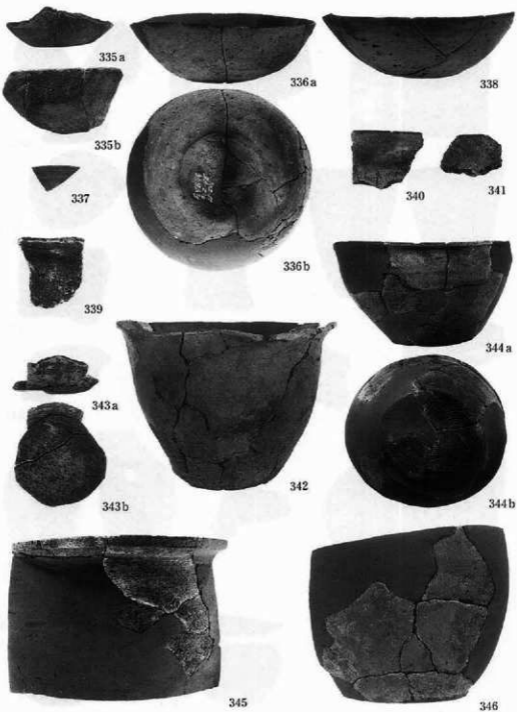
写真図版52 VIII E-1 住居跡出土遺物(1)

VIII E-1 住居跡(2) (318~332)



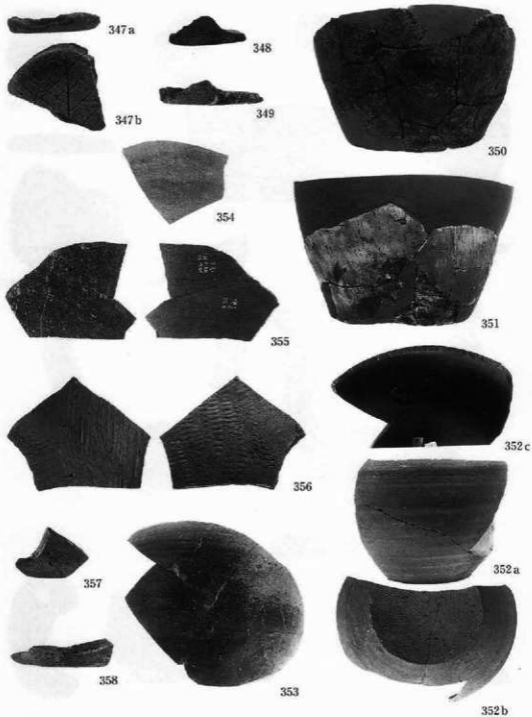
写真図版53 VIII E-1(2)・2(1)住居跡出土遺物

VIII E—2 住居跡(2) (335~346)



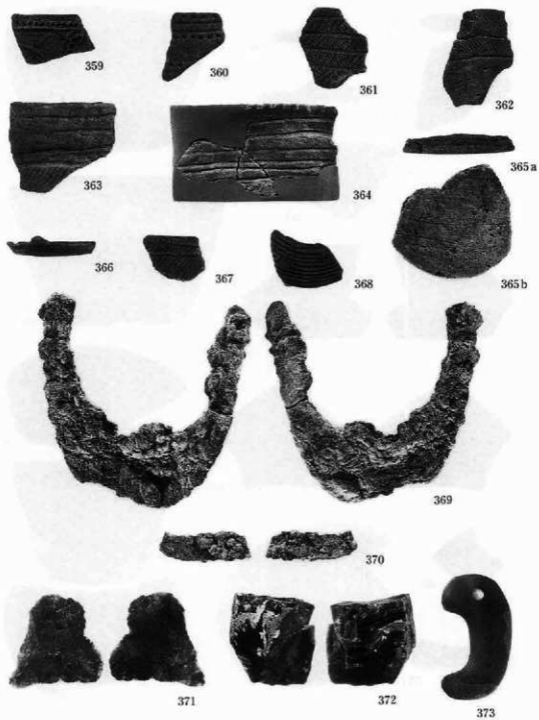
写真図版54 VIII E—2 住居跡出土遺物(2)

VIII E-2 住居跡(3) (347-358)



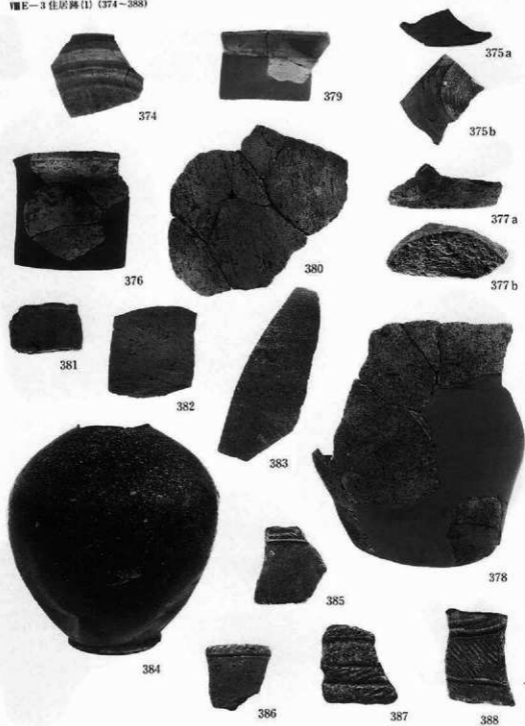
写真図版55 VIII E-2 住居跡出土遺物(3)

ⅧE-2 住居跡(4) (359-373)



写真図版56 ⅧE-2 住居跡出土遺物(4)

ⅧE-3 住居跡(1) (374-388)



写真図版57 ⅧE-3 住居跡出土遺物(1)

VIII E-3 住居跡(2) (389-399)



389



390



391



392



393



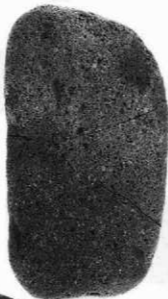
394



395a



395b



397



398



396

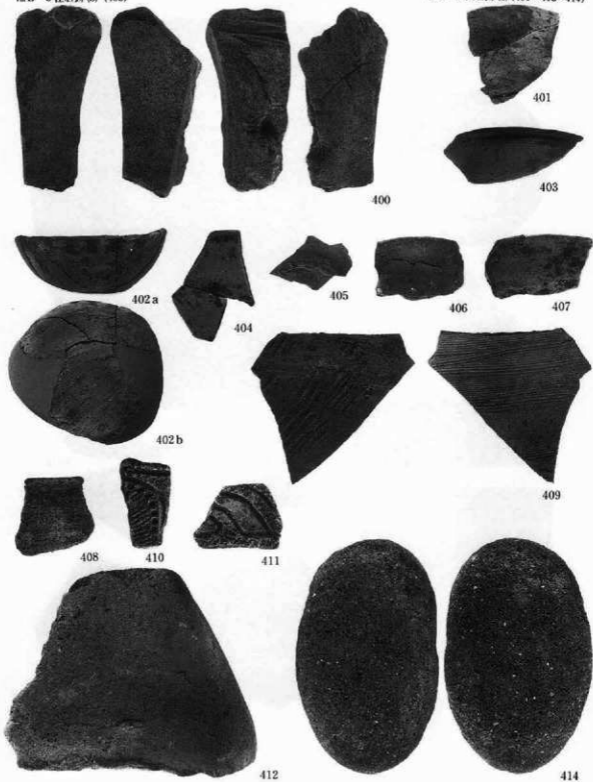


399

写真図版58 VIII E-3 住居跡出土遺物(2)

VII E-3 住居跡(3) (400)

VII E-4 住居跡(1) (401-412・414)



写真図版59 VII E-3 (3)・4 住居跡出土遺物

VME-6 住居跡 (415・416)



415a



415b



416



418



422



423

VME-7 住居跡 (417~424)



417



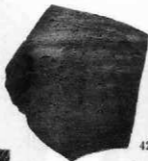
419



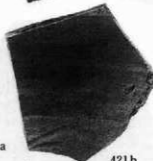
420a



420b



421a



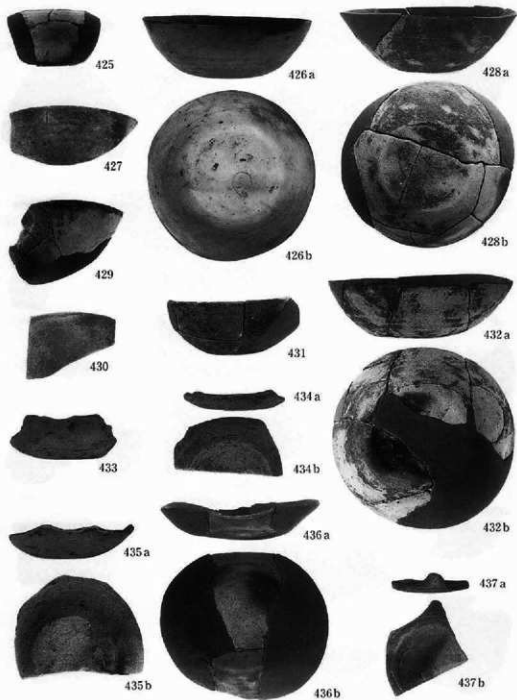
421b



424

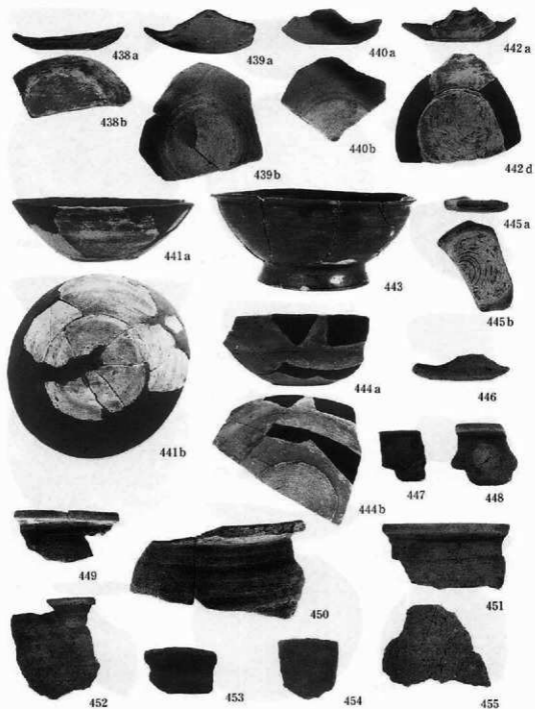
写真図版60 VME-6・7 住居跡出土遺物

IXE-1 住居跡(1) (425-437)



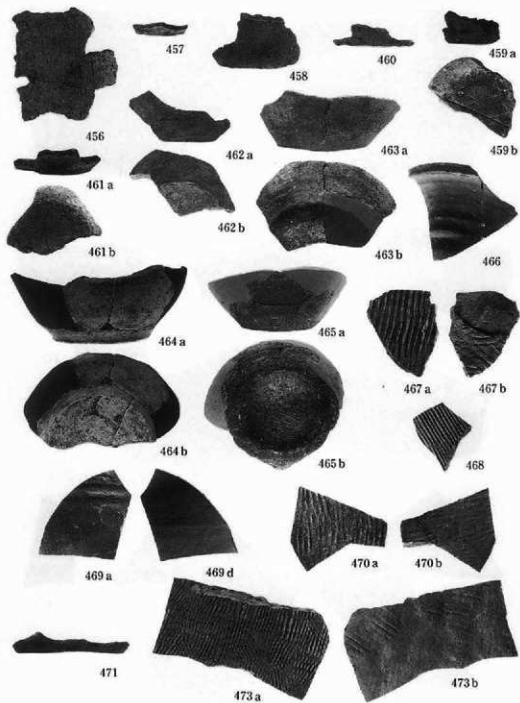
写真図版61 IXE-1 住居跡出土遺物(1)

IX E-1 住居跡(2) (438-455)



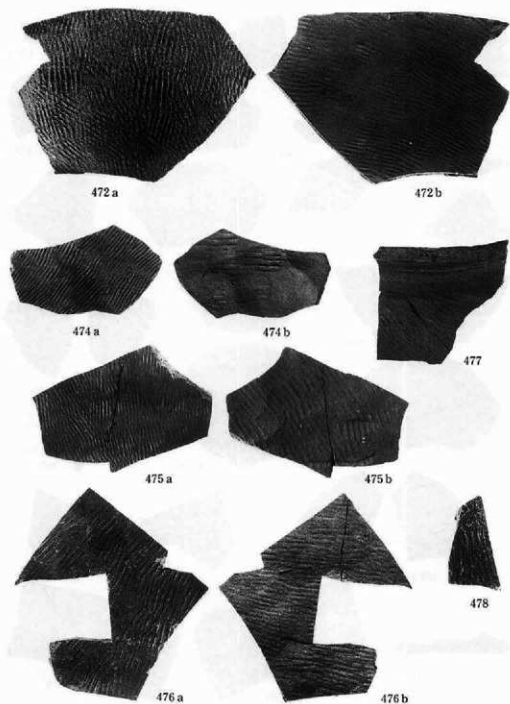
写真図版62 IX E-1 住居跡出土遺物(2)

IXE-1 住居跡(3) (456-471・473)



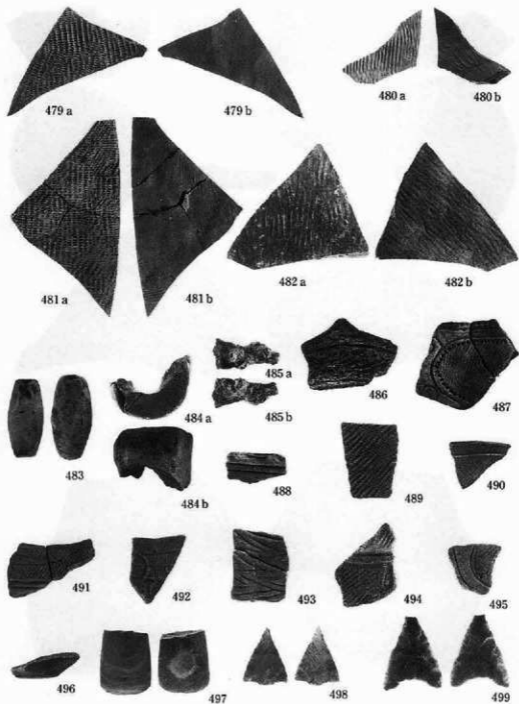
写真図版63 IXE-1 住居跡出土遺物(3)

IXE-1 住居跡(4) (472・474-478)



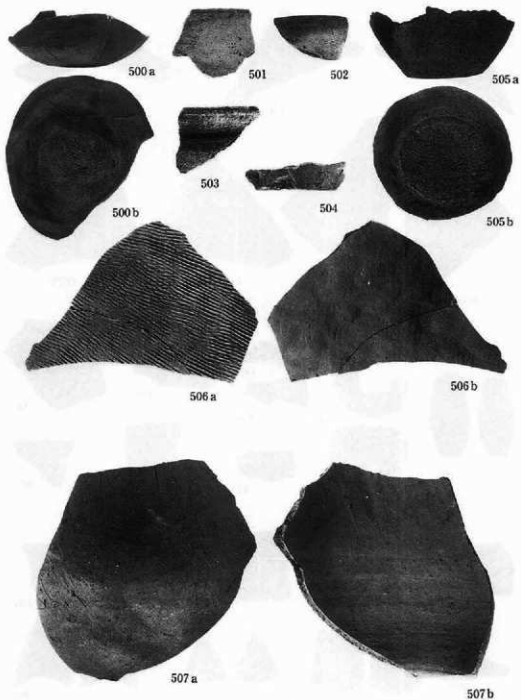
写真図版64 IXE-1 住居跡出土遺物(4)

IXE-1住居跡(5) (479-499)



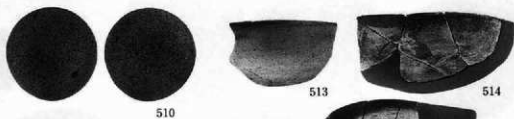
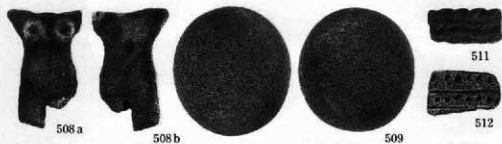
写真図版65 IXE-1住居跡出土遺物(5)

IXE-2 住居跡(1) (500-507)

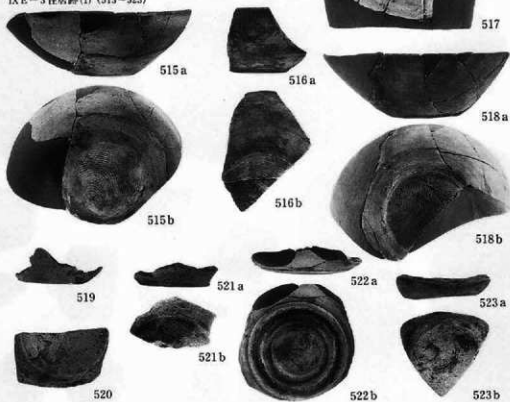


写真図版66 IXE-2 住居跡出土遺物(1)

IXE-2 住居跡(2) (508-512)



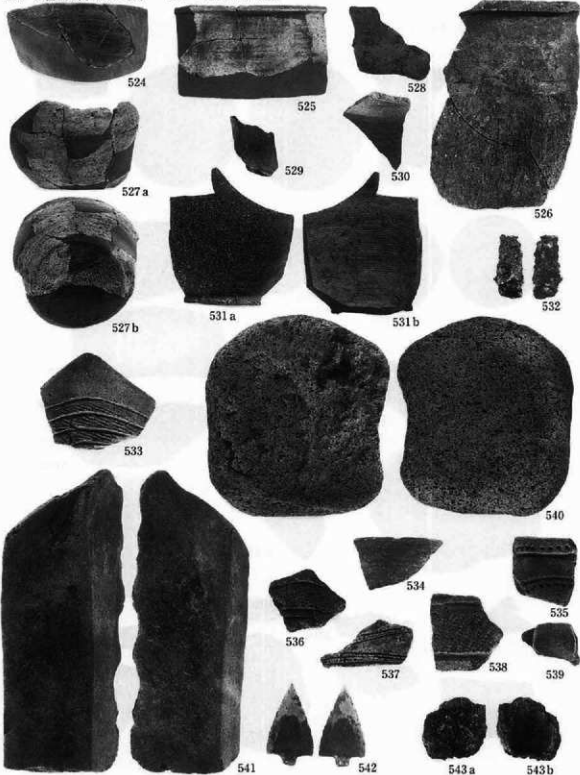
IXE-3 住居跡(1) (513-523)



写真図版67 IXE-2(2)・3(1)住居跡出土遺物

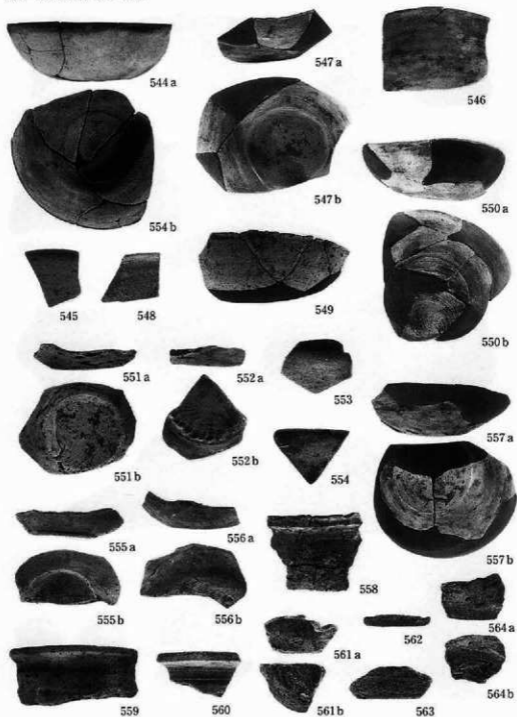
IXE-3 住居跡(2) (524-542)

IXE-4 住居跡(1) (543)



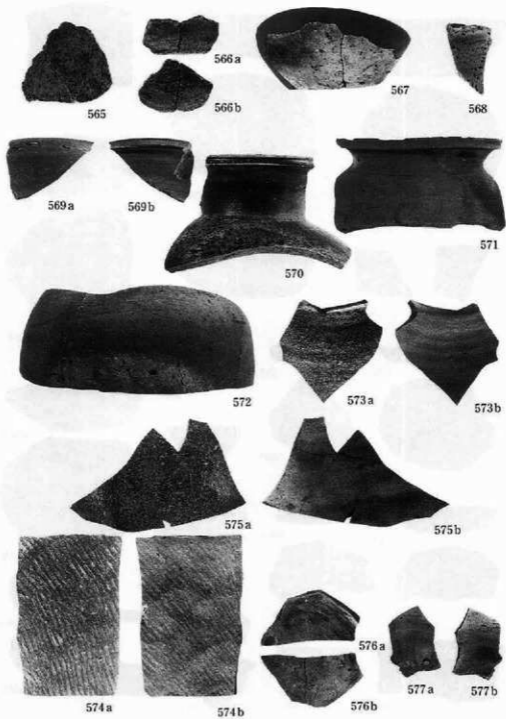
写真図版68 IXE-3(2)・4住居跡出土遺物

IXE-9住居跡(1) (544-564)



写真図版69 IXE-9住居跡出土遺物(1)

IXE-9 住居跡(2) (565-577)



写真図版70 IXE-9 住居跡出土遺物(2)

IXE-9 住居跡(3) (578-584)



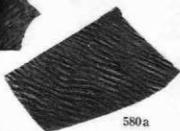
578



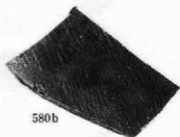
579 a



579 b



580 a



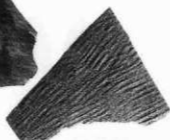
580 b



581 a



581 b



582 a



582 b



583 a



583 b

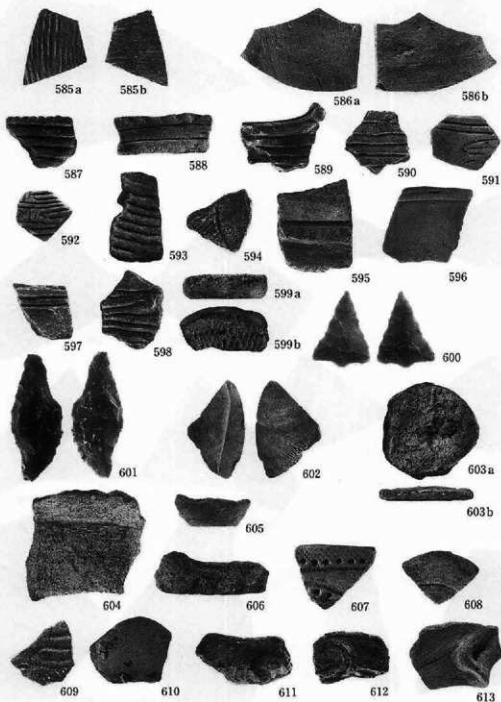


584 a



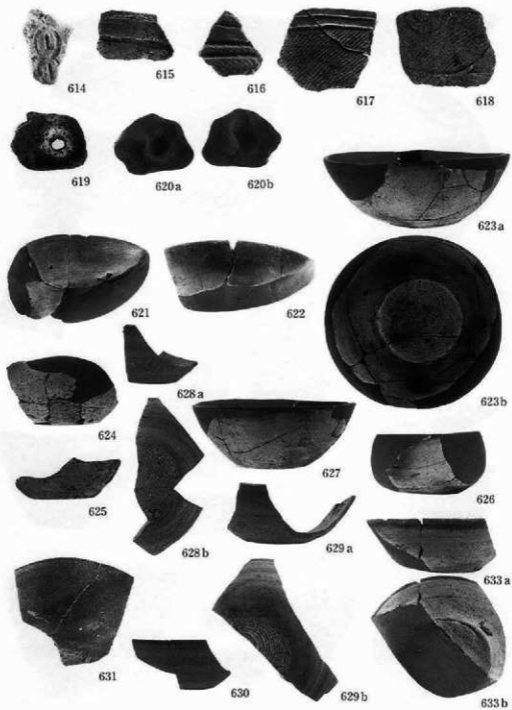
584 b

写真図版71 IXE-9 住居跡出土遺物(3)

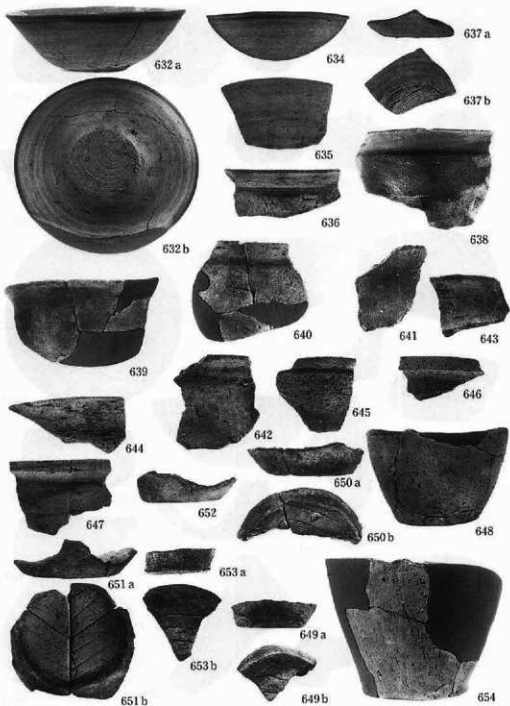


写真図版72 IXE-9(4)・11(1)住居跡出土遺物

IXE-11住居跡(2) (614-620) XE-2住居跡(1) (621-631・633)

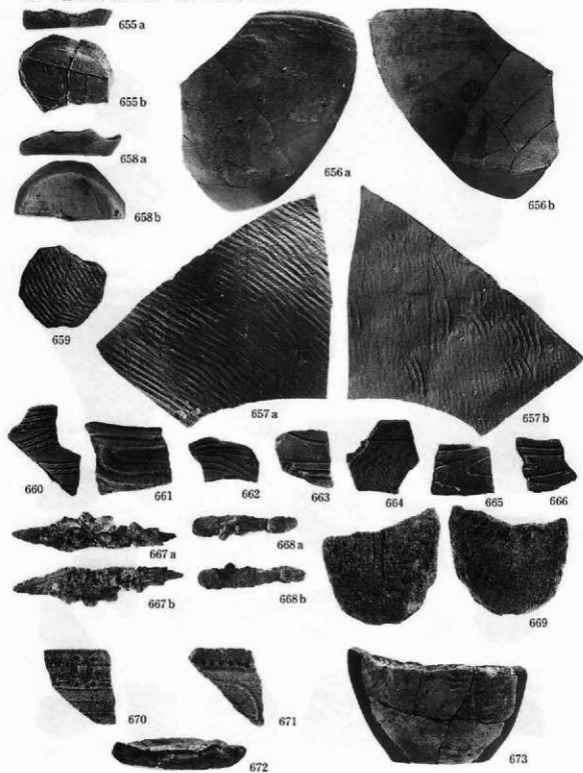


写真図版73 IXE-11(2)・XE-2(1)住居跡出土遺物



写真図版74 XE-2 住居跡出土遺物(2)

XE-2 住居跡(3) (655-669) VIII-E-5 住居跡(1) (670-673)



写真図版75 XE-2(3)・VIII-E-5(1)住居跡出土遺物

VIII E-5 住居跡(2) (674)



IX E-6 住居跡(675・676)



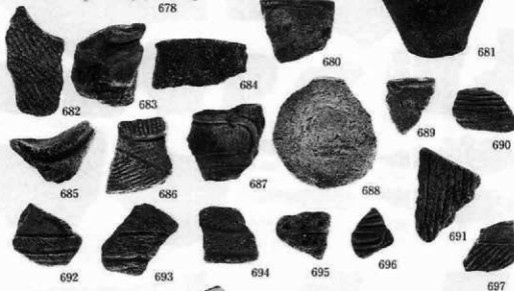
IX E-7 住居跡(677・678)



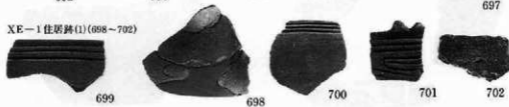
IX E-8 住居跡(679・680)



IX E-12 住居跡(681-697)

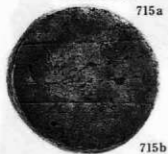


X E-1 住居跡(1)(698-702)



写真図版76 VIII E-5(2)・IX E-6・7・8・12・X E-1(1) 住居跡出土遺物

XE-1 住居跡(2)(703~708)



XE-4 住居跡(717~728)



725b

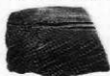


719



728

XE-3 住居跡(709~716)



720



721



727a



718



722



723



727b

ⅥE-51土坑(801)



801

ⅧE-51土坑(804)



804

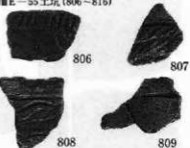
ⅧE-52土坑(805)



805a

805b

ⅧE-55土坑(806-816)



806

807

808

809

ⅧE-51土坑(802)



802



810



811



812



813

ⅧE-52土坑(803)



803



814



815



816

ⅧE-58土坑(1)(817-818)



817



818

写真图版78 ⅥE-51·ⅧE-51·52土坑·ⅧE-51火葬墓·ⅧE-52·62土坑
ⅧE区掘立柱建物跡(1)

VII E-58 土坑(2) (819)



819

VIII E-61 土坑 (820~823)



820



823



821



822

IX E-51 土坑 (824)



824

IX E-56 土坑 (825)



825

IX E-64 土坑 (827~829)



828



827



IX E-62 土坑 (826)



826

829

写真图版79 VIII E区掘立柱建物跡(2)·VIII E-61土坑·IX E-55·56柱穴
IX E-62·64土坑出土遺物

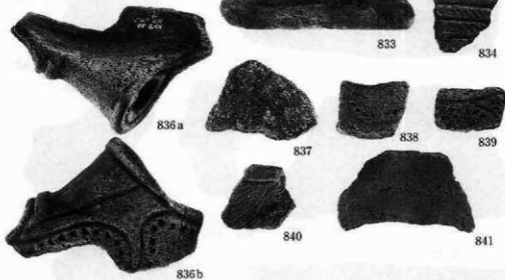
IXE-65土坑(830・831)



IXE-66土坑(832~835)



IXE-69土坑(836~841)



XE-51土坑(842)



XE-52土坑(843~845)



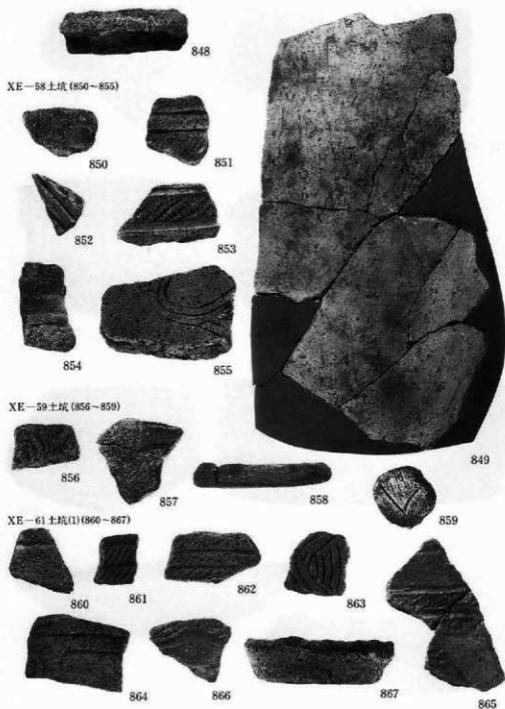
XE-53土坑(846~847)



写真図版80 IXE-63・65・66・XE-51・52土坑・XE-53柱穴出土遺物

XE-55土坑(848)

XE-57土坑(849)



写真図版81 XE-55・58・59土坑・XE-57・61(1)柱穴出土遺物

XE-61土坑(2)(868-870)



868



869



870

XE-63土坑(871-875)



871



872



874



875



873

XE-64土坑(1)(876-877-879-880)



876



879



877



880

写真図版82 XE-61(2)柱穴・XE-63-64(1)土坑出土遺物

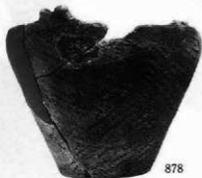
XE-64 土坑(2) (878・881-885)



882



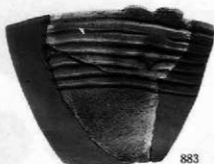
881



878



885 a



883



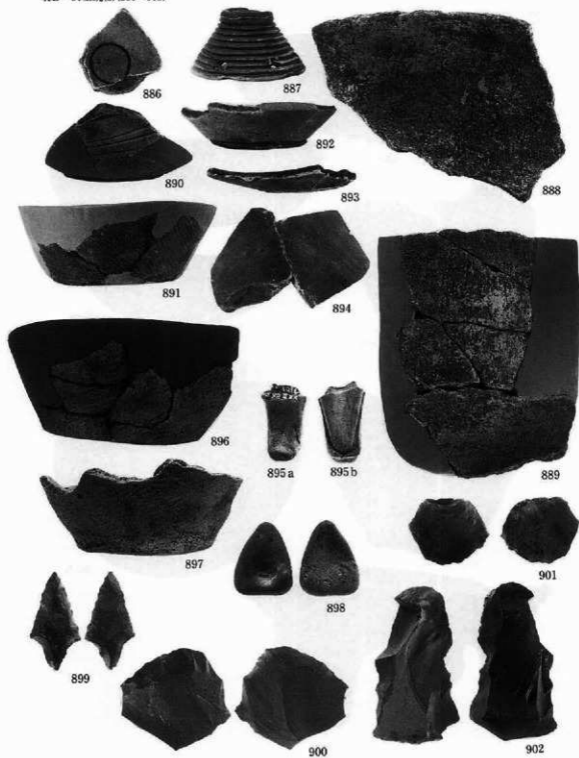
885 b



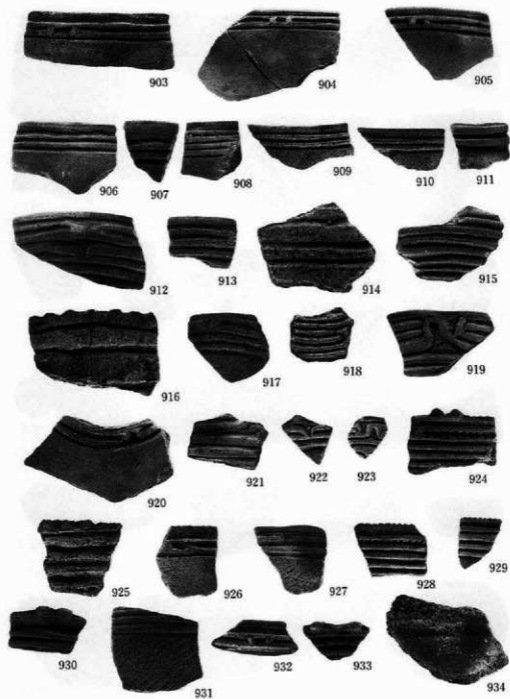
884

写真図版83 XE-64 土坑出土遺物(2)

XE-64土坑(3)(886~902)

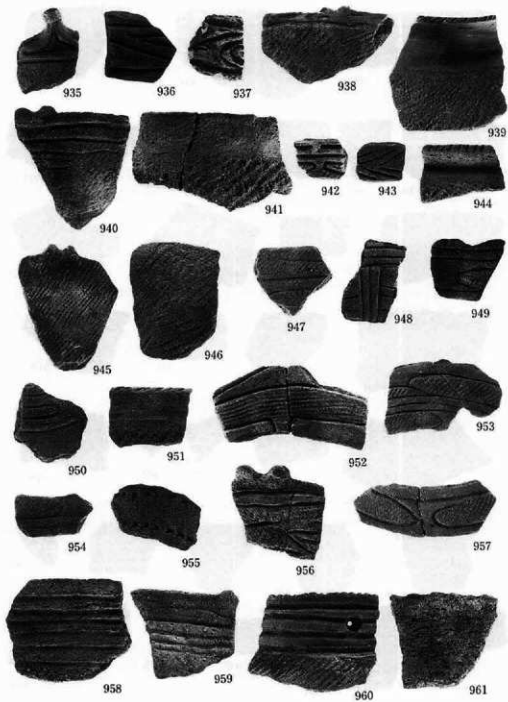


写真図版84 XE-64土坑出土遺物(3)



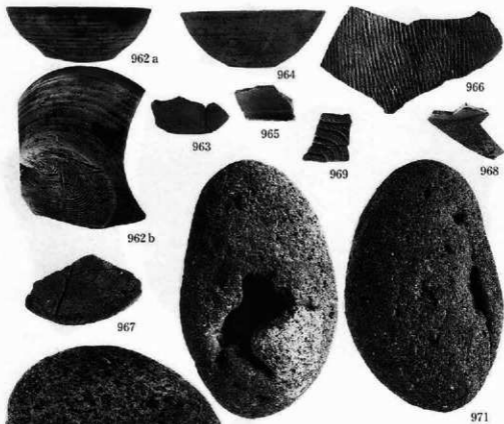
写真图版85 XE-64土坑出土遺物(4)

XE-64土坑(5)(935-961)



写真図版86 XE-64土坑出土遺物(5)

VD-101溝跡(962-971)



VE-101溝跡(972-977)



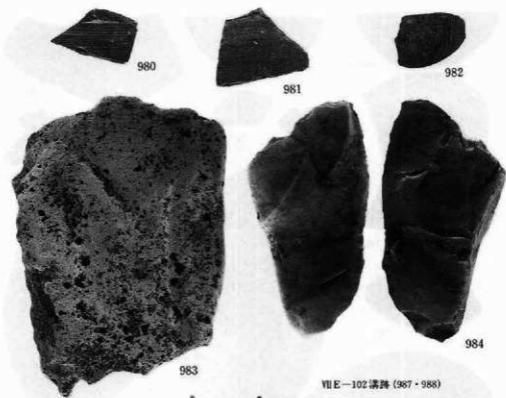
VE-102溝跡(1)(978-979)

This group includes four dark, irregular fragments. 978 is a large, roughly triangular piece. 979 is a smaller, irregular fragment. 976 and 977 are thin, elongated fragments.

写真図版87 VD-101・VE-101・102(1)溝跡出土遺物

- 349 -

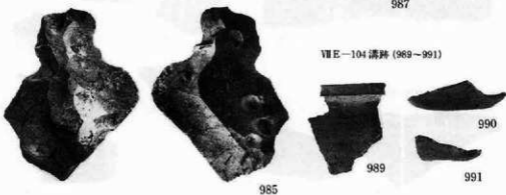
VE-102 溝跡 (2) (980~984)



VIE-101 溝跡
(985・986)

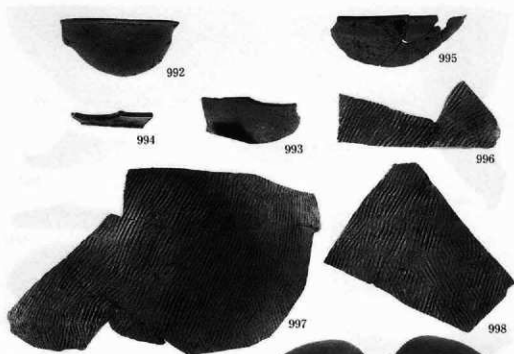


VIE-104 溝跡 (989~991)

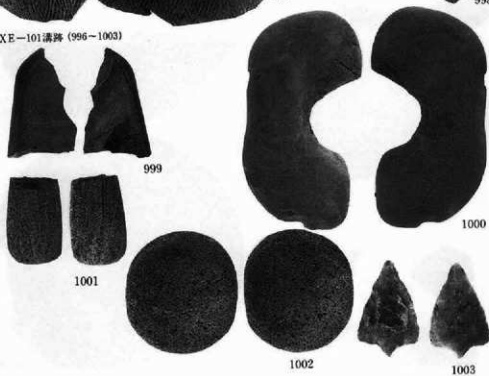


写真図版88 VE-102(2)・VIE-101・102・104 溝跡出土遺物

VII E-105 溝跡 (992~996)

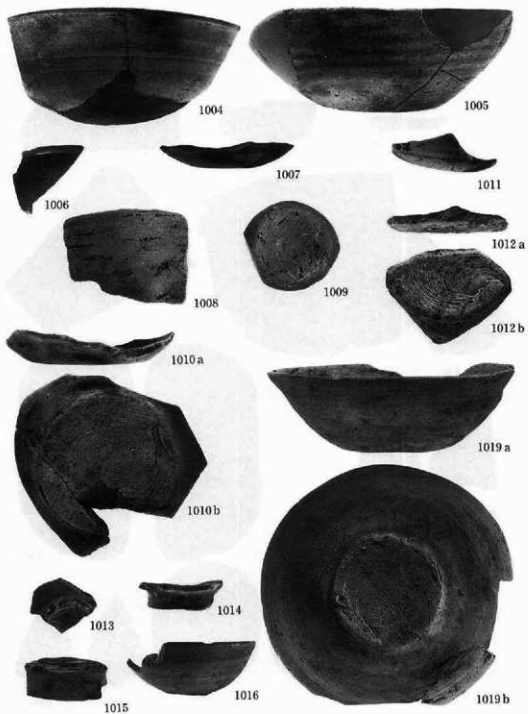


IX E-101 溝跡 (996~1003)



写真図版89 VII E-105・IX E-101 溝跡出土遺物

遺構外出土遺物(1) (1004~1016・1019)



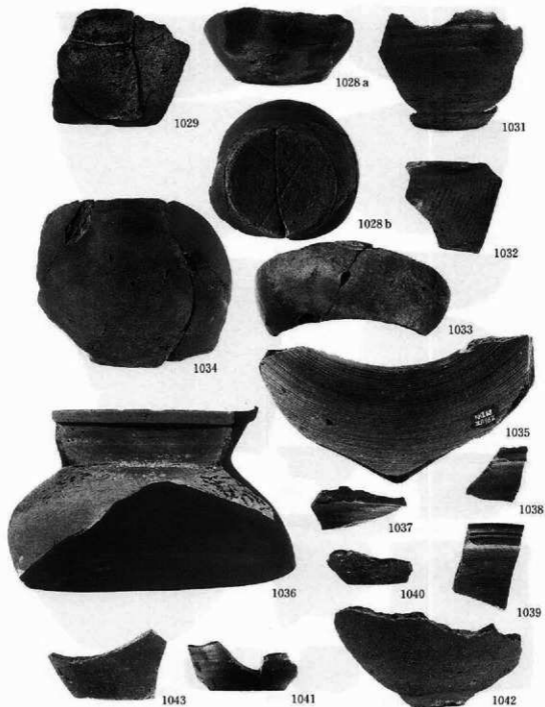
写真図版90 遺構外出土遺物 土器(1)

遺構外出土遺物(2) (1017・1018・1020～1027・1030)



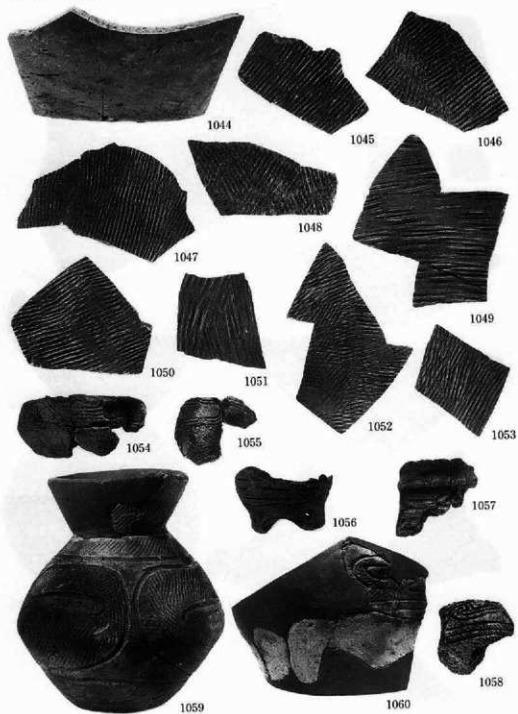
写真図版91 遺構外出土遺物 土器(2)

遺構外出土遺物(3) (1028・1029・1031～1043)



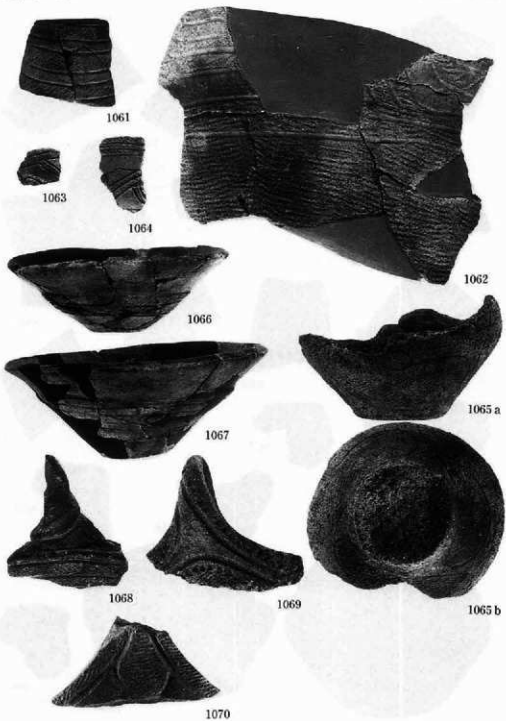
写真図版92 遺構外出土遺物 土器(3)

遺構外出土遺物(4) (1044~1060)



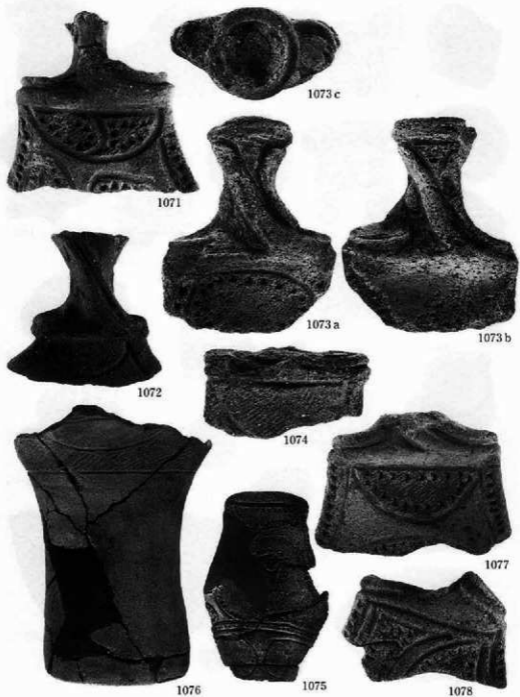
写真図版93 遺構外出土遺物 土器(4)

遺構外出土遺物(5) (1061~1070)



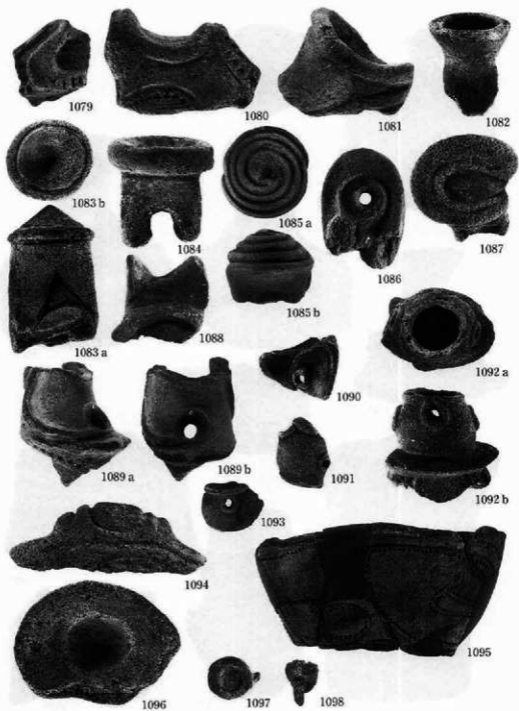
写真図版94 遺構外出土遺物 土器(5)

遺構外出土遺物(6) (1071-1078)



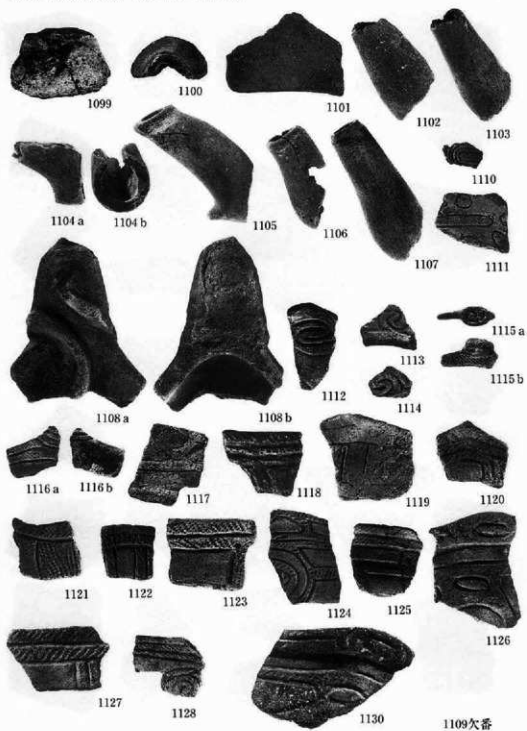
写真図版95 遺構外出土遺物 土器(6)

遺構外出土遺物(7) (1079~1098)



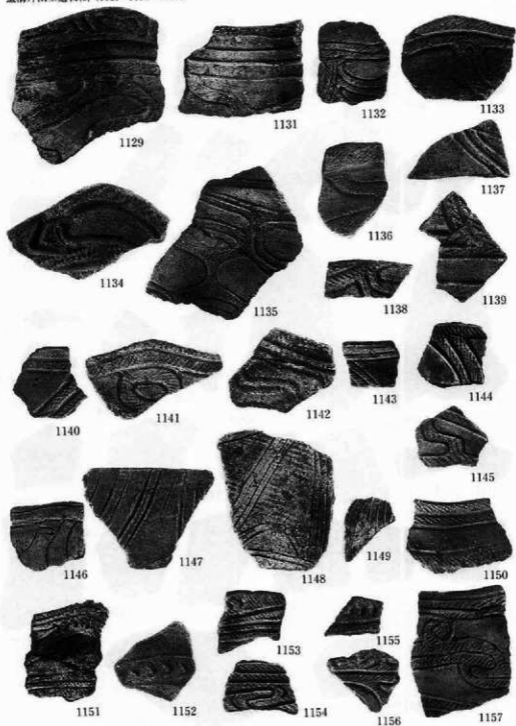
写真図版96 遺構外出土遺物 土器(7)

遺構外出土遺物(8) (1099~1108・1110~1128・1130)



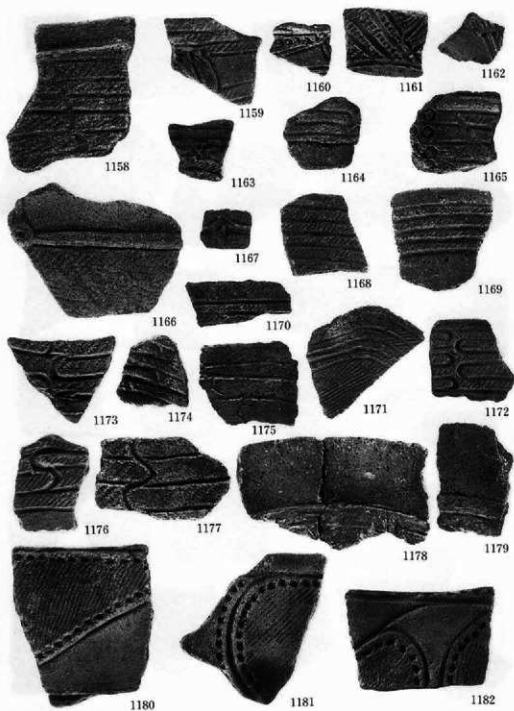
写真図版97 遺構外出土遺物 土器(8)

遺構外出土遺物(9) (1129・1131~1157)



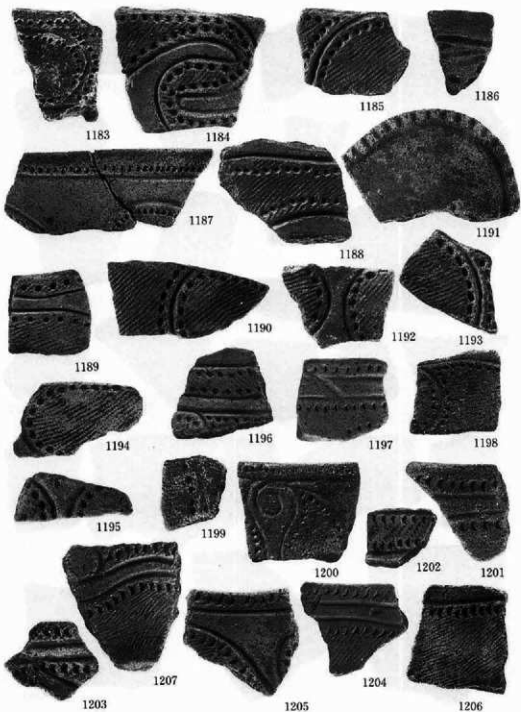
写真図版98 遺構外出土遺物 土器(9)

遺構外出土遺物00 (1158~1182)

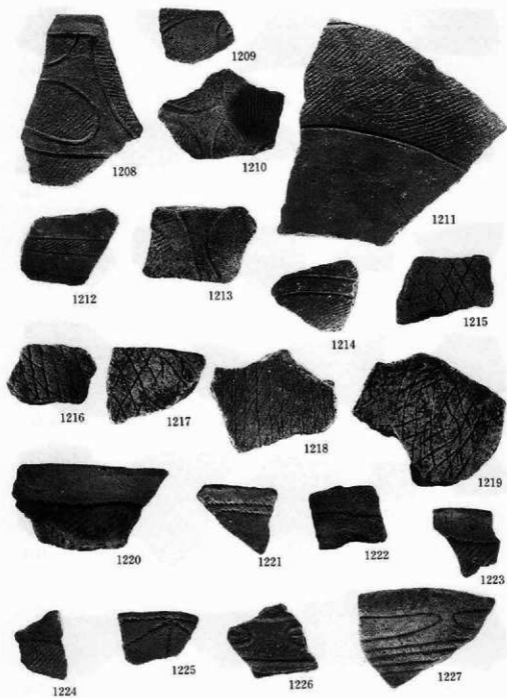


写真図版99 遺構外出土遺物 土器00

遺構外出土遺物00 (1183~1207)



写真図版100 遺構外出土遺物 土器00



写真図版101 遺構外出土遺物 土器 03

遺構外出土遺物③ (1228-1253)



1228



1229



1230



1231



1232



1233



1234



1235



1236



1237



1238



1239



1240



1241



1242



1243



1244



1245



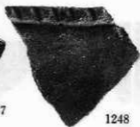
1246 a



1246 b



1247



1248



1249



1250



1251

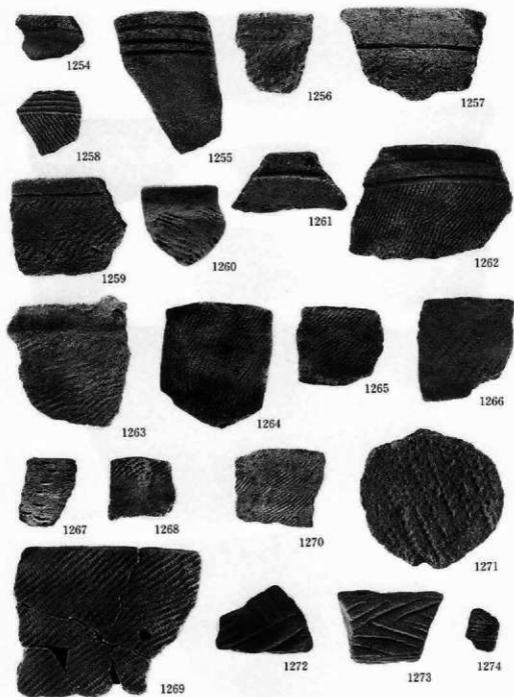


1252

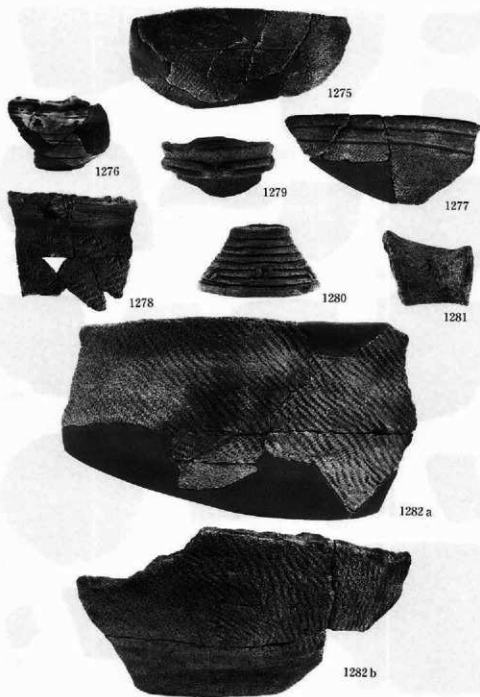


1253

遺構外出土遺物00 (1254-1274)



写真図版103 遺構外出土遺物 土器00



写真図版104 遺構外出土遺物 土器09



1283



1284



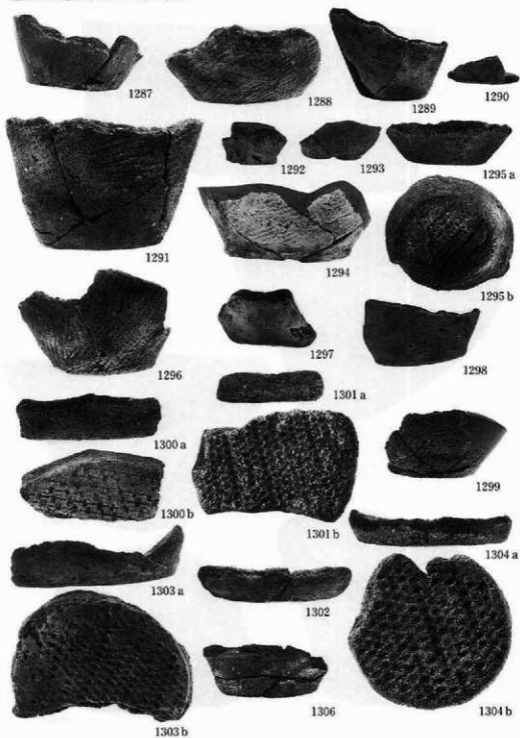
1286 a



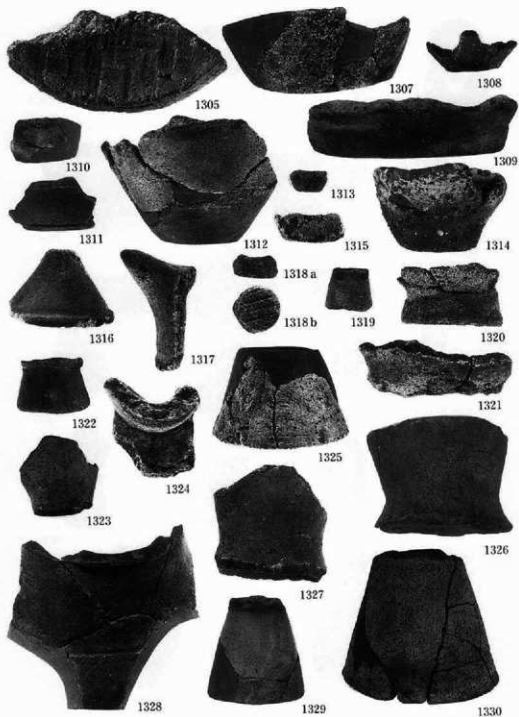
1285



1286 b

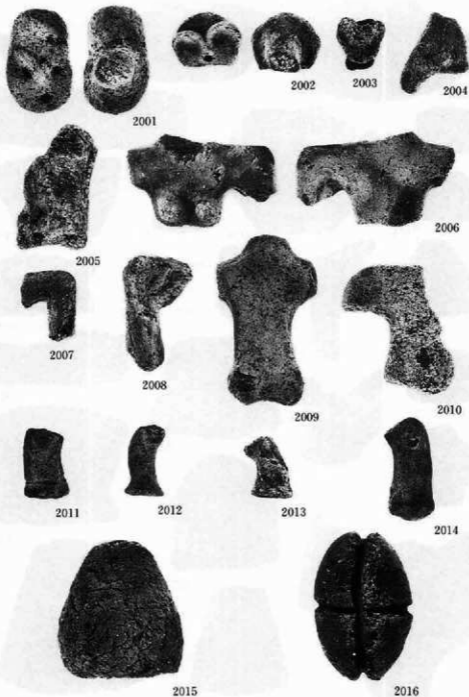


写真図版106 遺構外出土遺物 土器(7)



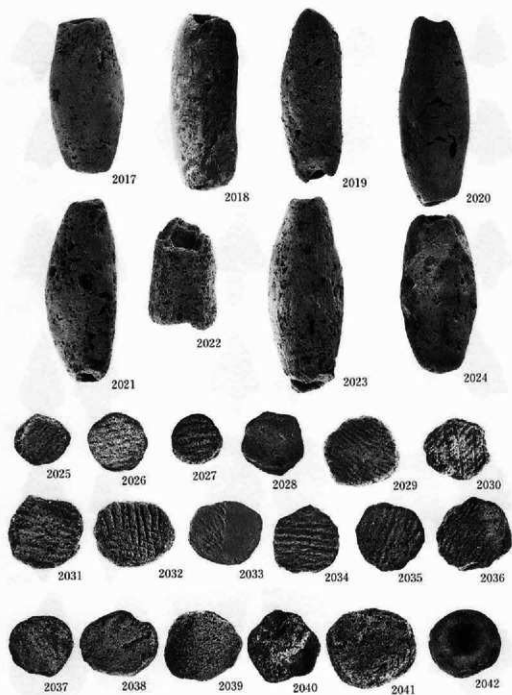
写真図版107 道橋外出土遺物 土器⑧

遺構外出土遺物(1) (2001~2016)



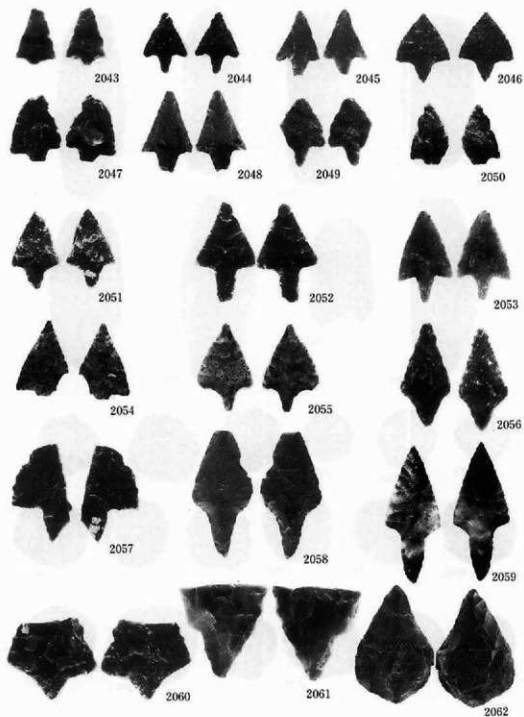
写真図版108 遺構外出土遺物 土製品(1)

遺構外出土遺物(2) (2017~2042)

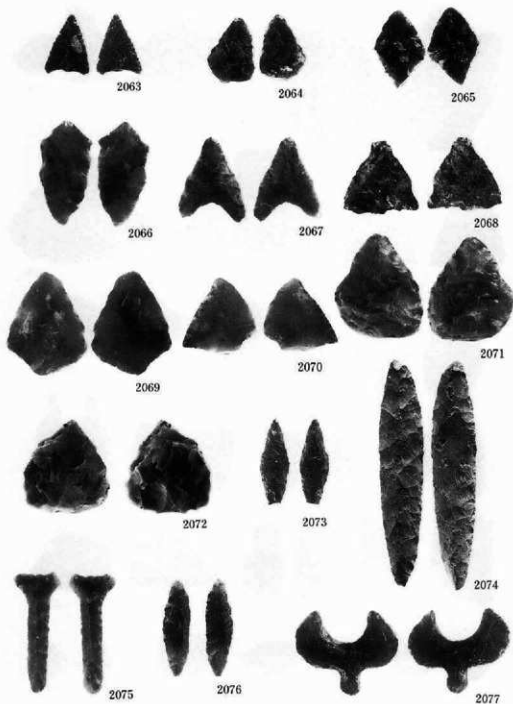


写真図版109 遺構外出土遺物 土製品(2)

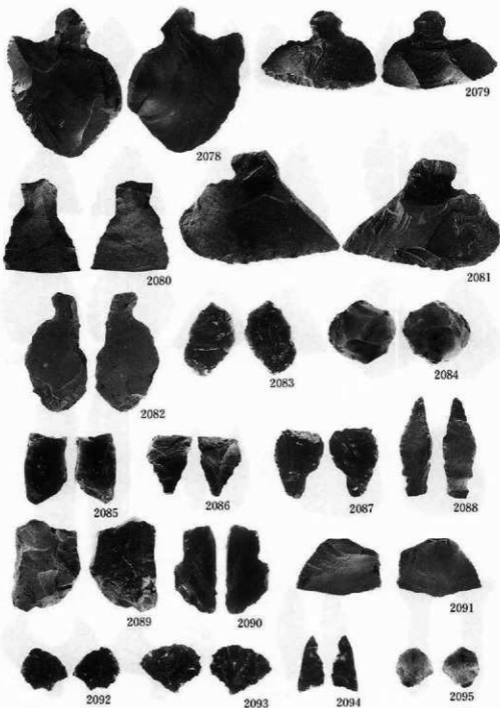
遺構外出土遺物(3) (2043~2062)



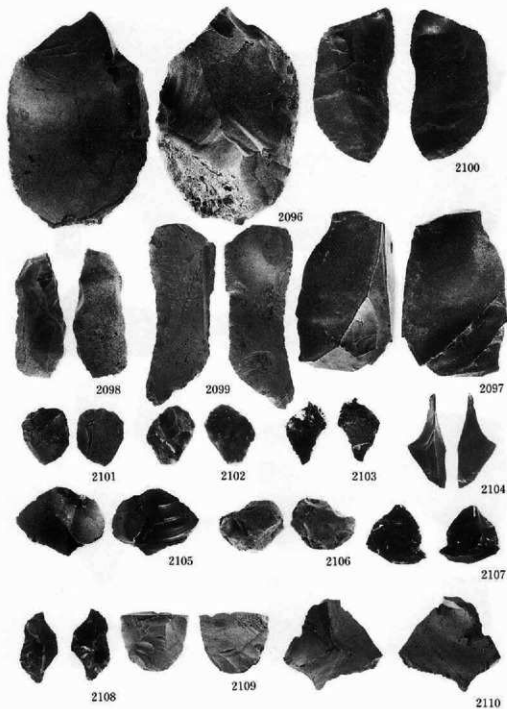
写真図版110 遺構外出土遺物 石器(1)



写真図版111 遺構外出土遺物 石器(2)



写真図版112 遺構外出土遺物 石器(3)



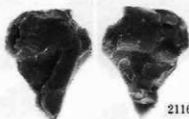
写真図版113 遺構外出土遺物 石器(4)



2111



2112



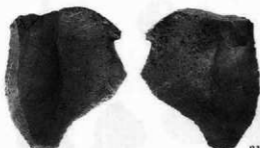
2116



2114



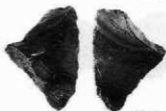
2113



2117



2115



2119

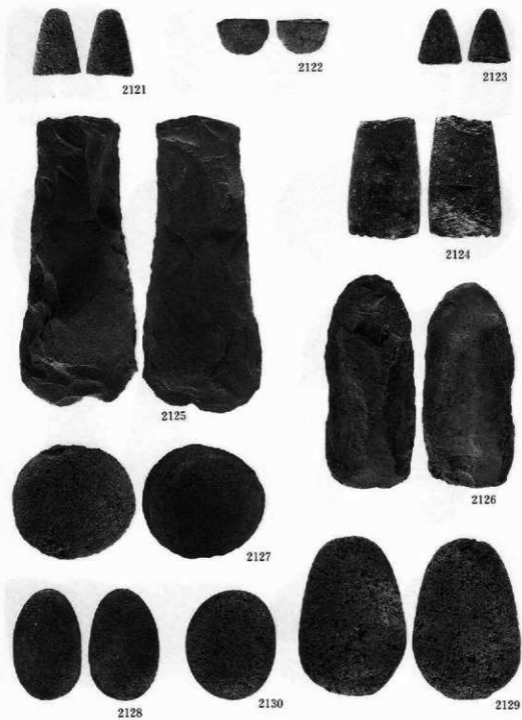


2118



2120

遺構外出土遺物(8) (2121~2130)



写真図版115 遺構外出土遺物 石器(6)

遺構外出土遺物(9) (2131~2141)



2131



2132



2133



2134



2135



2136



2137



2138



2139



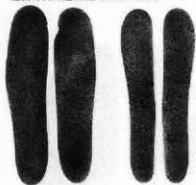
2140



2141

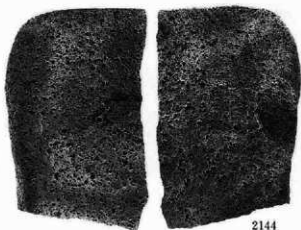
写真図版116 遺構外出土遺物 石器(7)

遺構外出土遺物00 (2142~2147)



2142

2143



2144



2146



2145



2147

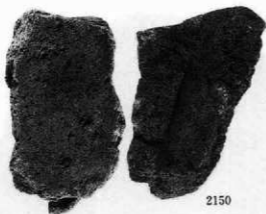
写真図版117 遺構外出土遺物 石器(8)



2148



2149



2150



2151



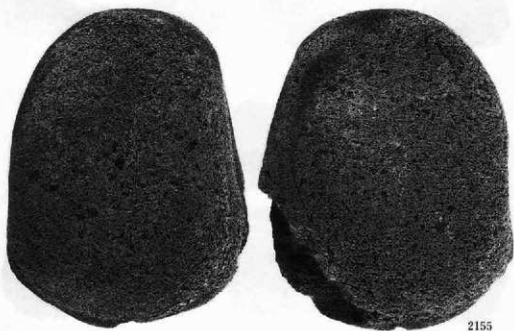
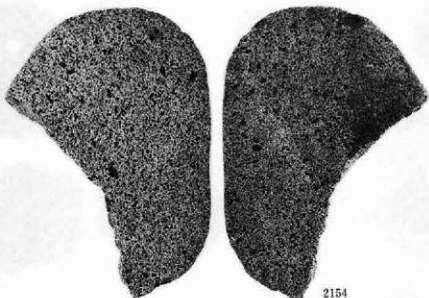
2152



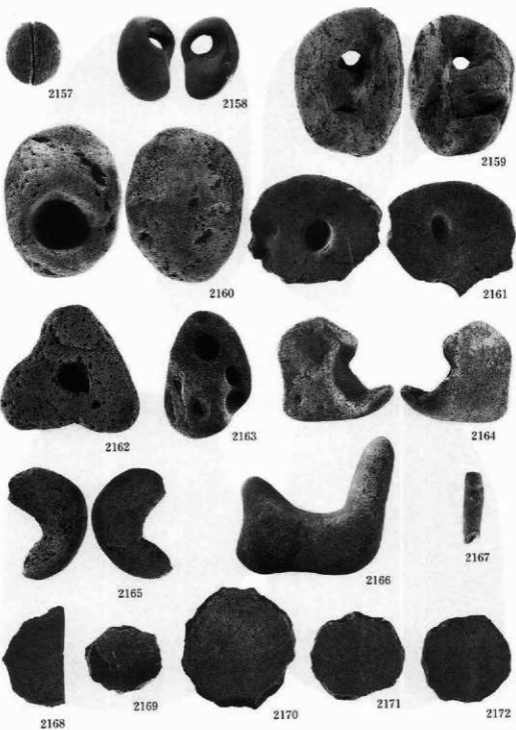
2156



2153



遺構外出土遺物(3) (2157-2172)



写真図版120 遺構外出土遺物 石製品(1)

遺構外出土遺物06 (2173-2180)



2173



2174



2176



2177



2175



2178



2179



2180

写真図版121 遺構外出土遺物 石製品(3)

遺構外出土遺物(9) (2181~2186)



2181



2183



2184



2185



2186



2182

写真図版122 遺構外出土遺物 鉄製品

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第153集

上川岸Ⅱ遺跡発掘調査報告書

印刷 平成3年3月25日

発行 平成3年3月30日

発行 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020 岩手県紫波郡南村大字下飯岡11-185
電話 (0196) 38-9001・9002

印刷 榎吉田印刷
〒020 盛岡市名須川町23-27
電話 (0196) 25-2323